

基礎演習(学びの技法を含む)

Basic Seminar

土肥 美智子(DOHI MICHIKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN001
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN1410
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	スポ学部スポ学科必修科目 2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

大学での主体的な学び方について考え、準備を行う。基本的学習技術を習得する。学部の特徴や専門性について理解した上で、自分の将来設計を考える。

Think about and prepare for independent learning at university. Master basic learning skills. Understand the features and expertise of the department, and consider its future design.

授業の内容 / Course Contents

アカデミックアドバイザー(教員)1人に対して概ね15~20人で演習を行う。

授業内容は各アカデミックアドバイザーが専門性を生かしながら、講義を展開していくが、上記目標を達成するために、次のようなことができるよう主体的に学び、参加することを期待する。

- 1) 立教大学、そして大学生活のスタートを円滑にするために、大学を知り、友人をつくり帰属意識を高める。
- 2) 基本的学習技術(主体的学びの方法、レポートの書き方、ディスカッションやプレゼンテーションなど)について理解を深め、図書館やメディアセンターなど大学のさまざまな機能を自ら活用できるようになる。
- 3) 学部・学科の専門性を理解した上で、4年間の学びの計画を立て、卒業後の進路を考えることができる。

An academic adviser (teacher) takes 15-20 people.

Each academic adviser develops their lectures to make the most of their expertise to achieve the above goals. Students are expected to participate and study for themselves in order to do the following.

- 1) To facilitate your start at Rikkyo University in university life, learn about the university, make friends and gain a sense of belonging.
- 2) Deepen your understanding of basic learning techniques (how to study independently, report writing, discussions, presentations, etc.) and learn to use the various functions of the university for yourself, such as the library and media center.
- 3) After understanding the features of the faculties and departments, you will be able to plan your studies for the next four years and think about what you will do after graduation.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス・基礎演習とは何か
- [2]: アイスブレイク(自己および他者理解など)
- [3]: チームビルディング
- [4]: 情報検索講習
- [5]: 文献検索
- [6]: 文献発表および議論
- [7]: ソフトウェア講習

【8】:グループワークおよびグループディスカッション

【9】:グループ発表および議論1

【10】:グループ発表および議論2

【11】:キャリアプログラム

【12】:個人発表および議論1

【13】:個人発表および議論2

【14】:初年次春学期教育のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

大学生の学びを理解するため、授業時間以外の自学学習を行うこと。内容は担当教員がそれぞれ指示する。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席参加状況(出席,リアクションペーパーや小レポート,課題の達成度などを含む):70% 最終レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

スポ学部スポ学科必修科目/2023年度以降入学者対象

基礎演習(学びの技法を含む)

Basic Seminar

宮田 理(MIYATA OSAMU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN002
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN1410
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	スポ学部スポ学科必修科目 2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

大学での主体的な学び方について考え、準備を行う。基本的学習技術を習得する。学部の特徴や専門性について理解した上で、自分の将来設計を考える。

Think about and prepare for independent learning at university. Master basic learning skills. Understand the features and expertise of the department, and consider its future design.

授業の内容 / Course Contents

アカデミックアドバイザー(教員)1人に対して概ね15~20人で演習を行う。

授業内容は各アカデミックアドバイザーが専門性を生かしながら、講義を展開していくが、上記目標を達成するために、次のようなことができるよう主体的に学び、参加することを期待する。

- 1) 立教大学、そして大学生活のスタートを円滑にするために、大学を知り、友人をつくり帰属意識を高める。
- 2) 基本的学習技術(主体的学びの方法、レポートの書き方、ディスカッションやプレゼンテーションなど)について理解を深め、図書館やメディアセンターなど大学のさまざまな機能を自ら活用できるようになる。
- 3) 学部・学科の専門性を理解した上で、4年間の学びの計画を立て、卒業後の進路を考えることができる。

An academic adviser (teacher) takes 15-10 people.

Each academic adviser develops their lectures to make the most of their expertise to achieve the above goals. Students are expected to participate and study for themselves in order to do the following.

- 1) To facilitate your start at Rikkyo University in university life, learn about the university, make friends and gain a sense of belonging.
- 2) Deepen your understanding of basic learning techniques (how to study independently, report writing, discussions, presentations, etc.) and learn to use the various functions of the university for yourself, such as the library and media center.
- 3) After understanding the features of the faculties and departments, you will be able to plan your studies for the next four years and think about what you will do after graduation.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス・基礎演習とは何か
- [2]: アイスブレイク(自己および他者理解など)
- [3]: チームビルディング
- [4]: 情報検索講習
- [5]: 文献検索
- [6]: 文献発表および議論
- [7]: ソフトウェア講習

【8】:グループワークおよびグループディスカッション

【9】:グループ発表および議論1

【10】:グループ発表および議論2

【11】:キャリアプログラム

【12】:個人発表および議論1

【13】:個人発表および議論2

【14】:初年次春学期教育のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

大学生の学びを理解するため、授業時間以外の自学学習を行うこと。内容は担当教員がそれぞれ指示する。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席参加状況(出席,リアクションペーパーや小レポート,課題の達成度などを含む):70% 最終レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

スポ学部スポ学科必修科目/2023年度以降入学者対象

スポーツウェルネス学入門

Introduction to Sports Wellness

石渡 貴之 他 (ISHIWATA TAKAYUKI et al.)

科目設置学部	スポーツウェルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN030
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN1000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	スポ学部スポ学科必修科目 2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

個人や社会全体のウェルネスの向上を考えると、健康やスポーツがどのように関わるのかを、多角的な視点から学ぶ。In considering the well-being of individuals and society as a whole, learn how health and sports are involved from a variety of perspectives.

授業の内容 / Course Contents

ウェルネスとは、Health の枠組みを超えたより多面的な健康観であり、心身の健康の他に人生の価値観、生きがいなども、その要素に含まれる。本講義では、ウェルネスとスポーツに関して、専門を異にする学部の教員全員が独自の視点からオムニバス形式の講義を行なう。

Wellness involves a more pluralistic view of health beyond the framework of health itself, incorporating the meaning of life as well as mental and physical health. In this lecture, instructors with different specializations in wellness and sports give lectures in an omnibus format based on their own points of view.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス /

生体リズムと健康(石渡)

【2】: スポーツと栄養・食事・飲料(杉浦) /

スポーツの価値を考える(中村)

【3】: 運動・スポーツを通じてすべての人の生きる喜びと幸せを高める(川端) /

S.A.P.P.: Active mindful lifestyle habits for more happiness and success(マックグラス)

【4】: 都市の生物多様性と豊かな自然体験のススメ(奇二) /

運動・スポーツの健康行動疫学(黒澤)

【5】: スポーツ医学の観点から見たスポーツウェルネス(土肥) /

スポーツ医学に関わった経験と研究について(加藤)

【6】: 光環境が睡眠と記憶形成に及ぼす影響とそのメカニズム(服部) /

老化とメラトニン(丸山)

【7】: スポーツ動作の仕組みを解明する(石井) /

障がいのある方とスポーツ(宮田)

【8】: ジェンダー概念の理解—体育・スポーツの見地から—(佐野) /

スタツと体力の関連性の分析～コーチとしての一戦略～(江原)

【9】: アスレティックトレーナーの役割(後関) /

コンディショニングとアスレティックリハビリテーション(吉田)

【10】: スポーツウェルネスを遺伝子・細胞のレベルから(館川) /

スポーツとデータサイエンス(小林)

【11】:スポーツ活動中の熱中症予防(安松)／

スポーツ外傷・障害予防のためのアスレティックトレーニング(竹上)

【12】:スポーツパフォーマンス向上を目指したトレーニングサイクル(川原)／

スポーツにおけるルールとモラルに関する問題について(村本)

【13】:スポーツの現在地とこれからのスポーツ文化のあり方を問う(松尾・松田)

【14】:生理指標, 脳内神経伝達物質, 情動行動からパフォーマンスを考える(石渡)／

ループリック／最終レポート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

翌週への予習課題を, 各回ごとに提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回提出するリアクションペーパー:40% 授業参加度:40%

最終レポート割合::20%

単位取得には3/4以上の出席を条件とする。

テキスト / Textbooks

特に使用しない。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具。

注意事項(検索結果画面)

スポ学部スポ学科必修科目/2023年度以降入学者対象

スポーツマンシップ論

Theory of Sportsmanship

スポーツマンシップとビジネスパーソンシップを考える (Sportsmanship and Businesspersonship)

中村 聡宏 (NAKAMURA AKIHIRO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN032
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN1000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	スポ学部スポ学科必修科目 2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツの最も本質的な価値である「スポーツマンシップ(=ビジネスパーソンシップ)」を理解する。スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、豊かな人間性と高い倫理観を持ったスポーツウエルネス人材として、自ら考え、行動・実践できる思考・姿勢を修得する。

Students will understand the most essential value of sports: sportsmanship (= businesspersonship). They will acquire the thinking and attitude to think, act, and practice on their own as sports wellness personnel with rich humanity and high ethical standards, respecting the people involved in sports and the diversity of sports.

授業の内容 / Course Contents

スポーツマンシップに関する探求を通して、スポーツの構造、スポーツの歴史的背景、スポーツの本質的な意義や価値などを明らかにする。スポーツマンシップの理解・実践を通して、よりよき人を育みよりよき社会を創るために、そのあり方を受講生とともに議論する。

We will clarify the structure of sports, the historical background of sports, and the intrinsic significance and value of sports through our exploration of sportsmanship. We will discuss with students how, through understanding and practicing sportsmanship, we can nurture better people and create a better society.

授業計画 / Course Schedule

【1】: スポーツマンシップを理解する意義

Importance of Understanding Sportsmanship

【2】: スポーツとはなにか

What is sport ?

【3】: スポーツマンとはどんな人か

What kind of person is a sportsman ?

【4】: スポーツマンシップとはなにか

What is sportsmanship ?

【5】: 尊重とはなにか

What is respect ?

【6】: 勇気とはなにか

What is courage ?

【7】: 覚悟とはなにか

What is resolution ?

【8】: なぜルールがあるのか

Why do we have rules ?

【9】: スポーツマンシップという原理原則

Principle of sportsmanship

【10】: たかがスポーツ、されどスポーツ。

It's only a sport, but it's a sport.

【11】: すべてはプレーヤーのために

Everything is for the player.

【12】: よりよき人を育み、よりよき社会をつくるために / ゲストスピーカー

To nurture better people and build a better society (Guest Speaker)

【13】: スポーツマンシップとビジネスパーソンシップを考える

Considering sportsmanship and businesspersonship (Guest Speaker)

【14】: 総括 / 授業内テスト

Total Review / Final Test (in-class)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度・貢献度:30% 授業内に指示した提出物:30%

最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

中村聡宏 『スポーツマンシップバイブル』 東洋館出版社 2020 9784491039732

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

スポ学部スポ学科必修科目/2023 年度以降入学者対象

スポーツリーダーシップ論

Theory of Sports Leadership

リーダーシップとスポーツリーダーシップ (Leadership and Sports Leadership)

中村 聡宏／荒木 重雄／池田 昌人／荻野 忠寛／宇山 賢 (NAKAMURA AKIHIRO/ ARAKI SHIGEO/ IKEDA MASATO/ OGINO TADAHIRO/ UYAMA SATORU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN035
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN1000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	スポ学部スポ学科必修科目 2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ・ビジネス・スポーツビジネスとさまざまな立場での経験を有する講師とともに、リーダーシップについて多様な視点から理解する。豊かな人間性と高い倫理観を持って発揮すべきリーダーシップのあり方を学ぶとともに、社会や組織において有用な人材になるための思考・姿勢を修得する。

Students will understand leadership from diverse perspectives by lecturers who have experience in various positions. They will learn how leadership should be exercised with a rich sense of humanity and high ethical standards, and acquire the thinking and attitude necessary to become useful members of society and organizations.

授業の内容 / Course Contents

ビジネスシーンにおいてさまざまな立場で活躍するリーダー4人を講師として迎え、それぞれの視点から考えるリーダーシップ・フォロワーシップ・メンバーシップについて明らかにする。講義や課題に向き合うグループワークなどを通して、社会や組織において貢献するためのリーダーシップのあり方について議論しながら学ぶ。

Students will be taught by four leaders from different positions in the business world, who will reveal their perspectives on leadership, followership and membership. Students learn through group work to solve problems and through discussions about how leadership can contribute to society and organisations.

授業計画 / Course Schedule

【1】: "スポーツリーダーシップを理解する意義

Importance of Understanding Sports Leadership"

【2】: 兼任講師①/リーダーのキャリア形成とリーダーシップの背景を知る

Lecturer 1/Understanding the career development and leadership context of leaders

【3】: 兼任講師①/優れたリーダーに学ぶリーダーシップ

Lecturer 1/Leadership learning from good leaders

【4】: グループワーク①/課題意識を語り合う

Group work 1/Discussing awareness of issues

【5】: 兼任講師②/リーダーのキャリア形成とリーダーシップの背景を知る

Lecturer 2/Understanding the career development and leadership context of leaders

【6】: 兼任講師②/優れたリーダーに学ぶリーダーシップ

Lecturer 2/Leadership learning from good leaders

【7】: グループワーク②/リーダーシップを考える

Group work 2/Considering about leadership

【8】: 兼任講師③／リーダーのキャリア形成とリーダーシップの背景を知る

Lecturer 3 / Understanding the career development and leadership context of leaders

【9】: 兼任講師③／優れたリーダーに学ぶリーダーシップ

Lecturer 3 / Leadership learning from good leaders

【10】: 兼任講師④／リーダーのキャリア形成とリーダーシップの背景を知る

Lecturer 4 / Understanding the career development and leadership context of leaders

【11】: 兼任講師④／優れたリーダーに学ぶリーダーシップ

Lecturer 4 / Leadership learning from good leaders

【12】: グループワーク③／リーダーシップを活かす ―プレゼンテーションの極意を知る―

Group work 3 / Making the most of leadership - Discover the art of presentation -

【13】: グループワーク④／リーダーシップを磨く ―プレゼンテーションを創る―

Group work 3 / Developing leadership skills - Creating a presentation -

【14】: 学生プレゼンテーションおよび講評・総括

Student presentation & Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度・貢献度:40% 授業内に指示した提出物:40% グループワークおよびプレゼンテーション:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

スポ学部スポ学科必修科目/2023年度以降入学者対象

スポーツウエルネスワークショップA

Workshop in Sports Wellness A

川端 雅人(KAWABATA MASATO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN041
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	スポ学部スポ学科必修科目 2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

少人数のゼミナール形式において、スポーツウエルネス学領域における複数の教員の専門分野を学ぶ。教員の講義だけでなく、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的な学習を行う。

Learn about different teachers' areas of specialization in sports and wellness in small-size seminars. In addition to lectures by teachers, the course features independent investigation by students including discussions, practical training and presentations.

授業の内容 / Course Contents

この科目には以下の6つのクラスが用意されており、学生は自動登録により1つのクラスに約40名ずつ振り分けられる。学期を通じて複数の教員の導きにより、複数のスポーツウエルネス学領域を学び、本質を見抜く考え方、調査研究の企画・遂行・まとめ・報告といった研究の流れについて主体的な学習を進める。場合によっては、履修に影響のない範囲で時間を決め、教室以外のフィールドでの実践的な学習も行う。

- 1: 体育・スポーツとジェンダー(佐野)
- 2: 心理特性について運動・スポーツへの参加動機と目標志向性の観点から探る(川端)
- 3: 探索的データ分析とBIツール(小林)
- 4: 顕微鏡による血球・細胞の観察と小実験(服部)
- 5: スポーツ規範の視点から望ましいスポーツ環境を考える(村本)
- 6: 各種スポーツにおける体力測定(川原)

There are 6 classes in this discipline, and students are divided into groups of approximately 40 per class by automatic registration. Under the guidance of several teachers during the semester, students will study several different areas of sports wellness, consider the essence of these, and learn independently about research processes such as planning, execution, summarizing and reporting on research results. In some cases, there will be opportunities for fieldwork and practical learning outside the classroom at times which do not interfere with course studies overall.

- 1: Considering sports and physical education from the perspective of gender (Sano)
- 2: Exploring psychological traits from the perspectives of exercise/sport motivations and goal orientations (Kawabata)
- 3: Exploratory data analysis and BI tool (Kobayashi)
- 4: Microscopic observation of blood cells and living cells, and small experiments using these cells (Hattori)
- 5: Considering a desirable sports environment from the perspective of sports norms (Muramoto)
- 6: Physical fitness measurement in various sports (Kawahara)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・スポーツウエルネスワークショップAで学ぶ事
- 【2】: スポーツウエルネス学領域の研究手法1-1

- 【3】:スポーツウエルネス学領域の研究手法1-2
- 【4】:スポーツウエルネス学領域の研究手法2-1
- 【5】:スポーツウエルネス学領域の研究手法2-2
- 【6】:スポーツウエルネス学領域の研究手法3-1
- 【7】:スポーツウエルネス学領域の研究手法3-2
- 【8】:スポーツウエルネス学領域の研究手法4-1
- 【9】:スポーツウエルネス学領域の研究手法4-2
- 【10】:スポーツウエルネス学領域の研究手法5-1
- 【11】:スポーツウエルネス学領域の研究手法5-2
- 【12】:スポーツウエルネス学領域の研究手法6-1
- 【13】:スポーツウエルネス学領域の研究手法6-2
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時または Canvas LMS 上にて行う。各回の予習・復習にはそれぞれ 2 時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 6 回の小レポート:50%

テキスト / Textbooks

各プログラムで必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

各プログラムで必要に応じて指示する。

その他 / Others

全てのクラスとも授業開始第 1 週は履修登録状況画面に示す教室でクラスごとに集合する。

注意事項(検索結果画面)

スポ学部スポ学科必修科目/2023 年度以降入学者対象

スポーツウエルネスワークショップA

Workshop in Sports Wellness A

佐野 信子(SANO NOBUKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN042
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	スポ学部スポ学科必修科目 2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

少人数のゼミナール形式において、スポーツウエルネス学領域における複数の教員の専門分野を学ぶ。教員の講義だけでなく、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的な学習を行う。

Learn about different teachers' areas of specialization in sports and wellness in small-size seminars. In addition to lectures by teachers, the course features independent investigation by students including discussions, practical training and presentations.

授業の内容 / Course Contents

この科目には以下の6つのクラスが用意されており、学生は自動登録により1つのクラスに約40名ずつ振り分けられる。学期を通じて複数の教員の導きにより、複数のスポーツウエルネス学領域を学び、本質を見抜く考え方、調査研究の企画・遂行・まとめ・報告といった研究の流れについて主体的な学習を進める。場合によっては、履修に影響のない範囲で時間を決め、教室以外のフィールドでの実践的な学習も行う。

- 1: 体育・スポーツとジェンダー(佐野)
- 2: 心理特性について運動・スポーツへの参加動機と目標志向性の観点から探る(川端)
- 3: 探索的データ分析とBIツール(小林)
- 4: 顕微鏡による血球・細胞の観察と小実験(服部)
- 5: スポーツ規範の視点から望ましいスポーツ環境を考える(村本)
- 6: 各種スポーツにおける体力測定(川原)

There are 6 classes in this discipline, and students are divided into groups of approximately 40 per class by automatic registration. Under the guidance of several teachers during the semester, students will study several different areas of sports wellness, consider the essence of these, and learn independently about research processes such as planning, execution, summarizing and reporting on research results. In some cases, there will be opportunities for fieldwork and practical learning outside the classroom at times which do not interfere with course studies overall.

- 1: Considering sports and physical education from the perspective of gender (Sano)
- 2: Exploring psychological traits from the perspectives of exercise/sport motivations and goal orientations (Kawabata)
- 3: Exploratory data analysis and BI tool (Kobayashi)
- 4: Microscopic observation of blood cells and living cells, and small experiments using these cells (Hattori)
- 5: Considering a desirable sports environment from the perspective of sports norms (Muramoto)
- 6: Physical fitness measurement in various sports (Kawahara)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・スポーツウエルネスワークショップAで学ぶ事
- 【2】: スポーツウエルネス学領域の研究手法1-1

- 【3】:スポーツウエルネス学領域の研究手法1-2
- 【4】:スポーツウエルネス学領域の研究手法2-1
- 【5】:スポーツウエルネス学領域の研究手法2-2
- 【6】:スポーツウエルネス学領域の研究手法3-1
- 【7】:スポーツウエルネス学領域の研究手法3-2
- 【8】:スポーツウエルネス学領域の研究手法4-1
- 【9】:スポーツウエルネス学領域の研究手法4-2
- 【10】:スポーツウエルネス学領域の研究手法5-1
- 【11】:スポーツウエルネス学領域の研究手法5-2
- 【12】:スポーツウエルネス学領域の研究手法6-1
- 【13】:スポーツウエルネス学領域の研究手法6-2
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時または Canvas LMS 上にて行う。各回の予習・復習にはそれぞれ 2 時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 6 回の小レポート:50%

テキスト / Textbooks

各プログラムで必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

各プログラムで必要に応じて指示する。

その他 / Others

全てのクラスとも授業開始第 1 週は履修登録状況画面に示す教室でクラスごとに集合する。

注意事項(検索結果画面)

スポ学部スポ学科必修科目/2023 年度以降入学者対象

スポーツウエルネスワークショップB

Workshop in Sports Wellness B

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN051
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	スポ学部スポ学科必修科目 2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

少人数のゼミナール形式において、スポーツウエルネス学領域における複数の教員の専門分野を学ぶ。教員の講義だけでなく、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的な学習を行う。

Learn about different teachers' areas of specialization in sports and wellness in small-size seminars. In addition to lectures by teachers, the course features independent investigation by students including discussions, practical training and presentations.

授業の内容 / Course Contents

この科目には以下の6つのクラスが用意されており、学生は自動登録により1つのクラスに約40名ずつ振り分けられる。学期を通じて複数の教員の導きにより、複数のスポーツウエルネス学領域を学び、本質を見抜く考え方、調査研究の企画・遂行・まとめ・報告といった研究の流れについて主体的な学習を進める。場合によっては、履修に影響のない範囲で時間を決め、教室以外のフィールドでの実践的な学習も行う。

- 1: 脳・身体機能を測定する～スポーツ生理学演習～(石渡)
- 2: 新座キャンパスで生物多様性を感じ、サステナビリティについて学ぶ(奇二)
- 3: ヒトの遺伝子型とアルコール感受性・アルコールを生産する酵母の顕微鏡観察(舘川)
- 4: 健康づくりのための身体活動実施について考える(黒澤)
- 5: 運動・スポーツにおけるコーチングを考える(江原)
- 6: トレーニング指導のためのウォームアップとクールダウンを含めた体力プロフィール作成(塩田)

There are 6 classes in this discipline, and students are divided into groups of approximately 40 per class by automatic registration. Under the guidance of several teachers during the semester, students will study several different areas of sports wellness, consider the essence of these, and learn independently about research processes such as planning, execution, summarizing and reporting on research results. In some cases, there will be opportunities for fieldwork and practical learning outside the classroom at times which do not interfere with course studies overall.

- 1: Measuring brain and body functions - Sports physiology seminar (Ishiwata)
- 2: Feel biodiversity and learn about sustainability at the Niiza Campus (Kiji)
- 3: Human genotype and alcohol sensitivity, and microscopic observation of alcohol-producing yeast (Tachikawa)
- 4: Considering physical activity for health promotion (Kurosawa)
- 5: Performance-driven sports and exercise coaching (Ehara)
- 6: Creating physical fitness profiles for training (Shioda)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・スポーツウエルネスワークショップBで学ぶ事
- 【2】: スポーツウエルネス学領域の研究手法7-1

- 【3】:スポーツウエルネス学領域の研究手法7-2
- 【4】:スポーツウエルネス学領域の研究手法8-1
- 【5】:スポーツウエルネス学領域の研究手法8-2
- 【6】:スポーツウエルネス学領域の研究手法9-1
- 【7】:スポーツウエルネス学領域の研究手法9-2
- 【8】:スポーツウエルネス学領域の研究手法10-1
- 【9】:スポーツウエルネス学領域の研究手法10-2
- 【10】:スポーツウエルネス学領域の研究手法11-1
- 【11】:スポーツウエルネス学領域の研究手法11-2
- 【12】:スポーツウエルネス学領域の研究手法12-1
- 【13】:スポーツウエルネス学領域の研究手法12-2
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時または Canvas LMS 上にて行う。各回の予習・復習にはそれぞれ 2 時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 6 回の小レポート:50%

テキスト / Textbooks

各プログラムで必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

各プログラムで必要に応じて指示する。

その他 / Others

全てのクラスとも授業開始第 1 週は履修登録状況画面に示す教室でクラスごとに集合する。

注意事項(検索結果画面)

スポ学部スポ学科必修科目/2023 年度以降入学者対象

スポーツウエルネスワークショップB

Workshop in Sports Wellness B

江原 義智 (EHARA YOSHITOMO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN052
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	スポ学部スポ学科必修科目 2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

少人数のゼミナール形式において、スポーツウエルネス学領域における複数の教員の専門分野を学ぶ。教員の講義だけでなく、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的な学習を行う。

Learn about different teachers' areas of specialization in sports and wellness in small-size seminars. In addition to lectures by teachers, the course features independent investigation by students including discussions, practical training and presentations.

授業の内容 / Course Contents

この科目には以下の6つのクラスが用意されており、学生は自動登録により1つのクラスに約40名ずつ振り分けられる。学期を通じて複数の教員の導きにより、複数のスポーツウエルネス学領域を学び、本質を見抜く考え方、調査研究の企画・遂行・まとめ・報告といった研究の流れについて主体的な学習を進める。場合によっては、履修に影響のない範囲で時間を決め、教室以外のフィールドでの実践的な学習も行う。

- 1: 脳・身体機能を測定する～スポーツ生理学演習～(石渡)
- 2: 新座キャンパスで生物多様性を感じ、サステナビリティについて学ぶ(奇二)
- 3: ヒトの遺伝子型とアルコール感受性・アルコールを生産する酵母の顕微鏡観察(舘川)
- 4: 健康づくりのための身体活動実施について考える(黒澤)
- 5: 運動・スポーツにおけるコーチングを考える(江原)
- 6: トレーニング指導のためのウォームアップとクールダウンを含めた体力プロフィール作成(塩田)

There are 6 classes in this discipline, and students are divided into groups of approximately 40 per class by automatic registration. Under the guidance of several teachers during the semester, students will study several different areas of sports wellness, consider the essence of these, and learn independently about research processes such as planning, execution, summarizing and reporting on research results. In some cases, there will be opportunities for fieldwork and practical learning outside the classroom at times which do not interfere with course studies overall.

- 1: Measuring brain and body functions - Sports physiology seminar (Ishiwata)
- 2: Feel biodiversity and learn about sustainability at the Niiza Campus (Kiji)
- 3: Human genotype and alcohol sensitivity, and microscopic observation of alcohol-producing yeast (Tachikawa)
- 4: Considering physical activity for health promotion (Kurosawa)
- 5: Performance-driven sports and exercise coaching (Ehara)
- 6: Creating physical fitness profiles for training (Shioda)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・スポーツウエルネスワークショップBで学ぶ事
- 【2】: スポーツウエルネス学領域の研究手法7-1

- 【3】:スポーツウエルネス学領域の研究手法7-2
- 【4】:スポーツウエルネス学領域の研究手法8-1
- 【5】:スポーツウエルネス学領域の研究手法8-2
- 【6】:スポーツウエルネス学領域の研究手法9-1
- 【7】:スポーツウエルネス学領域の研究手法9-2
- 【8】:スポーツウエルネス学領域の研究手法10-1
- 【9】:スポーツウエルネス学領域の研究手法10-2
- 【10】:スポーツウエルネス学領域の研究手法11-1
- 【11】:スポーツウエルネス学領域の研究手法11-2
- 【12】:スポーツウエルネス学領域の研究手法12-1
- 【13】:スポーツウエルネス学領域の研究手法12-2
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時または Canvas LMS 上にて行う。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 6回の小レポート:50%

テキスト / Textbooks

各プログラムで必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

各プログラムで必要に応じて指示する。

その他 / Others

全てのクラスとも授業開始第1週は履修登録状況画面に示す教室でクラスごとに集合する。

注意事項(検索結果画面)

スポ学部スポ学科必修科目/2023年度以降入学者対象

スポーツウエルネスワークショップC

Workshop in Sports Wellness C

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN061
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	スポ学部スポ学科必修科目 2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

少人数のゼミナール形式において、スポーツウエルネス学領域における複数の教員の専門分野を学ぶ。教員の講義だけでなく、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的な学習を行う。

Learn about different teachers' areas of specialization in sports and wellness in small-size seminars. In addition to lectures by teachers, the course features independent investigation by students including discussions, practical training and presentations.

授業の内容 / Course Contents

この科目には以下の6つのクラスが用意されており、学生は自動登録により1つのクラスに約40名ずつ振り分けられる。学期を通じて複数の教員の導きにより、複数のスポーツウエルネス学領域を学び、本質を見抜く考え方、調査研究の企画・遂行・まとめ・報告といった研究の流れについて主体的な学習を進める。場合によっては、履修に影響のない範囲で時間を決め、教室以外のフィールドでの実践的な学習も行う。

- 1: スポーツ動作を分析する～バイオメカニクス演習～(石井)
- 2: これからの日本のスポーツプロモーションを考える(松尾)
- 3: 球技の体力トレーニングを考える(安松)
- 4: スポーツビジネスを考える(中村)
- 5: 心筋、骨格筋、平滑筋の観察とメラニン生成実験(丸山)
- 6: 「しょうがい」からスポーツ、レクリエーションを考える(宮田)

There are 6 classes in this discipline, and students are divided into groups of approximately 40 per class by automatic registration. Under the guidance of several teachers during the semester, students will study several different areas of sports wellness, consider the essence of these, and learn independently about research processes such as planning, execution, summarizing and reporting on research results. In some cases, there will be opportunities for fieldwork and practical learning outside the classroom at times which do not interfere with course studies overall.

- 1: Motion analysis for sports (Ishii)
- 2: Thinking about the future of sports promotion in Japan (Matsuo)
- 3: Considering physical training for ball games (Yasumatsu)
- 4: Exploring the Sport Business (Nakamura)
- 5: Microscopic observation of cardiac, skeletal, and smooth muscles and experiments on melanin synthesis (Maruyama)
- 6: Considering Sports and Recreation from the Perspective of Disabilities (Miyata)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・スポーツウエルネスワークショップCで学ぶ事
- 【2】: スポーツウエルネス学領域の研究手法13-1

- 【3】:スポーツウエルネス学領域の研究手法13-2
- 【4】:スポーツウエルネス学領域の研究手法14-1
- 【5】:スポーツウエルネス学領域の研究手法14-2
- 【6】:スポーツウエルネス学領域の研究手法15-1
- 【7】:スポーツウエルネス学領域の研究手法15-2
- 【8】:スポーツウエルネス学領域の研究手法16-1
- 【9】:スポーツウエルネス学領域の研究手法16-2
- 【10】:スポーツウエルネス学領域の研究手法17-1
- 【11】:スポーツウエルネス学領域の研究手法17-2
- 【12】:スポーツウエルネス学領域の研究手法18-1
- 【13】:スポーツウエルネス学領域の研究手法18-2
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時または Canvas LMS 上にて行う。各回の予習・復習にはそれぞれ 2 時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 6 回の小レポート:50%

テキスト / Textbooks

各プログラムで必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

各プログラムで必要に応じて指示する。

その他 / Others

全てのクラスとも授業開始第 1 週は履修登録状況画面に示す教室でクラスごとに集合する。

注意事項(検索結果画面)

スポ学部スポ学科必修科目/2023 年度以降入学者対象

スポーツウエルネスワークショップC

Workshop in Sports Wellness C

中村 聡宏 (NAKAMURA AKIHIRO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN062
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	スポ学部スポ学科必修科目 2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

少人数のゼミナール形式において、スポーツウエルネス学領域における複数の教員の専門分野を学ぶ。教員の講義だけでなく、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的な学習を行う。

Learn about different teachers' areas of specialization in sports and wellness in small-size seminars. In addition to lectures by teachers, the course features independent investigation by students including discussions, practical training and presentations.

授業の内容 / Course Contents

この科目には以下の6つのクラスが用意されており、学生は自動登録により1つのクラスに約40名ずつ振り分けられる。学期を通じて複数の教員の導きにより、複数のスポーツウエルネス学領域を学び、本質を見抜く考え方、調査研究の企画・遂行・まとめ・報告といった研究の流れについて主体的な学習を進める。場合によっては、履修に影響のない範囲で時間を決め、教室以外のフィールドでの実践的な学習も行う。

- 1: スポーツ動作を分析する～バイオメカニクス演習～(石井)
- 2: これからの日本のスポーツプロモーションを考える(松尾)
- 3: 球技の体力トレーニングを考える(安松)
- 4: スポーツビジネスを考える(中村)
- 5: 心筋、骨格筋、平滑筋の観察とメラニン生成実験(丸山)
- 6: 「しょうがい」からスポーツ、レクリエーションを考える(宮田)

There are 6 classes in this discipline, and students are divided into groups of approximately 40 per class by automatic registration. Under the guidance of several teachers during the semester, students will study several different areas of sports wellness, consider the essence of these, and learn independently about research processes such as planning, execution, summarizing and reporting on research results. In some cases, there will be opportunities for fieldwork and practical learning outside the classroom at times which do not interfere with course studies overall.

- 1: Motion analysis for sports (Ishii)
- 2: Thinking about the future of sports promotion in Japan (Matsuo)
- 3: Considering physical training for ball games (Yasumatsu)
- 4: Exploring the Sport Business (Nakamura)
- 5: Microscopic observation of cardiac, skeletal, and smooth muscles and experiments on melanin synthesis (Maruyama)
- 6: Considering Sports and Recreation from the Perspective of Disabilities (Miyata)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・スポーツウエルネスワークショップCで学ぶ事
- 【2】: スポーツウエルネス学領域の研究手法13-1

- 【3】:スポーツウエルネス学領域の研究手法13-2
- 【4】:スポーツウエルネス学領域の研究手法14-1
- 【5】:スポーツウエルネス学領域の研究手法14-2
- 【6】:スポーツウエルネス学領域の研究手法15-1
- 【7】:スポーツウエルネス学領域の研究手法15-2
- 【8】:スポーツウエルネス学領域の研究手法16-1
- 【9】:スポーツウエルネス学領域の研究手法16-2
- 【10】:スポーツウエルネス学領域の研究手法17-1
- 【11】:スポーツウエルネス学領域の研究手法17-2
- 【12】:スポーツウエルネス学領域の研究手法18-1
- 【13】:スポーツウエルネス学領域の研究手法18-2
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時または Canvas LMS 上にて行う。各回の予習・復習にはそれぞれ 2 時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 6 回の小レポート:50%

テキスト / Textbooks

各プログラムで必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

各プログラムで必要に応じて指示する。

その他 / Others

全てのクラスとも授業開始第 1 週は履修登録状況画面に示す教室でクラスごとに集合する。

注意事項(検索結果画面)

スポ学部スポ学科必修科目/2023 年度以降入学者対象

運動方法学演習1

Exercise Technique Seminar 1
フィットネス

内藤 隆 (NAITO TAKASHI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN200
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第6回・第12回授業)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

フィットネストレーニングの運動方法を実践し習得することによって、運動の基礎となる身体の動かし方やコントロール方法を身につけることを目標とする。

The goal of this class is to learn how to move and control the body, which is the basis of exercise, by practicing and learning the exercise methods of fitness training.

授業の内容 / Course Contents

運動を実践する対象や目的に応じた、運動の実施方法および運動内容の組み立て方法を学ぶ。フィットネストレーニングの基本動作を通じた運動の実践により、自らの身体の動かし方やコントロール方法を身につける。

なお、本授業は以下の3つの柱の内容を中心に実施する。

1. 身体の柔軟性向上と巧みな動きを行うための運動
2. 筋力を高める運動
3. 持久力を高める運動

毎回、ストレッチを行った後に授業の内容に入る。

In this class, the students will learn how to carry out the exercise and how to assemble the content of the exercise according to the participant and purpose of the exercise. By practicing exercise through the basic movements, the students will learn how to move and control their own body.

This class will focus on the following three points.

1. Exercise to improve physical flexibility and skillful movements
2. Exercise to improve muscle strength
3. Endurance training

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

身体のセルフチェック, 身体の基本的な動作

【2】: フィットネスの基礎 1

身体の各部位の動作

【3】: フィットネスの基礎 2

身体の各部位の動作を組み合わせた全身運動

【4】: フィットネスの基礎 3

健康増進のためのエクササイズ

- 【5】:フィットネスの基本とコンビネーション動作1
有酸素運動プログラム(基礎)
- 【6】:フィットネスの基本とコンビネーション動作2
有酸素運動プログラム(応用)
- 【7】:柔軟性トレーニング(基礎)
- 【8】:柔軟性トレーニング(応用)
- 【9】:筋力トレーニング(基礎)
- 【10】:筋力トレーニング(応用)
- 【11】:フィットネストレーニングの実践・指導法1(グループワーク)
対象者の特性に応じた運動の実践方法
目的に応じた運動指導の方法
- 【12】:フィットネストレーニングの実践・指導法2(グループワーク)
運動指導の実践
- 【13】:習熟度・理解度テスト、実技テストの実施
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:40% 技術の理解度:20% レポート:20% テスト:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

その他 / Others

室内シューズと動きやすい服装で参加すること。

第一回の授業から実技を行うので着替えを持参のこと。

当該年度の定期健康診断を必ず受診すること。

授業初回到健康診断の受診の有無を確認する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 40名

運動方法学演習1

Exercise Technique Seminar 1
フィットネス

内藤 隆(NAITO TAKASHI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN201
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第6回・第12回授業)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

フィットネストレーニングの運動方法を実践し習得することによって、運動の基礎となる身体の動かし方やコントロール方法を身につけることを目標とする。

The goal of this class is to learn how to move and control the body, which is the basis of exercise, by practicing and learning the exercise methods of fitness training.

授業の内容 / Course Contents

運動を実践する対象や目的に応じた、運動の実施方法および運動内容の組み立て方法を学ぶ。フィットネストレーニングの基本動作を通じた運動の実践により、自らの身体の動かし方やコントロール方法を身につける。

なお、本授業は以下の3つの柱の内容を中心に実施する。

1. 身体の柔軟性向上と巧みな動きを行うための運動
2. 筋力を高める運動
3. 持久力を高める運動

毎回、ストレッチを行った後に授業の内容に入る。

In this class, the students will learn how to carry out the exercise and how to assemble the content of the exercise according to the participant and purpose of the exercise. By practicing exercise through the basic movements, the students will learn how to move and control their own body.

This class will focus on the following three points.

1. Exercise to improve physical flexibility and skillful movements
2. Exercise to improve muscle strength
3. Endurance training

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

身体のセルフチェック, 身体の基本的な動作

【2】: フィットネスの基礎 1

身体の各部位の動作

【3】: フィットネスの基礎 2

身体の各部位の動作を組み合わせた全身運動

【4】: フィットネスの基礎 3

健康増進のためのエクササイズ

- 【5】:フィットネスの基本とコンビネーション動作1
有酸素運動プログラム(基礎)
- 【6】:フィットネスの基本とコンビネーション動作2
有酸素運動プログラム(応用)
- 【7】:柔軟性トレーニング(基礎)
- 【8】:柔軟性トレーニング(応用)
- 【9】:筋力トレーニング(基礎)
- 【10】:筋力トレーニング(応用)
- 【11】:フィットネストレーニングの実践・指導法1(グループワーク)
対象者の特性に応じた運動の実践方法
目的に応じた運動指導の方法
- 【12】:フィットネストレーニングの実践・指導法2(グループワーク)
運動指導の実践
- 【13】:習熟度・理解度テスト、実技テストの実施
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:40% 技術の理解度:20% レポート:20% テスト:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

その他 / Others

- 室内シューズと動きやすい服装で参加すること。
- 第一回の授業から実技を行うので着替えを持参のこと。
- 当該年度の定期健康診断を必ず受診すること。
- 授業初回到健康診断の受診の有無を確認する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 40名

運動方法学演習2

Exercise Technique Seminar 2

陸上競技の基礎(走る、投げる、跳ぶ)を学ぶ

塩田 徹(SHIODA TORU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN202
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

陸上競技の基礎的技術の実践を通して、各種スポーツの基礎となる走運動・跳躍運動・投運動を理解し、効率的な動作の習得を目標とする。

Through practicing basic skills in athletics, understand the running, jumping and throwing movements that form the basis of various sports and learn about the most efficient movements and motions.

授業の内容 / Course Contents

陸上競技の各種目の特性を理解しながら、走運動・跳躍運動・投運動の習得ドリルを実践しながら効率的な身体運動を理解していく。さらに、用器具などの使用方法、取り扱い方とルールについて学習する。また、陸上競技実施にあたっての安全管理についても説明する。

Understand the characteristics of different athletics events and practice running, jumping and throwing drills to learn about and understand how to exercise efficiently. In addition, learn how to use and handle different types of equipment, and the rules for their use. Students are instructed on the management of safety for athletics competitions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:ウォーミングアップとクーリングダウンの目的と実際
- 【2】:短距離走のためのドリルとフォーム、およびスタート
- 【3】:短距離走のスタートの実際とトレーニング例
- 【4】:短距離走の計測とバトンパスの導入
- 【5】:レースの中でのバトンパス
- 【6】:ハードルの基本動作の習得
- 【7】:ハードル走の実際
- 【8】:投運動(砲丸投げ、やり投げ)の導入
- 【9】:跳躍種目(走り幅跳び、走り高跳び)の導入
- 【10】:跳躍種目(走り幅跳び、走り高跳び)の計測
- 【11】:視覚障害ランナーの支援
- 【12】:走運動・投運動・跳躍運動の指導実践1
- 【13】:走運動・投運動・跳躍運動の指導実践2
- 【14】:走運動・投運動・跳躍運動の指導実践3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習範囲や課題については各授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業態度:50% 技術の習得度:20% 授業内レポート:30%

単位修得のためには2/3以上の出席が必要となる。

テキスト / Textbooks

適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

財団法人日本陸上競技連盟編 『楽しいキッズの陸上競技』 大修館書店 2010 9784469267020

授業において紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 40名

運動方法学演習2

Exercise Technique Seminar 2

陸上競技の基礎(走る、投げる、跳ぶ)を学ぶ

塩田 徹(SHIODA TORU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN203
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

陸上競技の基礎的技術の実践を通して、各種スポーツの基礎となる走運動・跳躍運動・投運動を理解し、効率的な動作の習得を目標とする。

Through practicing basic skills in athletics, understand the running, jumping and throwing movements that form the basis of various sports and learn about the most efficient movements and motions.

授業の内容 / Course Contents

陸上競技の各種目の特性を理解しながら、走運動・跳躍運動・投運動の習得ドリルを実践しながら効率的な身体運動を理解していく。さらに、用器具などの使用方法、取り扱い方とルールについて学習する。また、陸上競技実施にあたっての安全管理についても説明する。

Understand the characteristics of different athletics events and practice running, jumping and throwing drills to learn about and understand how to exercise efficiently. In addition, learn how to use and handle different types of equipment, and the rules for their use. Students are instructed on the management of safety for athletics competitions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:ウォーミングアップとクーリングダウンの目的と実際
- 【2】:短距離走のためのドリルとフォーム、およびスタート
- 【3】:短距離走のスタートの実際とトレーニング例
- 【4】:短距離走の計測とバトンパスの導入
- 【5】:レースの中でのバトンパス
- 【6】:ハードルの基本動作の習得
- 【7】:ハードル走の実際
- 【8】:投運動(砲丸投げ、やり投げ)の導入
- 【9】:跳躍種目(走り幅跳び、走り高跳び)の導入
- 【10】:跳躍種目(走り幅跳び、走り高跳び)の計測
- 【11】:視覚障害ランナーの支援
- 【12】:走運動・投運動・跳躍運動の指導実践1
- 【13】:走運動・投運動・跳躍運動の指導実践2
- 【14】:走運動・投運動・跳躍運動の指導実践3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習範囲や課題については各授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業態度:50% 技術の習得度:20% 授業内レポート:30%

単位修得のためには2/3以上の出席が必要となる。

テキスト / Textbooks

適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

財団法人日本陸上競技連盟編 『楽しいキッズの陸上競技』 大修館書店 2010 9784469267020

授業において紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 40名

運動方法学演習3

Exercise Technique Seminar 3

安松 幹展 / 川原 布紗子 (YASUMATSU MIKINOBU / KAWAHARA FUSAKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN204
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 64 名		

授業の目標 / Course Objectives

サッカーの技術・戦術・体力に対する理解を深めるとともに、将来指導を行うことを想定して、サッカーのコーチングスキルの向上を目指す。

The course aims to deepen students' understanding of football technical, tactical and physical elements on the assumption they will give coaching and instruction in future, and to improve students' coaching skills.

授業の内容 / Course Contents

講義と実技、および学生による指導実践を組み合わせながら展開する。

The course is developed through a combination of lectures, practice and coaching practice by students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス(講義)とゲーム(実技)
- 【2】: サッカーの分析①(講義: プレーの原則)とテクニック①(実技: キック、ヘディング)
- 【3】: サッカーの分析②(講義: テクニック)とテクニック②(実技: ドリブル、守備)
- 【4】: サッカーの戦術①(講義: 攻撃の個人戦術)と戦術①(実技: 攻撃・守備の個人戦術)
- 【5】: サッカーの戦術②(講義: 守備の個人戦術)と戦術②(実技: 数的同数、優位、劣位)
- 【6】: GK(講義と実技)
- 【7】: プランニング(講義と実技)
- 【8】: コーチング(講義と実技)
- 【9】: グループワーク(講義)と指導実践デモ(実技)
- 【10】: 指導実践①「ゴールを目指す」
- 【11】: 指導実践②「ボールを奪う」
- 【12】: 指導実践③「ゴールを奪う」
- 【13】: 指導実践④「ゴールを守る」
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎授業終了時に適宜指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況および授業への取り組む姿勢:30% 指導実践と指導実践に関する小レポート:30%
最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

資料を適宜配付する。

参考文献 / Readings

Jens Bangsbo & Jesper L. Andersen 『パフォーマンス向上に役立つ サッカー選手のパートトレーニング』 大修館書店
2018 4469268445

Jens Bangsbo 『パフォーマンス向上に役立つサッカー選手の体力測定と評価』 大修館書店 2015 4469267694

Jens Bangsbo 『ゲーム形式で鍛えるサッカーの体力トレーニング』 大修館書店 2008 4469266744

日本サッカー協会 『JFA 指導指針 2017(U10~18)』 日本サッカー協会 2017

その他 / Others

初回から実技があるので、サッカーのできる服装に更衣して集合すること。

履修人数によって、指導実践と講義を行う回数に変更となる場合がある。

A グラウンドで運動のできる服装・靴(サッカースパイクでなくても構わない)を用意すること。

日本サッカー協会公認 C 級ライセンスの取得を希望する者は、本授業を全て受講した上で、数日の補講(講義と指導実践)を受講し、ライセンス取得試験に合格する必要がある。詳細は初日のガイダンスで説明する。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 64 名

運動方法学演習3

Exercise Technique Seminar 3

安松 幹展 / 川原 布紗子 (YASUMATSU MIKINOBU / KAWAHARA FUSAKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN205
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 64 名		

授業の目標 / Course Objectives

サッカーの技術・戦術・体力に対する理解を深めるとともに、将来指導を行うことを想定して、サッカーのコーチングスキルの向上を目指す。

The course aims to deepen students' understanding of football technical, tactical and physical elements on the assumption they will give coaching and instruction in future, and to improve students' coaching skills.

授業の内容 / Course Contents

講義と実技、および学生による指導実践を組み合わせながら展開する。

The course is developed through a combination of lectures, practice and coaching practice by students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス(講義)とゲーム(実技)
- 【2】: サッカーの分析①(講義: プレーの原則)とテクニック①(実技: キック、ヘディング)
- 【3】: サッカーの分析②(講義: テクニック)とテクニック②(実技: ドリブル、守備)
- 【4】: サッカーの戦術①(講義: 攻撃の個人戦術)と戦術①(実技: 攻撃・守備の個人戦術)
- 【5】: サッカーの戦術②(講義: 守備の個人戦術)と戦術②(実技: 数的同数、優位、劣位)
- 【6】: GK(講義と実技)
- 【7】: プランニング(講義と実技)
- 【8】: コーチング(講義と実技)
- 【9】: グループワーク(講義)と指導実践デモ(実技)
- 【10】: 指導実践①「ゴールを目指す」
- 【11】: 指導実践②「ボールを奪う」
- 【12】: 指導実践③「ゴールを奪う」
- 【13】: 指導実践④「ゴールを守る」
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎授業終了時に適宜指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況および授業への取り組む姿勢:30% 指導実践と指導実践に関する小レポート:30%
最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

資料を適宜配付する。

参考文献 / Readings

Jens Bangsbo & Jesper L. Andersen 『パフォーマンス向上に役立つ サッカー選手のパートトレーニング』 大修館書店 2018 4469268445

Jens Bangsbo 『パフォーマンス向上に役立つサッカー選手の体力測定と評価』 大修館書店 2015 4469267694

Jens Bangsbo 『ゲーム形式で鍛えるサッカーの体力トレーニング』 大修館書店 2008 4469266744

日本サッカー協会 『JFA 指導指針 2017(U10~18)』 日本サッカー協会 2017

その他 / Others

初回から実技があるので、サッカーのできる服装に更衣して集合すること。

履修人数によって、指導実践と講義を行う回数に変更となる場合がある。

A グラウンドで運動のできる服装・靴(サッカースパイクでなくても構わない)を用意すること。

日本サッカー協会公認 C 級ライセンスの取得を希望する者は、本授業を全て受講した上で、数日の補講(講義と指導実践)を受講し、ライセンス取得試験に合格する必要がある。詳細は初日のガイダンスで説明する。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 64 名

運動方法学演習4

Exercise Technique Seminar 4

テニス指導法理論・実習

後藤 光将 (GOTOU MITSUMASA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN206
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	全回対面授業で行うほかにも、オンデマンド講義の受講および小レポートの提出を12回程度実施します。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

テニスのルール・マナーを理解して、ストロークラリーが20回以上続けられること、中学校や高校での保健体育授業でのテニス授業展開方法の理解、および、初心者指導ができるようになることを到達目標として設定します。

The objective is to understand the rules and etiquette of tennis, to be able to play a rally with over 20 strokes, to understand how to manage tennis classes during junior high school and high school health and PE lessons, and to be able to coach beginners.

授業の内容 / Course Contents

テニスは老若男女問わず行うことができるスポーツの代表的な存在です。本授業では、テニスの基礎的技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。生涯にわたってテニスを実践できる素養を学びます。

Tennis is a model sport that can be played by men and women of all ages. In this class, students deepen their communication with teammates while learning the fundamental techniques and understanding the rules, history and competitive characteristics of tennis. Learn the grounding knowledge to be able to practice tennis throughout your life.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:(対面実技1)初心者導入練習
(オンデマンド講義1)テニスの特徴と特性
- 【3】:(対面実技2)送球マシンを用いた練習1
(オンデマンド講義2)テニスの文化と歴史
- 【4】:(対面実技3)送球マシンを用いた練習2
(オンデマンド講義3)テニスの技術構造と仕組み
- 【5】:(対面実技4)送球マシンを用いた練習3
(オンデマンド講義4)テニスのグリップ
- 【6】:(対面実技5)送球マシンを用いた練習4
(オンデマンド講義5)テニスの基礎技術
- 【7】:(対面実技6)対人ラリーへの発展練習, ミニゲーム
(オンデマンド講義6)テニスの応用技術

【8】: (対面実技 7) 球出し練習 1 (手投げ出し), ミニゲーム
(オンデマンド講義 7) テニスのルール

【9】: (対面実技 8) 球出し練習 2 (ラケット出し), ミニゲーム
(オンデマンド講義 8) テニスの試合方法・マナー

【10】: (対面実技 9) 雨天時室内実技授業の展開
(オンデマンド講義 9) テニスの戦術

【11】: (対面実技 10) ダブルスゲームの基礎戦術, ダブルスゲーム
(オンデマンド講義 10) テニス型教材テニピン

【12】: (対面実技 11) シングルスゲームの戦術, ダブルスゲーム
(オンデマンド講義 11) 体育授業でテニスを教えること

【13】: (対面実技 12) ダブルスゲームの応用戦術, ダブルスゲーム
(オンデマンド講義 12) テニス授業指導案づくり

【14】: (対面実技 13) ダブルスゲーム, まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド (パワーポイント等) の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テニスのルールを本やウェブサイトですべて予習しておいてください。受講にあたってテニスの経験や能力のレベルは問いません。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 授業への取り組み度: 30% 小レポート: 40%

最終レポート割合: 30% 最終テスト割合: 0%

3/4 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象となりません。

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

日本テニス協会 『テニス指導教本 I』 大修館書店 2015 4469267856

注意事項 (検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象 / 人数制限 40 名

運動方法学演習4

Exercise Technique Seminar 4

テニス指導法理論・実習

後藤 光将 (GOTOU MITSUMASA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN207
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	全回対面授業で行うほかにも、オンデマンド講義の受講および小レポートの提出を12回程度実施します。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

テニスのルール・マナーを理解して、ストロークラリーが20回以上続けられること、中学校や高校での保健体育授業でのテニス授業展開方法の理解、および、初心者指導ができるようになることを到達目標として設定します。

The objective is to understand the rules and etiquette of tennis, to be able to play a rally with over 20 strokes, to understand how to manage tennis classes during junior high school and high school health and PE lessons, and to be able to coach beginners.

授業の内容 / Course Contents

テニスは老若男女問わず行うことができるスポーツの代表的な存在です。本授業では、テニスの基礎的技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。生涯にわたってテニスを実践できる素養を学びます。

Tennis is a model sport that can be played by men and women of all ages. In this class, students deepen their communication with teammates while learning the fundamental techniques and understanding the rules, history and competitive characteristics of tennis. Learn the grounding knowledge to be able to practice tennis throughout your life.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:(対面実技1)初心者導入練習
(オンデマンド講義1)テニスの特徴と特性
- 【3】:(対面実技2)送球マシンを用いた練習1
(オンデマンド講義2)テニスの文化と歴史
- 【4】:(対面実技3)送球マシンを用いた練習2
(オンデマンド講義3)テニスの技術構造と仕組み
- 【5】:(対面実技4)送球マシンを用いた練習3
(オンデマンド講義4)テニスのグリップ
- 【6】:(対面実技5)送球マシンを用いた練習4
(オンデマンド講義5)テニスの基礎技術
- 【7】:(対面実技6)対人ラリーへの発展練習, ミニゲーム
(オンデマンド講義6)テニスの応用技術

- 【8】: (対面実技 7) 球出し練習 1 (手投げ出し), ミニゲーム
(オンデマンド講義 7) テニスのルール
- 【9】: (対面実技 8) 球出し練習 2 (ラケット出し), ミニゲーム
(オンデマンド講義 8) テニスの試合方法・マナー
- 【10】: (対面実技 9) 雨天時室内実技授業の展開
(オンデマンド講義 9) テニスの戦術
- 【11】: (対面実技 10) ダブルスゲームの基礎戦術, ダブルスゲーム
(オンデマンド講義 10) テニス型教材テニピン
- 【12】: (対面実技 11) シングルスゲームの戦術, ダブルスゲーム
(オンデマンド講義 11) 体育授業でテニスを教えること
- 【13】: (対面実技 12) ダブルスゲームの応用戦術, ダブルスゲーム
(オンデマンド講義 12) テニス授業指導案づくり
- 【14】: (対面実技 13) ダブルスゲーム, まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド (パワポ等) の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テニスのルールを本やウェブサイトですべて予習しておいてください。受講にあたってテニスの経験や能力のレベルは問いません。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 授業への取り組み度: 30% 小レポート: 40%

最終レポート割合: 30% 最終テスト割合: 0%

3/4 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象となりません。

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

日本テニス協会 『テニス指導教本 I』 大修館書店 2015 4469267856

注意事項 (検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象 / 人数制限 40 名

運動方法学演習5

Exercise Technique Seminar 5

スキーの技術、スキーの楽しさを学ぼう

江原 義智 / 奥田 功夫 / 小山 さなえ (EHARA YOSHITOMO / OKUDA ISAO / KOYAMA SANAE)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN208
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 秋学期集中 人数制限 30 名 4 年次生履修不可		

授業の目標 / Course Objectives

受講者それぞれの技術に応じ、どのような斜面でも楽しく滑走できるようになることを目標とする。

The objective is to help them to be able to ski down any type of slope depending on their ability.

授業の内容 / Course Contents

スキーは誰でも楽しめる非常にポピュラーなスポーツであり、生涯スポーツとして身につけるには最適な種目である。この授業では、動画を用いたフォーム分析などを行い、総合的にスキー技術のレベルアップを図る。

Skiing is a popular sport that anyone can enjoy. It is the perfect sport to learn as a lifetime sport. In addition to instruction on ski technology at the ski area, students will have their skiing performance analyzed on video to help them improve their technique.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: オリエンテーション / クラス分けテスト
- [2]: 講義1: スキー運動の力学的理解
- [3]: 講義とワークショップ1: スキーのチューンナップとワックシング
- [4]: スキー実践: プルークボーゲン
- [5]: スキー実践: 基礎パラレルターン
- [6]: 動画による各自のフォーム分析
- [7]: 講義とワークショップ2: SAJ(全日本スキー連盟)におけるスキー検定について
- [8]: スキー実践: スキッティングターン、小回りターン
- [9]: スキー実践: カービングターン、大回りターン
- [10]: 講義2: スキーと身体運動
- [11]: 講義と議論: スキーと安全
- [12]: スキー実践: コブ斜面や深雪エリアでの滑走
- [13]: スキー実践: スキーツアーの計画と実践
- [14]: 全体討議: 不測の事態が起こりうる自然環境の中で、いかに安全にスキーを楽しむか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業準備の指示は、ガイダンスにて行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ガイダンス出席、実習や団体生活に対する姿勢:100%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

随時、紹介する。

その他 / Others

【日程】

2026年2月16日(月)～2月20日(金)(4泊5日)

【開催場所】

柵池高原スキー場

【宿泊先】

ベルクールイノマタ

【事前ガイダンス】

2025年12月19日(金)12:30～13:10

実施教室:事前にCanvas LMSのアナウンスメントにて案内します。

【参加費用】

48,130円(保険料130円込み)。

※ただし、交通費、リフト代、昼食代、スキー用具一式のレンタル費用(必要な場合のみ)は別途負担。

<参考情報>

交通費(2025年時点の目安):

東京 - 現地までの片道:11,610円

(内訳:東京-長野(新幹線一般料金)+長野-柵池高原(バス:アルピコ交通))

※不測の事態に備え、変更またはキャンセル可能な交通手段を推奨します。

リフト代(2025年時点の目安):

27,000円(5日間分)

レンタルスキー代:

詳細は後日案内予定。リフト代、レンタルスキー代は日数分のパッケージ料金となる可能性もあります。また、上記の金額は変更となる場合があります。

【その他】

5日間を通じて上記プログラムを実施します。

ただし、天候等何らかの事情により、プログラムの変更や授業形態の変更、または途中で中止する場合があります。その場合、参加費用の返金がされない場合もあります。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学対象/秋学期集中/人数制限30名/4年次生履修不可

運動方法学演習6

Exercise Technique Seminar 6

アウトドア・アクティビティを体験し、同時に自然環境について考えてみよう

奇二 正彦/井手 拓郎(KIJI MASAHIKO/ IDE TAKURO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN210
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 春学期集中 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

豊かな自然環境の中に身を置いて、自然に親しみ、種々のアウトドア・アクティビティを体験し、同時に環境問題について考える。

Experience various outdoor activities in rich natural surroundings and at the same consider environmental issues.

授業の内容 / Course Contents

日本有数の自然環境がいまだに残る秘境「奥只見」。ここを舞台にキャンプ、カヌー、トレッキング、森林の観察、河川の観察、星空の観察などを通じ、豊かな自然環境を肌で感じとる。それを前提に、日本の将来の自然環境の在り方について討議、学習する。

Okutadami still remains one of Japan's leading unexplored natural environments. Here, students can experience the rich natural environment through camping, canoeing, trekking, and observing the forests, rivers and stars. Based on that, they will discuss and learn about prospects for the natural environment of Japan in future.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:キャンプにおける安全管理と危険察知
- 【3】:奥只見湖でカヤック体験
- 【4】:北の又川のトレッキング:落葉広葉樹の森で生きもの観察
- 【5】:銀の道ウォーク
- 【6】:星空観察
- 【7】:銀山平キャンプ場でテント泊、焚き火、飯盒炊爨
- 【8】:キャンプの運営とその指導①
- 【9】:キャンプの運営とその指導②
- 【10】:講義:アウトドア・アクティビティとウエルネス
- 【11】:講義:奥只見の自然
- 【12】:瞑想
- 【13】:哲学対話
- 【14】:全体討論:自然環境の改善に向けて、今我々にできる事

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業準備の指示は、ガイダンスにて行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プログラムへの参加意欲、態度:50% 事前課題の提出:50%

テキスト / Textbooks

足立 倫行 (著), 秋月 岩魚 (著) 『イワナ棲む山里 奥只見物語』 世界文化社 2021 4418212221

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業では、実習を中心として、ディスカッションを含むグループ活動を重視するため、協調性を持ち、責任を持って集団行動に参加できることが求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他 / Others

【日程】2025年 8月7日(木)～8月11日(月)4泊5日

【宿泊先】〒946-0084 新潟県魚沼市銀山平温泉 湖山荘 <https://kozanso.jp>

【事前ガイダンス】2025年7月4日(金)12:35～13:15 オンライン Zoom URLを履修登録後に立教メールアドレスへ送付する。

【宿泊費用】41,630円(保険料130円込)。

【交通】上越新幹線および上越線の浦佐駅まで各自集合。浦佐駅から宿までは、全員で往復バスを利用する。2024年度のバス代は5,200円だったが、今後変動する可能性あり。浦佐駅までの移動は、不測の事態に備え、変更やキャンセルが可能な交通手段の利用を推奨する。

【その他】

①履修生の安全を最優先とするため、天災等の不可抗力によりプログラムの変更、授業形態の変更、または途中で中止とする場合がある。その場合、参加費用の返金がされない場合もある。

②単位を収めることにより、希望者は日本キャンプ協会が認定する『キャンプインストラクター』資格の取得が可能(キャンプ協会に収める費用は別途かかる)。

【事前レポート課題】

足立 倫行 (著), 秋月 岩魚 (著)「イワナ棲む山里 奥只見物語」を読み、以下の組み立てでレポートを提出すること。

第一章は、以下4つの節を設けて論じよ。

第一節「奥只見の地理と気象条件」

第二節「奥只見に生息する生きもの」

第三節「江戸時代から現代までの歴史と産業」

第四節「主要な登場人物とそのキャラクター紹介」

第二章は、「奥只見と持続可能性」というタイトルで自由に論じよ。

様式:ワード、A4三枚以上、10ポイント、余白上下左右20mm、行間1.0

ファイル名:「運動方法学演習6:名前」

提出方法:kij@rikkyo.ac.jp にワードファイルをメール添付

締め切り:2025年7月18日(金)23:59

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/春学期集中/人数制限30名

運動方法学演習7

Exercise Technique Seminar 7
バスケットボール指導法

北村 麻衣 (KITAMURA MAI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN212
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 48 名		

授業の目標 / Course Objectives

バスケットボールの競技特性を学び、実技を通じ基礎的技術を習得し、更に専門的練習法や戦術と、ゲーム運営、指導法を学習することを目的とする。

Learn about the characteristics of basketball, master basic techniques through practicing, and learn specialist practice techniques and tactics, as well as game management and teaching methods.

授業の内容 / Course Contents

本授業ではドリルを多く取り入れて基礎的個人技術を習得していき、ミニゲームを数多く行い、更に基本的な集団技術、戦術を理解してレベルアップを図る。競技の専門的知識や練習法を紹介し、ルール、審判法も学習していく。まとめに模擬授業を行う。

This class involves a large number of drills and mini-games to acquire basic personal skills and aims to help students improve their skills through understanding group techniques and tactics further. Specialized knowledge and practice techniques for competitive events will be given and students will learn about rules and refereeing. This will be summarized in practice lessons.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、試しのスキルテスト
- 【2】:基礎的個人技術(シュート,ドリブル,パス,リバウンド,ピポットのドリル),ミニゲーム
- 【3】:基礎的個人技術(シュート,ドリブル,パス,リバウンド,ピポットのドリル),ミニゲーム
- 【4】:2on2, 3on3 のグループ戦術(パス&カット)
- 【5】:2on2, 3on3 のグループ戦術(スクリーン)
- 【6】:トランジションにおけるチーム(オフense・ディフェンス)戦術
- 【7】:【講義】プレーヤーズセンタードコーチング
マイクロコーチングの実践
- 【8】:コーチング実践①とその振り返り
- 【9】:コーチング実践②とその振り返り
- 【10】:コーチング実践③とその振り返り
- 【11】:コーチング実践④とその振り返り
- 【12】:コーチング実践⑤とその振り返り
- 【13】:コーチング実践⑥とその振り返り
- 【14】:まとめのスキルテスト、レポート提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

グループワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

バスケットボールの競技経験の有無は問わない。

準備学習については、必要に応じて授業時に提示する。

バスケットボールシューズもしくは室内用のシューズを用意すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業理解度:30% 実技:10% 授業参加態度:20% 模擬授業:20% 最終レポート割合::20%

単位修得のためには3分の2以上の出席を必要とする

テキスト / Textbooks

日本バスケットボール協会 編 『バスケットボール指導教本改訂版上巻』 大修館書店 2014/7/25 10 4469267627

購入必須ではありません。

参考文献 / Readings

日本バスケットボール協会編 『バスケットボール指導教本改訂版下巻』 大修館書店 784469268027

小谷究・柏倉秀徳 『バスケットボールが科学で強くなる!』 日東書院 2020 9784528022782

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 48 名

運動方法学演習7

Exercise Technique Seminar 7
バスケットボール指導法

北村 麻衣 (KITAMURA MAI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN213
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 48 名		

授業の目標 / Course Objectives

バスケットボールの競技特性を学び、実技を通じ基礎的技術を習得し、更に専門的練習法や戦術と、ゲーム運営、指導法を学習することを目的とする。

Learn about the characteristics of basketball, master basic techniques through practicing, and learn specialist practice techniques and tactics, as well as game management and teaching methods.

授業の内容 / Course Contents

本授業ではドリルを多く取り入れて基礎的個人技術を習得していき、ミニゲームを数多く行い、更に基本的な集団技術、戦術を理解してレベルアップを図る。競技の専門的知識や練習法を紹介し、ルール、審判法も学習していく。まとめに模擬授業を行う。

This class involves a large number of drills and mini-games to acquire basic personal skills and aims to help students improve their skills through understanding group techniques and tactics further. Specialized knowledge and practice techniques for competitive events will be given and students will learn about rules and refereeing. This will be summarized in practice lessons.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、試しのスキルテスト
- 【2】:基礎的個人技術(シュート,ドリブル,パス,リバウンド,ピポットのドリル),ミニゲーム
- 【3】:基礎的個人技術(シュート,ドリブル,パス,リバウンド,ピポットのドリル),ミニゲーム
- 【4】:2on2, 3on3 のグループ戦術(パス&カット)
- 【5】:2on2, 3on3 のグループ戦術(スクリーン)
- 【6】:トランジションにおけるチーム(オフense・ディフェンス)戦術
- 【7】:【講義】プレーヤーズセンタードコーチング
マイクロコーチングの実践
- 【8】:コーチング実践①とその振り返り
- 【9】:コーチング実践②とその振り返り
- 【10】:コーチング実践③とその振り返り
- 【11】:コーチング実践④とその振り返り
- 【12】:コーチング実践⑤とその振り返り
- 【13】:コーチング実践⑥とその振り返り
- 【14】:まとめのスキルテスト、レポート提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

グループワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

バスケットボールの競技経験の有無は問わない。

準備学習については、必要に応じて授業時に提示する。

バスケットボールシューズもしくは室内用のシューズを用意すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業理解度:30% 実技:10% 授業参加態度:20% 模擬授業:20% 最終レポート割合::20%

単位修得のためには3分の2以上の出席を必要とする

テキスト / Textbooks

日本バスケットボール協会 編 『バスケットボール指導教本改訂版上巻』 大修館書店 2014/7/25 10 4469267627

購入必須ではありません。

参考文献 / Readings

日本バスケットボール協会編 『バスケットボール指導教本改訂版下巻』 大修館書店 784469268027

小谷究・柏倉秀徳 『バスケットボールが科学で強くなる!』 日東書院 2020 9784528022782

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 48 名

運動方法学演習8

Exercise Technique Seminar 8
剣道の基礎

高橋 健太郎 (TAKAHASHI KENTARO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN214
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

剣道の礼法および基礎的動作の習得。

Students will learn about the etiquette of kendo and the basic moves.

授業の内容 / Course Contents

剣道の礼法を習得するとともに、基本的動作を習得するため「日本剣道形」、「木刀による剣道基本技稽古法」などを学習する。

Students will learn about the etiquette of kendo, and will study “Kendo kata” and “Basic skills and practice with a wooden sword.”

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:剣道の礼法
- 【3】:竹刀と刀法
- 【4】:剣道の基本的動作 1
- 【5】:剣道の基本的動作 2
- 【6】:剣道の基本的動作 3
- 【7】:剣道の基本的動作 4
- 【8】:剣道の基本的動作 5
- 【9】:日本剣道形 1～3 本目
- 【10】:日本剣道形 4～7 本目
- 【11】:日本剣道形 8～10 本目
- 【12】:木刀による剣道基本技稽古法その 1～3
- 【13】:木刀による剣道基本技稽古法その 4～6
- 【14】:木刀による剣道基本技稽古法その 7～9

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

トレーニングウェア等, 運動のできる支度をする事。
準備学習については, 必要に応じて授業時に提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 最終レポート割合::30%最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

適宜, 資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 40 名

運動方法学演習8

Exercise Technique Seminar 8
剣道の基礎

高橋 健太郎 (TAKAHASHI KENTARO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN215
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

剣道の礼法および基礎的動作の習得。

Students will learn about the etiquette of kendo and the basic moves.

授業の内容 / Course Contents

剣道の礼法を習得するとともに、基本的動作を習得するため「日本剣道形」、「木刀による剣道基本技稽古法」などを学習する。

Students will learn about the etiquette of kendo, and will study “Kendo kata” and “Basic skills and practice with a wooden sword.”

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:剣道の礼法
- 【3】:竹刀と刀法
- 【4】:剣道の基本的動作 1
- 【5】:剣道の基本的動作 2
- 【6】:剣道の基本的動作 3
- 【7】:剣道の基本的動作 4
- 【8】:剣道の基本的動作 5
- 【9】:日本剣道形 1～3 本目
- 【10】:日本剣道形 4～7 本目
- 【11】:日本剣道形 8～10 本目
- 【12】:木刀による剣道基本技稽古法その 1～3
- 【13】:木刀による剣道基本技稽古法その 4～6
- 【14】:木刀による剣道基本技稽古法その 7～9

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

トレーニングウェア等, 運動のできる支度をする事。
準備学習については, 必要に応じて授業時に提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 最終レポート割合::30%最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

適宜, 資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 40 名

運動方法学演習9

Exercise Technique Seminar 9

水泳・水中運動

足立 哲 (ADACHI SATORU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN216
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

「水泳・水中運動」は生涯スポーツとしても親しまれる。水中という特殊な環境下において、身体が力学的・生理学的に受ける影響を理解し、自身の技能習得・習熟だけでなく、泳法評価や指導ができることを目指します。安全に実践・指導することを第一として、授業理解度、運動技能習熟度、論理的なプログラム構成力、指導や習熟で取り組む姿勢や考えを評価します。

"Swimming and water exercises" are also known as lifetime sports. The course aims to help students understand the mechanical and physiological effects of placing the body in the unique environment of water, and aims to help them improve motor skills and build exercise programs as well as to exercise safely and give instruction. Students will be assessed based on their approach of considering problems that arise in swimming, thinking about solving these for oneself, class comprehension, proficiency in motor skills and logical program composition.

授業の内容 / Course Contents

水中環境下での運動を取り上げ、陸上環境との違い、水の特性、水中環境下での生理学的応答などを理解する。水中ウォーキングやストレッチ、近代4泳法、水中での様々な運動を取り上げて段階的に進める。初回授業で実施する水泳用健康診断後にアンケート及び泳力診断を実施し、一部の運動内容は泳力レベルに応じて調整・実施する。運動技能(泳技能)習熟度の評価においては、全授業への出席で十分に達成できる基準とする。

Focusing on exercising in water, students will learn about the body's physiological responses to exercising in an aquatic environment, and the differences between exercising on land and in water and the characteristics of water. Through taking up water exercises on a phased basis, students will learn about various water exercises including walking and stretching in water and four modern swimming strokes. In the first class, students will undertake a health checkup for swimming and will fill out a survey and be assessed on their swimming ability. Certain adjustments will be made in the exercises according to students' swimming ability. Evaluation of motor skills (swimming proficiency) is a standard that can be satisfactorily achieved by attending all classes.

授業計画 / Course Schedule

[1]: ガイダンス・安全管理・水泳用健康診断・水の特性と水中環境について
(授業評価方法の詳細や授業全体の流れを含む)

[2]: 水慣れと水中運動 / 水の特性と水中環境について

水慣れ(入水・呼吸法・浮き身・水平推進) / 水中運動(ストレッチ・ウォーキング)

[3]: 水泳・水中運動の基礎①

水中ウォーキング / クロール・背泳ぎ

[4]: 水泳・水中運動の基礎②

水中ウォーキング／クロール・背泳ぎ

【5】:水泳・水中運動の基礎③

平泳ぎ(足の動作・手の動作)

【6】:水泳・水中運動の基礎④

平泳ぎ(コンビネーション)

【7】:水泳・水中運動の基礎⑤

バタフライ(エレメンタリーバタフライ・バタフライ)

【8】:水泳におけるスタート動作と折り返し(ターン)動作①

水泳トレーニングの実際と実践

【9】:水泳におけるスタート動作と折り返し(ターン)動作②

水泳トレーニングの実際と実践

【10】:グループ別水中運動(歩行やストレッチ)及び水泳(4泳法)指導実践①

【11】:グループ別水中運動(歩行やストレッチ)及び水泳(4泳法)指導の実践②

【12】:個別泳法習熟のためのプログラム作成と実践

【13】:学習理解度チェック(筆記または入力)

【14】:技能習熟度チェック(泳法・泳力の確認:100m 個人メドレーを基本とする)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】各回の運動や泳法に関して事前に書籍・映像等で動作を確認しておくこと。

【復習】講義内容について疑問点を集約・整理しておくこと。

【その他】水着(競泳用・フィットネス用)、キャップ、ゴーグル、タオル等を持参すること。

安全に実施するために「特段の理由がない限り」アクセサリ等は外して受講すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加意欲と取り組み及び小課題:40% 技能習熟度:20% 学習理解度:40%

単位習得のためには2/3以上の出席が必要となる

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

公益財団法人日本水泳連盟 『水泳コーチ教本』 大修館書店

公益財団法人日本水泳連盟 『水泳指導教本』 大修館書店

公益財団法人健康・体力づくり財団 『健康運動指導士養成講習テキスト(上)』 株式会社南江堂

公益財団法人健康・体力づくり財団 『健康運動指導士養成講習テキスト(下)』 株式会社南江堂

学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引(三訂版)」

その他 / Others

初回授業では授業内健康診断(問診)を実施する予定です。必ず出席してください。

※定期健康診断とは異なります。

初回授業については入水用具(水着・キャップ等)の持参は不要です。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限40名

運動方法学演習9

Exercise Technique Seminar 9

水泳・水中運動

足立 哲 (ADACHI SATORU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN217
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

「水泳・水中運動」は生涯スポーツとしても親しまれる。水中という特殊な環境下において、身体が力学的・生理学的に受ける影響を理解し、自身の技能習得・習熟だけでなく、泳法評価や指導ができることを目指します。安全に実践・指導することを第一として、授業理解度、運動技能習熟度、論理的なプログラム構成力、指導や習熟で取り組む姿勢や考えを評価します。

"Swimming and water exercises" are also known as lifetime sports. The course aims to help students understand the mechanical and physiological effects of placing the body in the unique environment of water, and aims to help them improve motor skills and build exercise programs as well as to exercise safely and give instruction. Students will be assessed based on their approach of considering problems that arise in swimming, thinking about solving these for oneself, class comprehension, proficiency in motor skills and logical program composition.

授業の内容 / Course Contents

水中環境下での運動を取り上げ、陸上環境との違い、水の特性、水中環境下での生理学的応答などを理解する。水中ウォーキングやストレッチ、近代4泳法、水中での様々な運動を取り上げて段階的に進める。初回授業で実施する水泳用健康診断後にアンケート及び泳力診断を実施し、一部の運動内容は泳力レベルに応じて調整・実施する。運動技能(泳技能)習熟度の評価においては、全授業への出席で十分に達成できる基準とする。

Focusing on exercising in water, students will learn about the body's physiological responses to exercising in an aquatic environment, and the differences between exercising on land and in water and the characteristics of water. Through taking up water exercises on a phased basis, students will learn about various water exercises including walking and stretching in water and four modern swimming strokes. In the first class, students will undertake a health checkup for swimming and will fill out a survey and be assessed on their swimming ability. Certain adjustments will be made in the exercises according to students' swimming ability. Evaluation of motor skills (swimming proficiency) is a standard that can be satisfactorily achieved by attending all classes.

授業計画 / Course Schedule

[1]: ガイダンス・安全管理・水泳用健康診断・水の特性と水中環境について
(授業評価方法の詳細や授業全体の流れを含む)

[2]: 水慣れと水中運動／水の特性と水中環境について

水慣れ(入水・呼吸法・浮き身・水平推進)／水中運動(ストレッチ・ウォーキング)

[3]: 水泳・水中運動の基礎①

水中ウォーキング／クロール・背泳ぎ

[4]: 水泳・水中運動の基礎②

水中ウォーキング／クロール・背泳ぎ

【5】:水泳・水中運動の基礎③

平泳ぎ(足の動作・手の動作)

【6】:水泳・水中運動の基礎④

平泳ぎ(コンビネーション)

【7】:水泳・水中運動の基礎⑤

バタフライ(エレメンタリーバタフライ・バタフライ)

【8】:水泳におけるスタート動作と折り返し(ターン)動作①

水泳トレーニングの実際と実践

【9】:水泳におけるスタート動作と折り返し(ターン)動作②

水泳トレーニングの実際と実践

【10】:グループ別水中運動(歩行やストレッチ)及び水泳(4泳法)指導実践①

【11】:グループ別水中運動(歩行やストレッチ)及び水泳(4泳法)指導の実践②

【12】:個別泳法習熟のためのプログラム作成と実践

【13】:学習理解度チェック(筆記または入力)

【14】:技能習熟度チェック(泳法・泳力の確認:100m 個人メドレーを基本とする)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】各回の運動や泳法に関して事前に書籍・映像等で動作を確認しておくこと。

【復習】講義内容について疑問点を集約・整理しておくこと。

【その他】水着(競泳用・フィットネス用)、キャップ、ゴーグル、タオル等を持参すること。

安全に実施するために「特段の理由がない限り」アクセサリ等は外して受講すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加意欲と取り組み及び小課題:40% 技能習熟度:20% 学習理解度:40%

単位習得のためには2/3以上の出席が必要となる

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

公益財団法人日本水泳連盟 『水泳コーチ教本』 大修館書店

公益財団法人日本水泳連盟 『水泳指導教本』 大修館書店

公益財団法人健康・体力づくり財団 『健康運動指導士養成講習テキスト(上)』 株式会社南江堂

公益財団法人健康・体力づくり財団 『健康運動指導士養成講習テキスト(下)』 株式会社南江堂

学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引(三訂版)」

その他 / Others

初回授業では授業内健康診断(問診)を実施する予定です。必ず出席してください。

※定期健康診断とは異なります。

初回授業については入水用具(水着・キャップ等)の持参は不要です。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限40名

運動方法学演習10

Exercise Technique Seminar 10
 器械運動の指導法

齋藤 卓(SAITO TAKU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN218
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

- 器械運動(マット,とび箱,鉄棒,平均台)で行われる技を中心にして,それらの基本的な技術や指導法について理解を深める。
 - 器械運動(マット,とび箱,鉄棒,平均台)における基本的な技を遂行することができるようになる。
- Deepen your understanding of the basic techniques and teaching methods, focusing on the techniques performed in gymnastics (mat, vaulting box, horizontal bar, balance beam).
 - Be able to perform basic techniques in gymnastics (mat, vaulting box, horizontal bar, balance beam).

授業の内容 / Course Contents

マット,跳び箱,鉄棒,平均台における基礎的技能内容を取り上げ,技能の習熟を図ると共に,指導法について学習する。
 The basic skills of the mat, vaulting box, horizontal bar, and balance beam will be taken up, and the teaching method will be studied along with the mastery of the skills.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: マット運動, 接転技群の基本技の学習
- 【2】: マット運動, 接転技群の発展技の学習
- 【3】: マット運動, 倒立技の学習
- 【4】: マット運動, はねおき技群の基本技の学習
- 【5】: マット運動, 前転とびの学習
- 【6】: マット運動, とび前転の学習
- 【7】: マット運動, 組み合わせ技の学習
- 【8】: 鉄棒運動, 懸垂振動系の基本技の学習
- 【9】: 鉄棒運動, 支持回転系の基本技の学習
- 【10】: 鉄棒運動, 下り技の基本技の学習
- 【11】: 鉄棒運動, 組み合わせ技の学習
- 【12】: とび箱, 切り返し系の基本技の学習
- 【13】: とび箱, 回転系の基本技の学習
- 【14】: 平均台, 基本技の学習

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用
----	--	---------------	--	---------------

個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

実技ができるようにコンディションを整えること。

当該年度の定期健康診断を必ず受診すること。授業初回到健康診断の受診の有無を確認する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実技テスト:90% 授業参加・態度:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

金子明友 『マット運動』 大修館書店 1982

金子明友 『鉄棒運動』 大修館書店 1984

金子明友 『とび箱・平均台運動』 大修館書店 1987

その他 / Others

スポーツを行う際のルールへの遵守、マナーの向上(道具、服装、設備の利用法)を求めます。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 30名

運動方法学演習10

Exercise Technique Seminar 10
器械運動の指導法

齋藤 卓(SAITO TAKU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN219
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

- 器械運動(マット,とび箱,鉄棒,平均台)で行われる技を中心にして,それらの基本的な技術や指導法について理解を深める。
 - 器械運動(マット,とび箱,鉄棒,平均台)における基本的な技を遂行することができるようになる。
- Deepen your understanding of the basic techniques and teaching methods, focusing on the techniques performed in gymnastics (mat, vaulting box, horizontal bar, balance beam).
 - Be able to perform basic techniques in gymnastics (mat, vaulting box, horizontal bar, balance beam).

授業の内容 / Course Contents

マット,跳び箱,鉄棒,平均台における基礎的技能内容を取り上げ,技能の習熟を図ると共に,指導法について学習する。
The basic skills of the mat, vaulting box, horizontal bar, and balance beam will be taken up, and the teaching method will be studied along with the mastery of the skills.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: マット運動, 接転技群の基本技の学習
- 【2】: マット運動, 接転技群の発展技の学習
- 【3】: マット運動, 倒立技の学習
- 【4】: マット運動, はねおき技群の基本技の学習
- 【5】: マット運動, 前転とびの学習
- 【6】: マット運動, とび前転の学習
- 【7】: マット運動, 組み合わせ技の学習
- 【8】: 鉄棒運動, 懸垂振動系の基本技の学習
- 【9】: 鉄棒運動, 支持回転系の基本技の学習
- 【10】: 鉄棒運動, 下り技の基本技の学習
- 【11】: 鉄棒運動, 組み合わせ技の学習
- 【12】: とび箱, 切り返し系の基本技の学習
- 【13】: とび箱, 回転系の基本技の学習
- 【14】: 平均台, 基本技の学習

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用
----	--	---------------	--	---------------

個人発表	
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

実技ができるようにコンディションを整えること。

当該年度の定期健康診断を必ず受診すること。授業初回到健康診断の受診の有無を確認する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実技テスト:90% 授業参加・態度:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

金子明友 『マット運動』 大修館書店 1982

金子明友 『鉄棒運動』 大修館書店 1984

金子明友 『とび箱・平均台運動』 大修館書店 1987

その他 / Others

スポーツを行う際のルールへの遵守、マナーの向上(道具、服装、設備の利用法)を求めます。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 30 名

運動方法学演習11

Exercise Technique Seminar 11

三宅 仁 (MIYAKE HITOSHI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN220
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

柔道創始者の嘉納治五郎師範について学ぶ。また、柔道の特性を理解する。

Learn about the founder of judo, Jigoro Kano. Also, understand the characteristics of judo.

授業の内容 / Course Contents

1. 柔道の歴史・特性を理解し、正しい基本動作や技能を身に付ける。
 2. 安全な受身を理解した後に、柔道の技として投げ技と固め技を学ぶ。
1. Understand the history and characteristics of judo and acquire the correct basic movements and skills.
 2. After understanding safe passivity, learn throwing techniques and stiffening techniques as judo techniques.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 柔道の歴史及びその特性について①(嘉納治五郎師範の生誕)
- 【2】: 柔道の歴史及びその特性について②(教育者としての嘉納治五郎師範)
- 【3】: 柔道の歴史及びその特性について③(国際人としての嘉納治五郎師範)
- 【4】: 基本動作(礼法・姿勢・組み方・体裁き・崩し)
- 【5】: 受身①(後ろ受身・前受身)
- 【6】: 受身②(横受身・前回り受身)
- 【7】: 对人的技能 投げ技①(膝車・体落とし)
- 【8】: 对人的技能 投げ技②(大腰・小内刈)
- 【9】: 对人的技能 投げ技③(大内刈・背負い投げ)
- 【10】: 对人的技能 投げ技④(大外刈・支え釣り込み足)
- 【11】: 对人的技能 固め技(袈裟固め・横四方固め・上四方固め)
- 【12】: 約束練習 I (投げ技)
- 【13】: 約束練習 II (固め技)
- 【14】: 実技テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予め提示された資料を用いた予習と受講後のレポート作成。国内外の柔道の動画視聴。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講後のレポート:40% 最終レポート割合::20%最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

木村昌彦 よくわかる柔道受け身のすべて ベースボールマガジン社 2016

参考文献 / Readings

小俣幸嗣 柔道実践論 メディアパル 2017

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日頃から運動を行っている学生の受講をお勧めします。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 30 名

運動方法学演習11

Exercise Technique Seminar 11

三宅 仁 (MIYAKE HITOSHI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN221
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

柔道創始者の嘉納治五郎師範について学ぶ。また、柔道の特性を理解する。

Learn about the founder of judo, Jigoro Kano. Also, understand the characteristics of judo.

授業の内容 / Course Contents

1. 柔道の歴史・特性を理解し、正しい基本動作や技能を身に付ける。
 2. 安全な受身を理解した後に、柔道の技として投げ技と固め技を学ぶ。
1. Understand the history and characteristics of judo and acquire the correct basic movements and skills.
 2. After understanding safe passivity, learn throwing techniques and stiffening techniques as judo techniques.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 柔道の歴史及びその特性について①(嘉納治五郎師範の生誕)
- 【2】: 柔道の歴史及びその特性について②(教育者としての嘉納治五郎師範)
- 【3】: 柔道の歴史及びその特性について③(国際人としての嘉納治五郎師範)
- 【4】: 基本動作(礼法・姿勢・組み方・体裁き・崩し)
- 【5】: 受身①(後ろ受身・前受身)
- 【6】: 受身②(横受身・前回り受身)
- 【7】: 对人的技能 投げ技①(膝車・体落し)
- 【8】: 对人的技能 投げ技②(大腰・小内刈)
- 【9】: 对人的技能 投げ技③(大内刈・背負い投げ)
- 【10】: 对人的技能 投げ技④(大外刈・支え釣り込み足)
- 【11】: 对人的技能 固め技(袈裟固め・横四方固め・上四方固め)
- 【12】: 約束練習 I (投げ技)
- 【13】: 約束練習 II (固め技)
- 【14】: 実技テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予め提示された資料を用いた予習と受講後のレポート作成。国内外の柔道の動画視聴。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講後のレポート:40% 最終レポート割合::20%最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

木村昌彦 よくわかる柔道受け身のすべて ベースボールマガジン社 2016

参考文献 / Readings

小俣幸嗣 柔道実践論 メディアパル 2017

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日頃から運動を行っている学生の受講をお勧めします。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 30 名

運動方法学演習12

Exercise Technique Seminar 12

ダンス基礎 : 実践と指導の学び

大石 友子(OOISHI TOMOKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN222
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

- ダンス文化の多様性と普遍的価値を理解する。
 - 異なる背景を有するダンスの基礎的テクニックの実践を通じて、人間の身体の多様な動き方を学習する。
 - 音楽に乗った振付の実践を通じて、自在に動く面白さを感じ取る。
 - 学校体育や生涯スポーツにおいて初心者への導入的指導を行う力を身につける。
- Understand the diversity and universal value of dance culture.
 - Study the various ways of movement of the human body through the practice of basic dance techniques from different backgrounds.
 - Through the practice of choreography set to music, the students will gain a sense of the fun of moving freely.
 - Acquire the ability to provide introductory instruction to beginners in school physical education and lifelong sports.

授業の内容 / Course Contents

- ダンス文化の歴史的展開を概観する。
 - リズムを踊る : ヒップホップダンスを実践する。
1)基礎テクニックを実習し、2)振付を踊る。
 - イメージを踊る : コンテンポラリーダンスを実践する。
1)基礎テクニックを実習し、2)振付を踊る。
 - 学校体育におけるダンス教育の授業例を学ぶ。
1)学校体育におけるダンス教育の現状を概観し、2)フォークダンス 実践の要点と評価観点について、3)創作ダンス 実践の要点と評価観点について、4)現代的リズムのダンス 実践の要点と評価観点について学ぶ。
- Historical development of dance culture and the actual situation of dance education in school physical education will be reviewed.
 - Dance the rhythm : Practice hip-hop dance.
 - Dance the image : Practice contemporary dance.
 - Learn about examples of dance education classes in school physical education.

授業計画 / Course Schedule

【1】:◎授業オリエンテーション

◎講義: ダンス文化の歴史的展開、および学校体育におけるダンス教育の現状を概観

◎実習: 1)ストレッチ 2)重心の理解 3)アイソレーション 4)リズムの理解

【2】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ①

基礎トレーニング(ストレッチ、アイソレーショントレ、ステップトレ、リズムトレ)

【3】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ②

基礎トレーニング → ステップのバリエーション(1)

【4】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ③

基礎トレーニング → ステップのバリエーション(2)

【5】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ④

基礎トレーニング → 体幹でのノリ+ステップによる振付を踊る(1)

【6】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ⑤

基礎トレーニング → 体幹でのノリ+ステップによる振付を踊る(2)

【7】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ⑥

基礎トレーニング → 体幹でのノリ+ステップによる振付を踊る(3)

【8】:コンテンポラリーダンス (イメージを踊る) ①

基礎トレーニング(ストレッチ、スタンディングムーブメントトレ、フロアムーブメントトレ)

【9】:コンテンポラリーダンス (イメージを踊る) ②

基礎トレーニング → 自在な形と緩急で動く振付を踊る(1)

【10】:コンテンポラリーダンス (イメージを踊る) ③

基礎トレーニング → 自在な形と緩急で動く振付を踊る(2)

【11】:コンテンポラリーダンス (イメージを踊る) ④

基礎トレーニング → 自在な形と緩急で動く振付を踊る(3)

【12】:学校体育におけるダンス教育の授業例 ①

◎講義: 学校体育におけるダンス領域の現状、〈フォークダンス〉の実践方法と要点、評価観点、〈創作ダンス〉の実践方法と要点、評価観点

◎実習: 創作ダンスへの導入

【13】:学校体育におけるダンス教育の授業例 ②

◎講義: 〈現代的リズムのダンス〉の実践方法と要点、評価観点

◎実習: 現代的リズムのダンスへの導入

【14】:◎実技テスト: 実習で行った振付

◎講義: 動きの要点(評価観点)の復習、評価に関する復習と相互評価による実践学習、全回の振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

第1回から実習するストレッチとアイソレーションを継続的に実施する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実技テスト:30% フィードバックシート(ダンステクニックの理解):30% 確認レポート(ダンス文化の理解):20% 授業への取り組み:20%

ただし、単位取得のためには2/3以上の出席が必要となる。

テキスト / Textbooks

授業中に資料を配布。

参考文献 / Readings

七類誠一郎『黒人リズム感の秘密 改訂版』郁朋社

全国ダンス・表現運動授業研究会編『みんなでトライ! 表現運動の授業』大修館書店

全国ダンス・表現運動授業研究会編『明日からトライ! ダンスの授業』大修館書店

その他 / Others

◆実習はスニーカーを使用する場合と、裸足で行う場合がある。初回はスニーカーを持参すること。

◆伸縮性があり、ある程度身体にフィットした、動きやすい服装に更衣して参加すること。

◆水分補給のための飲料を水筒等で持参すること。

◆初回は、オリエンテーション後に講義と実技実習を行う。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 40 名

運動方法学演習12

Exercise Technique Seminar 12
 ダンス基礎 : 実践と指導の学び

大石 友子(OOISHI TOMOKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN223
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

- ダンス文化の多様性と普遍的価値を理解する。
 - 異なる背景を有するダンスの基礎的テクニックの実践を通じて、人間の身体の多様な動き方を学習する。
 - 音楽に乗った振付の実践を通じて、自在に動く面白さを感じ取る。
 - 学校体育や生涯スポーツにおいて初心者への導入的指導を行う力を身につける。
- Understand the diversity and universal value of dance culture.
 - Study the various ways of movement of the human body through the practice of basic dance techniques from different backgrounds.
 - Through the practice of choreography set to music, the students will gain a sense of the fun of moving freely.
 - Acquire the ability to provide introductory instruction to beginners in school physical education and lifelong sports.

授業の内容 / Course Contents

- ダンス文化の歴史的展開を概観する。
 - リズムを踊る : ヒップホップダンスを実践する。
1)基礎テクニックを実習し、2)振付を踊る。
 - イメージを踊る : コンテンポラリーダンスを実践する。
1)基礎テクニックを実習し、2)振付を踊る。
 - 学校体育におけるダンス教育の授業例を学ぶ。
1)学校体育におけるダンス教育の現状を概観し、2)フォークダンス 実践の要点と評価観点について、3)創作ダンス 実践の要点と評価観点について、4)現代的リズムのダンス 実践の要点と評価観点について学ぶ。
- Historical development of dance culture and the actual situation of dance education in school physical education will be reviewed.
 - Dance the rhythm : Practice hip-hop dance.
 - Dance the image : Practice contemporary dance.
 - Learn about examples of dance education classes in school physical education.

授業計画 / Course Schedule

【1】:◎授業オリエンテーション

◎講義: ダンス文化の歴史的展開、および学校体育におけるダンス教育の現状を概観

◎実習: 1)ストレッチ 2)重心の理解 3)アイソレーション 4)リズムの理解

【2】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ①

基礎トレーニング(ストレッチ、アイソレーショントレ、ステップトレ、リズムトレ)

【3】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ②

基礎トレーニング → ステップのバリエーション(1)

【4】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ③

基礎トレーニング → ステップのバリエーション(2)

【5】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ④

基礎トレーニング → 体幹でのノリ+ステップによる振付を踊る(1)

【6】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ⑤

基礎トレーニング → 体幹でのノリ+ステップによる振付を踊る(2)

【7】:ヒップホップダンス (リズムを踊る) ⑥

基礎トレーニング → 体幹でのノリ+ステップによる振付を踊る(3)

【8】:コンテンポラリーダンス (イメージを踊る) ①

基礎トレーニング(ストレッチ、スタンディングムーブメントトレ、フロアムーブメントトレ)

【9】:コンテンポラリーダンス (イメージを踊る) ②

基礎トレーニング → 自在な形と緩急で動く振付を踊る(1)

【10】:コンテンポラリーダンス (イメージを踊る) ③

基礎トレーニング → 自在な形と緩急で動く振付を踊る(2)

【11】:コンテンポラリーダンス (イメージを踊る) ④

基礎トレーニング → 自在な形と緩急で動く振付を踊る(3)

【12】:学校体育におけるダンス教育の授業例 ①

◎講義: 学校体育におけるダンス領域の現状、〈フォークダンス〉の実践方法と要点、評価観点、〈創作ダンス〉の実践方法と要点、評価観点

◎実習: 創作ダンスへの導入

【13】:学校体育におけるダンス教育の授業例 ②

◎講義: 〈現代的リズムのダンス〉の実践方法と要点、評価観点

◎実習: 現代的リズムのダンスへの導入

【14】:◎実技テスト: 実習で行った振付

◎講義: 動きの要点(評価観点)の復習、評価に関する復習と相互評価による実践学習、全回の振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

第1回から実習するストレッチとアイソレーションを継続的に実施する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実技テスト:30% フィードバックシート(ダンステクニックの理解):30% 確認レポート(ダンス文化の理解):20% 授業への取り組み:20%

ただし、単位取得のためには2/3以上の出席が必要となる。

テキスト / Textbooks

授業中に資料を配布。

参考文献 / Readings

七類誠一郎『黒人リズム感の秘密 改訂版』郁朋社

全国ダンス・表現運動授業研究会編『みんなでトライ! 表現運動の授業』大修館書店

全国ダンス・表現運動授業研究会編『明日からトライ! ダンスの授業』大修館書店

その他 / Others

◆実習はスニーカーを使用する場合と、裸足で行う場合がある。初回はスニーカーを持参すること。

◆伸縮性があり、ある程度身体にフィットした、動きやすい服装に更衣して参加すること。

◆水分補給のための飲料を水筒等で持参すること。

◆初回は、オリエンテーション後に講義と実技実習を行う。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 40 名

運動方法学演習13

Exercise Technique Seminar 13

バレーボール

田中 博史 (TANAKA HIROSHI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN224
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 48 名		

授業の目標 / Course Objectives

バレーボールの基礎的な技術及び指導方法を学ぶとともに、バレーボールのゲームの特性とルールを理解し高度なゲーム展開が出来るようになることを目指す。バレーボールにおけるコーチングスキルについて全般的に学ぶ。

Students learn basic volleyball techniques and teaching methods, understand the characteristics and rules of the volleyball game, and aim to be able to develop advanced games. General study of coaching skills in volleyball.

授業の内容 / Course Contents

バレーボールの基礎技術に関するコーチング技法, ルールや審判法, 基本的な戦術に関する解説を行う。ゲームでは、競技で用いられるゲームの仕組みについて解説し、高度なゲーム展開を目指して行う。

Coaching techniques related to basic volleyball techniques, rules, refereeing methods, and basic tactics will be explained. In the game, the mechanism of the game used in the competition is explained, aiming at advanced game development.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: オリエンテーション アイズプレーキング・ボール慣れ
- 【2】: 基本技術のコーチング①(パス, レシーブ)
- 【3】: 基本技術のコーチング②(スパイク, サーブ)
- 【4】: 基本技術のコーチング③(コンビネーションスパイク, ブロック)
- 【5】: バレーボールの公式ルールの解説
- 【6】: 三段攻撃のリズムの習得①(ショートサーブでの乱打形式での練習)
- 【7】: 三段攻撃のリズムの習得②(7人制でのゲーム)
- 【8】: 三段攻撃のリズムの習得③(7人制でのゲーム)
- 【9】: 攻守の切り替えとローテーションの理解
- 【10】: ゲームの実際(攻守の切り替えとローテーション)
- 【11】: ポジションの役割を意識したゲームの展開
- 【12】: ゲームの実際(リーグ戦①)
- 【13】: ゲームの実際(リーグ戦②)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
----	-----------------------	---------------	--------------------------	---------------	--------------------------

個人発表	
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

実技授業の内容をノートにまとめ、理解を深めること

バレーボールの関連書籍や国際大会などを視聴し、バレーボールの理解を深めること

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業への取り組み度:40%

テキスト / Textbooks

日本バレーボール協会 『コーチングバレーボール(基礎編)』 大修館書店 2017 9784469268119

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特になし

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他 / Others

特になし

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 48 名

運動方法学演習13

Exercise Technique Seminar 13

バレーボール

田中 博史 (TANAKA HIROSHI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN225
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 48 名		

授業の目標 / Course Objectives

バレーボールの基礎的な技術及び指導方法を学ぶとともに、バレーボールのゲームの特性とルールを理解し高度なゲーム展開が出来るようになることを目指す。バレーボールにおけるコーチングスキルについて全般的に学ぶ。

Students learn basic volleyball techniques and teaching methods, understand the characteristics and rules of the volleyball game, and aim to be able to develop advanced games. General study of coaching skills in volleyball.

授業の内容 / Course Contents

バレーボールの基礎技術に関するコーチング技法, ルールや審判法, 基本的な戦術に関する解説を行う。ゲームでは、競技で用いられるゲームの仕組みについて解説し, 高度なゲーム展開を目指して行う。

Coaching techniques related to basic volleyball techniques, rules, refereeing methods, and basic tactics will be explained. In the game, the mechanism of the game used in the competition is explained, aiming at advanced game development.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: オリエンテーション アイズプレーキング・ボール慣れ
- 【2】: 基本技術のコーチング①(パス, レシーブ)
- 【3】: 基本技術のコーチング②(スパイク, サーブ)
- 【4】: 基本技術のコーチング③(コンビネーションスパイク, ブロック)
- 【5】: バレーボールの公式ルールの解説
- 【6】: 三段攻撃のリズムの習得①(ショートサーブでの乱打形式での練習)
- 【7】: 三段攻撃のリズムの習得②(7人制でのゲーム)
- 【8】: 三段攻撃のリズムの習得③(7人制でのゲーム)
- 【9】: 攻守の切り替えとローテーションの理解
- 【10】: ゲームの実際(攻守の切り替えとローテーション)
- 【11】: ポジションの役割を意識したゲームの展開
- 【12】: ゲームの実際(リーグ戦①)
- 【13】: ゲームの実際(リーグ戦②)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
----	-----------------------	---------------	--------------------------	---------------	--------------------------

個人発表	
実技・実習・実験	○
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

実技授業の内容をノートにまとめ、理解を深めること

バレーボールの関連書籍や国際大会などを視聴し、バレーボールの理解を深めること

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業への取り組み度:40%

テキスト / Textbooks

日本バレーボール協会 『コーチングバレーボール(基礎編)』 大修館書店 2017 9784469268119

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特になし

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他 / Others

特になし

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 48 名

運動方法学演習14

Exercise Technique Seminar 14

大城 章 (OSHIRO AKIRA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN226
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

ハンドボール競技の基礎的な理論および技能を習得し、試合で実践できるようになる。また授業を通して、スポーツ活動への興味関心を持ち、仲間とともに主体的に取り組めるようになることを目標とする。

The aim is for students to learn the basic theory and skills of handball and be able to put them into practice in matches. Through the classes, students will also develop an interest in sports activities and be able to take an active role in participating in them with their peers.

授業の内容 / Course Contents

ハンドボール競技を通して基礎体力の向上と競技に必要な基礎知識の理解、個人技術・技能を習得する。さらに個人戦術やグループ戦術を学び、皆で楽しめる形式で授業を展開していく。また授業前半からミニゲームを実施し、ルールや試合運営(審判含む)をも同時に学ぶことで、より一層の深い学びへと繋げていく。

Through handball, students will improve their basic physical fitness, understand the basic knowledge necessary for the sport, and acquire individual skills and techniques. They will also learn individual and group tactics, and the class will be held in a format that everyone can enjoy. In addition, a mini-game will be held in the first half of the class, and students will learn the rules and game management (including refereeing) at the same time, which will lead to even deeper learning.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

授業概要の説明、アイスブレイキング(実技)

【2】: ハンドボールの基本技術、ゲーム

ボール慣れ、パス・キャッチ、シュートの方法を学び、習得する

【3】: ハンドボールの基本技術、ゲーム

パス・キャッチ、ドリブル、シュートの方法を学び、習得する

【4】: ハンドボールの基本技術、ゲーム

様々なシュート、フェイント技術を学び、習得する

【5】: ハンドボールの基本技術、ゲーム

オフザボールの動きを学び、習得する

【6】: ハンドボールの基本技術、ゲーム

ディフェンスの基本技術を学び、習得する

【7】: ハンドボールの基本技術・グループ戦術、ゲーム

攻撃のグループ戦術(2~3人)について学び、習得する-1

- 【8】:**ハンドボールの基本技術・グループ戦術、ゲーム
攻撃のグループ戦術(2~3人)について学び、習得する-2
- 【9】:**ハンドボールの基本技術・グループ戦術、ゲーム
防御のグループ戦術(2~3人)について学び、習得する
- 【10】:**実技テスト
パス、ドリブル、シュート等の実技テストの実施
- 【11】:**ハンドボールのグループ戦術・チーム戦術、ゲーム
攻守における基本的なシステムを学び、実践する-1
- 【12】:**ハンドボールのグループ戦術・チーム戦術、ゲーム
攻守における基本的なシステムを学び、実践する-2
- 【13】:**まとめ、ハンドボール大会-①
学生自らが主体的に企画、運営する大会の実施
- 【14】:**まとめ、ハンドボール大会-②
学生自らが主体的に企画、運営する大会の実施

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ハンドボールの試合観察

事前・事後の学修時間は合わせて2時間とする。
(指定された試合および資料から授業を理解する)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への意欲・参加姿勢:60% 実技テスト:40%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可

テキスト / Textbooks

必要に応じて随時配布また適宜紹介します。

参考文献 / Readings

必要に応じて随時配布また適宜紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

体育館シューズ、スポーツウェア着用のこと。

その他 / Others

特になし

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限40名

運動方法学演習14

Exercise Technique Seminar 14

大城 章(OSHIRO AKIRA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN227
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

ハンドボール競技の基礎的な理論および技能を習得し、試合で実践できるようになる。また授業を通して、スポーツ活動への興味関心を持ち、仲間とともに主体的に取り組めるようになることを目標とする。

The aim is for students to learn the basic theory and skills of handball and be able to put them into practice in matches. Through the classes, students will also develop an interest in sports activities and be able to take an active role in participating in them with their peers.

授業の内容 / Course Contents

ハンドボール競技を通して基礎体力の向上と競技に必要な基礎知識の理解、個人技術・技能を習得する。さらに個人戦術やグループ戦術を学び、皆で楽しめる形式で授業を展開していく。また授業前半からミニゲームを実施し、ルールや試合運営(審判含む)をも同時に学ぶことで、より一層の深い学びへと繋げていく。

Through handball, students will improve their basic physical fitness, understand the basic knowledge necessary for the sport, and acquire individual skills and techniques. They will also learn individual and group tactics, and the class will be held in a format that everyone can enjoy. In addition, a mini-game will be held in the first half of the class, and students will learn the rules and game management (including refereeing) at the same time, which will lead to even deeper learning.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

授業概要の説明、アイスブレイキング(実技)

【2】: ハンドボールの基本技術、ゲーム

ボール慣れ、パス・キャッチ、シュートの方法を学び、習得する

【3】: ハンドボールの基本技術、ゲーム

パス・キャッチ、ドリブル、シュートの方法を学び、習得する

【4】: ハンドボールの基本技術、ゲーム

様々なシュート、フェイント技術を学び、習得する

【5】: ハンドボールの基本技術、ゲーム

オフザボールの動きを学び、習得する

【6】: ハンドボールの基本技術、ゲーム

ディフェンスの基本技術を学び、習得する

【7】: ハンドボールの基本技術・グループ戦術、ゲーム

攻撃のグループ戦術(2~3人)について学び、習得する-1

- 【8】:**ハンドボールの基本技術・グループ戦術、ゲーム
攻撃のグループ戦術(2~3人)について学び、習得する-2
- 【9】:**ハンドボールの基本技術・グループ戦術、ゲーム
防御のグループ戦術(2~3人)について学び、習得する
- 【10】:**実技テスト
パス、ドリブル、シュート等の実技テストの実施
- 【11】:**ハンドボールのグループ戦術・チーム戦術、ゲーム
攻守における基本的なシステムを学び、実践する-1
- 【12】:**ハンドボールのグループ戦術・チーム戦術、ゲーム
攻守における基本的なシステムを学び、実践する-2
- 【13】:**まとめ、ハンドボール大会-①
学生自らが主体的に企画、運営する大会の実施
- 【14】:**まとめ、ハンドボール大会-②
学生自らが主体的に企画、運営する大会の実施

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ハンドボールの試合観察

事前・事後の学修時間は合わせて2時間とする。
(指定された試合および資料から授業を理解する)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への意欲・参加姿勢:60% 実技テスト:40%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可

テキスト / Textbooks

必要に応じて随時配布また適宜紹介します。

参考文献 / Readings

必要に応じて随時配布また適宜紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

体育館シューズ、スポーツウェア着用のこと。

その他 / Others

特になし

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限40名

運動方法学演習15

Exercise Technique Seminar 15

バドミントン

西島 壮(NISHIJIMA TAKESHI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN228
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

- 1) バドミントンの基礎的知識および技能を習得する。
 - 2) バドミントンの基礎的指導理論を理解し、体育授業で指導することができる。
 - 3) 様々な試合形式の特徴を理解し、体育授業で指導することができる。
- 1) To acquire basic knowledge and skills of badminton.
 - 2) To understand the basic theory of teaching badminton and be able to harness them for teaching in PE classes.
 - 3) To understand the characteristics of various game formats and be able to harness them for teaching in PE classes.

授業の内容 / Course Contents

バドミントンの競技力(すなわち勝敗)は、ほとんどがバドミントン・スキル(技能)の優劣で決まる。解剖学や生理学によって裏付けられた合理的なバドミントン・スキルがある一方、残念ながら誤った理論による指導も根強く残っており、選手の競技力向上を指導者が妨げるケースも多い。本授業では、技術系競技を指導する場合の要点を、バドミントンを題材に学んでいく。また、学校体育で行われる様々試合形式のメリット・デメリットやその指導法を学ぶ。

Technical skills determine win or lose in the badminton game. Although rational technical skills based on anatomy and physiology are provided, there are not a few cases that a teacher/coach disturb progress of students/players because of false theories of technical skills. In this class, students learn critical points for teaching/coaching technical skills in sports through badminton. Students are also required to learn merit and demerit of various game formats used in PE classes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、バドミントンの基礎(用具の扱い方、バドミントンの歴史)、導入(遊びから競技へ)
- 【2】:ストロークの極意1(アンダーハンド・ストローク)
- 【3】:ストロークの極意2(オーバーヘッド・ストローク)
- 【4】:基本フライトの理解・習得
- 【5】:シングルス・ダブルスの基礎(ルール、試合の進め方、など)
- 【6】:シングルス・ダブルスにチャレンジ
- 【7】:ダブルスのための応用練習1(ショットの緩急)、試合(AB戦)
- 【8】:ダブルスのための応用練習2(攻守の型、切り替え)、試合(大リーグ)
- 【9】:より強いショットを打つために(ラギング・バッグ、など)、試合(3vs3)
- 【10】:バドミントンに必要な感覚(視覚、聴覚)
- 【11】:バドミントンに必要な感覚(体性感覚)
- 【12】:ダブルス(団体戦1)

【13】:ダブルス(団体戦2)

【14】:技能テスト、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加:50% 技能テスト:20%

最終レポート割合 :30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない

テキスト / Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

特に指定しない

その他 / Others

随時、メール(t-nishijima@tmu.ac.jp)で質問・相談可能です。

送信の際には、□を@に変えてください。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 40名

運動方法学演習15

Exercise Technique Seminar 15

バドミントン

西島 壮(NISHIJIMA TAKESHI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN229
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

- 1) バドミントンの基礎的知識および技能を習得する。
 - 2) バドミントンの基礎的指導理論を理解し、体育授業で指導することができる。
 - 3) 様々な試合形式の特徴を理解し、体育授業で指導することができる。
- 1) To acquire basic knowledge and skills of badminton.
 - 2) To understand the basic theory of teaching badminton and be able to harness them for teaching in PE classes.
 - 3) To understand the characteristics of various game formats and be able to harness them for teaching in PE classes.

授業の内容 / Course Contents

バドミントンの競技力(すなわち勝敗)は、ほとんどがバドミントン・スキル(技能)の優劣で決まる。解剖学や生理学によって裏付けられた合理的なバドミントン・スキルがある一方、残念ながら誤った理論による指導も根強く残っており、選手の競技力向上を指導者が妨げるケースも多い。本授業では、技術系競技を指導する場合の要点を、バドミントンを題材に学んでいく。また、学校体育で行われる様々試合形式のメリット・デメリットやその指導法を学ぶ。

Technical skills determine win or lose in the badminton game. Although rational technical skills based on anatomy and physiology are provided, there are not a few cases that a teacher/coach disturb progress of students/players because of false theories of technical skills. In this class, students learn critical points for teaching/coaching technical skills in sports through badminton. Students are also required to learn merit and demerit of various game formats used in PE classes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション、バドミントンの基礎(用具の扱い方、バドミントンの歴史)、導入(遊びから競技へ)
- 【2】:ストロークの極意1(アンダーハンド・ストローク)
- 【3】:ストロークの極意2(オーバーヘッド・ストローク)
- 【4】:基本フライトの理解・習得
- 【5】:シングルス・ダブルスの基礎(ルール、試合の進め方、など)
- 【6】:シングルス・ダブルスにチャレンジ
- 【7】:ダブルスのための応用練習1(ショットの緩急)、試合(AB戦)
- 【8】:ダブルスのための応用練習2(攻守の型、切り替え)、試合(大リーグ)
- 【9】:より強いショットを打つために(ラギング・バッグ、など)、試合(3vs3)
- 【10】:バドミントンに必要な感覚(視覚、聴覚)
- 【11】:バドミントンに必要な感覚(体性感覚)
- 【12】:ダブルス(団体戦1)

【13】:ダブルス(団体戦2)

【14】:技能テスト、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加:50% 技能テスト:20%

最終レポート割合 :30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない

テキスト / Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

特に指定しない

その他 / Others

随時、メール(t-nishijima@tmu.ac.jp)で質問・相談可能です。

送信の際には、□を@に変えてください。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 40名

運動方法学演習16

Exercise Technique Seminar 16

ソフトボール・ベースボール型球技

柳田 信也 (YANAGITA SHINYA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN230
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

ベースボール型球技のゲーム基本構造や戦術を理解し、投げる・捕る・打つという運動スキルの指導方法を身につけることを目標とする。また、指導者としてベースボール型球技の楽しさを指導するための方法論を身につける。

The objective is to understand the basic game structure and tactics of base ball-type ball games, and to learn how to teach the athletic skills of throwing, catching, and hitting. In addition, to acquire methodologies for teaching the enjoyment of baseball-type ball games as an instructor.

授業の内容 / Course Contents

ソフトボールを主な種目として実施する。ソフトボールの基本技術であるキャッチボールやゴロ・フライの捕球、バッティングの基本技術を習得するためのドリルを実践する。また、ウィンドミルによる投球を体験し、その練習方法を学ぶ。そして、さまざまなルールや環境設定を工夫したゲームを通して、誰もが楽しむことができるベースボール型球技の授業運営方法を考える。

Softball is the main activity to be conducted. Drills to acquire the basic skills of softball, such as playing catch, catching a ground ball or a fly ball, and batting, will be practiced. They also experience pitching with a windmill and learn how to practice it. Then, through games with various rules and environmental settings, we consider how to manage a baseball-type ball game class that anyone can enjoy.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス「ベースボール型球技・ソフトボール」と体育科教育
- 【2】: 基本スキル指導方法『キャッチボール&ウィンドミル』
- 【3】: 基本スキル指導方法演習『バッティング』
- 【4】: 基本スキル指導方法演習『フィールディング』
- 【5】: ゲーム構造の理解と実践『スローピッチゲーム』
- 【6】: ゲーム構造の理解と実践『ファーストピッチゲーム』
- 【7】: コーチング演習『オフenseコーチングスキル』
- 【8】: コーチング演習『ディフェンスコーチングスキル』
- 【9】: コーチング演習『戦術・戦略』
- 【10】: 学校体育ベースボール型授業の運営『ベースボール型授業のインストラクション』(模擬授業)①
- 【11】: 学校体育ベースボール型授業の運営『ベースボール型授業のインストラクション』(模擬授業)②
- 【12】: 学校体育ベースボール型授業の運営『ベースボール型授業のインストラクション』(模擬授業)③
- 【13】: 学校体育ベースボール型授業の運営『ベースボール型授業のインストラクション』(模擬授業)④
- 【14】: 到達度評価『実技テスト』

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表		グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

実技を伴う演習を行うため、日常的な健康管理や体力維持が求められる。また、実技テストに向けた個人練習等が必要となる場合がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加意欲、関心、態度:40% 基本的な運動スキルの獲得:20% 最終テスト割合::40%

最終テストは実技テストとする。

テキスト / Textbooks

適宜授業内で紹介する。

参考文献 / Readings

適宜授業内で紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 40 名

運動方法学演習16

Exercise Technique Seminar 16

ソフトボール・ベースボール型球技

柳田 信也 (YANAGITA SHINYA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN231
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

ベースボール型球技のゲーム基本構造や戦術を理解し、投げる・捕る・打つという運動スキルの指導方法を身につけることを目標とする。また、指導者としてベースボール型球技の楽しさを指導するための方法論を身につける。

The objective is to understand the basic game structure and tactics of base ball-type ball games, and to learn how to teach the athletic skills of throwing, catching, and hitting. In addition, to acquire methodologies for teaching the enjoyment of baseball-type ball games as an instructor.

授業の内容 / Course Contents

ソフトボールを主な種目として実施する。ソフトボールの基本技術であるキャッチボールやゴロ・フライの捕球、バッティングの基本技術を習得するためのドリルを実践する。また、ウィンドミルによる投球を体験し、その練習方法を学ぶ。そして、さまざまなルールや環境設定を工夫したゲームを通して、誰もが楽しむことができるベースボール型球技の授業運営方法を考える。

Softball is the main activity to be conducted. Drills to acquire the basic skills of softball, such as playing catch, catching a ground ball or a fly ball, and batting, will be practiced. They also experience pitching with a windmill and learn how to practice it. Then, through games with various rules and environmental settings, we consider how to manage a baseball-type ball game class that anyone can enjoy.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス「ベースボール型球技・ソフトボール」と体育科教育
- 【2】: 基本スキル指導方法『キャッチボール&ウィンドミル』
- 【3】: 基本スキル指導方法演習『バッティング』
- 【4】: 基本スキル指導方法演習『フィールディング』
- 【5】: ゲーム構造の理解と実践『スローピッチゲーム』
- 【6】: ゲーム構造の理解と実践『ファーストピッチゲーム』
- 【7】: コーチング演習『オフenseコーチングスキル』
- 【8】: コーチング演習『ディフェンスコーチングスキル』
- 【9】: コーチング演習『戦術・戦略』
- 【10】: 学校体育ベースボール型授業の運営『ベースボール型授業のインストラクション』(模擬授業)①
- 【11】: 学校体育ベースボール型授業の運営『ベースボール型授業のインストラクション』(模擬授業)②
- 【12】: 学校体育ベースボール型授業の運営『ベースボール型授業のインストラクション』(模擬授業)③
- 【13】: 学校体育ベースボール型授業の運営『ベースボール型授業のインストラクション』(模擬授業)④
- 【14】: 到達度評価『実技テスト』

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

実技を伴う演習を行うため、日常的な健康管理や体力維持が求められる。また、実技テストに向けた個人練習等が必要となる場合がある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加意欲、関心、態度:40% 基本的な運動スキルの獲得:20% 最終テスト割合::40%

最終テストは実技テストとする。

テキスト / Textbooks

適宜授業内で紹介する。

参考文献 / Readings

適宜授業内で紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 40 名

運動方法学演習17

Exercise Technique Seminar 17

トレーニング

マスレサ サモ (MASLESA,SAMO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN232
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SWN2023
使用言語	その他	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 春学期集中 2025 年8月 26 日(火) 1 限~4 限(8:50~17:00) 2025 年8月 27 日(水) 1 限~4 限(8:50~17:00) 2025 年8月 28 日(木) 1 限~3 限(8:50~15:05) 2025 年8月 29 日(金) 1 限~3 限(8:50~15:05) 人数制限 120 名		

授業の目標 / Course Objectives

The students will learn about the children's needs at different ages and stages of development, the functioning of the central nervous system and the importance of physical activity for the holistic development of a child (social, cognitive, physical, emotional). An important emphasis will be placed on learning how to establish a positive pedagogical climate, which is key to effective learning.

The objective of the program is to teach students how to build verified (for young and elite athletes), safe, highly inspiring and effective training programs for different sports, based on the four pillars of the GSMP (Genius safe motor program) program. Students will also learn how elements from GSMP program can be implemented in the physical preparation process in elite sports.

本授業は、年齢や発達段階に応じた子どものニーズ、中枢神経系の機能、子どもの全人的発達(社会性、認知性、身体性、情緒性)における身体活動の重要性について学ぶ。また、身体活動の指導において効果的な学習の鍵となる、教育的環境を確立する方法を学ぶことにも重点が置かれる。

この授業の目的は、GSMP(ジーニアス・セーフ・モーター・プログラム)プログラムの4つの柱に基づき、様々なスポーツのために(若い選手やエリートアスリートのために)検証された、安全で、非常に刺激的かつ効果的なトレーニングプログラムを構築する方法を学ぶことである。さらに、GSMPプログラムの要素を、エリートスポーツの身体的準備過程にどのように導入できるかを学ぶことも目標とする。

授業の内容 / Course Contents

The course will focus on performing a wide range of basic movements presented to improve overall physical fitness and promote safety and creativity in sport. There will be a strong emphasis on the tasks for bettering reaction times and spatial awareness, developing balance and proprioception and the smooth transition between movements in the air, standing position and lying on the ground. Some tasks will be performed individually, while others in pairs and groups/teams. The concentric approach, the implicit way of learning and various strategies to accelerate learning will be presented and used during the course. Further, the students will learn the GSMP methodology for teaching safe falling and skillful getting back on feet, which will be adapted to circumstances in specific situations in various sports. They will learn new grips to perform different combat/contact situations and learn about their importance in

strengthening empathy, self-confidence, cooperation, team spirit, tactical way of thinking, as well as overcoming fear. Through games the students will also learn the correct technique for lifting, carrying and lowering loads in sports. During the course, students will be kept motivated by various challenges and assignments. Students will be encouraged to take an active role in the practical implementation of the concepts learned and to express their creativity. Instruction for this course will be conducted in English accompanied partially by supplementary explanations in Japanese. (The “Course Schedule” shows the main topics/contents for this course, but not necessarily the order dealt with in class.)

本授業は、総合的な体力を向上させ、スポーツにおける安全性と創造性を促進するために提示された、幅広い基本的な動きを行うことに重点を置く。反応や空間認識能力を高め、バランス感覚や固有感覚を養い、空中、立位、地面に寝た状態での動きをスムーズに移行するための課題にも注目する。個人で行う課題に加え、ペアやグループ、チームで取り組むワークも取り入れる。同心円的アプローチ、暗黙の学習法、学習を加速させる様々な戦略がコース中に紹介される。さらに、安全に転倒することとそこからの巧みな立ち上がり方を指導する GSMP の方法論を学び、様々なスポーツの具体的な状況に適応させる。また、様々な対人や接触する状況をこなすための新しい視点を学び、共感力、自信、協調性、チームスピリット、戦術的思考法、恐怖心の克服を強化するための方法を学ぶ。ゲームを通して、スポーツにおける重量物の持ち上げ、運搬、降ろし方の正しいテクニックを学ぶ。受講生は様々なチャレンジや課題によってモチベーションを維持し、また、学んだ概念の実践において積極的な役割を果たし、創造性を発揮できるように努める。本授業は英語で行い、一部日本語による補足説明を行う。(授業計画には、このコースの主なトピック・内容を示しているが、必ずしも授業で扱う順番とは限らない。)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:** The (real) purpose of movement and the needs of a young athlete
運動の(本当の)目的と若手アスリートのニーズ
- 【2】:** How modern technologies affect a young athlete
現代のテクノロジーが若いアスリートに与える影響
- 【3】:** Sports talent
スポーツにおける才能
- 【4】:** Theories and methods for promoting learning in sport
スポーツにおける学習促進の理論と方法
- 【5】:** The importance of “Street learning” and risk management for a healthy self-confidence
自信をつけるための「ストリートでの学習」とリスクマネジメントの重要性
- 【6】:** Active role and creativity in sport
スポーツにおける積極的な役割と創造性
- 【7】:** Building a positive pedagogical and setting the challenges
前向きな指導法の構築と課題の設定
- 【8】:** Development and functioning of the Central nervous system
中枢神経系の発達と機能
- 【9】:** The magical world of play
魔法のような遊びの世界
- 【10】:** Basic movement skills, donor sport and multisport concepts
基本的な運動技能、ドナースポーツ、マルチスポーツの概念
- 【11】:** Coordination skills and the transfer of knowledge
コーディネーション能力と知識の伝達
- 【12】:** What is GSMP and its connection to judo
GSMP とは何か、柔道との関係
- 【13】:** The four pillars of the GSMP program and its implementation in the training process
GSMP プログラムの4つの柱とトレーニングプロセスにおけるその実践
- 【14】:** Summary and The creation of new skills and styles
まとめ&新しい技およびスタイルの創造

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Reading and comprehension of provided materials to prepare for classes.

授業にて配布する資料等を授業前に熟読しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation and effort (授業への参加意欲および参加態度):40% Reaction paper/Short test (リアクションペーパー／小テスト):30% Final report (最終レポート):30%

テキスト / Textbooks

Materials and handouts provided in class.

特に指定しない。資料等を授業にて配布する。

参考文献 / Readings

Given or referred to in class.

必要に応じて授業時に紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/春学期集中/人数制限 120 名

2025 年8月 26 日(火)1 限～4 限

2025 年8月 27 日(水)1 限～4 限

2025 年8月 28 日(木)1 限～3 限

2025 年8月 29 日(金)1 限～3 限

運動方法学演習17

Exercise Technique Seminar 17

トレーニング

マスレサ サモ(MASLESA,SAMO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN233
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SWN2023
使用言語	その他	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 春学期集中 2025 年 9 月 8 日(月)1 限~4 限(8:50~17:00) 2025 年 9 月 9 日(火)1 限~4 限(8:50~17:00) 2025 年 9 月 10 日(水)1 限~3 限(8:50~15:05) 2025 年 9 月 11 日(木)1 限~3 限(8:50~15:05) 人数制限 120 名		

授業の目標 / Course Objectives

The students will learn about the children's needs at different ages and stages of development, the functioning of the central nervous system and the importance of physical activity for the holistic development of a child (social, cognitive, physical, emotional). An important emphasis will be placed on learning how to establish a positive pedagogical climate, which is key to effective learning.

The objective of the program is to teach students how to build verified (for young and elite athletes), safe, highly inspiring and effective training programs for different sports, based on the four pillars of the GSMP (Genius safe motor program) program. Students will also learn how elements from GSMP program can be implemented in the physical preparation process in elite sports.

本授業は、年齢や発達段階に応じた子どものニーズ、中枢神経系の機能、子どもの全人的発達(社会性、認知性、身体性、情緒性)における身体活動の重要性について学ぶ。また、身体活動の指導において効果的な学習の鍵となる、教育的環境を確立する方法を学ぶことにも重点が置かれる。

この授業の目的は、GSMP(ジーニアス・セーフ・モーター・プログラム)プログラムの4つの柱に基づき、様々なスポーツのために(若い選手やエリートアスリートのために)検証された、安全で、非常に刺激的かつ効果的なトレーニングプログラムを構築する方法を学ぶことである。さらに、GSMPプログラムの要素を、エリートスポーツの身体的準備過程にどのように導入できるかを学ぶことも目標とする。

授業の内容 / Course Contents

The course will focus on performing a wide range of basic movements presented to improve overall physical fitness and promote safety and creativity in sport. There will be a strong emphasis on the tasks for bettering reaction times and spatial awareness, developing balance and proprioception and the smooth transition between movements in the air, standing position and lying on the ground. Some tasks will be performed individually, while others in pairs and groups/teams. The concentric approach, the implicit way of learning and various strategies to accelerate learning will be presented and used during the course. Further, the students will learn the GSMP methodology for teaching safe falling and skillful getting back on feet, which will be adapted to circumstances in specific situations in various sports. They will learn new grips to perform different combat/contact situations and learn about their importance in

strengthening empathy, self-confidence, cooperation, team spirit, tactical way of thinking, as well as overcoming fear. Through games the students will also learn the correct technique for lifting, carrying and lowering loads in sports. During the course, students will be kept motivated by various challenges and assignments. Students will be encouraged to take an active role in the practical implementation of the concepts learned and to express their creativity. Instruction for this course will be conducted in English accompanied partially by supplementary explanations in Japanese. (The “Course Schedule” shows the main topics/contents for this course, but not necessarily the order dealt with in class.)

本授業は、総合的な体力を向上させ、スポーツにおける安全性と創造性を促進するために提示された、幅広い基本的な動きを行うことに重点を置く。反応や空間認識能力を高め、バランス感覚や固有感覚を養い、空中、立位、地面に寝た状態での動きをスムーズに移行するための課題にも注目する。個人で行う課題に加え、ペアやグループ、チームで取り組むワークも取り入れる。同心円的アプローチ、暗黙の学習法、学習を加速させる様々な戦略がコース中に紹介される。さらに、安全に転倒することとそこからの巧みな立ち上がり方を指導する GSMP の方法論を学び、様々なスポーツの具体的な状況に適応させる。また、様々な対人や接触する状況をこなすための新しい視点を学び、共感力、自信、協調性、チームスピリット、戦術的思考法、恐怖心の克服を強化するための方法を学ぶ。ゲームを通して、スポーツにおける重量物の持ち上げ、運搬、降ろし方の正しいテクニックを学ぶ。受講生は様々なチャレンジや課題によってモチベーションを維持し、また、学んだ概念の実践において積極的な役割を果たし、創造性を発揮できるように努める。本授業は英語で行い、一部日本語による補足説明を行う。(授業計画には、このコースの主なトピック・内容を示しているが、必ずしも授業で扱う順番とは限らない。)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:** The (real) purpose of movement and the needs of a young athlete
運動の(本当の)目的と若手アスリートのニーズ
- 【2】:** How modern technologies affect a young athlete
現代のテクノロジーが若いアスリートに与える影響
- 【3】:** Sports talent
スポーツにおける才能
- 【4】:** Theories and methods for promoting learning in sport
スポーツにおける学習促進の理論と方法
- 【5】:** The importance of “Street learning” and risk management for a healthy self-confidence
自信をつけるための「ストリートでの学習」とリスクマネジメントの重要性
- 【6】:** Active role and creativity in sport
スポーツにおける積極的な役割と創造性
- 【7】:** Building a positive pedagogical and setting the challenges
前向きな指導法の構築と課題の設定
- 【8】:** Development and functioning of the Central nervous system
中枢神経系の発達と機能
- 【9】:** The magical world of play
魔法のような遊びの世界
- 【10】:** Basic movement skills, donor sport and multisport concepts
基本的な運動技能、ドナースポーツ、マルチスポーツの概念
- 【11】:** Coordination skills and the transfer of knowledge
コーディネーション能力と知識の伝達
- 【12】:** What is GSMP and its connection to judo
GSMP とは何か、柔道との関係
- 【13】:** The four pillars of the GSMP program and its implementation in the training process
GSMP プログラムの 4 つの柱とトレーニングプロセスにおけるその実践
- 【14】:** Summary and The creation of new skills and styles
まとめ&新しい技およびスタイルの創造

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Reading and comprehension of provided materials to prepare for classes.

授業にて配布する資料等を授業前に熟読しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation and effort (授業への参加意欲および参加態度):40% Reaction paper/Short test (リアクションペーパー／小テスト):30% Final report (最終レポート):30%

テキスト / Textbooks

Materials and handouts provided in class.

特に指定しない。資料等を授業にて配布する。

参考文献 / Readings

Given or referred to in class.

必要に応じて授業時に紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/春学期集中/人数制限 120名

2025年9月8日(月)1限～4限

2025年9月9日(火)1限～4限

2025年9月10日(水)1限～3限

2025年9月11日(木)1限～3限

運動方法学演習18

Exercise Technique Seminar 18

グッドコーチを目指して

安松 幹展/後関 慎司/中村 聡宏/村本 宗太郎(YASUMATSU MIKINOBU/ GOSEKI SHINJI/ NAKAMURA AKIHIRO/ MURAMOTO SOTARO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN234
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	授業日:2025年11月8日(土)5限、11月15日(土)3・4限、11月22日(土)3・4・5限、12月6日(土)3・4限、12月13日(土)3・4・5限、2026年1月10日(土)3・4・5限
校地	新座	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	SWN2020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学者対象 秋学期集中 人数制限 40名 授業日: 2025年11月8日(土)5限、11月15日(土)3・4限、11月22日(土)3・4・5限、12月6日(土)3・4限、12月13日(土)3・4・5限、2026年1月10日(土)3・4・5限		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツを指導する上で最低限必要な安全管理と救命救急、スポーツマンシップおよびフェアプレー精神、選手の主体性を育むコーチングスキルを学び、プレーヤーズセンタードなコーチング法を習得する。

Learn the minimum safety and first aid requirements for coaching sport, sportsmanship and fair play, coaching skills that foster player autonomy, and acquire player-centred coaching methods.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、指導対象となる選手を中心とした(プレーヤーズセンタードな)コーチングに必要な、安全管理と救命救急、スポーツマンシップおよびフェアプレー精神、選手の主体性を育むコーチングスキルを解説する。各テーマごとの実践には小グループを作成し、実習、発表と議論、および指導実践とフィードバックを行う。

This course covers the coaching skills required for player-centred coaching, including safety management and first aid, sportsmanship and fair play, and coaching skills that foster player autonomy. Small groups will be formed for each thematic exercise, which will include practical exercises, presentations and discussions, as well as coaching practice and feedback.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンスとグループ分け
- [2]: スポーツマンシップを涵養するコーチング(講義)
- [3]: スポーツマンシップを涵養するコーチング(グループワーク)
- [4]: コーチングにおける暴力・ハラスメントの根絶(講義)
- [5]: コーチングにおける暴力・ハラスメントの根絶(グループワーク)
- [6]: コーチングにおける障害予防の理論(講義)

- 【7】:コーチングにおける障害予防の実際(グループワーク)
- 【8】:コーチングにおける救命救急の理論(講義)
- 【9】:コーチングにおける救命救急の実際(実技)
- 【10】:グッドコーチングのためのスキル(講義とグループワーク)
- 【11】:グッドコーチングの実際①個人競技種目(指導実践とフィードバック)
- 【12】:グッドコーチングの実際②室内団体競技種目(指導実践とフィードバック)
- 【13】:グッドコーチングの実際③屋外団体競技種目(指導実践とフィードバック)
- 【14】:プレーヤーセンタードなコーチングとは(グループワーク)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎授業終了時に適宜指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における出席度合およびグループワークにおける貢献:30% グループプレゼンおよび指導実践の内容:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

星野邦夫 実践!グッドコーチング PHP研究所 2019 9784569844794

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/秋学期集中/人数制限 40名

情報処理1

Information Processing 1

横山 真弘 (YOKOYAMA MASAHIRO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN240
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2420
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 80 名		

授業の目標 / Course Objectives

大学や社会で使用する基本的なソフトである、Word、Excel、PowerPoint の使い方を習得することを目標とする。
The goal is to learn how to use basic software used in universities and companies, such as Word, Excel, and PowerPoint.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、レポート作成のために必要な Word や、複雑なデータをわかりやすくまとめてプレゼンするための Excel や PowerPoint の基本的な使い方について学ぶ。また、メールでのコミュニケーションにおけるマナーや情報検索のポイントなども取り扱う。

なお、出席を基本とし、受講者の理解度に応じて、授業の進捗を変更する可能性がある。

Students learn the basic usage of Word, Excel, and PowerPoint, which are used for report writing, data summarizing, and presentation, respectively.

Other main contents are manners in e-mail communication and key points in information retrieval.

Attendance is the basis, and the progress will change depending on the degree of understanding of the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: メールの設定、メールのマナー
- 【3】: Office の基本操作、ファイル管理
- 【4】: オンラインストレージ、ウェブ(Web)
- 【5】: サーチエンジン、情報収集
- 【6】: PowerPoint の基本操作
- 【7】: プレゼンテーション資料の作成
- 【8】: Word の基本操作
- 【9】: Word によるビジネス文書作成
- 【10】: Excel の基本操作(1) 表の作成
- 【11】: Excel の基本操作(2) グラフと関数
- 【12】: Excel の基本操作(3) データの分析1
- 【13】: Excel の基本操作(4) データの分析2
- 【14】: Excel の基本操作(5) データの分析3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の復習を必ず行い、パソコン操作の習熟に努めてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度および参加態度:30% 授業内課題(複数回):50% 最終課題:20%

テキスト / Textbooks

各回の授業時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業内で指示する

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 80 名

情報処理2

Information Processing 2

横山 真弘 (YOKOYAMA MASAHIRO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN242
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2420
使用言語	日本語	授業形式	実習
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 80 名		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ科学について理解を深めたり、研究を行ったりするために必要な統計学の基礎知識を身に付け、自分でデータ分析を行えるようになることを目標とする。

The goal is to provide students with the basic knowledge of statistics necessary to deepen their understanding of sports science and conduct research, and to enable them to conduct their own data analysis.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、Excel を用いたデータ管理や基礎的な統計分析について、講義と実習を行う。

講義の一部では、グループワークも実施する。

Excel の基礎的な使い方を習得していることが必須となるため、春学期の「情報処理 1」を履修していることが望ましい。

なお、出席を基本とし、受講者の理解度に応じて、授業の進捗を変更する可能性がある。

In this class, lectures and practical training will be given on data management and basic statistical analysis using Excel. Sometimes group work is conducted in class.

Students are required to have mastered the basic usage of Excel, and it is recommended that they have taken "Information Processing 1" in the spring semester.

Attendance is the basis, and the progress will change depending on the degree of understanding of the students.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、Excel の操作の確認
- 【2】: 問題の整理 (KJ 法)
- 【3】: 重要項目の把握 (パレート分析)
- 【4】: 仮説の設定 (なぜなぜ分析)
- 【5】: データの収集 (アンケートの作成)
- 【6】: 可視化 (1) 分布の確認
- 【7】: 可視化 (2) 相関の確認
- 【8】: 実践演習 (1) PPDCA サイクルの実習課題
- 【9】: 予測 (1) 単回帰分析
- 【10】: 予測 (2) 重回帰分析
- 【11】: 実践演習 (2) 予測の実習課題
- 【12】: 動画作成 (1)
- 【13】: 動画作成 (2)
- 【14】: 動画作成 (3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の復習を必ず行い、理解を深めるよう努めてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度および参加態度:30% 授業内課題:30% 実践演習(1):20% 実践演習(2):20%

テキスト / Textbooks

各回の授業時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業内で指示する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 80名

キャリア形成論

Career Development
 自分らしいキャリアとはなにか

菊池 宏子 (KIKUCHI HIROKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN244
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2400
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

他者を介して今の自分を見つめながら、自らの学びに紐づけ、将来像を描くこと

Reflecting on oneself through others, connecting it to one's own learning, and envisioning the future

授業の内容 / Course Contents

「キャリア」とはなにか？ 働き方や生き方が多様化している今、本授業では、多様なジャンル(まちづくり、スポーツ、福祉、教育/生涯教育、アート/文化、ソーシャル)を中心に、ゲストスピーカーをお招きし、彼らのキャリアを通じて自らのキャリア形成を考察する授業内容となっている。ワークショップなどを盛り込み、可能な限り能動的な学びの場を目指す。なお授業計画については、履修生の人数などを考慮し、授業の中で決定次第、説明する。また、ゲストの登壇日や順序などは第2回目の授業にて発表する。

What is a 'career'? In today's era of diversified work and lifestyles, this course invites guest speakers from various fields (urban development, sports, welfare, education/lifelong learning, art/culture, social activities), aiming to explore and reflect on the formation of one's own career through their experiences. The course is designed to incorporate interactive learning opportunities such as workshops as much as possible. Please note that the specifics of the course plan, including considerations for the number of enrolled students, will be explained as determined during the course. Additionally, details such as the dates and order of guest speaker appearances will be announced during the orientation.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス : 授業概要の説明

【2】: 初回振り返り/ 授業内容について説明(ゲストスピーカーの紹介など)

講義とワークショップ(WS): 他者から学ぶ「キャリア」とは

・具体的な授業内容の解説に合わせて、キャリアに関する講義とWS(グループワーク)を行う。

【3】: 講義とWS: 社会のバイアスと情報社会との付き合い方について考える

・「こうあるべき」という既成概念について考えながら、社会のコンテキストと自己形成について考える。

【4】: 講義とWS: 自分を表現するコミュニケーションとは

・自分を表現するために大切なものはなにか？メモをする、疑問を抱く、質問を生み出す習慣など含めて、学びの仕組みについて紐解きながらコミュニケーションについて考える。

【5】: ゲストスピーカー登壇(1)

・異なるジャンルのゲストスピーカーが登壇し、自らのキャリア形成や経験を共有。学生は異なる視点からの学びを得る。

【6】: ゲストスピーカー登壇(2)

【7】: 中間統括

・ここまでの授業内容を振り返り、理解を深める

【8】: ゲストスピーカー登壇(3)

【9】: ゲストスピーカー登壇(4)

【10】: 講義&WS: 想像する力/自分の思いと現実社会

・想像することの原点に立ち返りながら、ゲストスピーカーの内容を振り返り、自らの現在の状況を整理しながら、将来のビジョンを想像するWSを実施。

【11】: ゲストスピーカー登壇(5)

【12】: ゲストスピーカー登壇(6)

【13】: 全体統括・自己評価

・これまでの学びを振り返り、全体を統括するとともに、自己評価を行う。

【14】: 授業内テスト

・詳細については授業内で説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

講義、ゲストスピーカーによる登壇、参加型ワークショップ、個人/グループワーク&発表など

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ゲストスピーカーに関するリサーチや、授業内で触れた働き方や考え方に関して復習すること。
不定期だが、リアクションペーパーを授業時間外での執筆あり。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の出席および履修態度:出席回数、リアクションペーパーの提出状況(未提出の場合は欠席扱い)とその内容の質、授業中の質問や発言など、履修態度を総合的に評価します。詳細は授業内で説明します。:70%
最終回の授業内テスト:最終回に実施するテストの結果で評価します。なお、欠席の場合の追試は原則として行いません。:30%

詳しくは、授業にて説明します。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本授業では、多くのゲストスピーカーをお迎えし、他者を通じて学びを深める機会があります。そのため、自発的に学ぶ姿勢や、自分のキャリアについて考える意欲が求められます。また、主体的に学びの機会を活用し、積極的に参加する前向きな態度が重要です。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

ウェルネス科学総論

Wellness Science

自分の人生をどのようにデザインするか

杉浦 克己(SUGIURA KATSUMI)

科目設置学部	スポーツウェルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN246
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	第4回と第12回はオンラインで実施する。変更になった場合はCanvas LMSで配信する
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

ウェルネスの5領域(身体、精神・スピリット、情緒、環境、価値観)を理解し、人間の幸せとは何かを多面的に掘り下げ、個の価値観を尊重する考え方を身につける。

Understand the five areas of wellness (body, mind, emotion, environment, sense of values); explore what human happiness means from different perspectives; master a way of thinking that respects individual values.

授業の内容 / Course Contents

運動・栄養・休養、喫煙・アルコール、ストレス、そしてやせ願望、肥満と生活習慣病、感染症、依存症という基礎的知識を理解した上で、勉強、仕事、結婚、家庭、老化、死という流れに沿って、単なる健康ではなく、環境や社会とのつながりという大きな視点と、自分自身の生き方や態度という全人的尺度であるウェルネスとして捉え直して論じていく。

Gain a basic knowledge of exercise, nutrition, rest, smoking, alcohol, stress, the desire to be thin, obesity in relation to lifestyle-related diseases and infectious diseases. Understand and discuss ways of life and attitudes on a holistic and personal scale, adopting a broad perspective that links health with the environment and society, according to a framework of study, work, marriage, family, aging, and death.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス, ウェルネスとは何か
- 【2】: 栄養の科学
- 【3】: 食文化
- 【4】: 生命倫理(映画鑑賞)
- 【5】: 性・結婚観
- 【6】: 休養・睡眠の科学
- 【7】: スポーツ・運動の科学
- 【8】: 薬物乱用(アルコール・タバコ含む)
- 【9】: うつ病とストレス(落語鑑賞)
- 【10】: 感染症と医療
- 【11】: 環境の科学(公害, 原発, 地球温暖化)
- 【12】: 環境の科学(映画鑑賞)
- 【13】: 地球環境・生物多様性・SDGs
- 【14】: 人生のミッションとウェルネス

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席およびコメントカード:20% 演習などの提出物:20%

なお、単位取得のためには75%以上の出席を必要とする

テキスト / Textbooks

授業時にレジユメを配布する

参考文献 / Readings

特になし

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

メディアリテラシーと柔軟な思考能力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具。

その他 / Others

<https://katsumi-sugiura.com/>

https://www.youtube.com/channel/UCRBkmlF2SOFH_j5ne9IYhVw

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

スポーツ科学総論

Sports Science

スポーツを科学的な目で捉える

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN248
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツを科学的に探求する様々な研究分野を学び、スポーツに関する偏った判断やあいまいな考えよりも、科学的手法を用いて観察した情報や実験結果が信頼されるものであることを理解する。スポーツ科学の「研究」成果を指導や報道などの「現場」へ適切に伝える「通訳」となれるように、最新の正確な知識を身につける。

To learn about the various research fields that explore sport scientifically and understand that information and experimental results observed using scientific methods are more reliable than biased judgements and ambiguous ideas about sport. Up-to-date and accurate knowledge in order to be able to be an 'interpreter' who appropriately conveys the 'research' results of sports science to the 'field', such as coaching and the press.

授業の内容 / Course Contents

スポーツに対する科学的貢献度は、パフォーマンスが向上したか否かが重要な判断基準となる。パフォーマンスには体脂肪、筋力、持久力、環境条件、心理状態、栄養状態などが作用する。また、ゲーム分析やデータ研究の結果も利用されている。ここでは、スポーツ科学の貢献例を中心に、スポーツ科学を映像や写真および図表などを使用して総合的に講義する。

An important criterion for the scientific contribution to sport is whether or not performance has improved. Performance is affected by body fat, muscle strength, endurance, physical conditions, environmental conditions, psychological state and nutritional status. Results from game and data analysis have also been used. In this section, sports science is lectured comprehensively with the use of films, photographs and diagrams, focusing on examples of the contributions of sports science.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 科学によるサポートとは
- 【2】: 持久力とパフォーマンス
- 【3】: 筋力とパフォーマンス
- 【4】: 体脂肪とパフォーマンス
- 【5】: ドーピング
- 【6】: データ分析
- 【7】: バイオメカニクスのサポート
- 【8】: 心理的サポート
- 【9】: 環境対策①(暑熱環境)
- 【10】: 環境対策②(寒冷環境/高地/時差)
- 【11】: ウォーミング・アップ&リカバリーの科学

【12】:栄養学的サポート

【13】:サッカーへの科学的サポート

【14】:スポーツ種目に対する科学的サポートを考える(グループディスカッションとプレゼン)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表		グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 各回の課題ミニレポート:30%

スポーツ科学を多角のおよび総合的に学ぶ観点から、単位認定のためには75%以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

安部孝・琉子友男編 『これからの健康とスポーツの科学(第5版)』 講談社 2020 4065180953

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

運動方法学

Exercise Technique

江原 義智 (EHARA YOSHITOMO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN250
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、運動・スポーツを指導する際の方法学的な基礎を養うために、解剖学、運動生理学、運動力学といった基礎科学から、身体運動のメカニズムを理解する。

This course develops a methodological foundation for teaching exercise and sports by providing students with an understanding of the mechanisms of physical movement from basic sciences, such as anatomy, exercise physiology, and kinematics.

授業の内容 / Course Contents

ヒトの動きの技術と科学を扱うキネシオロジーを基礎とした運動方法学は、からだを動かすことが基本となるスポーツウエルネスの分野では、必須となる学問領域である。本講義では、解剖学、運動生理学、運動力学といった基礎科学を元に、具体的な身体運動をととして、立つ、歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つといった、基本となる動きの概念を理解し、合理的な身体運動のメカニズムを学習する。

Kinesiology-based exercise models focus on the science and technique of physical movement, which are fundamental disciplines in sports and wellness. In this course, students will learn the concepts of basic movements such as standing, walking, running, jumping, throwing, and hitting, based on the principles of anatomy, exercise physiology, and kinematics. Additionally, students will explore the mechanisms behind efficient and effective physical movement.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 運動方法学とは
- 【3】: 運動器の機能と構造①
- 【4】: 運動器の機能と構造②
- 【5】: 運動器の機能と構造③
- 【6】: 運動の仕組み
- 【7】: 運動と力学
- 【8】: 立位姿勢、歩行運動の理論
- 【9】: 走行運動の理論
- 【10】: 跳運動の理論
- 【11】: 投運動の理論
- 【12】: 打撃運動の理論
- 【13】: 運動制御、運動学習
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本講義を受講する時点で解剖学や運動生理学などを履修しておくことが望ましい。
その他の授業時間外学習については授業内に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内課題(リアクションペーパー、確認テスト):30%

テキスト / Textbooks

必要に応じて適宜配布する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

生涯スポーツ論

Lifetime Sports

生涯スポーツ社会の実現に向けて

工藤 康宏 (KUDO YASUHIRO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN252
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施予定(第1回、第4回、第14回)。日程の変更がある場合には Canvas LMS にて伝達する。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

- (1) 日本の生涯スポーツの現状を把握する。
 - (2) 生涯スポーツに関する歴史、理論や背景について説明できる。
 - (3) 子ども、青少年、中高齢者、女性、障がい者におけるスポーツの意義について解説できる。
- (1) Understand the current situation of lifelong sports in Japan.
 - (2) Explain the history, theory and background of lifelong sports.
 - (3) Explain the significance of sports for children, adolescents, middle-aged and elderly people, women, and people with disabilities.

授業の内容 / Course Contents

生涯スポーツの必要性や重要性を確認し、生涯スポーツに関する知識・理解を深めるとともに、生涯スポーツ社会実現のための課題について学習する。するスポーツ、みるスポーツ、ささえるスポーツの観点から、日本の生涯スポーツ社会の現状を把握するとともに、子ども、青少年、中高齢者、女性、障がい者、地域におけるスポーツ実施の現状と課題について学ぶ。

Confirm the necessity and importance of lifelong sports, deepen their knowledge and understanding of lifelong sports, and study the issues involved in realizing a lifelong sports society. They will also learn about the current situation and issues involved in sports for children, youth, middle-aged and elderly people, women, people with disabilities, and in local communities, from the perspectives of sports that are played, watched, and supported.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス 授業の目的、進め方など、生涯スポーツの歴史・定義
- 【2】: 諸外国の生涯スポーツ政策
- 【3】: 日本の生涯スポーツ振興と現状・総合型地域スポーツクラブ
- 【4】: 生涯スポーツとビジネス
- 【5】: 成人のスポーツ参加動向
- 【6】: スポーツと社会化
- 【7】: 子どもの体力とスポーツ参加の動向①
- 【8】: 子どもの体力とスポーツ参加の動向②
- 【9】: 女子・女性のスポーツ参加
- 【10】: 高齢者のスポーツ

- 【11】: 障害者のスポーツ
- 【12】: スポーツのボランティア
- 【13】: 見るスポーツの現状と
- 【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の予習範囲や課題は、必要に応じて授業時に提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 各授業内容のチェック:20% 課題レポート:20% 中間振返り:10%

最終テスト割合 :20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない

テキスト / Textbooks

特に指定せず、必要な文献は都度、指示し、必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

川西正志・野川春夫 『生涯スポーツ実践論改訂5版』 市村出版 2024 9784902109689

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義内容の理解度の確認やリアクションペーパー入力のために、QRコードを読み取る必要があるため、それに対応したスマートフォンやタブレットなどを必要とする。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

運動生理学

Exercise Physiology

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN254
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要な運動生理学の基礎知識を理解することをねらいとする。

The aim of this course is to understand the basic knowledge of exercise physiology necessary for planning and practical application in improving physical fitness and exercise performance and preventing sports injuries and disorders.

授業の内容 / Course Contents

春学期に開講している「生理学」の基礎知識をベースに、運動時の身体の各機能系、器官の反応、およびトレーニングに対する身体の具体的な変化を解説する。また、運動・スポーツは様々な環境下で行われることから、種々の環境条件(温度、酸素濃度、水中など)によって身体に起こる適応についても解説する。

Based on the basic knowledge of Physiology acquired in the spring semester, the lectures will explain the functional systems of the body during exercise, the reaction of our organs and the specific physical changes that occur in relation to training. In addition, because the environments in which exercise and sports activities are performed may differ (temperature, oxygen concentration, water, etc.), the lectures also describe the physical adaptation that occurs in response to these.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・運動中の身体変化
- 【2】: 運動中の呼吸
- 【3】: 運動中の心臓循環システム
- 【4】: 運動中の血液の役割
- 【5】: 運動中の酸素摂取
- 【6】: 運動中の筋活動
- 【7】: 運動中の神経活動
- 【8】: 運動中のエネルギー代謝(ホルモン分泌含む)
- 【9】: 運動中のエネルギー産生(有酸素性および無酸素性エネルギー産生)
- 【10】: 運動中の体温調節
- 【11】: 様々な環境下での運動
- 【12】: 運動と免疫
- 【13】: 水中での運動
- 【14】: 中枢性疲労と末梢性疲労

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回クイズや課題を出す予定なので、毎授業の内容を学習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 2回の小テスト:20% 2回の課題レポート:20%

テキスト / Textbooks

ヤン・バングスボ 『スポーツコーチのためのトレーニング生理学』 大修館書店 2020 4469268518

参考文献 / Readings

朝山正己・彼末一之・三木健寿編 『イラスト運動生理学』 東京教学社 2012 4808260328

Jens Bangsbo Exercise and Training Physiology - A simple approach SISU Sports Books 2011 9789186323349

田中越郎 『イラストでまなぶ生理学 第3版』 医学書院 2016 9784260028349

彼末一之・能勢博 『やさしい生理学改訂第7版』 南江堂 2017 9784524254170

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

事前に「生理学」を受講済みであることが望ましい。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

生理学

Physiology

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN256
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

生命現象や生体機能の仕組みを学び、人体の機能システムの器官と働きを理解する。特に、健康・運動に関するヒトの各器官の機能を取り上げ、応用的に生理学を学ぶ「運動生理学」の基礎として、生理学の知識を身につける。

Learn the workings of biological phenomena and their biological functions. Understand the functional system of the organs in our body and their workings. In particular, understand the functions of human organs as related to health and exercise, and acquire a knowledge of the practical application of physiology as the basis of “exercise physiology.”

授業の内容 / Course Contents

生理学は、生命現象がどのような機能システムでどのように行われているかを学ぶ学問である。ここでは、呼吸、循環、消化・吸収、排泄、代謝といった生命現象、血液・体液、神経、内分泌、筋・骨といった機能システム、そしてそれらの複雑で微妙な調節のもとで行われる運動時の生理反応について講義する。これから運動に関する学問を始めるにあたり、生体に関する基礎的な知識を身につける。

Physiology is the science of the functions of living organisms. Lectures will be given on our physiological responses during exercise, according to our bodies' complex and delicate framework of biological systems, such as respiration, circulation, digestion and absorption, excretion and metabolism and functional systems such as blood and bodily fluids, nerves, endocrines, muscles and bones. As students start learning about exercise, they will acquire a basic knowledge of living organisms.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 生理学とは、細胞、神経系
- 【2】: 筋肉・骨格
- 【3】: 心臓(循環器系)
- 【4】: 血管系
- 【5】: 呼吸器系
- 【6】: 自律神経系
- 【7】: 脳(中枢神経系)
- 【8】: 内分泌系
- 【9】: 代謝生理
- 【10】: 血液および生体防御(免疫系)
- 【11】: 腎臓(泌尿器系)
- 【12】: 消化と吸収
- 【13】: 性、生殖
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキスト指定範囲を熟読しておくこと(各回約2時間). 授業後には Canvas LMS に掲載される授業スライドを見て復習すること(各回約2時間)

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内小テスト:30% リアクションペーパー:10%

テキスト / Textbooks

石渡貴之, 村上秀明, 依田珠江, 長谷川博, 須田和裕 『生理学 (はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ) 第1版 第2刷』 化学同人 2015 9784759817027

参考文献 / Readings

田中越郎 『イラストでまなぶ生理学(第2版)』 医学書院 2009

彼末一之・能勢博編 『やさしい生理学(改訂第6版)』 南江堂 2011

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

運動処方・療法

Exercise Prescription and Therapy

川井 謙太郎(KAWAI KENTARO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN258
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、一般の人、または、アスリートが傷害からの回復・健康増進・パフォーマンス向上のための運動処方・療法について、その理論と知識を幅広く身につけ、実際の運動プログラムを作成できるようになることを目標とする。

The goal is to acquire a wide knowledge of theory and understanding of the prescription of exercise and related therapies, and to be able to create an actual exercise program for people in general and athletes who want to exercise for reasons of recovery from injury and enhancement performance.

授業の内容 / Course Contents

運動処方とは、個人の状況に合致した運動プログラムを作成することである。そのためには、個人の年齢、身体的状態、体力を十分考慮に入れて、どの様な運動を、どの位の強さで、何分くらい、何回行えばよいのかについて考える必要がある。運動の効果や様々なニーズに対応した運動処方・療法の具体的方法を学習し、実践的学習として、実際に運動プログラムを作成し、検討する。

An exercise prescription is the creation of an exercise program that is tailored to the individual's situation. Therefore, it is necessary to take into account the individual's age, physical condition and physical fitness, as well as how much exercise should be performed, and for how many minutes and how often. Learn specific methods of exercise prescription and therapy corresponding to the effects of exercise and one's various needs, and, as practical learning, create and review an actual exercise program.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス(運動プログラム作成の基本①)
- 【2】: 運動療法の基礎知識(運動プログラム作成の基本②)
- 【3】: 運動療法の基礎知識(メディカルチェックの重要性)
- 【4】: 運動療法の基礎知識(服薬者の運動プログラム作成上の注意)
- 【5】: 生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成実習(1) 包括的プログラム作成
- 【6】: 生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成実習(2) 過体重(肥満)・肥満症と高血糖・糖尿病
- 【7】: 生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成実習(3) 高血圧と脂質異常症
- 【8】: 生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成実習(4) ロコモティブシンドロームと運動器退行性疾患
- 【9】: コンディションの把握と管理
- 【10】: リコンディショニング(アスレティックリハビリテーション)の考え方と基礎知識
- 【11】: 物理療法と補装具の使用に関する基礎知識
- 【12】: 外傷ごとのリスク管理に基づいたリコンディショニングとプログラミングの実践(体幹)
- 【13】: 外傷ごとのリスク管理に基づいたリコンディショニングとプログラミングの実践(上肢)
- 【14】: 外傷ごとのリスク管理に基づいたリコンディショニングとプログラミングの実践(下肢)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:20% 授業内課題:20%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。授業時に資料を配付する。

参考文献 / Readings

細田多穂・植松光俊, 大川裕行, 大工谷新一 『運動療法学テキスト 改訂第3版』 南江堂 2019 9784524246212

ACSM(American College of Sports Medicine)・日本体力医学会体力科学編集委員会 『運動処方指針 原書第8版』 南江堂 2011 9784524262168

PowerPointを使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する。また、アクティブラーニングを取り入れ、演習なども行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

解剖学1

Anatomy 1

竹上 綾香 (TAKEGAMI AYAKA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN260
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、骨の部位や名称、その骨に関わる関節の構造や働きを理解し、その関節を動かす筋の名称、起始(付着)・停止や神経支配について学び、スポーツ動作のメカニズムを理解する際の基礎知識の習得をねらいとする。

In this course, you will understand the parts and names of bones, the structure and function of joints, and learn about the names of muscles that move those joints, their origin and Insertion, and innervation, which will help you understand the mechanisms of sports movements.

授業の内容 / Course Contents

解剖学とは人体を構成する体の仕組みを探求する学問であり、特に運動器に関する解剖学は、スポーツ医学を学ぶ人にとっては、とても重要な学問である。本講義では、身体の各部位を医学の専門用語で述べることにできるように学習することや、膝関節、足関節、股関節、体幹、肩関節、肘関節、手関節などを構成している骨、関節、靭帯などを詳細を学び、その関節を動かすための筋・腱の名称とその筋腱の走行について学習する。

Anatomy is the study of the mechanisms of the human body, and the anatomy of the musculoskeletal organs is particularly important for those studying sports medicine. In this lecture, you will learn to be able to describe each part of the body in medical terminology, and you will learn how to describe the parts of the body such as the knee joint, ankle joint, hip joint, trunk, shoulder joint, elbow joint, wrist joint, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:総論 人体の構成 細胞と組織について
- 【2】:骨と筋肉
- 【3】:関節の構造
- 【4】:頭部の骨格と構造
- 【5】:体幹の骨格と構造
- 【6】:上肢の骨格と構造
- 【7】:下肢の骨格と構造
- 【8】:骨格と構造まとめ
- 【9】:頭頸部の筋肉と機能
- 【10】:体幹の筋肉①
- 【11】:体幹の筋肉②
- 【12】:上肢の筋肉

【13】: 下肢の筋肉

【14】: 筋肉まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習に関する詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内課題(複数回):50%

テキスト / Textbooks

野村巖ほか『解剖学ワークブック』医歯薬出版 2014 9784263240632

参考文献 / Readings

特に指定しない。必要に応じて授業内で紹介する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

解剖学2

Anatomy 2

竹上 綾香 (TAKEGAMI AYAKA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN262
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、骨の部位や名称、その骨に関わる関節の構造や働きを理解し、その関節を動かす筋の名称、起始(付着)・停止や神経支配について学び、スポーツ動作のメカニズムを理解する際の基礎知識の習得をねらいとする。

In this course, you will understand the parts and names of bones, the structure and function of joints, and learn about the names of muscles that move those joints, their origin and Insertion, and innervation, which will help you understand the mechanisms of sports movements.

授業の内容 / Course Contents

アスレティックトレーナーが行う選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。そのために、解剖学1にて学修した基本的な人体の構造と機能についての知識を基として、本授業では、特に運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することを目的とする。到達目標は、体幹および四肢の基礎解剖と運動について理解し、運動時に関与する骨、筋、関節、靭帯、神経支配を同定できるようになることである。

Understand the minimum structure and functions of the human body necessary for athletic trainer activities such as kinematic observation of athlete movements, evaluation of sports injuries, identification of causes, and athletic rehabilitation. To this end, based on the knowledge about the basic structure and function of the human body learned in Anatomy 1, in this class we will especially relate the bones, muscles, ligaments, joints, and innervation of the locomotor organs to physical movement. The goal is to understand the basic anatomy and movement of the trunk and extremities, and to be able to identify the bones, muscles, joints, ligaments, and innervations involved in movement.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 総論 人体の構成 細胞と組織について
- 【2】: 骨と筋肉
- 【3】: 関節の構造
- 【4】: 頭頸部の筋肉と機能
- 【5】: 体幹の筋肉と機能①
- 【6】: 体幹の筋肉と機能②
- 【7】: 上肢の筋肉と機能
- 【8】: 下肢の筋肉と機能
- 【9】: 筋肉と機能まとめ

- 【10】: 体幹の筋肉と機能に関連する身体運動①
- 【11】: 体幹の筋肉と機能に関連する身体運動②
- 【12】: 上肢の筋肉と機能に関連する身体運動
- 【13】: 下肢の筋肉と機能に関連する身体運動
- 【14】: 筋肉と機能に関連する身体運動まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習に関する詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内課題(複数回):50%

テキスト / Textbooks

野村巖ほか 『解剖学ワークブック』 医歯薬出版 2014 9784263240632

参考文献 / Readings

特に指定しない。必要に応じて授業内で紹介する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

アスレティックトレーナーの役割

Role of the Athletic Trainer

後関 慎司(GOSEKI SHINJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN264
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第5回・第10回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の役割・業務と専門性や、業務を遂行する上で必要となる多様な素養の位置づけを理解し、持続的に学び関係職種との連携を推進するための知識と態度の習得をねらいとする。

The aim of this course is to understand the role and duties of the Japan Sport Association certified Athletic Trainer (JSPO-AT), as well as the expertise required. Additionally, the goal is to acquire the knowledge and attitudes necessary for sustaining learning and promoting collaboration with related professionals to fulfill their responsibilities effectively

授業の内容 / Course Contents

スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの役割とその業務を具体的に学び、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を理解する。またアスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチやスポーツドクターなどさまざまな分野の専門家といかに連携を取って選手をサポートしていくかなど、アスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を養うとともに、最も大切である社会的秩序や倫理観を含めた「高度な一般常識」と「健全な価値観」を身につける。

This course aims to provide a detailed understanding of the roles and specific responsibilities of athletic trainers in sports. It also covers the historical background and purpose of the certification of athletic trainers by the Japan Sports Association, examining the reasons for its establishment, and comparing it with the situations in various foreign countries. Furthermore, the course delves into the organizational activities of athletic trainers, exploring their positioning, operational management, and collaboration with experts in various fields, such as coaches and sports doctors. The goal is to cultivate the necessary knowledge for athletic trainers to effectively support athletes in the field. Additionally, the course emphasizes the acquisition of "advanced general knowledge," including societal order and ethical perspectives, as well as the development of a "healthy value system."

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは
- 【2】: 国内外のアスレティックトレーナーの歴史・制度・役割
- 【3】: JSPO-ATの役割(コンピテンシー)に応じた業務と運営
- 【4】: スポーツ指導者としてのATの倫理と責任
- 【5】: JSPO-AT業務におけるリスクマネジメント

- 【6】:環境・対象者の特徴に応じた JSPO-AT の役割
- 【7】:JSPO-AT の安全と健康管理・セルフマネジメント
- 【8】:スポーツ現場で留意すべき感染症概論
- 【9】:スポーツ医・科学チームとスタッフと JSPO-AT との関係性
- 【10】:エビデンスに基づく実践 (Evidence-based practice : EBP)とは
- 【11】:JSPO-AT と研究活動
- 【12】:JSPO-AT と生涯教育
- 【13】:関係者とのコミュニケーションと留意点
- 【14】:対象者の特性とコミュニケーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート(5%×4回):20% 出席及び授業態度:40% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第1巻 アスレティックトレーナーの役割』 日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

ウェルネスと時間生物学

Wellness and Chronobiology

生体のリズムと体内時計の仕組み/Mechanisms of biological rhythms and biological clock

丸山 雄介 (MARUYAMA YUSUKE)

科目設置学部	スポーツウェルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN266
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

生体内の様々な現象は周期的に変動していることが知られている。そこで、本講義ではそのリズムを支配する体内時計の仕組みとそれによって起こる生理機能の変化について学ぶ。また、日々の中で自身の身体で繰り返される生理現象の周期性への理解を深めることを目標とする。

It is known that various physiological phenomena in the body fluctuate periodically. In this lecture, students will learn about the mechanism of the biological clock that controls the rhythms and the changes in physiological functions caused by the clock. The goal of this lecture is to deepen students' understanding of the periodicity in physiological phenomena that re repeated in their own bodies on a daily basis.

授業の内容 / Course Contents

1. 体内時計の仕組みについて講義する。
2. 睡眠を始めとした体内時計によって調節されている様々な生理機能について紹介する。
3. 日々の身体的パフォーマンスを最大限に発揮できるような時間生物学的アプローチを考える。
1. Lecture will be given on the mechanism of biological clock.
2. Various physiological functions regulated by the biological clock, including sleep, will be introduced.
3. chronobiological approach to maximize daily physical performance will be examined.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 生体の様々なリズムについて学ぼう
- 【2】: 体内時計－1 日周期で起こる生理現象について
- 【3】: 体内時計の本質－時計遺伝子とは何か
- 【4】: 生物にとっての光の意味と光同調の仕組み
- 【5】: 時刻情報を伝達するホルモン・メラトニンの働きを知る
- 【6】: スマホの使用時間について考えよう
- 【7】: 体内時計の仕組みをまとめよう
- 【8】: 朝ごはんの重要性－食事による体内時計の同調
- 【9】: 睡眠の基礎知識 1－睡眠とはどのような現象か
- 【10】: 睡眠の基礎知識 2－睡眠を引き起こす体の仕組み
- 【11】: ストレスを科学する
- 【12】: 記憶・学習と睡眠の関係
- 【13】: 潮汐・月・季節の変化に応じた生体リズム
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(ハワホ ^o)等の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業で使用するスライドは CanvasLMS にて事前に配布します。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容に関連した簡単な質問をしますので、コメントペーパーで回答して下さい。単に聴講するだけではなく各自が予習し、積極的に質疑応答が行われることを期待します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及びコメントシート:30% 中間テスト:30% 最終テスト割合::40%

中間テストと最終テストは授業時間内に行います。なお、2/3 以上出席している場合のみ成績評価の対象とします。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

海老原史樹文・吉村崇 『時間生物学』 化学同人 2012 9784759815023

田原優・柴田重信 『Q&A ですらすらわかる体内時計健康法—時間栄養学・時間運動学・時間睡眠学から解く健康』 杏林書院 2017 4764411830

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自分の体のリズムや体内時計の仕組みに興味のある全ての学生を対象とします。

生物学の知識が無くてもついてこられるように易しく話しますが、難しいと感じた部分はコメントシートで教えてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

CanvasLMS で資料を配布するので、授業前にダウンロードしてノート PC やタブレット等から書き込めるようにしておくか、印刷しておくことが望ましい。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

ウェルネス理解のための基礎生命科学

Basic Life Sciences for Understanding Wellness

生命の原理と仕組み

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

科目設置学部	スポーツウェルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN268
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

生命現象の原理を基礎から学ぶ。また特に、ヒトに関係する生命現象の機構について広く学び、ヒトの健康をベースにしたウェルネスの理解に役立つ知識を身につける。

Students will learn the principles of biological phenomena from the basics. In particular, students will learn about the mechanisms of biological phenomena related to humans, and acquire knowledge that will be useful for understanding wellness based on human health.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、生物を構成する分子とその役割について理解を深め、関係する生命現象の原理を学ぶ。これにより、幅広い学問分野である生命科学の基礎を概観するとともに、ウェルネスの理解につながる内容についてより深く学習する。

In this course, students will deepen their understanding of the molecules that make up living organisms and their roles, and learn the principles of related life phenomena. This will provide an overview of the fundamentals of life science, a broad field of study, as well as a more in-depth study of the content that leads to an understanding of wellness.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: 生命科学とは何か
- [2]: 生命はどの様に設計されているかー構成する分子ー
- [3]: 生命はどの様に設計されているかー細胞ー
- [4]: 生命はどの様に設計されているかー代謝ー
- [5]: 生命はどの様に設計されているかー遺伝情報ー
- [6]: ゲノム情報はどの様に発現するのか
- [7]: 複雑な体はどのようにしてつくられるか
- [8]: 脳はどこまでわかったか
- [9]: がんはどのような現象か
- [10]: 私たちの食と健康の関係
- [11]: ヒトは病原体にどのように備えるか
- [12]: 環境と生物はどのように関わるか
- [13]: 生命科学技術はここまで進んだ
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用
----	--	---------------	---	---------------

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業に関連する内容について質問し、コメントシートに回答を求める。単に聴講するだけでなく、各自が予習・復習をすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントシート:30% 中間テスト:30% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

東京大学生命科学教科書編集委員会編 『現代生命科学 第3版』 羊土社 2020 9784758121033

参考文献 / Readings

和田 勝 『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版』 羊土社 2020 9784758121088

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高校で生物学に触れたことがある方が望ましいが、大学から初めてこの分野を学ぼうとする学生にも対応します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC またはスマートフォン。PC が望ましい。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

環境・サステナビリティ論

Environment and Sustainability Theory

環境問題について理解を深めた上で、サステナブル社会の実現に向けて実際に行動する自分になる。

奇二 正彦 (KIJI MASAHIKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN270
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

サステナブル社会を構築するため、環境問題の現状と原因を知り、自分にできることを模索する。その一歩として、新座キャンパスや自分が住んでいる地域の自然環境にも目を向ける。

To build a sustainable society, learn about the current status and causes of environmental problems and explore what you can do to help. As a first step, we will look at the natural environment of the Niiza campus and our own community.

授業の内容 / Course Contents

環境問題が深刻化した結果、人間社会も持続可能ではなくなっている。本授業では、環境問題の原因や現状を学び、その上でサステナブル社会実現のため、自分たちにできることは何かを考える。また、問題解決のために行動する市民を目指す上で、身体と環境とのつながりを重視する。それゆえ、新座キャンパスにおいて自然観察を行ったり、自分が住んでいる地域の自然環境を調査する課題を課す。

As environmental problems have become more serious, human society is also becoming less sustainable. In this class, students will learn about the causes and current status of environmental problems and then consider what they can do to realize a sustainable society. In addition, we will emphasize the connection between the body and the environment in order to become citizens who take action to solve problems. Therefore, students will be required to observe nature on the Niiza campus and to conduct surveys of the natural environment in their own community.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 現代の環境問題概観
- 【2】: 環境問題の原因: 科学革命、産業革命、グローバル化が世界にもたらしたもの
- 【3】: 環境問題の歴史的変遷: ウィルダネスの保護から地球環境問題まで
- 【4】: 環境問題と共に歩む環境思想: 人間中心主義と生態系中心主義
- 【5】: 国際的な課題解決の取り組み: 成長の限界・地球サミット・ミレニアム
- 【6】: 持続可能な開発に関する教育(ESD: Education for Sustainable Development)
- 【7】: 新座キャンパスの自然を直接的に体験する
- 【8】: 私たちにできること①「実践的な活動」
- 【9】: 私たちにできること②「広める活動」
- 【10】: 私たちにできること③「消費する活動」
- 【11】: 私たちにできること④「主権者としての活動」
- 【12】: グループ課題の説明(グループ設定、テーマ設定)
- 【13】: グループ課題プレゼンテーション①

【14】:グループ課題プレゼンテーション②、総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題として、自分が住んでいる地域の自然環境に関する調査報告書の作成を課します。具体的な内容は授業中に指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業に参加する姿勢:70% プレゼン内容、および表現力:20% 課題:10%

平常点 70%以上を単位取得要件とする。

テキスト / Textbooks

履修登録後、メールで【テキスト】Textbooks を指定する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

私語を慎むことができる

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他 / Others

私語厳禁(真面目に履修している方の妨げになるため)

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

ウェルネス理解のための細胞生物学

Cell Biology for Understanding Wellness
細胞から生き物そしてヒトを知る

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

科目設置学部	スポーツウェルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN272
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

細胞は生物の基本単位であり、ヒトの体もおよそ37兆個の細胞からなると推定されている。真核生物の細胞で起きる生命現象の多くは広く保存されており、真核細胞について学び知ることにより、生物の理解、そしてヒトの理解を深める。
The cell is the basic unit of living organisms, and the human body is estimated to be composed of approximately 37 trillion cells. Many of the biological phenomena that occur in eukaryotic cells are widely conserved, and learning about eukaryotic cells will deepen our understanding of living organisms and humans.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、真核生物の細胞の構造と機能について学び、関連する生命現象まで含めて理解を深める。特にヒトの細胞とそこで起きる生命現象については、より詳しく学ぶ。また、ウェルネスの理解につながる内容についてはより深く学習する。

In this course, students will learn about the structure and function of eukaryotic cells and deepen their understanding of related biological phenomena. In particular, human cells and the biological phenomena that occur in them will be studied in more detail. In addition, students will learn in depth about the contents that lead to an understanding of wellness.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:細胞生物学とは
- 【2】:細胞のプロフィール
- 【3】:細胞小器官の構造と機能
- 【4】:何が細胞の形や機能を決めているか?
- 【5】:細胞が生きて活動していくために
- 【6】:タンパク質が細胞の様々な活動を担う
- 【7】:細胞内小胞輸送
- 【8】:細胞内・細胞間情報伝達
- 【9】:細胞分裂
- 【10】:生殖細胞
- 【11】:筋細胞
- 【12】:免疫細胞
- 【13】:細胞の再生と死
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業に関連する内容について質問し、コメントシートに回答を求める。単に聴講するだけでなく、各自が予習・復習をすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントシート:30% 中間テスト:30% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

和田 勝 『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学第4版』 羊土社 2020 9784758121088

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

「ウエルネス理解のための基礎生命科学」を受講していることが望ましいが、受講していない学生にも対応したい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC かスマートフォン。PC が望ましい。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

抗加齢医学とウェルネス

Anti-aging Medicine and Wellness

老化の仕組みとアンチエイジングを基礎から学ぶ/Mechanisms of senescence and basics of anti-aging

丸山 雄介 (MARUYAMA YUSUKE)

科目設置学部	スポーツウェルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN274
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

我々の体の機能は加齢により必ず衰退する。老化の仕組みを理解することで、これから自身に起こる身体的変化を知り、生涯において長く健康な生活を保つための生活習慣を取り入れることが出来る。超高齢社会である日本において知っておくべき抗加齢医学の基礎知識を身に着けることを本講義の目標とする。

Our body's functions inevitably decline with age. By understanding the mechanism of senescence, we can learn about the physical changes that will occur to us in the future and adopt lifestyle habits that will enable us to maintain a long and healthy life throughout our lives. The goal of this lecture is to provide basic knowledge of anti-aging medicine that is important to know in Japan's super-aging society.

授業の内容 / Course Contents

1. 寿命と老化の仕組みについて講義する。
2. 加齢により生じる様々な健康問題を紹介する。
3. 抗加齢医学について併せて講義し、学生自身が実践できる対策を考察する。
1. Lecture on life span and aging mechanisms.
2. Introduces the various health problems that arise with aging.
3. Anti-aging medicine will also be lectured, and measures that students can take themselves will be discussed.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 生物の寿命について考えよう
- 【2】: 生きているだけで老いるー糖化と酸化
- 【3】: 寿命を細胞レベルから考えるー細胞の分化と最期
- 【4】: 日本人の死因第1位ーがんの仕組みを理解する
- 【5】: 日常の中の老化促進因子ー光や食事、運動の影響
- 【6】: 長生きする方法ーCalorie restriction
- 【7】: 各論: 皮膚ー日焼けからしわ形成の仕組みまで
- 【8】: 各論: ホルモンーホルモンの理解と更年期障害
- 【9】: 各論: 骨ー成長と骨粗鬆症の仕組みを知る
- 【10】: 各論: 視覚ー目の構造から近視や白内障について学ぶ
- 【11】: 各論: 脳ー記憶の仕組みと認知症
- 【12】: 宇宙とキンギョの話ー宇宙医学とアンチエイジングの意外な関係
- 【13】: 抗加齢医学で注目される物質ーメラトニン
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業で使用するスライドは CanvasLMS にて事前に配布します。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容に関連した簡単な質問をしますので、コメントペーパーで回答して下さい。単に聴講するだけではなく各自が予習し、積極的に質疑応答が行われることを期待します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及びコメントシート:30% 中間テスト:30% 最終テスト割合::40%

中間テストと最終テストは授業時間内に行います。なお、2/3 以上出席している場合のみ成績評価の対象とします。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本抗加齢医学会 専門医・指導士認定委員会 『アンチエイジング医学の基礎と臨床』 メジカルビュー社 2004
9784758304917

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

寿命や老化、アンチエイジングに興味のある全ての学生を対象とします。

生物学の知識が無くてもついてこられるように易しく話しますが、難しいと感じた部分はコメントシートで教えてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

CanvasLMS で資料を配布するので、授業前にダウンロードしてノート PC やタブレット等から書き込めるようにしておくか、印刷しておくことが望ましい。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

体育原理・体育史

Principles of Physical Education, History of Physical Education

学校体育(体育・保健体育)に関する基本的な知識を身につけます。

中嶋 哲也 (NAKAJIMA TETSUYA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN276
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第7回・第10回授業を予定)。※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

学校体育(体育・保健体育)に関する基本知識について学びます。歴史的・倫理的なトピックが中心です。

Students will acquire basic knowledge of school physical education (physical and health education). Historical and ethical topics are the main focus.

授業の内容 / Course Contents

前半は体育に関する用語や、体育がなぜあるのかといった基本的な知識を学びます。中盤では、スポーツ指導に関わる基本的な考え方や知識を学びます。後半は現在の体育・スポーツに関する重要事項について議論したいと思います。

In the first half of the course, students will learn basic knowledge about physical education, including terminology and why physical education exists. In the middle part, you will learn basic concepts and knowledge about sports instruction. At the end of the session, we would like to discuss important issues related to current physical education and sports.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス。体育・スポーツの指導者とはどんな人か？
- 【2】: 体育学の基本用語について学ぶ/「体育」の翻訳
- 【3】: 18 世紀末における体育の成立/グーツムーツの普遍性
- 【4】: 国民体育の 19 世紀/ヤーンとリング
- 【5】: 日本の学校体育の成立/体操伝習所から森有礼まで
- 【6】: 体育学の基本用語について学ぶ/「スポーツ」の語源史
- 【7】: 社会の中におけるスポーツの価値
- 【8】: 基本的人権としてのスポーツ権/侵害と制約に注目する
- 【9】: 体育・スポーツ倫理/法的責任とハラスメント
- 【10】: 部活動と体罰の歴史
- 【11】: ドーピングとスポーツ倫理
- 【12】: 女性のスポーツ参加の歴史
- 【13】: アダプテッドスポーツと身体の自然性
- 【14】: 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習よりも復習を重視してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 定期的な小レポート(4回):100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本スポーツ協会(編)『Reference Book』日本スポーツ協会 2019

オイゲン・ケーニヒ(山本徳郎訳)『身体・知・力』不昧堂 1997 9784787235060

中村哲也『体罰と日本野球』岩波書店 2023 9784000616225

岸野雄三(編)『体育史講義』大修館書店 1984 4469261017

中村敏雄, 高橋健夫, 寒川恒夫, 友添秀則(編)『21世紀スポーツ大事典』大修館書店 2015 9784469062359

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

午前中なので、眠気には負けない鉄の意志があると良い。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

スポーツ教育論

Sports Education Theory

スポーツと教育の未来について考える

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN278
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第5回・第10回授業を予定)。 ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

人間や社会にとってのスポーツの意味や価値を考えるとともに、家庭、学校、地域、企業でのスポーツ教育の具体的なあり方を構想できる力を身につけることを目標とする。

The goal is to develop the ability to think about the meaning and value of sport for human beings and society, and to conceptualize specific ways of sports education in the home, school, community, and business.

授業の内容 / Course Contents

スポーツは、生活の中で生涯に亘って楽しまれ私たちの Well Being の実現にとっても関連深い文化です。またスポーツは、家庭、学校、地域、企業などの教育の作用と、さまざまな意味で結びついています。行ったり、見たり、サポートしたり、考えたりという、日々の生活の中にある広い意味でのスポーツと教育の関係について、テレビ、マンガ、インターネット、SNS などの生活の中にある具体的な事例を体験し、調べたり分析したり議論しつつ、履修者一人一人のスポーツと教育に対する理解を深めたいと思います。

Sport is a culture that is enjoyed throughout life and is very relevant to the realization of our Well Being. Sport is also connected in many ways to the educational action of families, schools, communities, and businesses. I would like to deepen each student's understanding of sports and education in the broad sense that we go, watch, support, and think about the relationship between sports and education in our daily lives, by examining, analyzing, and discussing specific examples from TV, comics, the Internet, social networking sites, and other aspects of our daily lives.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション (授業の進め方や学習の進め方などについて)
- 【2】:e スポーツとスポーツの揺らぎ -体験してみる、考えてみる、知識を貯める-
- 【3】:アニメとスポーツ -体験してみる、考えてみる、知識を貯める-
- 【4】: 苦手な生徒の学習指導法 -運動の特性について-
- 【5】: 学校体育の現在と、ICT の利活用状況 -リアル体験とデジタル体験をどう組み合わせる?-
- 【6】: 高度情報社会とスポーツと教育について -ワークショップ形式で対話してみよう-
- 【7】: 家庭、学校、地域、職場でのスポーツの今 -総合型地域スポーツクラブと社会体育-
- 【8】: 家庭、学校、地域、職場でのスポーツの今 -部活動の地域展開-

- 【9】: 学校・地域・家庭の連携のあり方
- 【10】: スポーツと家庭教育・社会教育について -ワークショップ形式で対話してみよう-
- 【11】: スポーツと国際大会、メディアの現在 -インターネット、SNS、AI、そして教育-
- 【12】: スポーツと涙 -感動体験はどこから来るの?-
- 【13】: スポーツと国際交流について -ワークショップ形式で対話してみよう-
- 【14】: スポーツと教育に関する課題と可能性について -まとめと評価-

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に、オンライン等でアクセスしやすい映像資料等を見てくることを講義中で指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ワークショップの準備と事後評価のレポート:30% 毎回の自己評価とリアクションペーパー:40%

最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

講義中に指示する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS を使用する環境は準備してください

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

データサイエンス概論

Introduction to Data Science
データサイエンス、データ分析

小林 哲郎 (KOBAYASHI TETSUO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN280
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

近年の技術革新により、スポーツウエルネス分野でも大量のデータが取得できるようになってきた。これらのデータは、競技パフォーマンス向上を目指したスポーツパフォーマンス分析や、健康増進を目指した運動処方や栄養指導の検証に広く応用されている。

本講義では、スポーツに限らず、データから意味のある情報、法則、関連性などを導き出すための、データの扱い方や分析に関する基本的な理論や分析手法を学ぶ。

Recent innovation has made it possible to acquire a large amount of data in the field of sports and wellness. These data are widely applied to sports performance analysis aimed at improving athletic performance, and verification of exercise and nutritional guidance aimed at health promotion.

In this lecture, students will learn basic theories and analysis methods regarding how to handle and analyze data, not limited to the field of sport and wellness, in order to derive meaningful insights and trends from data.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、データサイエンスの分野における一般的な課題とそれらを解決するデータサイエンスの手法を学ぶとともに、実務での事例についても理解を深める。Python によるプログラミングや BI ツールを利用したデータの可視化についても学ぶ。

This course will provide you knowledge regarding data science-based problem-solving skills. During this semester, you will learn major data science problems, data science methods to solve such problems, and applied use cases in real business. Students will also learn basics of Python programming and data visualization with a BI tool.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス, 自己紹介, データ分析の目的
- 【2】: 一般的なデータ分析プロセスとデータ分析課題定義
- 【3】: 機械学習の基礎(1-1): 教師あり学習(回帰)
- 【4】: 機械学習の基礎(1-2): 教師あり学習(回帰)
- 【5】: 特定業界のデータ活用事例
- 【6】: 機械学習の基礎(2-1): 教師あり学習(分類)
- 【7】: 機械学習の基礎(2-2): 教師あり学習(分類)
- 【8】: 機械学習の実践
- 【9】: 機械学習の基礎(3): 教師なし学習
- 【10】: 探索的データ分析(1)
- 【11】: 探索的データ分析(2)
- 【12】: データサイエンスの最新情報(1)

【13】: データサイエンスの最新情報(2)

【14】: ニューラルネットワークと大規模言語モデル

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の小テスト:30 % 複数回のレポート(10%/レポート):60% 授業内の発表:10%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本講義では基本的な PC でのファイル操作(ファイルのコピーやペースト、ファイルの圧縮や解凍など)や基本的な Google Drive の操作方法(Google Drive 上のフォルダ・ファイル操作、ファイルのコピー・共有など)、Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint)の操作方は習得していることを前提とします。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題提出には PC での作業が必須となります。個人の PC を持参することを強く推奨します。あるいはメディアセンターより PC を借りるようにしてください。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツウエルネス学特別講義A

Special Lecture on Sport and Wellness A
 スポーツウエルネスの研究 / Research in Sports Wellness

野坂 和則(NOSAKA KAZUNORI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN282
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	<p>8月に集中授業形式で実施する。8月1日(金)、4日(月)、5日(火)、6日(水)の4日間。 8月1日:2時限 10:45~12:25、3時限 13:25~15:05、4時限 15:20~17:00 8月4日:2時限 10:45~12:25、3時限 13:25~15:05、4時限 15:20~17:00 8月5日:2時限 10:45~12:25、3時限 13:25~15:05、4時限 15:20~17:00、5時限 17:10~18:50 8月6日:2時限 10:45~12:25、3時限 13:25~15:05、4時限 15:20~17:00、5時限 17:10~18:50 よって、100分間の授業14回分を4日間で実施する。 4-day intensive face-to-face course in August. August 1 (Fri): 10:45-12:25, 13:25-15:05, 15:20-17:00 August 4 (Mon): 10:45-12:25, 13:25-15:05, 15:20-17:00 August 5 (Tue): 10:45-12:25, 13:25-15:05, 15:20-17:00, 17:10-18:50 August 6 (Wed): 10:45-12:25, 13:25-15:05, 15:20-17:00, 17:10-18:50 These are equivalent to 14 weeks.</p>
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SWN2003
使用言語	その他	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業60単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツウェルネスをより良く、より深く理解し、実戦に生かしていくためには「研究する、研究できる能力」が不可欠である。この授業では講義ならびに実習を通し、スポーツ、ウェルネスに関わる「研究」のノウハウの基礎を習得することを目標とする。研究において重要な、英語でのコミュニケーション能力の向上も目標とする。

It is crucial to develop “research ability” to better understand sports and wellness. In the classes, students will learn about “research” by lectures and develop research skills including research communication skills through practice.

授業の内容 / Course Contents

- 1) ガイダンス、自己紹介
- 2) 講義: 研究とは何か? なぜ必要か? どう行うか?
- 3) 研究論文の検索の仕方、読み方、まとめ方
- 4) 研究論文の紹介1 (1分間スピーチ: 日本語、英語)
- 5) 研究論文の紹介2 (3分間スピーチ: 日本語、英語)
- 6) 研究発表 (10分間スピーチ: 日本語あるいは英語)
- 7) 授業のまとめと今後の展望

- 1) Guidance, Self introduction
- 2) Lecture: What is research, why is it important, and how to do it?
- 3) How to find articles, how to read them, and how to summarize them
- 4) Introduction of an article in 1 minutes
- 5) Introduction of another article in 3 minutes
- 6) Presentation of a study in 10 minutes
- 7) Wrap-up of the class and future directions

授業計画 / Course Schedule**【1】: 集中講義第1日目**

- 1) ガイダンス、自己紹介: 教員による授業内容、進め方、評価についての説明の後、各自の自己紹介行う
- 2) 講義: 研究とは何か? なぜ必要か? どう行うか? : 教員がパワーポイントスライドを用い説明する
- 3) 研究論文の検索の仕方、読み方、まとめ方: 教員から説明を受けた後、自分の興味のあるテーマでの学術論文を検索し、読んで、まとめてみる(実習)

August 1

- 1) Guidance, Self introduction
- 2) Lecture: What is research, why is it important, and how to do it?
- 3) How to find articles, how to read them, and how to summarize them

【2】: 集中講義第1日目

- 1) ガイダンス、自己紹介: 教員による授業内容、進め方、評価についての説明の後、各自の自己紹介行う
- 2) 講義: 研究とは何か? なぜ必要か? どう行うか? : 教員がパワーポイントスライドを用い説明する
- 3) 研究論文の検索の仕方、読み方、まとめ方: 教員から説明を受けた後、自分の興味のあるテーマでの学術論文を検索し、読んで、まとめてみる(実習)

August 1

- 1) Guidance, Self introduction
- 2) Lecture: What is research, why is it important, and how to do it?
- 3) How to find articles, how to read them, and how to summarize them

【3】: 集中講義第1日目

- 1) ガイダンス、自己紹介: 教員による授業内容、進め方、評価についての説明の後、各自の自己紹介行う
- 2) 講義: 研究とは何か? なぜ必要か? どう行うか? : 教員がパワーポイントスライドを用い説明する
- 3) 研究論文の検索の仕方、読み方、まとめ方: 教員から説明を受けた後、自分の興味のあるテーマでの学術論文を検索し、読んで、まとめてみる(実習)

August 1

- 1) Guidance, Self introduction
- 2) Lecture: What is research, why is it important, and how to do it?
- 3) How to find articles, how to read them, and how to summarize them

【4】: 集中講義第2日目

- 1) 研究論文の紹介1 (1分間スピーチ: 日本語、英語): 教員から説明を受けた後、第1日目に検索した論文から一つを選び、その内容について1分間で発表する。まずは原稿を日本語ならびに英語で書く。その後、発表練習を行い、皆の前で発表する。

August 4

1) Introduction of an article in 1 minutes

【5】: 集中講義第2日目

1) 研究論文の紹介1 (1分間スピーチ: 日本語、英語): 教員から説明を受けた後、第1日目に検索した論文から一つを選び、その内容について1分間で発表する。まずは原稿を日本語ならびに英語で書く。その後、発表練習を行い、皆の前で発表する。

August 4

1) Introduction of an article in 1 minutes

【6】: 集中講義第2日目

1) 研究論文の紹介1 (1分間スピーチ: 日本語、英語): 教員から説明を受けた後、第1日目に検索した論文から一つを選び、その内容について1分間で発表する。まずは原稿を日本語ならびに英語で書く。その後、発表練習を行い、皆の前で発表する。

August 4

1) Introduction of an article in 1 minutes

【7】: 集中講義第3日目

1) 研究論文の紹介2 (3分間スピーチ: 日本語、英語): 第2日目とほぼ同じであるが、発表時間が3分となり、一枚のスライドの使用が可となる。教員から説明を受けた後、第1日目に検索した論文から一つを選び、その内容について3分間で発表する。まずは原稿を日本語ならびに英語で書く。その後、発表練習を行い、皆の前で発表する。

August 5

1) Introduction of another article in 3 minutes

【8】: 集中講義第3日目

1) 研究論文の紹介2 (3分間スピーチ: 日本語、英語): 第2日目とほぼ同じであるが、発表時間が3分となり、一枚のスライドの使用が可となる。教員から説明を受けた後、第1日目に検索した論文から一つを選び、その内容について3分間で発表する。まずは原稿を日本語ならびに英語で書く。その後、発表練習を行い、皆の前で発表する。

August 5

1) Introduction of another article in 3 minutes

【9】: 集中講義第3日目

1) 研究論文の紹介2 (3分間スピーチ: 日本語、英語): 第2日目とほぼ同じであるが、発表時間が3分となり、一枚のスライドの使用が可となる。教員から説明を受けた後、第1日目に検索した論文から一つを選び、その内容について3分間で発表する。まずは原稿を日本語ならびに英語で書く。その後、発表練習を行い、皆の前で発表する。

August 5

1) Introduction of another article in 3 minutes

【10】: 集中講義第3日目

1) 研究論文の紹介2 (3分間スピーチ: 日本語、英語): 第2日目とほぼ同じであるが、発表時間が3分となり、一枚のスライドの使用が可となる。教員から説明を受けた後、第1日目に検索した論文から一つを選び、その内容について3分間で発表する。まずは原稿を日本語ならびに英語で書く。その後、発表練習を行い、皆の前で発表する。

August 5

1) Introduction of another article in 3 minutes

【11】: 集中講義第4日目

1) 研究発表 (10分間スピーチ: 日本語あるいは英語): 第2日目あるいは第3日目で使用した論文の著者になりきり、論文の内容を10分間で紹介する。まずは原稿を日本語あるいは英語で書く。その後、発表練習を行い、学会形式で皆の前で発表し、質問を受け答える。

2) 授業のまとめと今後の展望: 4日間の授業を振り返り、まとめをする。今後も継続的にスポーツウエルネスに関わる「研究」を行っていくために必要なこと、そして英語でのコミュニケーション能力の向上を図るための方法を確認する。

August 6

1) Presentation of a study in 10 minutes

2) Wrap-up of the class and future directions

【12】: 集中講義第4日目

1) 研究発表 (10分間スピーチ: 日本語あるいは英語): 第2日目あるいは第3日目で使用した論文の著者になりきり、論文の内容を10分間で紹介する。まずは原稿を日本語あるいは英語で書く。その後、発表練習を行い、学会形式で皆の前で発表し、質問を受け答える。

2) 授業のまとめと今後の展望: 4日間の授業を振り返り、まとめをする。今後も継続的にスポーツウエルネスに関わる「研究」を行っていくために必要なこと、そして英語でのコミュニケーション能力の向上を図るための方法を確認する。

August 6

1) Presentation of a study in 10 minutes

2) Wrap-up of the class and future directions

【13】:集中講義第4日目

1) 研究発表(10分間スピーチ:日本語あるいは英語):第2日目あるいは第3日目で使用した論文の著者になりきり、論文の内容を10分間で紹介する。まずは原稿を日本語あるいは英語で書く。その後、発表練習を行い、学会形式で皆の前で発表し、質問を受け答える。

2) 授業のまとめと今後の展望:4日間の授業を振り返り、まとめをする。今後も継続的にスポーツウエルネスに関わる「研究」を行っていくために必要なこと、そして英語でのコミュニケーション能力の向上を図るための方法を確認する。

August 6

- 1) Presentation of a study in 10 minutes
- 2) Wrap-up of the class and future directions

【14】:集中講義第4日目

1) 研究発表(10分間スピーチ:日本語あるいは英語):第2日目あるいは第3日目で使用した論文の著者になりきり、論文の内容を10分間で紹介する。まずは原稿を日本語あるいは英語で書く。その後、発表練習を行い、学会形式で皆の前で発表し、質問を受け答える。

2) 授業のまとめと今後の展望:4日間の授業を振り返り、まとめをする。今後も継続的にスポーツウエルネスに関わる「研究」を行っていくために必要なこと、そして英語でのコミュニケーション能力の向上を図るための方法を確認する。

August 6

- 1) Presentation of a study in 10 minutes
- 2) Wrap-up of the class and future directions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

アクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を行う。

Based on the active learning method, practical training and exercise are included.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎日、次の日の授業に向けての課題が出る。それを行うのに2時間程度は必要である。

It will be required to spend approximately 2 hours to prepare for the next day class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 1分間発表(英語)1-min presentation:30% 3分間発表(英語)3-min presentation:30% 10分間発表(英語または日本語)10-min presentation:40%

発表の仕方については授業で説明する。

How to present will be explained in the classes.

テキスト / Textbooks

特になし

No textbook

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に提示する。必要な資料は配布する。

Necessary articles will be informed or distributed in classes.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

向上心、やる気、粘り強さ。4日間の集中授業全てに出席できること。授業内容に積極的に取り組む姿勢。

Aspiration, Motivation, Persistence. It is required to attend all classes over the 4 day-period. It is expected that students will work hard on the activities.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

立教大学のWiFi(図書館の資料)に接続可能なラップトップコンピュータを持参する。そのコンピュータにて、Microsoft社のWORDとPOWER POINTのアプリケーションの使用が可能なこと。

A laptop computer that can access to the library materials of Rikkyo University. The computer should have the Microsoft WORD and POWER POINT applications installed.

その他 / Others

夏季休業中のため、様々な予定があるかもしれないが、原則として4日間、20時間の集中授業への出席が履修にとっての最低条件である。英語での発表もあり、授業は容易ではないが、得られるものは大きいと思うので、積極的に受講してほしい。海外での生活や仕事についての情報も提供する。集中授業期間中、授業前(朝)ならびに後(夕)それぞれ1時

間程度は教員とのコミュニケーションを図れる自由時間を設けるので、気軽に何でも聞いてほしい。

Please note that the classes are held in the period of summer break. Attending all classes and performing the three presentations are required. The lecturer will be available during the 4 days before and after the classes (1 hour each).

Please contact him when you need a help.

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/春学期集中

異文化スタディ

Cross-Cultural Study

江原 義智 / マックグラス (EHARA YOSHITOMO / MCGRATH KELLY F.)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN370
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	SWN2403
使用言語	その他	授業形式	講義
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 秋学期集中科目 4 年次生履修不可		

授業の目標 / Course Objectives

海外のフィールドにおいて、現地の人と交流をしながら、異なる生活や文化、価値観に触れ、異文化を体験する。また、英語能力の向上を目指し、外国人と積極的にコミュニケーションをとり、グローバルなマインドを身につけることを目標とする。

In overseas fields, students will experience different cultures by interacting with local people and coming into contact with different lifestyles, cultures, and values. In addition, the aim is also to improve English proficiency, actively communicate with foreigners, and acquire a global mindset.

授業の内容 / Course Contents

2025 年度の海外プログラムは、シンガポールをフィールドにして、スポーツ関連の内容も題材に、以下のプログラムや活動で構成される予定である。また、シンガポールへの出発前には、国内において、情報収集や履修者同士のディスカッションおよび意見交換など、事前学習を実施する。さらに、帰国後には最終プレゼンを実施し、また、自身の将来への展望を視野に入れ、プログラムのアウトプットを意識した事後学習＝プログラム全体の振り返りを行う。

■オリエンテーション

■講義・ディスカッション

■グループプロジェクト&フィールドワーク

■現地の人との交流&異文化体験

■プロジェクトのまとめ&中間プレゼン

■最終プレゼン(帰国後にオンラインにて実施予定)

(※以上のプログラムは現在調整中であり、これから変更になる可能性がある。)

The study-abroad program for the academic year 2025 is planned to be held in Singapore and will consist of the following programs and activities, including sport-related topics. Prior to the departure for Singapore, program participants will gather information and engage in discussions and opinion sharing in order to prepare for the program abroad. After returning to Japan, participants will give a final presentation, and reflect together on the whole program, also related to their own future prospects and with an awareness of the program's outputs.

■Orientation

■Lectures & discussions

■Group projects & field work

■Interaction with local people & cross-cultural experience

■Project summary & interim presentation

■Final presentation (to be conducted online after returning to Japan)

(※The above program is currently being coordinated and subject to change.)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス&イントロダクション
- 【2】: 事前学習－異文化を学び体験するとは？海外研修に対する目的意識醸成の学習
- 【3】: 事前学習－異文化体験への心構え(現地情報調査、異文化適応力、外国語運用能力)
- 【4】: 海外プログラム
- 【5】: 海外プログラム
- 【6】: 海外プログラム
- 【7】: 海外プログラム
- 【8】: 海外プログラム
- 【9】: 海外プログラム
- 【10】: 海外プログラム
- 【11】: 海外プログラム
- 【12】: 最終プレゼン
- 【13】: 事後学習－プログラムの振り返り
- 【14】: 事後学習－まとめ&将来への展望を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

本科目は、実際に海外に渡航して、現地にてプログラムに参加して学習するものである。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業における事前学習と事後学習に加えて、自身で積極的に情報収集をして、現地でより充実した学びが得られるように、英語学習も含め入念な準備を心がけて予習・復習を実施する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前学習・事後学習への参加意欲および参加態度:20% 海外プログラムへの参加態度&最終プレゼン:60% 最終レポート:20%

事前学習と事後学習への出席は必須であり、単位取得の条件とする。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて、こちらで用意する資料を配布する。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に紹介する。

その他 / Others

現在(2025年3月時点)、海外プログラムは調整中であるが、概要及び主な注意点は以下の通りである。

- ・海外プログラムの詳細等を説明する履修ガイダンスは5月～6月に行う予定である。
- ・現地滞在については、2026年2月～3月の間に5泊7日間の予定である。
- ・本学の教員は海外プログラムには随行しない。現地コーディネーターが帯同する予定である。
- ・海外プログラム実施のための最少催行人数:8名

※2024年度は、シンガポールのプロサッカークラブが受け入れ団体で海外プログラムを実施しました。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/秋学期集中科目/4年次生履修不可

身体文化論

Culture and the Body

近代スポーツの諸性格／再発見される身体文化

中嶋 哲也 (NAKAJIMA TETSUYA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN400
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第7回・第10回授業を予定)。※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

我々は自己の身体から離れて存在できません。その身体は精神同様、教育や環境から様々な影響を受けて形成されています。そうして形成された身体は我々の精神や社会にも影響を与えます。この授業では、身体文化という言葉で「身体を形成する営み」と捉え、それにはどういったものがあるのかを学びます。

We cannot exist apart from our own body. The body, like the mind, is formed by a variety of influences from education and environment. The body that is formed in this way also influences our mind and society. In this class, we will take the term "body culture" to mean "the activity that forms the body" and learn what it entails.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、次の2つの命題をめぐって議論します。

- (1) イギリス発祥の身体文化である近代スポーツがどのように成立し、グローバル化したのか。
- (2) 近代スポーツの広がりとともに、ヨーロッパ以外の身体文化がどのように再発見されたのか。

In this lecture, we will discuss the following two topics.

- (1) How did modern sport, a physical culture originating in UK, become established and globalized?
- (2) How was Asian physical culture rediscovered with the spread of modern sport?

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 東西の身体文化
- 【2】: 近代スポーツの成立前史: 農事歴と民俗フットボール
- 【3】: 遊びは真面目か不真面目か?: レジャーの誕生
- 【4】: 近代スポーツの成立①: パブリックスクールとアスレティズム
- 【5】: 近代スポーツの成立②: プロとアマはいかに生れたのか?
- 【6】: スポーツとジェンダー: 女子スポーツとは何か?
- 【7】: 身体加工と科学技術: ドーピングについて
- 【8】: アダプテッド・スポーツ: 「身体の零度」を疑ってみる。
- 【9】: 民族スポーツについて: weio の事例
- 【10】: 東南アジアのツーリズムと身体文化
- 【11】: 近代ヨーガの誕生: 東西の異種混雑
- 【12】: ヨーガからみる現代のインド

【13】: 日本武道の心法論: 身体実践から思考を紡ぐ技芸

【14】: 講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習ではなく復習をやってください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 毎回のリアクションペーパー: 56% 定期的な小レポート(4回): 44%

3分の2以上の出席をしていない場合は、単位修得不可

テキスト / Textbooks

使用しません。

参考文献 / Readings

坂上康博、中房敏朗、石井昌幸、高嶋航(編) 『スポーツの世界史』 一色出版 2018 9784909383044

ニコ・ベズニエほか 『スポーツ人類学』 共和国 2020 4907986653

マーク・シングルトン(喜多千草訳) 『ヨガ・ボディ』 大隅書店 2014 4905328063

寒川恒夫編 『よくわかるスポーツ人類学』 ミネルヴァ書房 2017 9784623080151

志々田文明・大保木輝雄編 『日本武道の武術性とは何か』 青弓社 2020 4787234722

授業時間内に適宜示します。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

発育・発達・加齢論

Human Development and Aging

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN402
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

発育・発達の性差と個人差、運動との関係、現代のこどもの諸問題、加齢に伴う生体構造、機能の変化、発達障害や認知症についての知識を深める。

Students will deepen their knowledge of topics such as: growth and development in relation to gender and individual differences; relationship with exercise; children's issues today; physical changes that accompany the maturing process; changes of functions and capabilities; developmental disorders; dementia.

授業の内容 / Course Contents

成熟への過程で生じる様々な身体の部分や組織・器官の形態の増大をさす発育、行動や動作、運動能力などの時間経過に伴う機能的な変化をさす発達、そして老化に代表される成熟期以後の変化を捉えた加齢という3つの視点から、各期の身体的特徴及び心理的特徴、障害の特徴について学習する。

Learn about the physical and psychological characteristics of the three different periods of our lives and about the characteristics of disability: development through expansion of our body parts, tissues and organs as we mature; development through functional changes with the passage of time, such as actions, movements, and motor skills; aging as represented by the process of getting old and the changes that occur after we reach maturity.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 発育・発達の概念
- 【2】: 妊娠期から産後の心身の変化や社会課題、産後のヘルスケア
- 【3】: 神経の発達、脳の構造変化
- 【4】: 運動機能の発達と接し方の重要性
- 【5】: 幼児の体格と生理機能の発達
- 【6】: 幼児の心の発達と健康
- 【7】: 身体機能の発達と運動
- 【8】: 子供の生活習慣の必要性
子どもの眠り
- 【9】: 子供の生活習慣の必要性
子どもの栄養
- 【10】: 思春期の心と身体の変化
- 【11】: 障害の理解、捉え方、発達障害の理解と支援(1)
- 【12】: 発達障害の理解と支援(2)
- 【13】: 加齢と身体の機能、老化予防、認知症の理解
- 【14】: まとめ

これから子育てに向かう皆さんに向けてのメッセージ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に各回のテーマについて調べておくこと(各回約2時間). 授業後には Canvas LMS に掲載される授業スライドを見て復習すること(各回約2時間)

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内小テスト:10% 授業内レポート:20% リアクションペーパー:10%

テキスト / Textbooks

特に指定しない. 授業時に資料を配付する.

参考文献 / Readings

青柳 領 『子どもの発育発達と健康』 ナカニシヤ出版 2006

高石昌弘 監修 『からだの発達と加齢の科学』 大修館書店 2012

日本介護福祉士養成施設協会 編 『発達と老化の理解/認知症の理解/障害の理解/こころとからだのしくみ』 法律文化社 2016

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツウエルネス心理学(基礎)

Sports Wellness Psychology (Basic)

日常生活の充実と競技力向上のための心理学

遠藤 伸太郎(ENDO SHINTARO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN404
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

競技者にとって、心理的な知識や技術を習得することは競技力を向上させるための重要な手段の一つである。また非競技者にとっても、スポーツや身体運動を実施することにより、心理面や身体面などのウエルネスレベルの向上などさまざまな効果が期待される。本講義では、心理的スキルの基礎的な知識を習得し、競技力の向上や日常生活でのウエルネスレベルの向上に応用できることを目指す。

The acquisition of psychological knowledge and skills is an important way for athletes to improve their performance. Sports and physical exercise can have various benefits such as improvements in psychological state and levels of fitness and wellness, even for those who are not engaged in competitive activity. The aim of this course is for students to acquire a basic knowledge of psychological skills and to be able to apply these to improving their competitive capabilities and their levels of well-being in daily life.

授業の内容 / Course Contents

競技者にとっては、心・技・体のバランスとそれらの向上が競技力を高めるのに欠かせないが、特に一流競技者では心理面での知識や方略が勝敗を分けることは珍しくない。一方非競技者に注目すると、スポーツや身体運動は、体力の向上や生活習慣病の予防などの身体的側面ばかりではなく、最近では認知機能や心理社会的側面においても重要な働きを持つことが明らかとなっている。本講義では、前半に身体運動に関連した行動変容やストレス対処に関連する基礎的な知識、後半はスポーツに関連したトピックス等について学ぶ。内容は受講生の興味や社会情勢などにより柔軟に対応する。For athletes, improving the balance between the respective elements of the mind, the body and technique is essential for improving competitive ability. It is not uncommon, especially in top athletes, for psychological knowledge and strategy to be the difference between winning and losing. For non-competitors, sports and physical activity also have an important role to play not only in physical aspects such as the improvement of physical strength and prevention of lifestyle-related diseases, but also, more recently in the cognitive function and psychosocial aspects. In the first half of this course, students will learn about mental skills, psychology, and wellbeing in their daily lives; in the second half they will learn how these relate to sports activities and the meaning of life. We will adjust the contents flexibly according to the students' interests and social situation, etc.

授業計画 / Course Schedule

- (1): はじめに
- (2): 身体運動が持つ心理的効果と健康行動への影響
- (3): 行動変容理論の実践的適用
- (4): 行動変容を意図したプログラム開発及びカウンセリング
- (5): 運動が持つ健康行動への影響(1)
- (6): 運動が持つ健康行動への影響(2)

- 【7】:あがりの克服・リラクゼーションの技術
- 【8】:メンタルトレーニング
- 【9】:イップスを考える
- 【10】:スポーツとタイプ A 行動様式
- 【11】:スポーツと GRIT
- 【12】:スポーツ選手の心理サポート～ストレスマネジメントとカウンセリング～
- 【13】:スポーツと勇気～アドラー心理学～
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業前や授業後に課題を提示し、その提出や発表を求めることがある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 小テスト:25% リアクションペーパー:25%

2/3 以上の出席を単位取得の条件とする。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて講義中に紹介する。

その他 / Others

最低限の出席回数を満たしていても、最終レポートの内容が基準を満たさない場合には単位を取得できない場合があるので、十分に注意したい。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

ストレングスコンディショニング論(基礎)

Strength and Conditioning Theory (Basic)

竹上 綾香(TAKEGAMI AYAKA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN406
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、各種体力・運動能力向上のためのコンディショニング計画立案と実践に必要な知識について理解することをねらいとする。

This course aims to provide an understanding of the knowledge necessary to formulate and practice conditioning plans to improve various physical strength and athletic abilities.

授業の内容 / Course Contents

コンディショニングとは心身の状態を好ましい方向に整えることを意味している。スポーツにおける体調管理や試合に向けてベストコンディションにもっていくための方法としては、ピーキングやテーピングなどの手法が使われているが、これらの考え方は、身体トレーニングや栄養摂取、治療なども含めた総合的な身体への働きかけや精神的な影響などを理解しなければならない。このような競技力向上に向けた体調管理の理論と方法を学ぶ。また、年齢を考慮したコンディショニングの方法についても言及する。

Conditioning means adjusting your physical and mental state in a favorable direction. Techniques such as peaking and tapering are used to manage physical condition in sports and to get into the best condition for competitions, but these ideas also include physical training, nutrition, and treatment. We must understand how it works on the body as a whole and its psychological effects. Learn the theory and methods of managing your physical condition to improve your competitive ability. We will also discuss conditioning methods that take age into consideration.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ストレングス・コンディショニングとは何か
- 【2】: 体力・運動能力向上のためのトレーニングプログラムの基礎
- 【3】: スタビリティ&バランストレーニング
- 【4】: ストレングス・レジスタンストレーニング①
- 【5】: ストレングス・レジスタンストレーニング②
- 【6】: パワートレーニング①
- 【7】: パワートレーニング②
- 【8】: エンデュランストレーニング①
- 【9】: エンデュランストレーニング②
- 【10】: スピード・アジリティトレーニング①
- 【11】: スピード・アジリティトレーニング②

【12】:ウォーミングアップとクールダウン①

【13】:ウォーミングアップとクールダウン②

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

実技を行う回では動きやすい服装、シューズ、飲み物を準備すること。

また、体調を万全にして授業に臨むこと。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 授業内テスト(複数回):60%

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第3巻 コンディショニング』 日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

運動・スポーツ栄養学(基礎)

Exercise and Sports Nutrition (Basic)

勝つための栄養戦略

杉浦 克己(SUGIURA KATSUMI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN408
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第6回・第9回授業)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

運動生理学およびトレーニング科学の視点から栄養学を捉え直し、スポーツ栄養学の基礎を学ぶとともに、運動実践者に対する栄養指導の実際を学ぶ。

Review nutrition and learn the basics of sports nutrition in terms of exercise physiology and training science, while learning about practicing nutrition guidance for exercise practitioners.

授業の内容 / Course Contents

日常の食事を、運動と関連づけて見直し、栄養素レベルの理解の上に適切な食品の選択が成り立つことを理解する。また、アスリートの栄養指導事例から参考になる要素を抽出し議論することにより、運動時の身体活動量と代謝の変化に応じた栄養摂取について考案し、提案できるように指導する。

Review daily meals in relation to exercise, learning that choosing appropriate food requires an understanding of nutrient levels. Students are taught how to devise and make proposals about nutrient intake according to changes in their level of physical activity and the metabolism when exercising, based on looking into and discussing useful aspects of nutrition guidance cases for athletes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・食生活(食事・飲料)と健康運動
- 【2】: 食事摂取基準と食事バランスガイド
- 【3】: エネルギーと炭水化物
- 【4】: タンパク質とカラダづくり
- 【5】: 脂肪とウエイトコントロール
- 【6】: ビタミン・ミネラルとコンディショニング
- 【7】: 水分補給
- 【8】: サプリメントとエルゴジェニック
- 【9】: 成長期、女性スポーツの注意点
- 【10】: 瞬発系・パワー系・持久系競技の栄養
- 【11】: 審美系・階級制競技・チームスポーツの栄養
- 【12】: 身体活動量の定量と栄養・食事アセスメント
- 【13】: 栄養サポートの実際(ゲストスピーカー)
- 【14】: スポーツ栄養マネジメント、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

スポーツ栄養士をゲストスピーカーに招く。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの当該箇所を必ず読んでくること

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回の課題:40%

テキスト / Textbooks

杉浦克己『スポーツ栄養学がわかる』大修館書店 2021 13 9784469269208

参考文献 / Readings

田口素子・樋口満編『体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学』市村出版 2014 13 9784902109320

メルビンウィリアムズ『スポーツ・エルゴジェニク—限界突破のための栄養・サプリメント戦略』大修館書店 2000 13 9784469264333

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具。

その他 / Others

初回の授業時にテキストを持参すること。

担当教員が発信するYouTube が参考になる。

https://www.youtube.com/channel/UCRBkmlF2SOFH_j5ne9IYhVw

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツ社会学

Sports Sociology

現代スポーツにおける実践的・理論的課題とその乗り越えの可能性

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN410
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツとそれを取り巻く様々な問題を社会的に検討し、スポーツと現代社会をめぐる理論的、実践的課題とその乗り越えの可能性を検討する。

The course covers a sociological review of sports and related issues, and a consideration of theoretical and practical issues concerning sports and modern society and potential solutions.

授業の内容 / Course Contents

スポーツは文化であると同時に社会的な現象である。スポーツの高度化と大衆化は、プラスのみならずマイナスの機能も生じさせている。本授業では、スポーツを社会的現象として捉え、その成立、発展、変動のメカニズム、高度化と大衆化に伴う歪みや葛藤等を考究し、その乗り越えの可能性を探る。

Sports is both a culture and a social phenomenon. The popularization and development of sport has both positive and negative connotations. In this class, sports are regarded as a social phenomena. Students consider the process of formation, development and change in sport, investigate the distortions and conflicts which arise from its advance and popularization, and explore potential solutions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: スポーツの社会的理解
- 【2】: スポーツの人気と記号消費
- 【3】: 消費社会とオルタナティブスポーツの可能性ー障害者プロレスをめぐって
- 【4】: 近代スポーツの成立とスポーツリベラリズム
- 【5】: 現代スポーツシステムの特徴と危機(1)ースポーツの文化的特性
- 【6】: 現代スポーツシステムの特徴と危機(2)ースポーツの意義と価値
- 【7】: スポーツルールの社会学(1)ールールの構造と機能, 変更の力学
- 【8】: スポーツルールの社会学(2)ーメンバーチェンジの思想をめぐって
- 【9】: 現代スポーツと社会的逸脱(1)ードーピングの問題性とスポーツの本質
- 【10】: 現代スポーツと社会的逸脱(2)ーバーンアウト問題
- 【11】: 身体と体力の社会学(1)ー歴史的な身体と体力
- 【12】: 身体と体力の社会学(2)ー溶けるからだ
- 【13】: 身体と体力の社会学(3)ーからだの教養とこれからの体育・スポーツ
- 【14】: 授業のまとめ これからのスポーツのあり方を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲や課題は、必要に応じて授業時に提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:10% 課題:10%

なお、1/3 以上欠席したものについてはD評価とする。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要な文献についてはその都度指示し、必要に応じてコピーを配布する。

参考文献 / Readings

松尾哲矢 『アスリートを育てる<場>の社会学－民間クラブがスポーツを変えた』 青弓社 2015 9784787233882

その他 / Others

積極的な受講を期待します。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

測定評価演習

Statistical Evaluation

川原 布紗子(KAWAHARA FUSAKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN412
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施予定(第2回、第7回)。 日程の変更がある場合にはCanvas LMSにて伝達する。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3220
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学者対象 人数制限 40名		

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、人々の健康づくりやスポーツ選手の競技力向上に役立てることを目的とした測定・評価のスキルを体験的に習得する。

Students will gain experience in measurement and evaluation skills aimed at aiding improvement in people's health and athletes' ability to compete.

授業の内容 / Course Contents

はじめに体力測定評価の目的や意義について学ぶ。また多様な測定実習を通じて、健康づくりから競技力向上までのあらゆる目的に応じた測定実践スキルを獲得する。さらに、PCを活用した測定データの分析実習を通じて、測定結果を単なる数値の羅列から、運動やスポーツ指導の現場で活用できる情報へと要約するスキルを身につける。

Students will learn the purpose and significance of assessing physical fitness. They will acquire practical skills for measuring physical strength from training in various measurements. Furthermore, students will acquire techniques enabling them to summarize results from simple numerical sequences into information that can be used for exercise and sports instruction, through training in analysis of measurement data using a PC.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーションおよび体力測定評価(高齢者を含む)の目的と意義
- 【2】:講義:体力測定と評価
- 【3】:測定実習:基本的な体力測定
- 【4】:測定実習:発展的な体力測定
- 【5】:分析実習:体力データの整理・要約
- 【6】:分析実習:体力データの統計分析
- 【7】:講義・測定実習:身体組成の測定
- 【8】:講義・測定実習:タレント発掘のための測定と活用
- 【9】:測定・分析実習:介護予防に関連する体力測定と評価
- 【10】:講義:パフォーマンス/コンディショニングのための測定と評価
- 【11】:講義・実習:スポーツ現場におけるGPS・心拍モニターの活用方法
- 【12】:測定実習:GPS・心拍モニターを用いた計測①
- 【13】:測定実習:GPS・心拍モニターを用いた計測②
- 【14】:フィードバック・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(ハワホ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の出席状況およびリアクションペーパー:50% 授業中に指示した提出物:30% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings**注意事項(検索結果画面)**

2023 年度以降入学者対象/人数制限 40 名

アダプテッド・スポーツ論

Adapted Sports

(パラスポーツ指導員 初級・中級資格取得 関連科目)

田中 信行(TANAKA NOBUYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN414
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ活動・指導に関して幅広い考え方を養うため、一般に積極的な身体運動が適応しにくい状況の人(障がい児・者、高齢者等)が、スポーツなどの積極的な身体活動を行う意義やその方法を理解することを目標にします。

In order to develop a wide range of ideas regarding sports activities and instruction, the objective of the course is for people who find exercise challenging (such as adults and children with disabilities or elderly people) to understand the importance of being physically active, such as playing sport, and also how to practice these.

授業の内容 / Course Contents

アダプテッドスポーツ(概要)について理解を深められる内容を紹介しします。

まずは、対象者の状況(加齢・障がい等)を理解し、その上で、積極的な身体運動の例を表示し、その指導プログラムの作成の概要を理解するための内容を紹介しします。

なお、授業に関する連絡は、Canvas LMS の「お知らせ」に掲示しますので、前日の 21 時過ぎに授業資料とともに確認してください。

The course introduces content that can deepen students' understanding of adapted sports (in summary).

First, the class will cover the basics for understanding a subject's situation (age, disability, etc.), providing examples of active physical exercise, and drawing up an instruction program of them.

Note that class information will be posted in Notice on Canvas LMS. Students should check this after 9:00PM the evening before the class for information as well as the class materials required.

授業計画 / Course Schedule

[1]:・オリエンテーション(本授業で使用する言葉を含む)

・運動プログラム作成及び提供にあたっての基本的な考え方 -"コミュニケーションスキルの基礎"を含む-

[2]:身体運動に向けたプログラム

[3]:加齢に伴う身体的変化及びトレーナビリティについて

[4]:主に虚弱高齢者を対象にした運動プログラムについて(介護予防に向けて)

[5]:スポーツの力 -"障がい者スポーツの意義と理念"を含む-

[6]:"補装具の理解" -日常生活・スポーツ用の車いす・義足・杖・等機能と構造-

[7]:車いす使用者と運動プログラム -車いすの操作・移動特性・使用者の理解- (演習的实施)

("安全管理""各障がいのスポーツ上の留意点と工夫""リスクマネジメント"を含む)

[8]:肢体不自由者と運動プログラム -脳血管障害及び装具の理解- (演習的实施)

("安全管理""各障がいのスポーツ上の留意点と工夫""リスクマネジメント"を含む)

[9]:視覚障がい者と運動プログラム-1

(視覚障がい者の理解(見え方や点字 他) / 取り組まれているさまざまなスポーツ)

【10】:視覚障がい者と運動プログラム-2 (演習的实施)

(“安全管理”“各障がいのスポーツ上の留意点と工夫”“リスクマネジメント”を含む)

【11】:知的障がい者と運動プログラム-1 国内外のスポーツ大会におけるスポーツ (演習的实施)

(“安全管理”“各障がいのスポーツ上の留意点と工夫”“リスクマネジメント”を含む)

【12】:知的障がい者(発達障がい者)と運動プログラム-2 (演習的实施)

(“安全管理”“各障がいのスポーツ上の留意点と工夫”“リスクマネジメント”を含む)

【13】:“最重度の障がい者のスポーツの実際”

【14】:発達性共調運動障がいと運動指導

(評価を14回目に実施する場合は変更)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、授業資料を授業前日 21 時ころまでに、Canvas LMS に Up しますので、各自で目を通しておいてください。また普段から、高齢者や障がい者に関わる報道を意識して、本分野に関わるもので疑問等がありましたら、授業後等に尋ねてください。内容によっては、授業に反映させます。

受講の皆さんの状況により、授業内で提出する課題を出す場合がありますので、復習等に利用してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

出席数は、文科省指示により加点対象とならない。2/3(9回)以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。遅刻 1/3 欠席(授業開始から 20 分まで)・早退 1/3 欠席(事前に相談あった場合のみ)とし、その他は欠席。また欠席の配慮を行うのは大学(事務)から連絡があった場合のみ。なお IC リーダーの他に、状況に寄り授業中又は後に課題を提示します。その際は両対応があった場合のみ出席とし、一方の場合は欠席。さらに代理等不正があった場合は、関わった人全てを本授業の評価不可とします。

テキスト / Textbooks

本来は購入が良いのですが、例えば資格認定に関わる内容を示した日本パラスポーツ協会 編の書籍が、2,640 円となります。ですが、授業では配付資料とします。

前日の 21 時頃までに大学“Canvas LMS”に提示します(下記の「その他」も参照)。各自でダウンロードして印刷、または PC (Mac やタブレットなど)保存して持参してください。これは、欠席者がいると、1 種類の資料毎に、毎回、多くの用紙が廃棄になる可能性があるためです。環境保護のためにもご協力願います。ただし、“初回のみ”、教員が印刷していきます。欠席した際の資料もダウンロードできます。

ファイルが PDF のため、PC 保存の場合はメモが取れないため、PC 内のメモアプリや専用ノートの作成を推奨します。

参考文献 / Readings

植木章三 代表著者『イラストアダプテッド・スポーツ概論』東京教学社 2017 9784808260507

矢部京之助編著『アダプテッド・スポーツの科学』市村出版 2009 9784902109016

日本パラスポーツ協会 編『障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)』ぎょうせい 2020 9784324108031

授業内容外の質問に該当するものや時間の制約で説明できない場合には、文献等を紹介しますので、各自で確認願います。授業の終了後に問い合わせください。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

単位取得のための履修では無く、アダプテッドスポーツに関わる知識修得をし、よりスポーツの機会の拡大を目指す志のある人であることを求めます。

スポーツの実施には Fair であることが大切です。そのため、適正な授業態度を行う事ができない態度は許されませんので承知ください。

その他 / Others

先の“テキスト その他”で示しましたが、授業資料は、「Canvas LMS→“コース”→“すべてのコース”→“アダプテッド・スポーツ論”→“ファイル”→(該当する)“ファイル”→ダウンロードから、各自でダウンロードして印刷/PC に保存し持参してください。

その他の連絡では、先述の順から「アナウンスメント」より連絡するものもありますので承知ください。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学対象

ダイバーシティ・スポーツ論

Theory of Diversity in Sports
スポーツジェンダー論

佐野 信子(SANO NOBUKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN416
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーの視点からスポーツについて考究するための基礎的な概念を習得し、また、現代社会にみられるスポーツや体育のそれぞれについてジェンダーの視点から検討し、分析視角を養うことを目標とする。

The goal is to learn the fundamentals for thinking about sport from the perspective of gender, consider from the perspective of gender, topics such as sport and physical education as seen from modern society, and develop your analytic skills.

授業の内容 / Course Contents

現代社会にはスポーツをめぐる様々な問題がみられるが、ジェンダーに起因するものも少なくない。人々がより高次のウエルネスを追求するためには、ウエルネスをめぐる様々な事象についてジェンダーの視点からの問い直しが欠かせない。文献講読をし、議論をする中でスポーツやウエルネスへの新たなアプローチを紹介する。

Various problems surrounding sports are evident in modern society, and those stemming from gender are not insignificant. For people to demand a higher level of wellness, various issues surrounding wellness need to be reevaluated from the perspective of gender. We will introduce new approaches to sport and wellness through critical reading of the literature and debate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: ジェンダー概念の検討(1) ジェンダー概念の登場
- 【3】: ジェンダー概念の検討(2) ジェンダー概念の変遷
- 【4】: ジェンダー概念の検討(3) 今日的なジェンダー概念
- 【5】: 動画視聴及びテキスト講読; ディスカッション(1)
- 【6】: 動画視聴及びテキスト講読; ディスカッション(2)
- 【7】: 動画視聴及びテキスト講読; ディスカッション(3)
- 【8】: 動画視聴及びテキスト講読; ディスカッション(4)
- 【9】: 動画視聴及びテキスト講読; ディスカッション(5)
- 【10】: 動画視聴及びテキスト講読; ディスカッション(6)
- 【11】: 動画視聴及びテキスト講読; ディスカッション(7)
- 【12】: 動画視聴及びテキスト講読; ディスカッション(8)
- 【13】: 動画視聴及びテキスト講読; ディスカッション(9)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ジェンダーの視点からスポーツや体育、ウェルネスについて日頃から考える習慣をつけてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート①:30% 中間レポート②:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

テキストは授業の進行により、各回で最善と思われる文献を履修者に配布し講読する。

参考文献 / Readings

飯田貴子他編著『よくわかるスポーツとジェンダー』ミネルヴァ書房 2018

その他 / Others

授業の構成上、「身体科学からの学び(佐野担当)」「ウェルネスプロモーション論」「ダイバーシティ・スポーツ演習」と内容の一部が重複することとなる。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツ政策

Sports Policy

齋藤 健司(SAITO KENJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN418
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

日本及び諸外国のスポーツ政策の基本制度、政策体系、現状及び課題を理解し、スポーツ政策における基本的な知識を身につけることを目標とする。また、政策学、行政学、法学的な視点からスポーツ政策を考えることを目標とする。スポーツの推進や振興のための実務のための基本的知識を身につける。スポーツ政策の多様な問題や課題を認識し、スポーツウエルネス社会の実現に向けて問題を解決するための基礎的な能力を身につける。

The goal of this course is to understand the basic system, policy system, current situation and issues of sports policy in Japan and other countries, and to acquire basic knowledge in sports policy. In addition, the purpose of this course is to think about sports policy from the perspectives of policy studies, public administration, and law, and to acquire basic knowledge for practical work for promoting and encouraging sports. Students will also acquire the basic ability to recognize the diverse issues and challenges of sports policy and to solve problems in order to realize a sports wellness society.

授業の内容 / Course Contents

日本のスポーツ政策の基本的な知識について、政策決定、政策実施及び政策評価の政策過程の視点から解説する。また、スポーツ政策の政策体系、基本制度及び関連する事業や取組について解説する。スポーツ政策に関する具体的な政策課題について、国内外のスポーツ政策の実施状況や課題を解説する。これらの基本的知識を講義するにあたっては、関連する政策学などの理論や論点、歴史的な背景などを交えて解説する。

In this course the basic knowledge of Japanese sports policy from the perspective of the policy process of policy making, policy implementation and policy evaluation will be explained. In addition, the policy system of sports policy, basic system and related projects and initiatives will be explained. Regarding specific policy issues related to sports policy, the implementation status and issues of sports policy in Japan and overseas will be explained. When lecturing on these basic knowledge, we will explain related theories and issues of policy studies, historical background, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: スポーツ政策とは何か。日本のスポーツ政策の基本方針。スポーツ基本法。スポーツ基本計画。スポーツ立国戦略。スポーツ予算。
- 【2】: スポーツ政策の政策過程(政策決定、政策実施、政策評価)と政策体系(政策、施策、事業)。スポーツ政策のロジックモデル。スポーツ基本計画等の政策体系。スポーツ政策のアウトプット・アウトカム・ベネフィット。
- 【3】: スポーツ行政組織と体育・スポーツ政策の歴史。文部科学省、スポーツ庁、関連省庁。スポーツ行政組織の内部部局や所掌事務の変化。スポーツ審議会。
- 【4】: スポーツ政策のネットワーク。組織間の連携。スポーツの中央地方関係、独立行政法人。スポーツを通じた地域の連携協働。スポーツに関する官民連携パートナーシップ。
- 【5】: スポーツ政策の実施と評価。スポーツ人口政策と政策指標。スポーツ実施率、行政事業レビュー。KPI。エビデンスにもとづくスポーツ政策。

【6】:スポーツ政策の決定とスポーツ基本法。スポーツ議員連盟と前決定過程。スポーツ政策の政策アクター。利益集団としてのスポーツ団体。メディア。

【7】:スポーツ立法政策。スポーツ仲裁とガバナンス。スポーツ団体ガバナンスコード。

中間テストを授業時間中に行う。出題範囲は、第1回から第6回までの講義配布資料の基本的な知識とする。

【8】:学校体育政策と部活動施策。体罰・ハラスメント・暴力問題と政策課題。学習指導要領。設置基準。

【9】:地域スポーツ施策の政策実施。地域スポーツクラブ、スポーツ指導者資格、スポーツイベント。スポーツを通じたまちづくり・地方創生。

【10】:競技力向上政策とスポーツ産業政策。ハイパフォーマンス事業。スポーツインテリジェンス事業。競技者の発掘・育成。スポーツの成長産業化。スポーツのDX化。スポーツツーリズム及び観光施策。

【11】:スポーツ施設の整備と政策。スタジアム・アリーナ改革。スポーツ施設の現況。スポーツ施設の設置基準。ゴールデンプラン。

【12】:アンチ・ドーピング政策とスポーツのインテグリティ。スポーツの公正性・透明性

【13】:国際スポーツ政策とオリンピック政策。

【14】:スポーツ政策の経済分析及び政策分析。スポーツイベントの経済波及効果。

最終テストを授業時間中に行う。出題範囲は、第7回から第13回までの講義配布資料の基本的な知識とする。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

毎回の授業において、アクティブラーニングを取り入れて、リアクションペーパーで設問や課題に関して回答を記述してもらう。リアクションペーパーの代わりに、Canvas LMS を活用する場合もある。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途 Canvas LMS で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート:30% 毎回の授業内に指示した提出物:50% 中間テスト:10% 最終テスト:10%
2/3 以上の出席をしていない場合には、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦編 『スポーツ政策論』 成文堂 2011 9784792380670

日本スポーツ法学会監修 『標準テキストスポーツ法学第3版』 エイデル研究所 2020 9784871686501

日本体育・スポーツ政策学会監修 『公共政策の中のスポーツ』 晃洋書房 2021 9784771035010

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

毎回、コメントシートなどの記載を限られた時間で行うため、文章を短い時間でまとめる能力が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義の配布資料は、Canvas LMS を用いて配布するので、コンピュータやスマートフォンなど Canvas LMS の講義資料を参照するための機器等を準備することが望ましい。

Canvas LMS を用いてリアクションペーパー課題の解答をする予定なので、アクセスし課題に回答できるための機器(スマートフォンやパソコン)を準備する必要がある。

その他 / Others

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用する。

レポート課題などは配布資料及び Canvas LMS で告知する。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

健康政策

Health Policy

柳川 尚子 (YANAGAWA NAOKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN420
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

身体活動・運動を中心とした我が国の健康づくり政策の概要とその意義を学び、国民の健康で豊かな生活を支える政策を分析・判断できる基本的な力を身に着ける。

Students will obtain an overview of Japan's health promotion policy, centered on physical activity and exercise, and acquire the basic ability to analyze and evaluate the policy process that supports the well-being of a healthy and wealthy people.

授業の内容 / Course Contents

配布資料に基づき、等身大の健康課題からその動向や背景を解説していく。また、健康づくりの現場の声を聞いたり、健康づくりに関する施策を調査・発表することにより、理解を深める。

Explaining the background and trends from real-life health issues, based on handouts. In addition, we will listen to voices from those within the health promotion in the field, deepen our understanding through related presentations and surveys on health promotion policies.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 健康政策アウトライン
- 【2】: 日本が誇る医療保険制度
- 【3】: 健康づくり対策の変遷～感染症撲滅から生活習慣病予防へのシフト
- 【4】: 行動変容を促すナッジ理論
- 【5】: 健康格差とソーシャルキャピタル
- 【6】: たばこがん
- 【7】: 健康づくり最前線の現場
- 【8】: 健康日本 21(第三次)(研究プレゼンテーション)
- 【9】: 健康日本 21(第三次)(研究プレゼンテーション)
- 【10】: 女性の健康づくり
- 【11】: 身体活動・運動の効果
- 【12】: 超高齢社会を支える介護保険制度
- 【13】: 地域包括ケアシステムの思想と貯筋運動プロジェクト
- 【14】: 最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

期間中、1人1回、指定のテーマの中から選択して調査分析した結果をパワーポイントにより発表する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究プレゼンテーション:20% 授業内に行うリアクションペーパー:40% 最終テスト割合::40%

2/3以上の出席をしていない場合は単位取得不可。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

スポーツコーチ学

Sports Coaching

スポーツを指導するための心構えと基礎知識

塩田 徹 (SHIODA TORU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN422
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ選手を支援するコーチングとは何かを考える。また、スポーツ選手がパフォーマンスを最大限に発揮できるように、トレーニング効果を理解し、試合に活かすために、コンディショニングを整える方法や実践などについて総合的に学習する。

Consider what coaching players and athletes means and involves. Also, gain a thorough knowledge of how to best adjust athletes' condition and how to implement this, and understand the effects of training to help them maximize their performance and best utilize this for competition.

授業の内容 / Course Contents

スポーツ選手の指導者は、選手の体力や技術など、また練習環境に応じた適切なトレーニングを課すことが必要となる。また、目標を設定し、チームをまとめ精神的な強さを身につけさせることもコーチングの役割である。この授業では、そのために必要なコーチングの姿勢、トレーニング論、コンディショニング法など様々な理論と実践を紹介していく。

Players' and athletes' coaches need to implement appropriate training according to the physical strength and skills of the athletes and their practice environment. It is also the role of coaching to educate athletes in goal setting and mental resilience. To this end, the lectures introduce a range of theories and practical methods, including approach to coaching, training theories and methods of conditioning.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: コーチングとは コーチングの哲学
- 【2】: コーチングの目的とコミュニケーション
- 【3】: コーチングに求める役割1 コーチの責任と役割
- 【4】: コーチングに求める役割2 安全なスポーツ環境の構築
- 【5】: コーチングに求める役割3 いじめとハラスメントへの対処法
- 【6】: コーチングに求められる知識とスキル1 チームマネジメント
- 【7】: コーチングに求められる知識とスキル2 トレーニング計画の基本
- 【8】: コーチングに求められる知識とスキル3 筋力&持久力の向上
- 【9】: コーチングに求められる知識とスキル4 心理&スキルの改善
- 【10】: コーチング環境の特徴1 対象に応じた指導
- 【11】: コーチング環境の特徴2 発掘・育成
- 【12】: 時代をリードするコーチング 女性コーチの役割と活躍
- 【13】: ハイパフォーマンスにおける今日的なコーチング
- 【14】: コーチングの到達目標の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習範囲や課題は授業で説明する

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業態度:30% 授業中に課す小レポート:40% 最終授業のテスト:30%

テキスト / Textbooks

使用しない。適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業内で指示する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

コーチングスキル

Coaching Skill

江原 義智 (EHARA YOSHITOMO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN424
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、スポーツ選手に対するコーチとしての対応手法を習得して、プレーヤーズセンタードなコーチングを理解し、選手との良好な関係の中でコーチングを行えるようにする。

The objectives of this course are to develop coaching skills for players, understand the player-centered approach, and build positive relationships with players.

授業の内容 / Course Contents

コーチとして活動するときのスキルを向上させていくために、コーチに求められる専門的知識、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキル等の対他者の対応とレジリエンスやアンガーマネジメントなどのセルフマネジメントといった対自己の対応について学んでいく。また、これらの理論や手法の実践力を養うために、グループディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等を導入した授業を展開する。

To improve their coaching skills, students will learn the professional knowledge, interpersonal skills (communication, presentation, facilitation, etc.), and intrapersonal skills (resilience, anger management) required of coaches. In this course, students will also participate in group discussions, debates, and group work exercises to gain practical skills and knowledge.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: コーチングスキルとは
- [3]: グッドプレーヤー像、グッドコーチ像
- [4]: コーチングのサイクル
- [5]: コーチに求められる専門的知識と役割①
- [6]: コーチに求められる専門的知識と役割②
- [7]: 対他者への対応①コミュニケーションスキルの理論と背景
- [8]: 対他者への対応②リスニングスキル
- [9]: 対他者への対応③プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキル
- [10]: 対自己への対応①コーチのセルフマネジメント
- [11]: 対自己への対応②レジリエンス
- [12]: 対自己への対応③アンガーマネジメント、ストレスマネジメント
- [13]: プレーヤーの特性に応じたコーチング
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内課題:40%

テキスト / Textbooks

必要に応じて適宜配布する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

スポーツ・健康産業論

Sports and Health Industry
スポーツ・健康関連産業の理解

工藤 康宏 (KUDO YASUHIRO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN426
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施予定(第1回、第4回、第14回)。日程の変更がある場合には Canvas LMS にて伝達する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

- (1) スポーツやレジャー産業、健康産業領域の現状を把握する。
 - (2) スポーツやレジャー産業、健康産業領域の歴史、現状や背景について説明できる。
 - (3) スポーツやレジャー産業、健康産業領域の課題や将来の発展の方向性について考察できる。
- (1) Understand the current situation of the sports, leisure and health industries.
 - (2) Explain the history, current situation and background of the sports, leisure and health industries.
 - (3) To be able to consider issues and future development directions in the sports, leisure and health industries.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、現代社会におけるスポーツ、レジャー&レクリエーション、健康領域に関連するビジネスや産業に関する知識・理解を深めることを目的としている。さらに、これらの分野の歴史、将来展望、課題についても取り上げる。

The aim of this lecture is to deepen knowledge and understanding of the businesses and industries related to sports, leisure and recreation, and health in modern society. In addition, it will also cover the history, future prospects, and issues of these fields.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス 授業の目的、進め方、スポーツ、レジャー&レクリエーション、健康産業の概要1
- 【2】: スポーツ、レジャー&レクリエーション、健康産業の概要2
- 【3】: スポーツ施設産業
- 【4】: スポーツ用品産業
- 【5】: 消費者の理解1
- 【6】: 健康・フィットネスクラブ
- 【7】: 健康ビジネス、ウェルネス、ヘルスケア
- 【8】: レジャー&レクリエーション
- 【9】: スポーツツーリズム、ヘルスツーリズム1
- 【10】: スポーツツーリズム、ヘルスツーリズム2
- 【11】: スポーツイベント
- 【12】: プロスポーツ
- 【13】: 消費者の理解2
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

日常生活の中におけるスポーツ、レジャー、健康の産業に関連する事例収集の機会などがある。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の予習範囲や課題は、必要に応じて授業時や Canvas LMS を通じて提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 各授業内容の振り返り:20% 課題レポート:20% 中間振り返り:10%

最終テスト割合:20%

テキスト / Textbooks

テキストは特に指定せず、必要な文献は都度、指示し、必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

原田宗彦 『スポーツ産業論第7版』 杏林書院 2021 9784764415966

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義内容の理解度の確認やリアクションペーパー入力のために、QRコードを読み取る必要があるため、それに対応したスマートフォンやタブレットなどを必要とする。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

コンディショニングの実際

Conditioning Practices
 予防とコンディショニング

後関 慎司(GOSEKI SHINJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN428
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第5回・第10回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 同一内容 2 時限開講(1 時限のみ履修可) 人数制限 60 名		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、装具・防具、ストレッチング、テーピングにおけるスポーツ外傷・障害の予防効果を理解し、それらの活用について安全かつ効果的に実践できることをねらいとする。

This course aims to understand the preventive effects of sports injuries and disabilities through the use of equipment, protective gear, stretching, and taping. The objective is to comprehend the preventive benefits of these practices and implement them safely and effectively in practical applications.

授業の内容 / Course Contents

スポーツチームにおいて、ドクター及びコーチやその他のスタッフと連携をとり、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・障害の応急処置、リハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニングを担当するのがトレーナーである。この授業では、このような役割を果たすために必要な知識と技能を習得するために、次の内容の実技実習とグループディスカッションを行う。1) スポーツ外傷の応急処置について 2) 専門的ストレッチについて 3) テーピングとマッサージ 4) コンディショニングトレーニング。

In a sports team, the trainer collaborates with doctors, coaches, and other staff members to oversee athlete health management, injury prevention, first aid for sports injuries and disabilities, rehabilitation, and physical conditioning. In this class, practical training and group discussions will be conducted to acquire the knowledge and skills necessary to fulfill such roles. The topics include: 1) emergency measures for sports injuries, 2) specialized stretching techniques, 3) taping and massage, and 4) conditioning training.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: 導入 トレーナーとは
- [2]: スポーツ外傷・障害予防の考え方
- [3]: スポーツ外傷・障害に対する予防的手段(装具・防具、ストレッチング、テーピング)
- [4]: ストレッチングの実際
- [5]: テーピング(基礎・足関節①)
- [6]: テーピング(足関節②)

- 【7】:テーピング(足関節③・実技テスト)
- 【8】:テーピング(膝関節①)
- 【9】:テーピング(膝関節②・実技テスト)
- 【10】:テーピング(その他)
- 【11】:応急処置
- 【12】:ストレッチ
- 【13】:マッサージ
- 【14】:コンディショニングトレーニング、レジスタンス運動

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業態度:40% 実技テスト:40% 授業内レポート(5%×4回):20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本スポーツ協会 『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』 日本スポーツ協会 2022年
プリント配布

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目ではないが、推奨科目である。

その他 / Others

実技中心の授業展開となるため、積極的な授業参加と主体性のある行動を求めます。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学対象/同一内容2時限開講(1時限のみ履修可)/人数制限60名

コンディショニングの実際

Conditioning Practices
 予防とコンディショニング

後関 慎司(GOSEKI SHINJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN429
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第5回・第10回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 同一内容 2 時限開講(1 時限のみ履修可) 人数制限 60 名		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、装具・防具、ストレッチング、テーピングにおけるスポーツ外傷・障害の予防効果を理解し、それらの活用について安全かつ効果的に実践できることをねらいとする。

This course aims to understand the preventive effects of sports injuries and disabilities through the use of equipment, protective gear, stretching, and taping. The objective is to comprehend the preventive benefits of these practices and implement them safely and effectively in practical applications.

授業の内容 / Course Contents

スポーツチームにおいて、ドクター及びコーチやその他のスタッフと連携をとり、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・障害の応急処置、リハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニングを担当するのがトレーナーである。この授業では、このような役割を果たすために必要な知識と技能を習得するために、次の内容の実技実習とグループディスカッションを行う。1) スポーツ外傷の応急処置について 2) 専門的ストレッチについて 3) テーピングとマッサージ 4) コンディショニングトレーニング。

In a sports team, the trainer collaborates with doctors, coaches, and other staff members to oversee athlete health management, injury prevention, first aid for sports injuries and disabilities, rehabilitation, and physical conditioning. In this class, practical training and group discussions will be conducted to acquire the knowledge and skills necessary to fulfill such roles. The topics include: 1) emergency measures for sports injuries, 2) specialized stretching techniques, 3) taping and massage, and 4) conditioning training.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: 導入 トレーナーとは
- [2]: スポーツ外傷・障害予防の考え方
- [3]: スポーツ外傷・障害に対する予防的手段(装具・防具、ストレッチング、テーピング)
- [4]: ストレッチングの実際
- [5]: テーピング(基礎・足関節①)
- [6]: テーピング(足関節②)

- 【7】:テーピング(足関節③・実技テスト)
- 【8】:テーピング(膝関節①)
- 【9】:テーピング(膝関節②・実技テスト)
- 【10】:テーピング(その他)
- 【11】:応急処置
- 【12】:ストレッチ
- 【13】:マッサージ
- 【14】:コンディショニングトレーニング、レジスタンス運動

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業態度:40% 実技テスト:40% 授業内レポート(5%×4回):20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本スポーツ協会 『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』 日本スポーツ協会 2022年
プリント配布

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目ではないが、推奨科目である。

その他 / Others

実技中心の授業展開となるため、積極的な授業参加と主体性のある行動を求めます。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学対象/同一内容2時限開講(1時限のみ履修可)/人数制限60名

コンディショニング概論

Introduction to Conditioning

竹上 綾香 (TAKEGAMI AYAKA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN430
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、競技特性の分析を行い、その結果をコンディショニング計画立案に活用できるようになることをねらいとする。また、対象者の特徴や、環境変化が対象者のコンディショニングに及ぼす影響を理解し、それらの情報を安全で効果的なコンディショニング計画立案と実践に活用できるようになることをねらいとする。

In this course, the aim is to conduct an analysis of sports characteristics and utilize the results in the formulation of a conditioning plan. Additionally, the objective was to understand the characteristics of the target individuals and the impact of environmental changes on their conditioning. The goal is to incorporate this information into the planning and implementation of safe and effective conditioning programmes.

授業の内容 / Course Contents

コンディショニングの概念を学び、スポーツ実践者(競技者)が最高のパフォーマンスを発揮するために必要な要因、具体的な方法の実際について競技特性を踏まえて理解する。また傷害予防のためのアプローチやそのための環境づくりの方法を学び、多様なスポーツ現場においてその時々々に求められる目的にあったコンディショニングの方法を身につける。

In this course, you learn the concept of conditioning and understand the factors necessary for sports practitioners (athletes) to achieve their best performance, and the practical application of specific methods based on the characteristics of the sport. You will also learn approaches to injury prevention, how to create an environment for injury prevention, and acquire conditioning methods that meet the objectives required in a variety of sports settings.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:コンディショニングに必要な競技特性の分析とは
- 【2】:競技特性の分析(バイオメカニクスの・運動生理学的視点)
- 【3】:競技特性分析の例
- 【4】:分析した結果の活用
- 【5】:競技特性に応じた体力測定の実施
- 【6】:対象者の特徴や環境変化がコンディショニングに及ぼす影響
- 【7】:外的環境への対策
- 【8】:女性アスリートの特性とコンディショニング
- 【9】:成長期の特性とコンディショニング
- 【10】:高齢者の特性とコンディショニング
- 【11】:障がい者とコンディショニング

【12】:減量・増量

【13】:ICT および各種テクノロジーを活用したコンディショニング事例

【14】:まとめ(コンディショニングを効果的に行うためには)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内テスト(複数回):60% 授業参加度:40%

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第3巻 コンディショニング』 日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)資格取得に必須の科目である

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用するため、必要な機器を持参すること

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

アスリハ&リコンディショニング概論

Introduction to Athletic Rehabilitation and Reconditioning

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN432
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業)※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の役割における「リコンディショニング」の位置づけを理解したうえで、これらに必要な知識を習得することをねらいとする。

The aim of this course is to understand the position of "reconditioning" in the role of JSPO-AT, and to acquire the knowledge necessary for "reconditioning".

授業の内容 / Course Contents

アスレティックリハビリテーション&リコンディショニングの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーション&リコンディショニングのプログラミングと実際、競技(種目)特性に基づいたアスレティックリハビリテーション&リコンディショニングのプログラミング方法を理解する。またスポーツ活動に必要な運動器の機能的要因・体力的要因を理解し、パフォーマンスを低下させる主要因としてのスポーツ外傷・障害を学び、適切なリハビリテーションプログラムの立案と安全に配慮したトレーニング指導を身につける。

The course will provide an understanding of the fundamentals of athletic rehabilitation and reconditioning and the programming methods of athletic rehabilitation and reconditioning based on the characteristics of athletic activities. In addition, to understand the functional and physical factors of the musculoskeletal system necessary for sports activities, to learn about sports injuries and disorders as major factors that reduce performance, to develop appropriate rehabilitation programs, and to acquire training instructions that take safety into consideration.

授業計画 / Course Schedule

- [1]:リコンディショニングの概要
- [2]:リコンディショニングの過程と内容
- [3]:リコンディショニングで用いる代表的な手法①
- [4]:リコンディショニングで用いる代表的な手法②
- [5]:リコンディショニングで用いる代表的な手法③
- [6]:スポーツ外傷・障害後のコンディション不良に対する評価とリコンディショニング
- [7]:スポーツ動作の繰り返しによるコンディション不良に対する評価とリコンディショニング
- [8]:リコンディショニングプログラミングの実際①
- [9]:リコンディショニングプログラミングの実際②
- [10]:リコンディショニングに必要な組織修復、治癒過程の知識
- [11]:機能的、身体的な状態に応じたリコンディショニング(概論)

【12】: 部位ごとの状態に応じたリコンディショニング(概論)

【13】: スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング(概論)

【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内テスト(複数回):60% 授業参加度:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第4巻 リコンディショニング』 日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)資格取得に必須の科目である

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用するため、必要な機器を持参すること

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

測定と評価

Measurement and Evaluation

竹上 綾香 (TAKEGAMI AYAKA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN434
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 120 名		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では JSPO-AT に必要とされる検査・測定・評価についてその目的と意義を学び、具体的な評価プロセス理解できることをねらいとする。

This course aims to help students learn the purpose and significance of the inspections, measurements, and evaluations required for JSPO-AT, and to understand the specific evaluation process.

授業の内容 / Course Contents

アスレティックトレーナーの業務に必要とされる測定・評価について、その意義と考え方を学び、具体的な測定・評価の実践と結果から問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力を習得する

Learn the significance and way of thinking about measurement and evaluation required for the work of athletic trainers, understand the process of implementing specific measurement and evaluation, and extracting problems from the results, and acquire the ability to put them into practice.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:JSPO-AT が行う検査・測定・評価とは
- 【2】:JSPO-AT が行う検査・測定・評価の全体像
- 【3】:形態の評価
- 【4】:関節可動域の評価
- 【5】:関節弛緩性・関節動揺性・関節不安定性の評価
- 【6】:筋力の評価①(徒手筋力検査)
- 【7】:筋力の評価②(機器を用いた筋力評価)
- 【8】:筋パワーの評価
- 【9】:持久力の評価①
- 【10】:持久力の評価②
- 【11】:敏捷性の評価
- 【12】:バランス機能の評価
- 【13】:一般的な体力測定
- 【14】:心理アセスメントの指標

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

実技を行う回では動きやすい服装(極力半袖・半ズボンを着用すること)、シューズ、飲み物を準備すること。
また、体調を万全にして授業に臨むこと。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 授業内テスト(複数回):60%

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第6巻 検査・測定と評価』 日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

【要確認】日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目であり、JSPO-ATに必要な技術習得のための実技を行うため、専門性が非常に高い授業である。そのため、JSPO-ATの資格試験を受験する意志のある学生が履修すること。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 120名

スポーツ医学(外傷・障害)1

Sports Medicine (Trauma/Disorder) 1

加藤 晴康(KATO HARUYASU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN436
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	対面(一部オンライン) 3回以下でオンライン授業の可能性あり。詳細は授業内およびCANVASにて説明する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、スポーツ活動中に発症しうる外傷・障害、更には重篤な外傷に関する基礎知識について理解する。また、これらの外傷・障害からのスポーツへの復帰プロセスで留意すべき点を理解し、関連医療職とのコミュニケーションを円滑にすすめるための知識と態度の習得をねらいとする。

In this course, the aim is to have an understanding of foundational knowledge related to injuries and overuse that may occur during sports activities, including severe traumas. Additionally, the course aims to comprehend key considerations in the return-to-sport process following these injuries and overuse, and to acquire knowledge and attitudes that facilitate smooth communication with healthcare professionals in related fields.

授業の内容 / Course Contents

スポーツを行う人たちやスポーツを指導する人たちなど、スポーツに関わる人にとって、ケガ(外傷+障害)は大きな問題であり、ケガを克服することは、大変重要なことである。スポーツに関わるすべての人たちが、スポーツに生じるケガについて知ることは、ケガによってスポーツを行うことを断念する人がゼロへ近づける第一歩である。トレーナーを含め、スポーツに関わるすべての人に必要なスポーツ医学を学ぶ。

For individuals engaged in sports, including both participants and instructors, injuries (comprising both trauma and overuse) pose a significant concern. Overcoming injuries is crucial, and understanding how to do so is of utmost importance. For everyone involved in sports, acquiring knowledge about injuries that can occur in sports is the first step towards minimizing the number of individuals who have to give up sports due to injuries. It is essential for everyone involved in sports, including trainers, to learn the necessary sports medicine.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入 スポーツにおける外傷・障害とは
- 【2】: 上肢の代表的なスポーツ外傷・障害①
- 【3】: 上肢の代表的なスポーツ外傷・障害②
- 【4】: 上肢の代表的なスポーツ外傷・障害③
- 【5】: 体幹の代表的なスポーツ外傷・障害①
- 【6】: 体幹の代表的なスポーツ外傷・障害②
- 【7】: 体幹の代表的なスポーツ外傷・障害③
- 【8】: 下肢の代表的なスポーツ外傷・障害①
- 【9】: 下肢の代表的なスポーツ外傷・障害②

【10】: 下肢の代表的なスポーツ外傷・障害③

【11】: スポーツ現場でおこりうる留意すべき重篤な外傷・障害

【12】: スポーツ現場でおこりうる留意すべき眼科、耳鼻科、歯科、皮膚科領域の代表的な外傷

【13】: 対象別によるスポーツ外傷・障害の特徴と留意事項

【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習および復習に関して、授業中に課題を出すので、指定したオンライン授業支援システムへ提出すること。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

Students will be given preparation and review during each lecture. They should submit the assignment with the Canvas LMS. Each lesson will take approximately two hours to prepare and review.

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

公認アスレティックトレーナー専門科目テキストワークブック

参考文献 / Readings

<必要なときは適宜配布>

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

(公財)日本スポーツ協会アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目であり、授業内容はかなり専門的内容となる。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

スポーツ医学(外傷・障害)2

Sports Medicine (Trauma/Disorder) 2

スポーツ医学(外傷・障害)2/Sports Medicine (Trauma/Disorder) 2

脇 英彰(WAKI HIDEAKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN438
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、スポーツ活動で発生する外傷や障害について、各部位ごとの知識を詳細に理解し、その評価方法や具体的な対処法を学ぶ。また、各部位の体表解剖の知識を深め、それを基にした適切な対応スキルを習得することを目標とする。

This course aims to provide a detailed understanding of injuries and disorders associated with sports activities, focusing on knowledge specific to each body part. Students will learn evaluation methods and specific treatment approaches. Additionally, the course aims to deepen knowledge of surface anatomy for each body part and develop the appropriate skills needed for effective response.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、スポーツ現場における外傷や障害の評価手順を理解し、各部位の体表解剖を把握する。それに基づく具体的な評価・対応方法を身に付け、臨床推論を通じて実践的な判断力を養う。

In this course, students will understand the procedures for evaluating injuries and disorders in sports settings and grasp the surface anatomy of each body part. Based on this knowledge, students will acquire specific evaluation and treatment skills and cultivate practical decision-making abilities through clinical reasoning.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 手関節の体表解剖とスポーツ外傷・障害
- 【3】: 肘関節の体表解剖とスポーツ外傷・障害
- 【4】: 肩関節の体表解剖とスポーツ外傷・障害
- 【5】: 頭頸部の体表解剖とスポーツ外傷・障害
- 【6】: 上肢・体幹の臨床推論
- 【7】: 腰背部の体表解剖とスポーツ外傷・障害
- 【8】: 股関節の体表解剖とスポーツ外傷・障害
- 【9】: 大腿部の体表解剖とスポーツ外傷・障害
- 【10】: 膝関節の体表解剖とスポーツ外傷・障害
- 【11】: 下腿部の体表解剖とスポーツ外傷・障害
- 【12】: 足関節の体表解剖とスポーツ外傷・障害
- 【13】: 体幹・下肢の臨床推論
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業内容や参加人数に応じて、グループ発表やディスカッションを行う。
回によっては触診しやすい服装を指定する場合がある。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内テスト(複数回):60% 授業参加度:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項(検索結果画面)**

2023 年度以降入学者対象

コンディショニングの方法

Conditioning Methods

竹上 綾香 (TAKEGAMI AYAKA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN440
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 180 名		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では JSPO-AT の役割としてのコンディショニングと、他の関連する専門家の役割について理解した上で、コンディショニングの計画立案と実践に必要な知識を理解し、安全で効果的なコンディショニング計画ができるようになることをねらいとする。

In this course, you will learn about conditioning as the role of JSPO-AT and the roles of other related professionals, and then learn about safe and effective conditioning by understanding the knowledge necessary for planning and implementing conditioning.

授業の内容 / Course Contents

アスレティックトレーナーの役割の一つであるコンディショニングが挙げられるが、その具体的な方法について学習する。特に、ファンクショナルムーブメント(機能的動作)の獲得に向けた身体機能の評価方法とアプローチ方法について学習する。それに加え、ウォーミングアップやクーリングダウン、テーピングやストレッチングなど、コンディショニングに関わる幅広い知識とスキルの習得を目指す。

Conditioning is one of the roles of an athletic trainer, and you will learn about specific methods. In particular, students will learn how to evaluate and approach physical functions to acquire functional movements. In addition, we aim to acquire a wide range of knowledge and skills related to conditioning, such as warming up, cooling down, taping, and stretching.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:コンディショニングとは
- 【2】:コンディショニングで調整すべき要因
- 【3】:コンディショニングで調整すべき要因と要素の各論
- 【4】:パフォーマンス向上のための3要素(運動、栄養、休養)
- 【5】:フィットネスイ疲労理論
- 【6】:機能的・非機能的オーバーリーチングとオーバートレーニング症候群
- 【7】:トレーニングの3原理と5原則
- 【8】:コンディショニングプログラムデザインの流れ
- 【9】:コンディショニングプログラムに必要な基礎知識
- 【10】:外的負荷と内的負荷の各種評価と活用

- 【11】:コンディション評価指標の活用
- 【12】:ウォーミングアップの科学的基礎
- 【13】:リカバリーとリジェネレーション
- 【14】:リカバリーに必要な要素と科学的基礎

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

実習を行う回では動きやすい服装・シューズ・飲み物を持参すること。
体調が万全の状態授業に臨むこと。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習に関する詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 授業内テスト(複数回):60%

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第3巻 コンディショニング』 日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 180名

スポーツと法

Sports and Law

スポーツにおける諸課題を法的視点から考える

村本 宗太郎 (MURAMOTO SOTARO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN442
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツは、スポーツ基本法の中で世界共通の人類の文化とされ、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利とされている。

本授業ではスポーツにおける法的な諸課題について学習することで、今後スポーツ場面で生じる法的問題に対して問題意識および解決に向けた視点を持つことができるようになることを目標とする。

Sports is regarded as a universal human culture in the Basic Act on Sport, and it is the right of all people to lead a happy and prosperous life through sport.

This course aims to provide students with an awareness of the legal issues that arise in sports and a perspective on how to resolve them by learning about legal issues in sports.

授業の内容 / Course Contents

指導者による暴力や暴言、スポーツ事故、アスリートらのドーピング、選手の契約問題等、日々生じているスポーツ場面での諸課題はどのように解決されているのだろうか。そして私たちは課題に対してどのような問題意識をもたなければならないだろうか。社会の中に位置づくスポーツに対しては社会規範である法学的な視点からの検討は不可欠である。本授業ではスポーツ界で生じる法的諸課題を挙げながら、課題の所在や解決のためにどのような考え方ができるのかということについて学ぶ。

How are the problems that occur daily in sports, such as violence and verbal abuse by coaches, sports accidents, doping by top athletes, and contractual issues with athletes, being resolved? What kind of awareness should we have about these issues? It is essential to examine sports in society from a legal perspective, which is a social norm. In this class, we will learn about the legal issues that arise in the sports world, where the issues lie, and what kind of thinking can be used to solve them.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:授業概要・スポーツへの法学的視点
- 【2】:スポーツ法とスポーツ倫理
- 【3】:スポーツの価値とスポーツ権
- 【4】:スポーツインテグリティの視点
- 【5】:スポーツ団体のガバナンスとコンプライアンス
- 【6】:アンチ・ドーピングと法
- 【7】:プロスポーツにおける法的問題
- 【8】:学校スポーツと法
- 【9】:スポーツ事故とスポーツ指導者の法的責任・リスクマネジメント
- 【10】:スポーツにおけるハラスメントに関する諸課題

- 【11】:スポーツにおける暴力根絶に向けた課題①
- 【12】:スポーツにおける暴力根絶に向けた課題②
- 【13】:紛争解決としてのスポーツ仲裁制度
- 【14】:授業総括:スポーツにおける法的課題と今後

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(ハワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する連絡は必要に応じて別途指示するが、スポーツと法に関連した問題に対して日常的に疑問・関心を持つことが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業ごとの課題(コメントペーパー):30% 授業態度・授業への取り組み:10%

テキスト / Textbooks

新井喜代加・武田丈太郎(編集)『はじめて学ぶスポーツと法』みらい 2023 4860155971

参考文献 / Readings

日本スポーツ法学会 監修『標準テキスト スポーツ法学 第3版』エイデル研究所 2020 9784871686501

石堂典秀・建石真公子ら(編著)『スポーツ法へのファーストステップ』法律文化社 2018 9784589039651

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

初学者を対象とした授業であるため、法学に関する知識は必要としない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料の配信や内容の解説、グループワークを行うことがあるため、授業には原則としてPC およびテキストを持参すること。

その他 / Others

毎回の授業課題については、次回授業時に全体にフィードバックし、質問等に関する情報の共有を行う予定である。なお、リアクションペーパーの内容に触れられたことと授業評価との間には関係はない。リアクションペーパーの記入内容があまりにも不十分な場合は出席とみなさない。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

生物多様性と人間社会

Biodiversity and Human Society

生物多様性の重要性を理解し、私にできることは何かを考える

奇二 正彦 (KIJI MASAHIKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN444
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

生物多様性が地球環境や人類の生活に与える重要性を認識し、その保全が重要であることを理解します。また、国際情勢や経済との関係についても学び、自分ごととして行動できることを目指します。

Students will recognize the importance of biodiversity to the global environment and human life, and understand the importance of its conservation. They will also learn about the relationship between the international situation and the economy, and act on them as if they were their own.

授業の内容 / Course Contents

講義を基本とし、時にディスカッションやプレゼン大会などを通して、生物多様性の基本概念と人間社会との関わりについて理解する。そして、最終的には生物多様性の保全のために自分たちにできることがたくさんあることを知る。

Based on lectures, and sometimes through discussions and presentation competitions, students will understand the basic concept of biodiversity and its relationship with human society. Finally, they will learn that there are many things they can do to help conserve biodiversity.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 自己紹介、ガイダンス
- 【2】: 生物多様性の基本概念
- 【3】: 生物多様性の重要性と生態系サービス
- 【4】: 人間活動の影響
- 【5】: 国際的な生物多様性保全の歴史
- 【6】: NPO と NGO の役割と活動
- 【7】: 市民サイエンスと生物多様性保全
- 【8】: 企業が取り組むネイチャーポジティブ
- 【9】: 個人できる保全活動
- 【10】: 国内法と生物多様性戦略
- 【11】: 学生プレゼンテーション説明・準備
- 【12】: プレゼンテーション①
- 【13】: プレゼンテーション②
- 【14】: 講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業準備の指示は、ガイダンスにて行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業への参加意欲や態度:70% プレゼン内容、および表現力:30%

単位修得のためには3分の2以上の出席、最終プレゼンへの参加を必要とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

私語を慎むことができる

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

応用生命科学

Applied Life Sciences

生命科学はどのように人間に役立っているか

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN446
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

生命科学とは分子や遺伝子のレベルから細胞や生物を研究する学問分野であり、医学、薬学、農学、工学など様々な分野と深い関連をもっている。生命科学により明らかになった生命の原理や仕組みが、どのようにわれわれ人間に役立っているかについて理解を深める。

Life science is the academic field that studies cells and organisms from the molecular and genetic levels, and is closely related to various fields such as medicine, pharmacy, agriculture, and engineering. Students will deepen their understanding of how the principles and mechanisms of life revealed by life science are useful to us humans.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、生命科学の基礎を簡単に復習したのち、実際に生命科学が役立っている例について、その原理から解説する。健康、医療、食品、環境、スポーツその他の分野における生命科学の応用について広く学ぶ。

In this lecture, after a brief review of the fundamentals of life sciences, examples of how life sciences are useful in practice will be explained from their principles. Students will learn broadly about applications of life science in health, medicine, food, environment, sports, and other fields.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 応用生命科学とは
- 【2】: 生命科学の基礎の復習1
- 【3】: 生命科学の基礎の復習2
- 【4】: 医療・健康1
- 【5】: 医療・健康2
- 【6】: アンチエイジング
- 【7】: 栄養に関する応用
- 【8】: 腸内細菌に関する応用
- 【9】: 食品に関する応用
- 【10】: 環境に関する応用
- 【11】: スポーツと生命科学1
- 【12】: スポーツと生命科学2
- 【13】: 最新の応用生命科学
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業に関連する内容について質問し、コメントシートに回答を求める。単に聴講するだけでなく、各自が予習・復習をすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントシート:30% 中間テスト:30% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

「ウエルネス理解のための基礎生命科学」「ウエルネス理解のための細胞生物学」の両方またはどちらかを受講していることが望ましいが、高校生物のバックグラウンドがあれば十分である。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC またはスマートフォン。PC が望ましい。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

学校保健・学校安全

School Health and Safety

学校において「保健」「安全」を学ぶとはどういうことなのだろうか。

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN448
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第5回・第10回授業を予定)。 ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

学校教育の中で、「保健」と「安全」は学ぶことが大切な内容である。それは何を指すのか、なぜ学ぶのか、どのように学ぶのか、について焦点を当てつつ、well-being について自分なりの考えを持つとともに、それを学び/教えることのためのポイントを理解することを目標とする。

In school education, "health" and "safety" are important subjects to learn. The goal of this course is to understand the key points for learning/teaching them, while focusing on what they mean, why and how they are learned, as well as to have your own ideas about wellbeing.

授業の内容 / Course Contents

保健全般と、安全教育、安全管理、組織活動という学校安全の3つの柱と、生活安全、交通安全、災害安全という3領域の内容について学ぶことを中心に、そもそも学校教育が果たす役割について、より広い社会的視野から考察し理解する。

Focusing on the three pillars of school safety - safety education, safety management, and organizational activities - and the contents of the three areas of life safety, traffic safety, and disaster safety, the course examines and understands the role of school education from a broader perspective.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 学校における「安全」と「保健」 - 身体の問題との関係から -
- 【2】: 「安全」とは何か - いじめ問題を通して -
- 【3】: 現代社会と「保健」「安全」 - 高度情報化社会との関連から -
- 【4】: 安全教育とは - リスクと安全の関係 -
- 【5】: 安全管理とは - 子育ての問題を通して -
- 【6】: 組織活動とは - 学校・地域・家庭の連携 -
- 【7】: 災害と安全 - 震災支援と震災復興 -
- 【8】: 交通と安全 - 現代モビリティ事情 -
- 【9】: 生活と安全 - 身近な社会問題について考える -
- 【10】: リスクマネジメントの概念 - リスクヘッジ・ハザード -
- 【11】: 「保健」とは何か - 薬物問題を通して -

【12】:学校と「保健」 -社会変化と教育のあり方-

【13】:課題を探って解決策を考えてみよう

【14】:まとめと課題の整理

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

関連する示された資料を深く読み込んでみる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の講義のリアクションペーパー:30% 中間レポート:30% 期末レポート:40%

テキスト / Textbooks

講義中に資料を示します。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

生活と教育について広い視野で考察することに関心を高めておいてください。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツデータ収集演習

Sports Data Collection Seminar
スポーツデータ収集、データサイエンス

小林 哲郎 (KOBAYASHI TETSUO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN450
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

近年の技術革新により、スポーツウエルネス分野でも大量のデータが取得できるようになってきた。これらのデータは、競技パフォーマンス向上を目指したスポーツパフォーマンス分析や指導などでの活用が期待されている。本講義では、スポーツにおけるデータ収集の方法を学ぶとともに実際にデータを収集し、データを可視化・分析する。Recent innovation has made it possible to acquire a large amount of data in the field of sports and wellness. These data are expected to be utilized in sports performance analysis and coaching aimed at improving competitive performance. In this lecture, students will learn about methods of data collection in sports and actually collect data, then visualize and analyze the data.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、スポーツにおける主なデータ収集技術の理解とその方法論を演習課題を通じて習得する。また、実際にデータを収集し、その収集したデータを可視化及び分析する。

This course will provide knowledge on major data collection methods in sports. Students will learn the actual data collection methods with lab assignments.

Students will collect data with multiple devices and toolkits, then visualize and analyze the collected data.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: データ分析におけるデータ収集の位置づけ
- [3]: スポーツ分野におけるデータサイエンスの応用事例とデータ収集方法
- [4]: ウェアラブルデバイスによるデータ収集(1)
- [5]: ウェアラブルデバイスによるデータ収集(2)
- [6]: ウェアラブルデバイスによるデータ収集(3)
- [7]: ウェアラブルデバイスによるデータ収集(4)
- [8]: データ収集テクノロジーのスポーツにおける応用事例
- [9]: 映像へのタグ付けによるゲーム分析(1)
- [10]: 映像へのタグ付けによるゲーム分析(2)
- [11]: 映像へのタグ付けによるゲーム分析(3)
- [12]: アンケートによるデータ収集
- [13]: 選択テーマの調査結果発表とディスカッション
- [14]: アプリケーションによるデータ収集

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習課題:30% レポート:20% 授業内の発表:20% 出席および授業態度:30%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本講義では基本的な PC でのファイル操作(ファイルのコピーやペースト、ファイルの圧縮や解凍など)や基本的な Google Drive の操作方法(Google Drive 上のフォルダ・ファイル操作、ファイルのコピー・共有など)、Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) の操作方法是習得していることを前提とします。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 30 名

スポーツ現場におけるリスクの管理と対応

Risk Management and Treatment in Sport
リスクマネジメント

砂川 憲彦(SUNAGAWA NORIHIKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN452
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業)※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ現場におけるリスクマネジメントの基本的な考え方を理解し、救急蘇生法やスポーツ損傷における救急処置について習得する。

Understand the basic concept of risk management in the field of sports, and learn about first aid and resuscitation in sports injuries.

授業の内容 / Course Contents

スポーツ現場におけるリスクマネジメントとは、主にスポーツ選手の安全確保のための対応や行動である。救急蘇生法、スポーツ外傷における救急処置、重症度の判断などを講義し、スポーツファーストエイダーとしての役割を十分に果たせるように学習する。

Risk management at sports sites principally consists of the actions and measures taken to ensure the safety of players and athletes. Learn about the role played by sports first-aider through lectures on topics such as emergency resuscitation, first aid treatment for sports injuries and determining the severity of an injury.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: スポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順(初期評価)
- 【2】: スポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順(体位管理・保温)
- 【3】: スポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順(運搬方法)
- 【4】: スポーツ外傷に対する救急対応(創傷・出血)の理解
- 【5】: スポーツ外傷に対する救急対応(創傷・出血)の実践
- 【6】: スポーツ外傷に対する救急対応(打撲・捻挫・肉離れ)の理解
- 【7】: スポーツ外傷に対する救急対応(打撲・捻挫・肉離れ)の実践
- 【8】: スポーツ外傷に対する救急対応(骨折・脱臼)の理解
- 【9】: スポーツ外傷に対する救急対応(骨折・脱臼)の実践
- 【10】: スポーツ外傷に対する救急対応(脳震盪)～評価法～
- 【11】: スポーツ外傷に対する救急対応(脳震盪)～復帰プロトコル～
- 【12】: スポーツ外傷に対する救急対応(頭部・頸部・脊椎における重症外傷)
- 【13】: スポーツ外傷に対する救急対応(特殊な外傷)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内テスト(複数回):60% 授業参加度:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト第5巻 救急対応』「2022年カリキュラム対応」日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)資格取得に必須の科目である

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用するため、必要な機器を持参すること

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

アスレティックリハビリテーション実習1

Athletic Rehabilitation Practicum 1

JSPO 公認アスレティックトレーナー実技試験対策(テーピング)

後関 慎司(GOSEKI SHINJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN570
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第5回・第10回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3320
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT) 資格取得に必要な実技試験で行われる内容の中でテーピングに特化し、テーピングを遂行する上で必要となる多様な素養の位置づけを理解し、実技試験の合格基準に達するための技術の習得をねらいとする。

This course focuses on taping in the practical examination required for JSPO-AT certification, and aims to help trainees understand the position of various backgrounds necessary for taping and to acquire the skills needed to pass the practical examination.

授業の内容 / Course Contents

「コンディショニングの実際」の授業内で行った足関節テーピング(基本)・膝関節テーピング(MCL)に加え、新たに足関節テーピング(底背屈制限)・膝関節テーピング(ACL)・肩関節テーピングを習得する

In addition to the ankle taping (basic) and knee taping (MCL) taught in the "Conditioning in Practice" class, students will learn ankle taping (plantar flexion restriction), knee taping (ACL), and shoulder taping.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 足関節テーピング(底背屈制限)
- 【2】: 肩関節テーピング(肩鎖関節、前方脱臼)
- 【3】: 膝関節テーピング(MCL)
- 【4】: 膝関節テーピング(ACL)
- 【5】: 肩関節テーピング(肩鎖関節、前方脱臼)
- 膝関節テーピング(MCL・ACL)
- 【6】: 足関節テーピング①(基本)
- 【7】: 足関節テーピング②(基本、底背屈制限)
- 【8】: 確認テスト(各自チェック)
- 【9】: 肩関節テーピング(復習)
- 【10】: 膝関節テーピング(復習)
- 【11】: 足関節テーピング(復習)
- 【12】: 実技テスト①(肩関節・肩鎖関節、前方脱臼)

【13】:実技テスト②(膝関節・MCL,ACL)

【14】:実技テスト③(足関節・基本、底背屈制限)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業態度:50% 実技テスト:50%

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』 日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

キャリア教育実習

Career Education Practical Training

川原 布紗子(KAWAHARA FUSAKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN573
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	SWN3220
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では自身のキャリアについて考え、気付きを得る場として、在学中に一定期間、学外の企業や種々の組織において実習(就労)体験し、「仕事とは、社会とは、コミュニティとは、そして人生とは」等のテーマを深く考え、自己の進むべき道と能力に目覚め、より豊かに学び行動できる人間に成長する助けとなることを目標とする。

In this class, students will have a chance to think about their own careers and gain insight into them through practical training (work experience) at off-campus companies and various organizations for a certain period of time during their enrollment. The goal of this class is for students to think deeply about themes such as "what is work, society, community, and life," to awaken to their own path and abilities, and to grow into individuals who can learn and act in a richer way.

授業の内容 / Course Contents

前年度から当該年度にかけて、自己の専攻志望分野や将来希望するキャリアに応じて現場実習先を選び、当該年度の春学期ではゼミ形式による事前学習を通じて、当該実習先に関する基本的な理解を図るとともに、必要となる知識の習得をめざす。現場実習は、原則として夏季休業期間に行う。授業の流れは概ね以下の通り。

【前年度】

スポーツ系、ウエルネス系(企業系)の中から希望する実習先(領域)を1つ選択する。その後、担当教員による書類選考と面接選考を行い、実習先を決定する。

実習先の担当者との面接選考がある場合もある。

【当該年度】

1. ガイダンス

2. 事前学習(原則として隔週実施)

(1)自己表現、マナー講習会、(2)配属先に関する基本的理解、(3)配属先に関連する分野の専門的・体系的知識の習得

3. 現場実習(原則として10日間程度)

4. 事後学習(原則として毎週実施)

(1)実習の振り返り、(2)今後のキャリア展望、プレゼンテーション講習会、(3)報告会、(4)レポート作成

From the previous to the current year, students choose their on-site training placement settings based on their major fields of interest or future career hopes, aiming to acquire basic understanding and necessary knowledge through prior training and the spring semester seminar format. In principle, on-site training will be conducted during the summer vacation. The flow of classes is as follows.

[Previous academic year]

Choose 1 of the following placement destinations (fields): sports-related or wellness (company)-related. The faculty members in charge will then screen the application documents and conduct an interview to determine the site of the

practical training.

In some cases, there may be an interview with the person in charge of the training site.

[Current academic year]

1. Guidance.

2. Follow-up learning (in principle every two week).

(1) Seminar on self-expression & manners, (2) Basic understanding of placement location, (3) Gaining systematic and specialist field knowledge related to placement location.

3. On-site training (in principle about 10 days).

4. Follow-up study (in principle every week).

(1) Reflection on on-site training, (2) Future career prospects, presentation workshops, (3) Presentation, (4) Final report.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 春学期

合同ゼミ: 全体オリエンテーション, 自己紹介

【2】: 個別ゼミ: 導入ーインターンシップ先で学びたいことを発表

【3】: 個別ゼミ: 導入ー実習先団体について調べて学ぶ& 事前調査

【4】: 合同ゼミ: 外部講師によるグループディスカッション講座

【5】: 個別ゼミ: 事前調査についての個別報告

【6】: 合同ゼミ: 外部講師による実践的ビジネスマナー講座

【7】: 合同ゼミ・個別ゼミ: 夏季の実習前の最終確認

【8】: キャリア教育実習

【9】: キャリア教育実習

【10】: キャリア教育実習

【11】: キャリア教育実習

【12】: キャリア教育実習

【13】: キャリア教育実習

【14】: キャリア教育実習

【15】: キャリア教育実習

【16】: キャリア教育実習

【17】: キャリア教育実習

【18】: キャリア教育実習

【19】: キャリア教育実習

【20】: キャリア教育実習

【21】: 秋学期

合同ゼミ: 合同発表会, レポートに関するレクチャー

個別ゼミ: 夏季実習の振り返りと共有

【22】: 合同ゼミ: 外部講師によるプレゼンテーションスキル講座

【23】: 合同ゼミ: 系を超えて実習経験をディスカッション

【24】: 合同ゼミ: 外部講師による講習会「今後のキャリア展望を学ぶ」

【25】: 個別ゼミ: 報告会の準備

【26】: 個別ゼミ: 報告会のリハーサル

【27】: 合同ゼミ: 報告会のリハーサル(本番仕様)

【28】: 合同ゼミ: 報告会, 情報交換会

なお, 系別に追加で授業を行う場合がある.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に各回の課題について作成, 提出すること(各回約2時間). 授業後には当日学んだことを自分で再度調べて, 復習すること(各回約2時間)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 現場実習の評価:50% 授業への出席および学習態度:25% レポート・報告会:25%

テキスト / Textbooks

指定しない。適宜、授業時にプリントを配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

秋学期 10 月末に次年度キャリア教育実習のためのガイダンスを実施する。

注意事項

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

キャリア教育実習

Career Education Practical Training

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN574
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	通年
単位	4	科目ナンバリング	SWN3220
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

この授業では自身のキャリアについて考え、気付きを得る場として、在学中に一定期間、学外の企業や種々の組織において実習(就労)体験し、「仕事とは、社会とは、コミュニティとは、そして人生とは」等のテーマを深く考え、自己の進むべき道と能力に目覚め、より豊かに学び行動できる人間に成長する助けとなることを目標とする。

In this class, students will have a chance to think about their own careers and gain insight into them through practical training (work experience) at off-campus companies and various organizations for a certain period of time during their enrollment. The goal of this class is for students to think deeply about themes such as "what is work, society, community, and life," to awaken to their own path and abilities, and to grow into individuals who can learn and act in a richer way.

授業の内容 / Course Contents

前年度から当該年度にかけて、自己の専攻志望分野や将来希望するキャリアに応じて現場実習先を選び、当該年度の春学期ではゼミ形式による事前学習を通じて、当該実習先に関する基本的な理解を図るとともに、必要となる知識の習得をめざす。現場実習は、原則として夏季休業期間に行う。授業の流れは概ね以下の通り。

【前年度】

スポーツ系、ウエルネス系(企業系)の中から希望する実習先(領域)を1つ選択する。その後、担当教員による書類選考と面接選考を行い、実習先を決定する。

実習先の担当者との面接選考がある場合もある。

【当該年度】

1. ガイダンス

2. 事前学習(原則として隔週実施)

(1)自己表現、マナー講習会、(2)配属先に関する基本的理解、(3)配属先に関連する分野の専門的・体系的知識の習得

3. 現場実習(原則として10日間程度)

4. 事後学習(原則として毎週実施)

(1)実習の振り返り、(2)今後のキャリア展望、プレゼンテーション講習会、(3)報告会、(4)レポート作成

From the previous to the current year, students choose their on-site training placement settings based on their major fields of interest or future career hopes, aiming to acquire basic understanding and necessary knowledge through prior training and the spring semester seminar format. In principle, on-site training will be conducted during the summer vacation. The flow of classes is as follows.

[Previous academic year]

Choose 1 of the following placement destinations (fields): sports-related or wellness (company)-related. The faculty members in charge will then screen the application documents and conduct an interview to determine the site of the

practical training.

In some cases, there may be an interview with the person in charge of the training site.

[Current academic year]

1. Guidance.

2. Follow-up learning (in principle every two week).

(1) Seminar on self-expression & manners, (2) Basic understanding of placement location, (3) Gaining systematic and specialist field knowledge related to placement location.

3. On-site training (in principle about 10 days).

4. Follow-up study (in principle every week).

(1) Reflection on on-site training, (2) Future career prospects, presentation workshops, (3) Presentation, (4) Final report.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 春学期

合同ゼミ: 全体オリエンテーション, 自己紹介

【2】: 個別ゼミ: 導入ーインターンシップ先で学びたいことを発表

【3】: 個別ゼミ: 導入ー実習先団体について調べて学ぶ& 事前調査

【4】: 合同ゼミ: 外部講師によるグループディスカッション講座

【5】: 個別ゼミ: 事前調査についての個別報告

【6】: 合同ゼミ: 外部講師による実践的ビジネスマナー講座

【7】: 合同ゼミ・個別ゼミ: 夏季の実習前の最終確認

【8】: キャリア教育実習

【9】: キャリア教育実習

【10】: キャリア教育実習

【11】: キャリア教育実習

【12】: キャリア教育実習

【13】: キャリア教育実習

【14】: キャリア教育実習

【15】: キャリア教育実習

【16】: キャリア教育実習

【17】: キャリア教育実習

【18】: キャリア教育実習

【19】: キャリア教育実習

【20】: キャリア教育実習

【21】: 秋学期

合同ゼミ: 合同発表会, レポートに関するレクチャー

個別ゼミ: 夏季実習の振り返りと共有

【22】: 合同ゼミ: 外部講師によるプレゼンテーションスキル講座

【23】: 合同ゼミ: 系を超えて実習経験をディスカッション

【24】: 合同ゼミ: 外部講師による講習会「今後のキャリア展望を学ぶ」

【25】: 個別ゼミ: 報告会の準備

【26】: 個別ゼミ: 報告会のリハーサル

【27】: 合同ゼミ: 報告会のリハーサル(本番仕様)

【28】: 合同ゼミ: 報告会, 情報交換会

なお, 系別に追加で授業を行う場合がある.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に各回の課題について作成, 提出すること(各回約2時間). 授業後には当日学んだことを自分で再度調べて, 復習すること(各回約2時間)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 現場実習の評価:50% 授業への出席および学習態度:25% レポート・報告会:25%

テキスト / Textbooks

指定しない。適宜、授業時にプリントを配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

秋学期 10 月末に次年度キャリア教育実習のためのガイダンスを実施する。

注意事項

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツ科学の応用と活用

Application and Utilization of Sports Science

後関 慎司(GOSEKI SHINJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN576
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第5回・第10回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3320
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要な、スポーツ科学の応用的知識を理解することをねらいとする。また、スポーツ科学の基礎的および応用的知識を、競技特性や目的に応じた体力・運動能力向上、スポーツ外傷・障害予防、健康管理の計画と実践に活用できるようになることをねらいとする。

This course aims to understand the applied knowledge of sports science necessary for planning and implementing programs to enhance physical fitness, improve motor skills, and prevent sports injuries and disabilities. Additionally, the goal is to apply foundational and applied knowledge of sports science to the planning and implementation of programs for physical fitness improvement, injury prevention, and health management, based on the characteristics and objectives of specific sports.

授業の内容 / Course Contents

スポーツに対する科学的貢献度は、パフォーマンスが向上したか否かが重要な判断基準となる。ここではスポーツ科学の貢献例を中心にスポーツ科学を映像・PCを利用して総合的に講義する。

Scientific contribution to sports is assessed based on whether performance has improved. In this context, this course will comprehensively lecture on sports science, with a focus on examples of its contributions utilizing visual aids and computer technology.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス、スポーツ科学とは
- 【2】: スポーツ現場からみたスポーツ科学①(スポーツ史学・教育学)
- 【3】: スポーツ現場からみたスポーツ科学②(栄養学)
- 【4】: スポーツ現場からみたスポーツ科学③(スポーツ法学)
- 【5】: スポーツ現場からみたスポーツ科学④(スポーツ社会学)
- 【6】: スポーツ現場からみたスポーツ科学⑤(スポーツ心理学)
- 【7】: スポーツ現場からみたスポーツ科学⑥(スポーツ教育学・社会学)
- 【8】: スポーツ現場からみたスポーツ科学⑦(スポーツ工学・運動生理学①)
- 【9】: スポーツ現場からみたスポーツ科学⑧(運動生理学②・疲労回復)
- 【10】: スポーツ現場からみたスポーツ科学⑨(運動生理学③・身体組成、発育発達)
- 【11】: スポーツ現場からみたスポーツ科学⑩(スポーツ医学①スポーツ傷害と予防)

【12】:スポーツ現場からみたスポーツ科学①(スポーツ医学②救急救命)

【13】:スポーツ現場からみたスポーツ科学②(スポーツ医学③アスレティックリハビリテーション)

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワーポ ^o 等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、各授業内に行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート(5%×4回):20% 出席及び授業態度:40% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

レクリエーション援助論

Recreation Assistance

日常における楽しさ、面白さの発見とその活用について

清水 一巳 (SHIMIZU KAZUMI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN600
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

レクリエーションについての基本的な考え方、社会的位置づけについて理解を深める。そのことで、Q.O.L の向上を図ることができるようになる。自分自身の生活や将来の職業に関連して、対人支援技術の質の向上に結び付けることができる。

This course introduces the basic understanding and social position of recreation.

It also improves Q.O.L. in our own life and development of the quality of skill for interpersonal support at work in future.

授業の内容 / Course Contents

「レクリエーション」という考えが生活の中に位置づくことで、Q.O.L の向上を図ることができる。本授業においては、身近な生活における「楽しさ」から、社会的課題に関わるときの「楽しさ」までの連続的な視点としての「レクリエーション」についての理解を深めていく。そのうえで、現代における社会的課題や自身を取り巻く社会環境、人間関係の中でのレクリエーション支援の在り方、支援技術についての学びを進める。

Q.O.L can be improved by placing the idea of "recreation" in our lives. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the principles of "Recreation" between enjoyment of dairy life and social challenges. Classes involve about contemporary social issues, the social environment surrounding them, how to support recreation in relationships, and support skill.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:レクリエーションという考え方について
- 【2】:レクリエーション支援とは:ヒト、コト、モノの関わりへの視点
- 【3】:レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史的変遷
- 【4】:楽しさと元気のつながり:心の元気づくり
- 【5】:ライフステージにおける元気
- 【6】:レクリエーション支援におけるコミュニケーション
- 【7】:支援という関わり:信頼関係の醸成
- 【8】:支援という関わり:集団の生成と自立
- 【9】:集団の成長と支援者の関わり
- 【10】:多文化共生社会におけるレクリエーション
- 【11】:レクリエーション支援におけるイベント企画法①:イベントの理解と位置づけ
- 【12】:レクリエーション支援におけるイベント企画法②:プランニングの実践
- 【13】:レクリエーション支援におけるイベント企画法③:チラシ作成によるプレゼンテーション
- 【14】:これからの社会におけるレクリエーション:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS での資料共有や課題提示をおこないます。各授業時の配布資料を参考にふりかえりをおこない、演習課題などがある場合は関連資料を集め、課題に取り組むこと。その場合、各自の生活経験や生活環境に置き換えながら学習課題をイメージすること。レクリエーションは日常生活を豊かにするというのを念頭に置き、人と人との関係の中での生活の豊かさを高める知識、技能であるということへの理解を深めることを期待している。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー(記述内容):20% 演習成果の提出物:20%

テキスト / Textbooks

日本レクリエーション協会(編)『楽しさを通した心の元気づくり』日本レクリエーション協会 2017 9784931180956

参考文献 / Readings**注意事項(検索結果画面)**

2023 年度以降入学者対象

レクリエーション援助演習

Recreation Assistance Seminar

心の元気づくりにつながる楽しさの実践と理解

村本 宗太郎 (MURAMOTO SOTARO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN602
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3220
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

レクリエーションの社会的意義や支援・援助の在り方を理解し、自らがレクリエーションを経験しながら、対象や環境に応じたレクリエーションを工夫し、援助することができるようになる。

Understanding the social meaning of recreation and ideal means of assistance.

To be able to devise and assist recreation activities that is appropriate to the subject and environment while experiencing recreation oneself.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、受講生が実際にレクリエーションを楽しみ、プログラムの組み立てや展開について理論的に捉えた後、対象者や環境に応じたレクリエーションの応用・援助方法を考え、実践していく。

レクリエーションの目的である心の元気づくりのためにどのようなアレンジが可能なのか経験に基づき学習する。

In this class, students will actually enjoy recreation, and after gaining a theoretical understanding of program construction and development, they will consider and practice methods of applying and assisting recreation according to the subject and environment.

Based on experience, students will learn how recreation can be arranged to help build mental vitality, which is the purpose of recreation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:授業概要説明
- 【2】:レクリエーション理論の理解とアイスブレイクゲーム
- 【3】:屋内ゲーム①
- 【4】:ボードゲーム①
- 【5】:伝承遊び・鬼ごっこ遊び
- 【6】:屋外ゲーム①
- 【7】:屋外ゲーム②
- 【8】:屋外ゲーム③
- 【9】:屋内ゲーム②
- 【10】:屋内ゲーム③
- 【11】:屋内ゲーム④
- 【12】:e スポーツ
- 【13】:ボードゲーム②
- 【14】:総括:レクリエーション支援のあり方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業後に授業内容に関連した課題を配信するため、復習として取り組むこと。

授業時間外の学習に関する連絡は必要に応じて別途指示するが、レクリエーションに関連した情報や書籍等に日常的に関心を持つことが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の課題(コメントペーパー):30% 授業態度・授業への取り組み:30% 最終レポート割合::40%

3分の2以上の出席をしていない場合は成績評価の対象とならない。

テキスト / Textbooks

日本レクリエーション協会編 『楽しさをとおした心の元気づくり』 公益財団法人日本レクリエーション協会 2017 9784931180956

授業内容に応じた資料を適宜配布・配信する。

参考文献 / Readings

日本レクリエーション協会編 『スポレク活動で健康寿命を延伸』 公益財団法人日本レクリエーション協会 2017 9784931180963

すごろくや 『大人が楽しい 紙ペンゲーム 30 選 改訂版』 スモール出版 2024 9784910547046

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業課題の提出は Canvas LMS を使用する。

その他 / Others

授業内容やゲームの内容については受講生や器材の状況により変更することがある。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 40 名

メンタルマネジメント

Mental Management
 柔軟に健やかに生きる

遠藤 伸太郎 (ENDO SHINTARO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN604
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

ストレス反応や認知行動理論などの基礎的な知識を理解し、ストレスを生じにくい考え方、あるいはストレスフルな状況に適切に対処できるスキルを身に着ける。

Understand basic knowledge related to stress response and cognitive behavioral theory. Learn about mindsets to ensure stress does not arise, and acquire the ability to cope successfully with stressful situations.

授業の内容 / Course Contents

一般に、ストレスに対する認知は様々であるため、同様な環境においても健康やウエルネスレベルには個人差が大きい。また、人生観などの価値観を変えることで、内的には大きな変化が生じうる。本講義では、まずメンタルマネジメントについての基礎的スキルを身に着け、次にポジティブ心理学の発想法や先人の知恵からよりよく生きるためのヒントを学ぶ。内容は受講生の興味や社会情勢などにより柔軟に対応する。

In general, health and wellness levels will vary among individuals even in similar environment as perceptions of stress vary. Also, changing one's sense of values such as one's view of life, can lead to significant changes internally. In this course, students will acquire basic skills in mental management and learn tips for a better way of life from the ideas of positive psychology and the wisdom of our predecessors. We will adjust the contents flexibly according to the students' interests and social situation, etc.

授業計画 / Course Schedule

- [1]:メンタルマネジメントとは(総論)
- [2]:ストレスの評価
- [3]:ストレスコーピング
- [4]:ストレスと首尾一貫感覚 SOC
- [5]:ブラシーボ・ノーシーボ
- [6]:ポジティブ心理学への招待 I
- [7]:ポジティブ心理学への招待 II
- [8]:アサーションスキル I
- [9]:アサーションスキル II
- [10]: فرانクルのロゴセラピー I
- [11]:フランクルのロゴセラピー II
- [12]:キューブラー・ロスの価値観 I
- [13]:キューブラー・ロスの価値観 II
- [14]:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業前や授業後に課題を提示し、その提出や発表を求めることがある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト:30% リアクションペーパー:30% 最終レポート割合:40%

2/3 以上の出席を単位取得の条件とする。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて講義中に紹介する。

その他 / Others

ストレスの評価やストレスコーピングに関する基礎的知識については、別に関講されている「ストレスマネジメント」の講義と重複する部分があるので留意されたい。

また、最低限の出席回数を満たしていても、最終レポートの内容が基準を満たさない場合には単位を取得できない場合があるので、十分に注意したい。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツジャーナリズム

Sports Journalism

こんなはずでは.....取材する側の論理・される側の言い分

千田 善(CHIDA ZEN)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN606
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

毎週トピックスを取り上げながら、スポーツとメディアの現状を概観し、スポーツジャーナリズムのあり方を考える。「良い観戦者・視聴者」になる視点をやしなう。

To think how should be SPORTS JOURNALISM, my lecture would introduce temporal situation around SPORTS and JOURNALISM, with examples from fresh news. Let's get to be a "GOOD WATCHER / OBSERVER" on sports.

授業の内容 / Course Contents

国際紛争を取材していたジャーナリストが、サッカー日本代表監督通訳として「取材される側」になった体験を振り返りながら、スポーツ報道の現状を考える。現場の実情を紹介しつつ、観る側の視点をやしなうとともに、放送・出版などジャーナリスト志願者にも参考になる授業をめざす。学生の意見を重視し、質問や要望にもできるだけこたえたい。

Lecturer was an interpreter to Head coach IVICA OSIM of Japan's National Football Team, and also is a journalist on the international issues including nationalism, territorial conflict especially in former Yugoslavia. From a point of view of journalist, I would like to show situation of journalism and media, not only of sports but also socio-political fields.

Questions welcome!

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 授業で扱うおもなテーマ(順不同); ・日本代表のロッカールームから見えてきたもの
- 【2】: ・スポーツ観戦が楽しくなるには
- 【3】: ・アスリートをリスペクトする
- 【4】: ・スポーツ報道の発達史
- 【5】: ・フットボールとベースボール
- 【6】: ・インターネットと紙メディア(新聞・雑誌)
- 【7】: ・試合結果だけでなく「内容」をどう報道するか
- 【8】: ・近代スポーツと武士道
- 【9】: ・スポーツビジネスの裏側(商業化とアマチュアリズム)
- 【10】: ・スポーツと戦争、ナショナリズム、差別
- 【11】: ・体罰(暴力的指導)とコーチング論
- 【12】: ・勝利至上主義、八百長とドーピング
- 【13】: ・取材される側の情報発信のスキル
- 【14】: ・「プレイヤーズ・ファースト」の原則 ・その他、学生から要望のあるテーマ・分野、そのときどきのニュースを取り上げてみる

授業のテーマ(と順番)は変わることがある。昨年度は第1回授業でのアンケートで「体罰(暴力的指導)」についての関心が高かったため、そこから始めた。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃からスポーツのニュースに注意するとともに、問題意識を持つこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

テキストはとくに指定しない。毎回の授業ごとにプリント(PDF など)を配布する。

参考文献 / Readings

中西哲生(監修) 千田善など共 著 『スポーツでひろげる国際理解 1~5』 文溪堂 2018

千田善 『ワールドカップの世界史』 みすず書房 2006

宇都宮徹壺 『フットボールの犬』 幻冬舎文庫 2011

木村元彦 『争うは本意ならねど』 集英社文庫 2019

参考文献は授業の資料などでも、どんどん紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

スポーツやジャーナリズムについての(あるいは、世の中のあるゆることについての)好奇心をもっていること。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

バイオメカニクス

Biomechanics

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN608
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツや日常生活における身体動作の仕組みをバイオメカニクス(生体力学)的に理解するための知識を身に付ける。本科目では体力・運動能力向上やスポーツ外傷・障害予防の計画と実践に必要なバイオメカニクスの基礎知識を理解することもねらいとする。

Acquire basic knowledge to understand the mechanism of physical movement in sports and daily life through biomechanics.

This course also aims to provide students with an understanding of the basics of biomechanics necessary for planning and implementing improvements in physical fitness and athletic ability, as well as preventing sports injuries and disorders.

授業の内容 / Course Contents

身体動作をバイオメカニクス的に解釈するために必要な力学の基礎、各スポーツ動作におけるバイオメカニクス、分析手法と研究例について講義する。授業では書き込み式の資料を配布し、計算を含んだ問題にも取り組む。また、テーマに合わせた映像を視聴して理解を深める。

Lectures will cover the basics of mechanics for biomechanical interpretation of body movements, biomechanics in all types of sports actions, analytical methods and research examples. Writing materials are distributed in class and problems (including calculations) are tackled. In addition, students watch videos suited to particular topics to deepen their understanding.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: バイオメカニクスとは
- 【2】: 解剖学、力学概要
- 【3】: 解剖学、力、並進運動学
- 【4】: 並進運動力学
- 【5】: 回転力、回転運動学
- 【6】: 回転運動力学
- 【7】: 「歩く」のバイオメカニクス、「走る」のバイオメカニクス
- 【8】: 「泳ぐ」のバイオメカニクス
- 【9】: 「跳ぶ」のバイオメカニクス
- 【10】: 「投げる」のバイオメカニクス
- 【11】: 「打つ」のバイオメカニクス
- 【12】: 「蹴る」のバイオメカニクス
- 【13】: バイオメカニクスの「分析手法と研究例」1
- 【14】: バイオメカニクスの「分析手法と研究例」2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(ハワホ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業では、教員からの指名によって回答を求められることがある。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時または Canvas LMS 上にて行う。各回の予習・復習にはそれぞれ 2 時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 出席および授業への参加態度:40%

テキスト / Textbooks

特定の教科書は使用しない。授業時に資料を配付する。

参考文献 / Readings

金子公宥・福永哲夫編 『バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎』 杏林書院 2004 年 8,250 円 9784764410695

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

その他 / Others

全学共通科目「身体科学からの学び」(石井担当)の授業内容と重複する部分がある。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツ倫理学

Sports and Ethics

スポーツで生じる問題に対する規範意識の違いを知る

村本 宗太郎 (MURAMOTO SOTARO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN610
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツは、スポーツ基本法の中で世界共通の人類の文化とされている。人々が日常的にスポーツに携わる機会が増えた現代ではスポーツに対する考え方も多様になっている。

本授業ではスポーツで生じる倫理的な問題について学習することで、スポーツに対する理解を深めることを目標とする。

Sports are regarded as a universal human culture in the Basic Law of Sports. Today, when people have more opportunities to engage in sports on a daily basis, the way of thinking about sports has become more diverse.

This class aims to deepen students' understanding of sports by studying ethical issues that arise in sports.

授業の内容 / Course Contents

スポーツに関する問題の中でも、個人によって判断基準が異なるであろう倫理的なテーマについて他者の考え方も踏まえながら学習する。

原則として2回の授業で1つのテーマを学習する。1回目の授業では問題提起と問題に対する考え方を解説し、2回目の授業では受講生の学習をもとにグループごとにディスカッションを行いながら学習を進める。

In this course, students will learn about ethical issues related to sports, in which the criteria for judgment may differ from one individual to another, while taking into account the ideas of other students.

In principle, one topic will be studied in two classes, with the first class providing an explanation of the issues and the thinking behind the issues, while the second class will proceed with group discussions based on the students' learning.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:授業概要・スポーツとは何か
- 【2】:スポーツ倫理の問題とは何か
- 【3】:スポーツの価値とフェアプレー①:問題への視点
- 【4】:スポーツの価値とフェアプレー②:ディスカッション
- 【5】:ドーピングに対する問い①:問題への視点
- 【6】:ドーピングに対する問い②:ディスカッション
- 【7】:スポーツファンによる脱抑制①:問題への視点
- 【8】:スポーツファンによる脱抑制②:ディスカッション
- 【9】:スポーツにおける暴力の発生と抑制①:問題への視点
- 【10】:スポーツにおける暴力の発生と抑制②:ディスカッション
- 【11】:スポーツ組織とハラスメント①:問題への視点
- 【12】:スポーツ組織とハラスメント②:ディスカッション
- 【13】:今後の部活動が果たすべき役割①:問題への視点
- 【14】:今後の部活動が果たすべき役割②:ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(ハワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する連絡は必要に応じて別途指示するが、スポーツ倫理に関連した問題に対して日常的に疑問・関心を持つことが望ましい。

ディスカッションの準備は受講生各自が授業時間外に行うことになる。

具体的な準備については授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 個人課題(ディスカッション前後):25% 授業態度・授業への取り組み:15% グループワーク成果(ディスカッション内容):10%

3分の2以上の出席をしていない場合は成績評価の対象とならない。

テキスト / Textbooks

友添秀則編著『講義・スポーツ倫理学を学ぶ』大修館書店 2025

授業内容に応じた資料を配信する。

参考文献 / Readings

友添秀則編著『よくわかるスポーツ倫理学』ミネルヴァ書房 2017 9784623080137

近藤良享『改訂 スポーツ倫理』不昧堂出版 2019 9784829305133

林芳紀・伊吹友秀『マンガで学ぶスポーツ倫理』化学同人 2021 9784759820379

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

倫理学に関する知識は必要としない。

定期的にグループワークによるディスカッションを行うため、他学生と積極的に意見を交わす態度で臨むことを求める。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料の配信や、授業内容に関するディスカッションを行う際はファイルを共有しながら行うため、授業には原則としてPC およびテキストを持参すること。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

ウェルネスプロモーション論

Wellness Promotion

ウェルネスプロモーションとジェンダー

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

科目設置学部	スポーツウェルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN612
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

ウェルネスプロモーションの在り様につき、年齢別にその様相を把握する。それと同時に、さらなるプロモーションを図るために、何ができるのか、ジェンダーの視点から考察する。

Aspects of wellness promotion are considered according to age. At the same time, the course examines what can be done to encourage further promotion from a gender perspective.

授業の内容 / Course Contents

ウェルネスの向上について考察する際、現在では、ジェンダーの視点からのアプローチは欠かせない。「女性」にとって「男性」にとって、また、「それ以外の性別に属する者」にとって、健康づくりに必要な運動・スポーツ実践をより身近なものとするために、指導者は何に重点を置くべきか、本授業を通して確認したい。授業内で数回のディスカッションを実施する。

At present, approaching the topic from the viewpoint of gender is indispensable for considering the improvement of well-being. This class aims to assess what instructors should focus on for Men and Women and those who do not identify with a gender to make them more comfortable with the idea of exercising and playing sports, a necessity for improving our health. A range of discussions are held in class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 健康の概念と制度・ジェンダー概念の確認
- 【2】: 乳幼児期の遊びとジェンダー I
- 【3】: 乳幼児期の遊びとジェンダー II
- 【4】: 学童期の運動・スポーツ活動とジェンダー I
- 【5】: 学童期の運動・スポーツ活動とジェンダー II
- 【6】: 青年・壮年期の運動・スポーツ活動とジェンダー I
- 【7】: 青年・壮年期の運動・スポーツ活動とジェンダー II
- 【8】: 高齢期の運動・スポーツ活動とジェンダー I
- 【9】: 高齢期の運動・スポーツ活動とジェンダー II
- 【10】: 生活習慣病 (NCD) 概論と特定健診・保健指導
- 【11】: 介護予防概論
- 【12】: メディアにみるウェルネスプロモーション
- 【13】: 最終テスト
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日々の生活の中で目にする様々な年齢層の運動・スポーツ実践者、そして非実践者について観察する。講義の内容をさらに深く理解するために、この実践は欠かせない。指導者の立場に立ち、運動・スポーツ非実践者にとって、どこに問題があるのか、何が原因なのか、常に考察することが必要である。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

必要に応じて授業中に資料を配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業の構成上、「身体科学からの学び(佐野担当)」「ダイバーシティ・スポーツ論」「ダイバーシティ・スポーツ演習」と内容の一部が重複することとなる。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

スポーツビジネス論

Sports Business

スポーツビジネスとスポーツ産業(Sports Business and Sports Industry)

中村 聡宏 (NAKAMURA AKIHIRO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN614
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツビジネスについて、顧客の立場から楽しむだけではなく「ビジネスを創る側の視点」から構造的に理解する。スポーツビジネスにおいて求められる人材に必要な思考・スキル・キャリアパスなどについての的確に判断できるようになる。Students will gain a structured understanding of the sports business from the perspective of the "business side," rather than just enjoying it from the customer's point of view. They will be able to make accurate judgments about the thinking, skills, and careers required of people in the sports business.

授業の内容 / Course Contents

スポーツビジネスに関する探求を通して、構造的特徴、歴史的背景、現状課題、今後の展望などについて明らかにする。また、スポーツビジネスの世界で活躍する「人材」に求められる思考・スキル・キャリアパスなどについても紹介する。We will identify structural characteristics, historical background, current issues, and future prospects through our exploration of the business of sport. We will introduce the thinking, skills, and career paths required of "human resources" active in the world of sports business.

授業計画 / Course Schedule

【1】: スポーツビジネス論を学ぶ意義

Importance of studying sports business theory

【2】: スポーツビジネスの本質的価値 —稼ぐための「スポーツマンシップ」について考える—

Intrinsic value of the sports business - Consideration of "sportsmanship" in order to make money -

【3】: エンターテインメントを考える

Considering Entertainment

【4】: スポーツビジネスとはなにか —スポーツ産業の全体構造と市場規模を理解する—

What is the Sports Business? - Understand the overall structure and market size of the sports industry -

【5】: ステークホルダーを考える —ボンド機能とアンプ機能—

Considering Stakeholders - Bond and Amplifier Functions -

【6】: スポーツマーケティング —権利ビジネスとしてのスポーツと顧客戦略—

Sports Marketing - Sports as a rights business and customer strategy -

【7】: スポーツマネジメント —経営指標の可視化による実態把握—

Sports Management - Understanding the Actual Situation through Visualization of Management Indicators -

【8】: フィールドマネジメント —アスリートの強化と育成—

Field Management - Strengthening and Developing Athletes -

【9】: オリンピックビジネス —オリンピックの歴史と意義を知る—

Olympic Business - The History and Significance of the Olympic Games -

【10】:スポーツファシリティ —スタジアム・アリーナとまちづくり—
Sports Facilities – Stadiums, Arenas and Urban Development –

【11】:スポーツビジネスとテクノロジー

Sports Business and Technology

【12】:スポーツを仕事にする

Making sports work for you

【13】:総括 —スポーツ・エンターテインメントビジネスを考える—

Total Review – Considering the Sports and Entertainment Business –

【14】:最終テスト

Final Test (in-class)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度・貢献度:30% 授業内に指示した提出物:30% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

スポーツと同様に、受講するクラスメイト(チームメイト)と力を合わせ、積極的・主体的に行動・発言・挑戦(プレー)し、さまざまな困難にも立ち向かうアグレッシブな姿勢で講義に参加することを望む。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

スポーツマネジメント論

Sports Management Seminar

スポーツマネジメントの意義と役割を考える。

北島 信哉 (KITAJIMA SHINYA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN616
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、スポーツマネジメントの目的、理論、実践領域を学び、以下の点を目標とする。

1. スポーツマネジメントの基礎的な理論を理解し、説明することができる。
2. スポーツの現代的課題について例をあげ、自らの考えを述べることができる。
3. スポーツマネジメント手法の基本的な知識を理解することができる。

In this class, students will learn the purpose, theory, and practical areas of sport management, and aim for the following points.

1. Understand and explain the basic theory of sport management.
2. Be able to give an example of contemporary sports issues and express your thoughts.
3. Understand the basic knowledge of sport management methods.

授業の内容 / Course Contents

2020 東京五輪開催、コロナ禍におけるスポーツはどのような意義や価値を持つのでしょうか。このような社会の急速な変化に伴い、する、みる、ささえる等のスポーツへの関わり方にも変化が生じている。そのため、スポーツの価値を改めて考えていくうえでは、文化としてのスポーツを発展させていく視点が求められている。そのため、本授業では、スポーツマネジメントの多様な実践領域において、現代スポーツが抱える課題、マネジメント手法を講義する。

What is the significance and value of sports in the 2020 Tokyo Olympics and COVID-19 pandemic? With such rapid changes in society, the way we are involved in sports such as doing, spectating, and supporting is also changing.

Therefore, in order to reconsider the value of sports, the perspective of developing sports as a culture is required.

Therefore, in this class, we will lecture on the issues and management methods of modern sport in various practical areas of sports management.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: スポーツ組織のマネジメント(組織の特性、目的、課題)
- 【3】: 学校体育・スポーツのマネジメント(教科体育、運動部活動)
- 【4】: 体育・スポーツ事業の運営 AS、PS、CS(エリア・プログラム・クラブサービス)
- 【5】: プロスポーツのマネジメント(プロスポーツリーグ運営、プロスポーツクラブ運営)
- 【6】: スポーツイベントのマネジメント(オリンピックのレガシー、スポンサーシップ、放映権、商品化権)
- 【7】: スポーツ組織のコンプライアンス(組織構築、内部統制)
- 【8】: スポーツの自治(グットガバナンスの確立)
- 【9】: 障がい者スポーツのマネジメント(運動実施率、施設環境、予算)

- 【10】: 子どものスポーツマネジメント(スポーツ環境の課題、スポーツ少年団、全国体力・運動能力、運動習慣調査)
- 【11】: 商業(民間営利)スポーツ施設のマネジメント(フィットネスクラブの戦略)
- 【12】: 地域スポーツのマネジメント(総合型地域スポーツクラブの育成、課題)
- 【13】: 健康スポーツのマネジメント(ヘルスプロモーション)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業テーマに応じた内容について、授業内で学生への質問を行う、また小人数でのグループディスカッションを行う予定のため、積極的な受講態度が期待される。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習: 次回授業のテーマに関し、関心ある新聞記事から授業テーマが抱える課題を要約すること。(各回約2時間)
 復習: 講義で配布された資料等を参照し、授業内容の要約すること。(各回約2時間) 授業に関する不明点は、適宜、教員に質問を行ってください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位取得不可。リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回の授業開始時に実施する。

テキスト / Textbooks

講義内にて資料を配布

参考文献 / Readings

柳沢和雄 清水紀宏 中西純司 『よくわかるスポーツマネジメント』 ミネルヴァ書房 2017年

柳沢和雄 木村和彦 清水紀宏 『体育・スポーツ経営学』 大修館書店 2017年

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

プロスポーツ、学校体育、地域スポーツ等の幅広い分野について興味、関心を持ち、自分なりにその分野に対する課題をもっていることが必要。

その他 / Others

1. Power Point を使用した講義形式で、映像資料等を適宜活用する。
2. 毎回の授業課題について、次回授業での10分解説を行い、このテーマでの各自の意見を数名で共有し、多様な意見との比較から、自分の意見を深く考察します。
3. 授業テーマに応じて、授業内で15分程度グループワークやディスカッションを行い、まとめた意見を授業全体で共有することを実施する授業回があります。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

コミュニティスポーツ論

Community Sports

日本のスポーツを展望する

水上 博司(MIZUKAMI HIROSHI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN618
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、学科の基本方針である「すべての人のウエルネス向上とウエルネス社会の構築に寄与する高度な知見と能力、豊かな人間性」を養うためグローバルな視点から日本のスポーツ文化を理解し、コミュニティスポーツ論の基礎的な知識を身につける。具体的には、スポーツの意義と価値とは何かを考え、歴史的背景も踏まえた上、ヨーロッパ社会におけるスポーツクラブ等とも比較をしながら、日本のスポーツ(組織)とその課題について幅広い視点から検討する。

In this course, students will gain an understanding of Japanese sports culture from a global perspective and acquire basic knowledge of community sports theory in order to cultivate "advanced knowledge and abilities that contribute to the improvement of wellness for all people and the building of a wellness society, as well as a rich sense of humanity. Specifically, I would like to consider the meaning and value of sports, examine the history, and, in comparison with sports clubs in European society, discuss Japanese sports (organizations) and their challenges from a broad perspective.

授業の内容 / Course Contents

本講義ではスポーツ文化とは何か、スポーツをどのように考えるのか、という問いに関わるこれまでの議論を踏まえ、日本スポーツの課題を政治、経済、社会、教育、福祉など多面的な視角から理解を深める講義を行う。毎時の講義では講義テーマに関連したスライド提示や映像を活用します。毎時の講義ではリアクションペーパーを提出します。また講義の中間回と最終回に授業内テストを実施します。

In this lecture, based on previous discussions related to the questions of what is sports culture and how do we think about sports, lectures will be given to deepen understanding of issues in Japanese sports from multiple perspectives including politics, economy, society, education, and welfare. Slide presentations and videos related to the lecture topics will be used in each hourly lecture. Students are required to submit a reaction paper for each lecture. In-class tests will be given at the middle and end of each lecture.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 講義の受講に際してのガイダンスを行います。リアクション・コメントや中間回と最終回のテストおよび成績評価について詳細を説明します。スポーツとは何かを考えます。(ガイダンス)
- 【2】: スポーツとは何か: 人間の興奮欲求とスポーツ
- 【3】: スポーツの価値を守るスポーツ権とは何か: スポーツ基本法とスポーツ宣言日本
- 【4】: スポーツの近代化におけるスポーツの享受モデル: 社会体育から生涯スポーツへ
- 【5】: スポーツ組織・集団の形成とそのマネジメント: 集団主義スポーツからライフスタイルスポーツ組織へ
- 【6】: スポーツ組織の自治と自立: ガバナンスとコンプライアンス
- 【7】: 授業内テスト(中間)
- 【8】: ヨーロッパ社会におけるスポーツクラブの歴史
- 【9】: ラディカル・デモクラシーの学校としてのスポーツクラブ

- 【10】: 高度経済成長と日本のコミュニティ・スポーツ
- 【11】: スポーツプロモーションとしてのスポーツ政策
- 【12】: スポーツの公共圏とクラブ文化
- 【13】: 学校運動部の地域移行の行方
- 【14】: 授業内テスト(最終)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 : 100% 授業内テスト: 40% 出席及びリアクション・コメント: 60%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない

参考文献 / Readings

随時紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特にありません

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特にありません

その他 / Others

毎回の講義では、Canvas LMS をつうじて資料を配布します。この資料に関連したスライドを提示し、映像資料も活用しながら講義を進めていきます。出席確認後以降の入室は遅刻とします。遅刻 2 回は欠席 1 回とカウントしますので注意をしてください。講義中の無断退室は欠席となります。不正行為は単位修得不可とします。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

障害者スポーツ論

Sports for the Disabled

(パラスポーツ指導員 初級・中級資格取得 関連科目)

田中 信行(TANAKA NOBUYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN620
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツや積極的な運動を、障がいのある人が身近にいた際に紹介できる能力を身につけることを目標とします。

The aim is for students to acquire the ability to introduce sports and activities to people in the community with disabilities.

授業の内容 / Course Contents

障がいのある人のスポーツに関わる概要(歴史・施策・障害・大会・ルール等)について紹介すると共に、障がいのある人の可能性やスポーツ(積極的な運動)の意義についても考察できるように授業を進めます。講義にあたって、ビデオや実際の用具を紹介して進める予定です。

なお、授業に関する連絡は、Canvas LMS に掲示しますので、前日の 21 時過ぎに授業資料とともに確認してください。※皆さんへの重要な案内を、下記の「授業外の学習」と「テキスト その他」に示しましたので、必ず確認してから履修願います。

In addition to introducing the outline of disabilities in sport (history, measures, disabilities, tournaments, rules etc.), the class will progress by examining the significance of sports for people with disabilities (positive exercise), as well as the possibilities. Lectures are planned to progress while introducing videos and actual tools.

Note that class information will be posted in Notice on Canvas LMS. Students should check this after 9:00PM the evening before the class for information as well as the class materials required.

* As important guidance for all is shown in “Learning outside of class” and “Text and others”, students must check before registering for this class.

授業計画 / Course Schedule

【1】:・オリエンテーション

・「障がい者スポーツ推進の取り組み」-指導員制度、障がい者スポーツセンターなどを含む-

【2】:「障がい者スポーツに関する諸施策」-関係法 スポーツ大会と参加可能な障がいなどを含む-

【3】:「地域における障がい者スポーツ振興」

【4】:障害者スポーツの歴史 -「全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義」を含む-

【5】:障害者スポーツ大会の概要 -「全国障害者スポーツ大会の概要」を含む-

【6】:障害者スポーツ大会で実施される競技-1 -「全国障害者スポーツ大会の実施競技と障害区分」を含む-

【7】:障害者スポーツ大会で実施される競技-2 -「全国障害者スポーツ大会の実施競技と障害区分」を含む-

【8】:「障がいの理解」-1 (肢体不自由の理解とスポーツ支援にあたっての留意点を含む)

【9】:「障がいの理解」-2 (感覚障がい・内部障がいの理解とスポーツ支援にあたっての留意点を含む)

【10】:「障がいの理解」-3 (知的障がい・発達障がいの理解とスポーツ支援にあたっての留意点を含む)

【11】:「障がいの理解」-4 (精神障がいの理解とスポーツ支援にあたっての留意点を含む)

【12】:“全国障害者スポーツ大会選手団編成とスタッフの役割”

【13】:“スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質”

【14】:障がい者スポーツ(主にパラリンピック)の現状と課題“障がいのある人との交流”(講話)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

14 回目は、パラアスリートにお話をきく時間を予定しています。指定した内容をリアクションペーパーに記載するとともに、数人の方に発表等をお願いします。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、授業資料を授業前日 21 時頃までに、Canvas LMS に Up しますので、各自で目を通しておいてください。また普段から、障がいのある人の活動等に関わる報道を意識して、本分野に関わるもので疑問等がありましたら、授業後等に質問等をお願いします。内容によっては、授業に反映したいと思います。

受講の皆さんの状況により、授業内で提出する課題を出す事もありますので、復習にも活用して下さい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

出席数は、文科省指示により加点対象とならない。2/3(9 回) 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。遅刻 1/3 欠席(授業開始から 20 分まで)・早退 1/3 欠席(事前に相談あった場合のみ)とし、その他は欠席。また欠席の配慮を行うのは大学(事務)から連絡があった場合のみ。なお IC リーダーの他に、状況に寄り授業中又は後に課題を提示します。その際は両対応があった場合のみ出席とし、一方の場合は欠席。さらに代理等不正があった場合は、関わった人全てを本授業の評価不可とします。

テキスト / Textbooks

本来は購入が良いのですが、資格認定に関わる内容を示した日本パラスポーツ協会 編の書籍が、2,640 円となります。ですが、授業では配付資料とします。

前日の 21 時頃までに大学”Canvas LMS”に提示します(下記の「その他」も参照)。各自でダウンロードして印刷、または PC/タブレットなどに保存して持参してください。これは、欠席者がいると、1 種類の資料毎に、毎回、多くの用紙が廃棄になる可能性があるためです。環境保護のためにもご協力願います。ただし、「初回のみ」、教員が印刷していきます。

ファイルが PDF のため、PC 保存の場合はメモが取れないため、PC 内のメモアプリや専用ノートの作成を推奨します。

参考文献 / Readings

日本パラスポーツ協会 編『障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)』ぎょうせい 2020 年 9784324108031

授業内容外の質問に該当するものや時間制約で説明できない場合には、文献等を紹介しますので、各自で確認願います。授業の終了後に問い合わせください。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

単位取得のための履修では無く、障害者スポーツ(パラスポーツ)に関わる知識修得や、実施にあたっての用具やルールの工夫により、よりスポーツの機会の拡大を目指す志のある人であることを求めます。

スポーツの実施には Fair であることが大切です。そのため、適正な授業態度を行う事ができない態度は許されませんので承知ください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

可能な限り、PC(Mac/タブレットを含む)を使用し、資料の確認や記入を環境保護の観点からも推奨します。

その他 / Others

先の”テキスト その他”で示しましたが、授業資料は、「Canvas LMS→”コース”→”すべてのコース”→”障害者スポーツ論”→”ファイル”→(該当する)”ファイル”→ダウンロードから、各自でダウンロードして印刷/PC に保存し持参してください。

その他の連絡では、先述の順から「アナウンスメント」より連絡するものもありますので承知ください。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

小児保健・精神保健

Infant Health/Mental Health

大原 さやか(OHARA SAYAKA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN622
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以前入学者対象 人数制限 200 名		

授業の目標 / Course Objectives

精神的健康の保持・増進のために、必要とされる知識や技術を学ぶとともに、それらを実際の問題解決に応用できる力を身につけることを目指す。

Students learn the knowledge and techniques necessary to maintain and improve mental health, and apply these so they can acquire actual problem-solving ability.

授業の内容 / Course Contents

精神保健の定義と目標、ライフサイクルから見た精神保健、精神障害の基礎知識、神経発達症(発達障害)の基礎知識などについて、事例や視聴覚教材を活用し、受講者とともに考えていく。

These issues are considered in a group forum by all the students, using cases and audiovisual materials incorporating definitions and goals of mental health in terms of the life cycle, and a basic knowledge of mental disorders and developmental disorders.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 精神保健とは
- 【2】: 精神保健と精神障害
- 【3】: ライフサイクルにおける精神保健
- 【4】: 胎児期および乳幼児期における精神保健
- 【5】: 学童期における精神保健
- 【6】: 学童期における精神保健②
- 【7】: DVD鑑賞で学ぶⅠ(レポート課題Ⅰ)
- 【8】: 思春期における精神保健
- 【9】: 青年期における精神保健
- 【10】: 成人期における精神保健
- 【11】: 老年期における精神保健
- 【12】: 精神保健における個別課題への取り組み
- 【13】: DVD鑑賞で学ぶⅡ(レポート課題Ⅱ)
- 【14】: 精神障害と医療観察法

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

少しワークを行います。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

精神保健の課題について、普段の生活者としての視点、すなわち精神保健的課題とは身近にまた自分にも起こりうることであり、という視点を踏まえて、将来教員や支援者を目指すものとしての視点に立ち、興味あるトピックを明らかにしながら授業に臨むことが期待される。

講義を受けた後、さらに深掘りしていくために、厚生労働省のHPを検索することや、トピックについて調べることを推奨する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% リアクションペーパー:28% 授業内レポートⅠ:6% 授業内レポートⅡ:6% 最終レポート割合:15%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

バーバラ M.ニューマン他『新版 生涯発達心理学』川島書店 1988

呉 秀三・樫田 五郎『現代語訳 精神病患者私宅監置の実況』医学書院 2012

松本ハウス『統合失調症がやってきた』イースト・プレス 2013

授業中に、適宜紹介する。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以前入学者対象/人数制限 200 名

公衆衛生学

Public Health

黒澤 彩 (KUROSAWA SAYAKA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN624
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで5回実施予定(第3回、第6回、第9回、第11回、第12回を予定)。 ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

公衆衛生についての基礎的な知識を身につける。心身の健康度を高めるための方法や社会制度について理解し、自分を含めた「より多くの人々がより健康で幸福な生活を送ることができる」ことに貢献するための基本的な考え方を理解する。
Understand methods and social systems to improve physical and mental health. Understand the basic ideas for contributing more people, including yourself, to lead healthier and happier lives.

授業の内容 / Course Contents

公衆衛生(Public Health)の授業では、「人々(Public)」の「健康や幸福度(Health)」の向上を目的とした社会制度や実践方法について学習する。加えて、その社会制度や実践方法の科学的な根拠となる研究について学習する。

In this class, the students will learn about the social systems and practical methods aimed at improving the "health" of "public". In addition, the students will learn about the research that is the scientific evidence of the social system and practice methods.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: 公衆衛生学の概念
- [3]: 信憑性が高い健康情報とは
- [4]: 健康情報がつくられる過程
- [5]: 生活習慣と健康
- [6]: ヘルスプロモーション
- [7]: 健康づくりの方法, 女性の体力・運動能力の特徴と運動
- [8]: 健康施策の推進: 健康づくり施策と健康運動指導士の社会的役割, 健康日本 21
- [9]: 健康施策の推進: 健康づくりのための身体活動・運動ガイドライン
- [10]: こどもの成長・発育と運動
- [11]: 成人・高齢者の健康と運動, 加齢に伴う体力の低下と運動, 産業保健
- [12]: 感染症, 精神衛生, しょうがい者の運動能力の特徴と運動
- [13]: 社会と健康, 環境と健康, 健康日本 21(第三次)における社会環境の整備
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【予習】インターネットや参考図書等を用いた事前調査(授業内容に関する項目)を求める。

【復習】授業での配布資料を用いた授業内容の復習を求める。

その他, 必要に応じて授業中に指示する

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業への参加態度:40%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

町田和彦・岩井秀明・木村直人編著 『21世紀の予防医学・公衆衛生 第3版』 杏林書院 2016 9784764400726

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

ユニバーサルスポーツ援助技術演習

Universal Sports Assistance Technique

すべての人が楽しめるスポーツ支援のあり方について考える

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN626
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3220
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

ユニバーサルスポーツの現代的意義と考え方を理解し、具体的なスポーツのユニバーサル化に向けたアレンジ法、支援法について考究する。

The purpose of this course is to understand the modern meaning and concept of universal sports, and to study the arrangement and support methods for specific sports universalization.

授業の内容 / Course Contents

現代社会においては、すべての人がその人の心身の状態や興味・関心に応じて、スポーツを楽しむことが重要になっている。本授業では、そのスポーツのもつ面白さ、楽しさを最大限引き出し、すべての人が楽しめるユニバーサル化に向けたスポーツアレンジ法、支援法について、主にニュースポーツの種目群を題材にして考究する。

In modern society, it is important for all people to enjoy sports according to the individual physical and mental state, and interests. Students will study sports arrangements and support methods aimed at maximizing the fun and enjoyment of sport and making it universally enjoyable for all, focusing on new sports events.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション スポーツの楽しさの本質を考える 実技
- 【2】:ニュースポーツのルール・基礎技術の理解と実技及びアレンジ法 グラウンドゴルフ編
- 【3】:ニュースポーツのルール・基礎技術の理解と実技及びアレンジ法 ペタンク・ボッチャ編
- 【4】:ニュースポーツのルール・基礎技術の理解と実技及びアレンジ法 ユニホック編 トレーニングゲームの考え方とその方法
- 【5】:ニュースポーツのルール・基礎技術の理解と実技及びアレンジ法 車いすバスケットボール編
- 【6】:ニュースポーツのルール・基礎技術の理解と実技及びアレンジ法 キンボール編
- 【7】:ニュースポーツのルール・基礎技術の理解と実技及びアレンジ法 スポーツウエルネス吹矢編
- 【8】:ユニバーサルスポーツの考え方と支援のあり方(最重度障がい者へのスポーツ支援を含む)、ユニバーサル化に向けたスポーツアレンジ・創作法の考え方と支援方法
- 【9】:ニュースポーツのルール・基礎技術の理解と実技及びアレンジ法 ゴールボール編
- 【10】:ニュースポーツのルール・基礎技術の理解と実技及びアレンジ法 インディアカ、ソフトバレーボール、シッティングバレーボール編
- 【11】:ニュースポーツのルール・基礎技術の理解と実技及びアレンジ法 ベースボール編
- 【12】:スポーツアレンジ・創作法の実際 グループ発表(1)
- 【13】:スポーツアレンジ・創作法の実際 グループ発表(2)
- 【14】:スポーツアレンジ・創作法の実際 グループ発表(3)授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席・参加意欲・態度・取り組み:50% グループ発表:20% 最終レポート割合::30%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

松尾哲矢 『体づくり運動&トレ・ゲーム集』 ナツメ社 2016 9784816359927

必要に応じて授業中に紹介する。

その他 / Others

遅刻は厳禁、積極的な参画を期待しています。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 40名

健康運動指導演習

Health and Exercise Guidance Seminar

健康づくりのための運動指導に必要な基礎知識の習得

宮本 瑠美 (MIYAMOTO RUMI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN628
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第4回・第10回・第12回授業)※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3220
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学者対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

健康の維持・増進のための運動・スポーツを実践し、指導法を習得することによって、安全かつ効果的な運動指導を行うための基礎知識・技能を習得することを目標とする。

The goal of this class is to acquire basic knowledge and skills for safe and effective exercise instruction by practicing exercise and sports for the promotion of health and mastering instructional methods.

授業の内容 / Course Contents

運動を実践する対象の特徴や身体の状態、目的に応じた、運動の実施方法および運動指導プログラムの組み立て方法を学ぶ。

グループに分かれて、対象者に応じた運動実施のプログラムを立案する。立案したプログラムをグループ同士で指導し合うことを通じて、実践的な指導方法を身につける。

In this class, the students will learn how to perform exercise and how to organize an exercise instruction program according to the characteristics, physical condition, and the goal of the target population.

In groups, the students will develop exercise instruction programs for their target population. The students will acquire practical instruction methods through group instruction of the programs.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス, ストレッチングと柔軟体操の実践

【2】: 健康運動指導の基礎(1)

健康状態のアセスメント方法

【3】: 健康運動指導の基礎(2)

運動実施の際の安全配慮

【4】: 健康運動指導の基礎(3)

運動実施の効果を高める方法

【5】: エアロビックダンス(1)

健康づくりのためのエアロビックダンスの実践

【6】:エアロビックダンス(2)

健康づくりのためのエアロビックダンスの実践支援

【7】:ウォーキングとジョギング(1)

健康づくりのためのウォーキングとジョギングの実践

【8】:ウォーキングとジョギング(2)

健康づくりのためのウォーキングとジョギングの実践支援

【9】:介護予防と運動(1)

高齢者における体力と運動の実際

【10】:介護予防と運動(2)

介護予防のための運動支援

【11】:健康づくりのための運動の実際・指導法1

対象者の特徴や身体の状態, 目的に応じた運動の実際方法および指導方法(グループワーク)

【12】:健康づくりのための運動の実際・指導法2

運動指導プログラムの作成技法とリスクマネジメント(グループワーク)

【13】:模擬指導体験(グループワーク)

習熟度・理解度テスト, 実技テストの実施

【14】:まとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて, 授業中に指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:40% 技術の理解度:20% レポート:20% テスト:20%

2/3以上の出席をしていない場合は, 成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

その他 / Others

室内シューズと動きやすい服装で参加すること。

第一回の授業から実技を行うので着替えを持参のこと。

当該年度の定期健康診断を必ず受診すること。

授業初回に健康診断の受診の有無を確認する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 30名

障害者スポーツ実践論

Practice of Sports for the Disabled

共生社会とパラスポーツ/A Symbiotic Society and Parasports.

宮田 理(MIYATA OSAMU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN630
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3120
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

障がい者スポーツの意義と理念や様々な障害について理解する。障がい者スポーツのルールや技術、指導法を体得する。スポーツを創造する能力を養う。

Understanding the meaning and philosophy of sports for people with disabilities, as well as gaining knowledge about various types of disabilities. Acquiring an understanding of the rules, techniques, and teaching methods associated with sports for people with disabilities. Developing the ability to design and create inclusive sports activities.

授業の内容 / Course Contents

障がいの理解、障がい者とスポーツの関係性について講義する。障がい者スポーツにおける用具の工夫やルールについて実践を通して学ぶ。また、障がいに合わせてスポーツの導入や指導方法について実技を交えて体得する。

This lecture focuses on understanding disabilities and examining the relationship between individuals with disabilities and sports. Students will engage in practical activities to explore devices used in adaptive sports and learn the relevant rules. The course also covers methods for introducing and teaching sports tailored to specific disabilities.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: 障がい者スポーツ指導員としての留意点
- [3]: 障がいに応じた競技とルール(競技規則)の工夫①(サウンドテーブルテニス)
- [4]: 障がいに応じた指導法、留意点①(サウンドテーブルテニス)
- [5]: 障がいに応じた競技とルール(競技規則)の工夫②(ボッチャ)
- [6]: 障がいに応じた指導法、留意点②(ボッチャ)
- [7]: 障がいに応じた競技とルール(競技規則)の工夫③(フライングディスク)
- [8]: 障がいに応じた指導法、留意点③(フライングディスク)
- [9]: 障がいに応じた競技とルール(競技規則)の工夫④(陸上 短距離 視覚障がい)
- [10]: 障がいに応じた指導法、留意点④(陸上 スラローム 下肢)
- [11]: 障がいに応じた競技とルール(競技規則)の工夫⑤(車いすバスケットボール)
- [12]: 障がいに応じた指導法、留意点⑤-1(車いすバスケットボール)
- [13]: 障がいに応じた指導法、留意点⑤-2(車いすバスケットボール)
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

障がいの理解、障がい者とスポーツの関係性について事前に学習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業参加度・実践課題:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

(公財)日本障がい者スポーツ協会 『障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)』 ぎょうせい 2020
9784324108031

(公財)日本障がい者スポーツ協会 『全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)』 (公財)日本障がい者スポーツ協会 2020

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 40名

障害者スポーツ実践論

Practice of Sports for the Disabled

共生社会とパラスポーツ/A Symbiotic Society and Parasports.

宮田 理(MIYATA OSAMU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN631
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3120
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

障がい者スポーツの意義と理念や様々な障害について理解する。障がい者スポーツのルールや技術、指導法を体得する。スポーツを創造する能力を養う。

Understanding the meaning and philosophy of sports for people with disabilities, as well as gaining knowledge about various types of disabilities. Acquiring an understanding of the rules, techniques, and teaching methods associated with sports for people with disabilities. Developing the ability to design and create inclusive sports activities.

授業の内容 / Course Contents

障がいの理解、障がい者とスポーツの関係性について講義する。障がい者スポーツにおける用具の工夫やルールについて実践を通して学ぶ。また、障がいに合わせてスポーツの導入や指導方法について実技を交えて体得する。

This lecture focuses on understanding disabilities and examining the relationship between individuals with disabilities and sports. Students will engage in practical activities to explore devices used in adaptive sports and learn the relevant rules. The course also covers methods for introducing and teaching sports tailored to specific disabilities.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: 障がい者スポーツ指導員としての留意点
- [3]: 障がいに応じた競技とルール(競技規則)の工夫①(サウンドテーブルテニス)
- [4]: 障がいに応じた指導法、留意点①(サウンドテーブルテニス)
- [5]: 障がいに応じた競技とルール(競技規則)の工夫②(ボッチャ)
- [6]: 障がいに応じた指導法、留意点②(ボッチャ)
- [7]: 障がいに応じた競技とルール(競技規則)の工夫③(フライングディスク)
- [8]: 障がいに応じた指導法、留意点③(フライングディスク)
- [9]: 障がいに応じた競技とルール(競技規則)の工夫④(陸上 短距離 視覚障がい)
- [10]: 障がいに応じた指導法、留意点④(陸上 スラローム 下肢)
- [11]: 障がいに応じた競技とルール(競技規則)の工夫⑤(車いすバスケットボール)
- [12]: 障がいに応じた指導法、留意点⑤-1(車いすバスケットボール)
- [13]: 障がいに応じた指導法、留意点⑤-2(車いすバスケットボール)
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

障がいの理解、障がい者とスポーツの関係性について事前に学習しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業参加度・実践課題:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

(公財)日本障がい者スポーツ協会 『障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)』 ぎょうせい 2020
9784324108031

(公財)日本障がい者スポーツ協会 『全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)』 (公財)日本障がい者スポーツ協会 2020

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 40名

リハビリテーション論

Rehabilitation

大橋 幸子(OHASHI SACHIKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN632
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

医療の進歩, 社会・経済の変化, 人々の価値観の変化とともに, リハビリテーションの概念も変化してきました。リハビリテーションは単に身体障害者の社会復帰を支援するにとどまらず, 発達障害児(者), 精神障害者, 認知症高齢者の生活も支えることが求められています。現代社会が求めるリハビリテーションの理念とその実践について理解を深めます。

With the progress of medical care, social and economic change, along with people's sense of values, the concept of rehabilitation has changed. Rehabilitation is required not only to support the physically disabled, but also to support the lives of children with developmental disabilities, mental disorders and elderly people with dementia. Understand the principles and practices of rehabilitation that modern society requires.

授業の内容 / Course Contents

リハビリテーションの入門として, リハビリテーションの概念, 歴史, プロセス等について概観します。講義の中心は具体的な各種疾患と障害に対する医学的リハビリテーションの実践です。

An overview of the concepts, history, and processes of rehabilitation, providing an introduction to the subject. The focus of the lecture will be the practice of medical rehabilitation for various specific diseases and disorders.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

リハビリテーションの理念, リハビリテーションの対象領域と主要疾患, 基本用語と基礎知識

【2】:リハビリテーションにかかわるスタッフとリハビリテーションプロセス

【3】:脳卒中のリハビリテーション1

【4】:脳卒中のリハビリテーション2

【5】:脊髄損傷のリハビリテーション

【6】:パーキンソン病のリハビリテーション

【7】:切断のリハビリテーション

【8】:摂食・嚥下のリハビリテーション

【9】:高齢期のリハビリテーション1

【10】:高齢期のリハビリテーション2

【11】:発達障害領域のリハビリテーション

【12】:精神障害領域のリハビリテーション

【13】:統合失調症のリハビリテーション

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 出席及び授業参加度:30%

2/3 以上の出席がないものは成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

落合 滋之 『リハビリテーションビジュアルブック第2版』 学研メディカル秀潤社 2016 9784780911930

その他 / Others

- ・パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用します。
- ・毎回授業のパワーポイント資料を、Canvas LMS に掲載します。
- ・2/3 以上の出席がないものは成績評価の対象としないので注意してください。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツコーチング演習

Sports Coaching Seminar
コーチングの基本と留意点

塩田 徹 (SHIODA TORU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN634
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3120
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

少人数グループ別での模擬授業を実際に行うことで、自分の専門とする競技だけでなく専門外の種目を指導する時の留意点について自ら感じ、考え、解決法について考察することをこの授業の目的とする。

Mock classes are conducted in small groups to help students understand, think about, and come up with solutions in relation to key points that arise when teaching non-specialty events as well as students' own specialty event.

授業の内容 / Course Contents

スポーツのコーチングにおいて、チーム全体を対象とする場合と個人の技術矯正では、ポイントとなる視点や言葉かけ等コーチングの留意点は異なる。この授業では、課題を設定し、その課題解決に向けたグループ別の模擬指導を実施する。その後、グループ内での討論会およびクラス内で発表会を行い、指導上の留意点や解決法について全員で共有できるように学習する。身体活動を伴うので、着替えを準備すること。

The main points to be aware of in sports coaching differ in terms of areas of focus and wording used, depending on whether you are addressing a whole team or correcting individual techniques. In this lecture, a task will be set for each group and mock instruction will be given for solving the task. After that, there will be a group discussion and a class presentation so that everyone can share instruction points and solutions. Physical activity is involved so students should bring a change of clothes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンスとコーチングの組み立て
- 【2】: トレーニング効果とスポーツ障害
- 【3】: 各種ウォーミングアップとクーリングダウン
- 【4】: コーチングへのビデオの活用法と問題点
- 【5】: コーチングへのビデオ利用のクラス内報告
- 【6】: 体力測定項目の選定と測定方法
- 【7】: 体力結果の利用法のクラス内報告
- 【8】: スキル矯正の模擬コーチング1
- 【9】: スキル矯正の模擬コーチング2
- 【10】: スキル矯正コーチングのクラス内報告
- 【11】: スポーツ指導の模擬コーチング1
- 【12】: スポーツ指導の模擬コーチング2
- 【13】: スポーツ指導の模擬コーチング3
- 【14】: スポーツ指導コーチングのクラス内報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(ハワホ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修登録完了後に Canvas LMS 上で指示する。スポーツコーチングが単なる技術指導にとどまることの無いように、参考書や配付資料を参考にして、スポーツの特徴および対象者のレベルや状態に対応した柔軟なコーチングができるように理解を深めてもらいたい。

模擬コーチングに対しては、担当分のレジュメを作成して望むこと。

模擬コーチングのための数分間の簡単な動作映像の記録を課す。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:30% 担当した模擬指導:30% 授業中に課す提出物:20% 最終レポート割合::20%

単位修得のためには2/3以上の出席が必要となる

テキスト / Textbooks

必要に応じて授業中に配布する

参考文献 / Readings

尾縣貢監訳 『体力向上のトレーニング戦略』 大修館 2006 4469266159

その他、授業時に紹介する

その他 / Others

遅刻は厳禁。初回は着替えの必要はない。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 40 名

スポーツコーチング特論

Special Topics in Sports Coaching

土肥 美智子/原 悦子/今泉 守正/星野 一郎/谷本 歩実(DOHI MICHIKO/ HARA ETSUKO/ IMAIZUMI MORINAO/ HOSHINO ICHIRO/ TANIMOTO AYUMI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN636
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

多様な競技種目を対象に、トップレベルの競技スポーツ現場において実践されているコーチングの事例を手掛かりに、トップアスリートを育てるためのスポーツコーチングの在り方について理解することを目標とする。

This course aims to deepen the understanding of coaching concepts in high performance sports using examples of coaching practiced in high-level competitive sports of various disciplines.

授業の内容 / Course Contents

実際にトップアスリートを育成・指導した経験をもつ講師陣が、各々が専門とする競技種目における指導法とその考え方などについて講義する。また、本授業では、諸外国におけるコーチングの現状にも触れ、スポーツ選手が最大のパフォーマンスを発揮できるように、指導者が持つべき視点や、トップアスリートを支援するコーチングの役割について考究する。Instructors, who have substantial experience of actually coaching elite sport athletes, will give lectures on coaching methods and their underlying ideas in their specialized disciplines. This course will also introduce the current state of coaching in foreign countries and consider the perspectives necessary for coaches and the role of coaching to support athletes in order to maximize their performance.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス&スポーツコーチング概論
- 【2】: 競技種目①に関する講義(1)
- 【3】: 競技種目①に関する講義(2)
- 【4】: 競技種目①のコーチングに関するグループワーク
- 【5】: 競技種目②に関する講義(1)
- 【6】: 競技種目②に関する講義(2)
- 【7】: 競技種目②のコーチングに関するグループワーク
- 【8】: 競技種目③に関する講義(1)
- 【9】: 競技種目③に関する講義(2)
- 【10】: 競技種目③のコーチングに関するグループワーク
- 【11】: 競技種目④に関する講義(1)
- 【12】: 競技種目④に関する講義(2)
- 【13】: 競技種目④のコーチングに関するグループワーク
- 【14】: トップレベルのコーチングに関するグループワークとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自分の考えるコーチングについて調べ、様々なスポーツ番組や情報を基にスポーツ現象に対するコメントを行えるように自習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度およびリアクションペーパー:60% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に紹介する。

その他 / Others

<その他 / Others>

集中講義の日程や競技種目および講師については決定次第、お知らせする。

参考として、2024年度は、卓球、柔道、サッカー、陸上競技を取り上げて議論した。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

動作分析法演習

Exercise Analysis Seminar

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN638
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3320
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツや日常生活における身体動作を、バイオメカニクス的手法を用いて計測・分析する技術を習得する。

Students will acquire skills in measuring and analyzing physical movements in sports and daily life using biomechanics.

授業の内容 / Course Contents

「スポーツパフォーマンス向上」「外傷・障害予防」「健康維持・増進」に関わる身近な身体動作について、機器を用いた計測と解析ソフトなどを用いた分析を経験する。さらに、分析結果をバイオメカニクスの観点から解釈する。

Students will learn about using measuring equipment and analysis software in relation to common physical movements concerning the improvement of sports performance, the prevention of injury and disability, and the promotion and maintenance of health. In addition, they will interpret the results of the analysis using biomechanics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 動作分析法演習について
- 【2】: 講義(ハイスピードカメラによる撮影、床反力計による計測)
- 【3】: 計測(歩行動作)
- 【4】: 分析(歩行動作)
- 【5】: 分析(歩行動作)
- 【6】: 計測(開眼・閉眼片脚立ち)
- 【7】: 分析(開眼・閉眼片脚立ち)
- 【8】: 分析(開眼・閉眼片脚立ち)
- 【9】: 計測(跳躍動作)
- 【10】: 分析(跳躍動作)
- 【11】: 分析(跳躍動作)
- 【12】: 多人数データの分析
- 【13】: 多人数データの分析
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時または Canvas LMS 上にて行う。各回の予習・復習にはそれぞれ 2 時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時に課すレポート(複数を合算):40% 出席および授業への参加態度:60%

テキスト / Textbooks

特定の教科書は使用しない。必要に応じて授業時に資料を配付する。

参考文献 / Readings

ゴードン・ロバートソン他著 阿江通良監訳 『身体運動のバイオメカニクス研究法』 大修館書店 2008 年 4,180 円
9784469266535

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

「バイオメカニクス」の単位を修得済みまたは履修中であることが望ましい。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 30 名

ダイバーシティ・スポーツ演習

Seminar of Diversity in Sports

ジェンダー・バイアス・フリーな体育・スポーツの在り方について、議論し、実践し、さらには、実践を振り返るを試みる

佐野 信子(SANO NOBUKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN640
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3210
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーの視点から今後の体育やスポーツについて考究するための基礎的な概念を習得し、その上で、実際に新たなスポーツを構築しジェンダーに敏感な分析視覚を養うことを目標とする。

The goal is to acquire basic concepts for considering future physical education and sports from a gender perspective, and then to actually create new sports and develop an analytical perspective that is sensitive to gender.

授業の内容 / Course Contents

ジェンダー・バイアス・フリーな体育・スポーツの在り方について、実際に議論し、実践し、さらには、実践を振り返るを試みることから、今後の社会で必要とされる新たな体育やスポーツの在り方を模索する。

By actually discussing and practicing physical education and sports that are free from gender bias, and attempting to reflect on the practice, we will explore new forms of physical education and sports that will be needed in future society.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: ジェンダー概念の検討(1) ジェンダー概念の登場
- [3]: ジェンダー概念の検討(2) ジェンダー概念の変遷
- [4]: デフィスカッション(1)
- [5]: スポーツ実践(1)
- [6]: 振り返り(1)
- [7]: ディスカッション(2)
- [8]: スポーツ実践(2)
- [9]: 振り返り(2)
- [10]: ディスカッション(3)
- [11]: スポーツ実践(3)
- [12]: 振り返り(3)
- [13]: 最終テスト
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
----	--	---------------	---	---------------	--

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

ジェンダーの視点からスポーツや体育、ウエルネスについて日頃から考える習慣をつけてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート①:30% 中間レポート②:30% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

テキストは授業の進行により、各回で最善と思われる文献を履修者に配布し講読する。

参考文献 / Readings

飯田貴子他編著 『よくわかるスポーツとジェンダー』 ミネルヴァ書房 2018

その他 / Others

授業の構成上、「身体科学からの学び(佐野担当)」「ウエルネスプロモーション論」「ダイバーシティ・スポーツ論」と内容の一部が重複することとなる。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 40名

生活習慣病の科学

Illnesses of Lifestyle Choices

土肥 美智子(DOHI MICHIKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN642
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	対面(一部オンライン、オンラインは2回を予定)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3200
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

生活習慣病を理解し、生活習慣病に対する身体活動の重要性を学ぶ。

To understanding lifestyle-related diseases and to learn about the importance of physical activity for lifestyle-related diseases.

授業の内容 / Course Contents

生活習慣病の定義、原因、予防、社会への影響について理解した上で、身体活動がどのように生活習慣病に影響を与えるのか、各疾患のガイドラインに沿って理解する。また一般人やアスリートにおける運動の効果について文献を参考に考察する。

After understanding the definition, causes, prevention and societal impact of lifestyle-related diseases, the course will provide an understanding of how physical activity affects lifestyle-related diseases, in line with guidelines for each disease. The effects of physical activity in the general population and athletes will also be discussed with reference to the literature.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:生活習慣病とメタボリックシンドローム
- 【2】:生活習慣病の各論:肥満、肥満症
- 【3】:生活習慣病の各論:高血圧
- 【4】:生活習慣病の各論:脂質異常症
- 【5】:生活習慣病の各論:耐糖能異常・糖尿病
- 【6】:生活習慣病の各論:虚血性心疾患とリハビリテーション
- 【7】:生活習慣病の各論:ロコモティブシンドローム
- 【8】:生活習慣病の各論:運動器退行性疾患
- 【9】:生活習慣病の各論:呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患、運動誘発性喘息)
- 【10】:生活習慣病の各論:がん(悪性新生物)
- 【11】:生活習慣病の各論:軽度認知障害、認知症
- 【12】:生活習慣病と運動
- 【13】:トップアスリートと生活習慣病
- 【14】:WHO が用いる非感染性疾患(Noncommunicable diseases)と生活習慣病

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各論については医学的な内容になるので、各疾患について基本的な病態について予習をしてから受講してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 原則として毎授業内に行う習熟度テストまたは小レポート:70% 最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

運動処方・療法演習

Exercise Prescription and Therapy Seminar

川井 謙太郎(KAWAI KENTARO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN644
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3220
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

運動処方と運動療法の理論と基礎知識を身につけ、特殊な状況にある人(生活習慣病, 高齢者, 整形外科疾患など)から一般の人に対する健康増進のための運動プログラムを作成できるようになることを目標とする。また, アスリートに対する傷害からの回復, リハビリテーション, パフォーマンス向上のための運動プログラムについても作成できるようになる。

The goal of this course is to provide students with the theory and basic knowledge of exercise prescription and exercise therapy, and to enable them to develop exercise programs for health promotion for people with special conditions (lifestyle-related diseases, elderly, orthopedic diseases, etc.) and for the general public. The students will also be able to develop exercise programs for recovery from injury, rehabilitation, and performance improvement for athletes.

授業の内容 / Course Contents

運動処方とは、健康関連体力を向上させるための運動の頻度(F: frequency)・強度(I: intensity)・持続時間(T: time or duration)・運動の種類(T: type of exercise)を規定することである(FITT の原則)。安全で効果的な運動処方を行うため、個人の状況に合致した運動処方・療法の具体的方法を学習したうえで、実際に運動プログラムを作成し、検討する。

Exercise prescription is to specify the frequency (F: frequency), intensity (I: intensity), duration (T: time or duration), and type of exercise (T: type of exercise) to improve health-related physical fitness (FITT principle). In order to prescribe safe and effective exercise, students learn specific methods of exercise prescription and therapy that match the individual's situation, and then actually create and examine an exercise program.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス 運動処方の考え方
- [2]: コンディションの把握と管理
- [3]: コンディショニングの方法(メディカルチェック)
- [4]: 運動負荷検査
- [5]: 運動処方の一般的原則
- [6]: 特殊な状況にある人の運動処方
- [7]: 一般的な活動量を知る
- [8]: 外傷予防に必要な環境整備
- [9]: アスレティックリハビリテーションの考え方
- [10]: アスレティックリハビリテーションの基礎知識
- [11]: プログラミングの実際(体幹)
- [12]: プログラミングの実際(上肢)
- [13]: プログラミングの実際(下肢)

【14】:まとめ 運動処方・療法とは

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

秋学期「運動処方・療法」に関連した科目であり、演習を中心に実施する

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:20% 授業内課題:20%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。授業時に資料を配付する。

参考文献 / Readings

細田多穂・植松光俊, 大川裕行, 大工谷新一 『運動療法学テキスト 改訂第3版』 南江堂 2019 9784524246212

ACSM(American College of Sports Medicine)・日本体力医学会体力科学編集委員会 『運動処方の指針 原書第8版』 南江堂 2011 9784524262168

PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する。また、アクティブラーニングを取り入れ、演習を中心に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

その他 / Others

秋学期「運動処方・療法」に関連した科目

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 40 名

スポーツウエルネス心理学(応用)

Sports Wellness Psychology (Applied)

スポーツ心理学、健康心理学の知見を実践へ活かす。

遠藤 伸太郎 (ENDO SHINTARO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN646
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象 人数制限 40 名		

授業の目標 / Course Objectives

競技者にとって、心理的な知識や技術を習得することは競技力を向上させるための重要な手段の一つである。また非競技者にとっても、スポーツや身体運動を実施することにより、心理面や身体面などのウエルネスレベルの向上などさまざまな効果が期待される。本授業では、実践を通して心理的スキルを習得し、競技力の向上や日常生活でのウエルネスレベルの向上に応用できることを目指す。

The acquisition of psychological knowledge and skills is an important way for athletes to improve their performance. Sports and physical exercise can have various benefits such as improvements in psychological state and levels of fitness and wellness, even for those who are not engaged in competitive activity. The aim of this course is for students to acquire psychological skills through practice and to be able to apply these to improving their competitive capabilities and their levels of well-being in daily life.

授業の内容 / Course Contents

競技者にとっては、心・技・体のバランスとそれらの向上が競技力を高めるのに欠かせないが、特に一流競技者では心理面での知識や方略が勝敗を分けることは珍しくない。一方非競技者に注目すると、スポーツや身体運動は、体力の向上や生活習慣病の予防などの身体的側面ばかりではなく、最近では認知機能や心理社会的側面においても重要な働きを持つことが明らかとなっている。本授業では、スポーツ心理学と健康心理学の知見を活かしたアプローチを学びつつ、それによりどのような変化が起こるのか、より効果的にするためにはどうする必要があるのか、実践を交えつつ学ぶ。内容は受講生の興味や社会情勢などにより柔軟に対応する。

For athletes, improving the balance between the respective elements of the mind, the body and technique is essential for improving competitive ability. It is not uncommon, especially in top athletes, for psychological knowledge and strategy to be the difference between winning and losing. For non-competitors, sports and physical activity also have an important role to play not only in physical aspects such as the improvement of physical strength and prevention of lifestyle-related diseases, but also, more recently in the cognitive function and psychosocial aspects. In this course, students will learn about approaches that based on the findings of sports psychology and health psychology, while learning, through practice, what changes occur in the physical and mental as a result of these approaches and how to make them more effective. We will adjust the contents flexibly according to the students' interests and social situation, etc.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: スポーツや身体運動、ウエルネスに関連する指標の理解
- [3]: スポーツや身体運動に伴うウエルネスに関連する指標の変化

- 【4】: ウェルネスに関連する個人特性の理解
- 【5】: 身体運動を含めた様々な活動による心身の変化の検証
- 【6】: 身体運動を含めた様々な活動によるポジティブ感情の喚起
- 【7】: 身体運動を含めた様々な活動による混合感情の理解
- 【8】: 環境の心理的側面への影響
- 【9】: コミュニケーションスキルとチームビルディング
- 【10】: 効果的なチームビルディングによるパフォーマンスへの影響
- 【11】: メンタルトレーニングとあがり、パフォーマンスの関連
- 【12】: フローとマインドフルネスによる心身の指標、パフォーマンスの変化
- 【13】: 日本人の美徳とメンタルトレーニング
- 【14】: これまでの授業内容の確認とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業前や授業後に課題を提示し、その提出や発表を求めることがある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:40% 授業における討論:30% 授業内レポート:30%

2/3 以上の出席を単位取得の条件とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて講義中に紹介する。

その他 / Others

「スポーツウェルネス心理学(基礎)」と「メンタルマネジメント」の講義を踏まえた内容となるため、これらの科目の履修が強く望まれる。

演習形式の授業を挟むため、授業への積極的な参加が求められる。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

人数制限 40 名

運動・スポーツ栄養学(応用)

Exercise and Sports Nutrition (Applied)
スポーツ食品論(商品開発とマーケティング)

杉浦 克己(SUGIURA KATSUMI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN648
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで1回実施する(第5回授業)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ食品のマーケティングと食品科学などの知識を前提にしつつ、企業の戦略の実際を詳細に学び、これからの時代に求められる CSV や SDGs などの視点も踏まえて、スポーツ食品の将来の方向性を議論できる能力を身につける。Based on a foundation of knowledge of sports food marketing and food science, this course will provide a detailed study of the actual corporate strategies and equip students with the ability to discuss the future direction of sports foods, taking into account the perspectives of CSV and SDGs that will be required in the coming era.

授業の内容 / Course Contents

スポーツドリンク、アミノ酸、プロテインを3つの柱として、スポーツ食品の全体像を把握する。そのために、①マーケティング戦略を基本として、②基礎研究と商品開発(有効性、安全性等を含む)、③販売促進と営業活動、④スポーツ現場での栄養サポートと得られる効果について、専門家をゲストに迎えて議論していく。運動・スポーツ栄養学(基礎)で学んだ基本的な知識を、実際のビジネスに結びつくように深化させる。

This course will provide an overall understanding of sports foods, with a focus on the three pillars of sports drinks, amino acids, and proteins. To achieve this, participants will discuss (1) marketing strategies as a basis, (2) basic research and product development (including efficacy, safety, etc.), (3) sales promotion and sales activities, and (4) nutritional guidance for athletes and the benefits that can be obtained, with guest experts. This course will deepen the basic knowledge learned in Exercise and Sports Nutrition (Basics) so that it can be applied to actual business.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション・スポーツ食品とは何か
- 【2】:スポーツドリンクの種類、価格、販売ルート、販売促進活動(演習)
- 【3】:健康・スポーツに関わる食品の営業活動(ゲスト)
- 【4】:スポーツドリンクのマーケティング
- 【5】:アミノ酸とタンパク質の科学
- 【6】:アミノ酸のマーケティング(ゲスト)
- 【7】:アミノ酸ビジネスの未来(演習)
- 【8】:プロテインビジネスの歴史
- 【9】:プロテインの基礎研究と商品開発(ゲスト)
- 【10】:スポーツ食品の安全性と行政指導(演習)
- 【11】:スポーツ栄養学とその普及
- 【12】:アスリートの栄養指導の実際(ゲスト)
- 【13】:国内外の健康・スポーツに関する栄養上の課題(演習)

【14】:スポーツ食品の未来・まとめ・最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

食品の店頭調査あり。専門家をゲストスピーカーに招く。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、課題を課すので、事前学習と事後学習で約2時間を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の課題とプレゼン:70% 最終テスト割合::30%

3/4以上の出席が無いと、成績評価の対象とならない。

テキスト / Textbooks

授業中に適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

杉浦克己『スポーツ栄養学がわかる』大修館書店 2021 9784469269208

杉浦克己『一般教養としてのサプリメント学』草思社 2024 9784794226822

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

『運動・スポーツ栄養学(基礎)』を履修済みであること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具。

その他 / Others

担当教員が発信するYouTubeが参考になる。

https://www.youtube.com/channel/UCRBkmlF2SOFH_j5ne9IYhVw

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

組織マネジメントサービス論

Organizational Management Theory

リーダー・メンバーの在り方とチームマネジメントを考える (Leadership & Membership & Team Management)

中村 聡宏／荒木 重雄／池田 昌人／荻野 忠寛／宇山 賢 (NAKAMURA AKIHIRO/ ARAKI SHIGEO/ IKEDA MASATO/ OGINO TADAHIRO/ UYAMA SATORU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN650
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)Face to face (all classes are face-to-face)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ、ビジネス、サービスにおける組織マネジメントの基本概念を理解する。また、マネジメントの課題と解決策を検討しながら、実践的なマネジメント手法や応用力を養うことをめざす。

Students will understand the basic concepts of organizational management in sports, business, and services. The course also aims to develop practical management techniques and applied skills while examining management issues and solutions. Students aim to develop practical and applied management skills as they examine management issues and solutions.

授業の内容 / Course Contents

スポーツやビジネスシーンにおいてさまざまな立場で活躍するリーダーたちとともに、組織・チームのマネジメント理論と実践を学びながら、ビジネス・サービスなどを中心に適用・応用する方法を考察する。組織論、リーダーシップ、コミュニケーション、モチベーション、顧客満足度向上などのテーマについて、ケーススタディやグループワークを通じて実践的な知識を身につける。

Students will work with leaders in various capacities in sports and business settings to study organizational and team management theory and practice, while examining how to apply and apply it to business, service, and other areas.

Students will acquire practical knowledge through case studies and group work on topics such as organizational theory, leadership, communication, motivation, and improving customer satisfaction.

授業計画 / Course Schedule

【1】:組織マネジメントを理解する意義

Importance of Organizational Management

【2】:兼任講師①/組織の基本構造とマネジメント

Lecturer 1/Basic Organizational Structure and Management

【3】:兼任講師①/ケースディスカッション① トップリーダーとともに学ぶ組織マネジメント

Lecturer 1/Case Discussion 1) Organizational Management with Top Leaders

【4】:グループワーク①/課題意識を語り合う

Group work 1/Discussing awareness of issues

【5】:兼任講師②/チームマネジメントとコミュニケーション

Lecturer 2/Team Management and Communication

【6】:兼任講師②/ケースディスカッション② トップリーダーとともに学ぶ組織マネジメント

Lecturer 2/Case Discussion 2) Organizational Management with Top Leaders

【7】:グループワーク②/コミュニケーションを考える

Group work 2/Considering about leadership

【8】:兼任講師③/人的資源管理(HRM)の基礎・採用・育成・評価の基本

Lecturer 3/Basics of Human Resource Management, Recruitment, Training and Evaluation

【9】:兼任講師③/ケースディスカッション③ トップリーダーとともに学ぶ組織マネジメント

Lecturer 3/Case Discussion 3) Organizational Management with Top Leaders

【10】:兼任講師④/モチベーションマネジメント

Lecturer 4/Motivation management

【11】:兼任講師④/ケースディスカッション④ トップリーダーとともに学ぶ組織マネジメント

Lecturer 4/Case Discussion 4) Organizational Management with Top Leaders

【12】:グループワーク③/広報&プロモーション戦略を考える —プレゼンテーションの極意を知る—

Group work 3/Public Relations & Promotional Strategies - Discover the art of presentation -

【13】:グループワーク④/サービスマネジメントと顧客満足度 —プレゼンテーションを創る—

Group work 4/Service Management and Customer Satisfaction - Creating a presentation -

【14】:学生プレゼンテーションおよび講評・総括

Student presentation & Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(ハワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度・貢献度:40% 授業内に指示した提出物:40% グループワークおよびプレゼンテーション:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツ行政学

Sports Public Administration

日比野 幹生(HIBINO MIKIO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN652
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	SWN3000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 春学期集中 8 月 1 日(金)1~4 限、4 日(月)1~4 限、5 日(火)1~4 限、6 日(水)1~2 限		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ行政は、公共的福祉の視点から国民のスポーツに関わる諸条件を整備し、スポーツを広く普及奨励することをねらいとしている。本授業では、スポーツ行政に関する基礎概念を理解し、国及び地方自治体の実際のスポーツ行政における現代的課題を取り上げ、今後のスポーツ行政・政策の方向性について理解することを目指す。

Sport administration aims to develop various conditions of nations' sport in the perspectives of public welfare and promote sport widely. In this lecture, students will understand the basic concept on sport administration, and the future direction of sport administration/ policy, referring to contemporary issues of actual sport administration in relation to central and local government.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、スポーツ行政に関する諸概念や基礎理論を理解するとともに、スポーツ基本法の制定、スポーツ庁の創設などにより著しく変化してきた我が国の中央政府及び地方自治体のスポーツ行政組織、スポーツ行政計画、個別スポーツ政策を概観する。さらには、本授業で身に付けた基礎知識を用いて、各自がスポーツ行政の立場に立って実際の課題解決に向けた政策立案を実践する。

In this lecture, students understand concepts and basic principles of sport administration. This lecture also explores the sport administration structure of the central government and local government which were significantly changed because of enactment of the Sport Basic Act and the establishment of Japan Sport Agency, action plans of sport administration and individual sport policies. In addition, students implement policy making which aims to solve practical issues, being a position to sport administrators, using basic knowledge through this lecture.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: スポーツ行政の基礎概念: 行政とは何か、政策とは何か、スポーツ行政の意義等
- 【2】: スポーツ行政組織: 国及び地方公共団体等のスポーツ行政組織
- 【3】: スポーツ行政と関係法: スポーツ基本法の成立過程と制定の意義
- 【4】: スポーツ行政の展開: スポーツ行政と民間機関の関わり方
- 【5】: スポーツ行政計画①: 行政計画とは何か、国のスポーツ基本計画の概観
- 【6】: スポーツ行政計画②: 地方のスポーツ推進計画の概観
- 【7】: スポーツ行政計画③: 地方のスポーツ推進計画の考察
- 【8】: スポーツ行政計画④: 地方のスポーツ推進計画への提言
- 【9】: スポーツ行政の実践①: 問題の発見と構造分析
- 【10】: スポーツ行政の実践②: 政策課題の設定
- 【11】: スポーツ行政の実践③: 政策課題の解決手段の検討

【12】:スポーツ行政の実践④:政策課題の解決手段の作成

【13】:政策/スポーツ課題の解決策に係る発表

【14】:政策/スポーツによる社会課題の解決策に係る発表、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

プレゼンテーション、ディスカッション、リアクションペーパーによるアクティブラーニングを取り入れる。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の予習範囲や課題は、必要に応じて授業時に提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 中間レポート:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

特にテキストの指定はない。教員が作成した授業資料をデータで配信する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

データで配信した授業資料の活用、リアクションペーパー及び中間・最終課題レポートの授業中の作成・提出には PC 及び Microsoft PowerPoint・ Word が必要となる。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/春学期集中

アスリハ&リコンディショニング1

Athletic Rehabilitation and Reconditioning 1

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN654
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業)※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学者対象 人数制限 180 名		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、対象者の特徴や各種環境、感染症、ドーピング、メンタルヘルスなどの安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解したうえで、その評価方法と情報の活用方法を理解することで、科学的根拠に基づいた予防対応の計画および実践に必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。

This course aims to equip students with the knowledge, attitudes, and skills necessary to plan and implement preventive measures based on scientific evidence. It does so by fostering an understanding of the characteristics of target individuals, various environments, infectious diseases, doping, mental health, and other factors that may affect safety, health management, and sports injuries or disorders. Additionally, students will learn methods for evaluating these factors and utilizing the information effectively.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、対象者の特徴や各種環境、感染症、ドーピング、メンタルヘルスなどの安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解したうえで、その評価方法と情報の活用方法を理解することで、科学的根拠に基づいた予防対応の計画および実践に必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。

This course aims to develop the knowledge, attitudes, and skills necessary for planning and implementing preventive measures based on scientific evidence. It focuses on understanding the characteristics of target individuals, various environments, infectious diseases, doping, mental health, and other factors that influence safety and health management, as well as sports injuries and disorders. Students will also learn methods for evaluating these factors and effectively utilizing the gathered information.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:安全・健康管理と生活習慣・運動習慣
- 【2】:安全・健康管理に影響を及ぼす要因への対応(性別)
- 【3】:安全・健康管理に影響を及ぼす要因への対応(成長期)
- 【4】:安全・健康管理に影響を及ぼす要因への対応(中高年・高齢者)
- 【5】:安全・健康管理に影響を及ぼす要因への対応(障がい者)
- 【6】:安全・健康管理に影響を及ぼす要因への対応(感染症)
- 【7】:安全・健康管理に影響を及ぼす要因への対応(暑熱・寒冷・高地環境)
- 【8】:安全・健康管理に影響を及ぼす要因への対応(落雷・特殊環境)

- 【9】:安全・健康管理に影響を及ぼす要因への対応(時差・移動・海外遠征)
- 【10】:安全・健康管理に影響を及ぼす要因への対応(用具・防具・設備)
- 【11】:安全・健康管理に影響を及ぼす要因への対応(競技・種目特性)
- 【12】:健康管理
- 【13】:メンタルヘルス・アンチドーピング
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内テスト(複数回):60% 授業参加度:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2巻 巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)資格取得に必須の科目である

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用するため、必要な機器を持参すること

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 180 名

アスリハ&リコンディショニング2

Athletic Rehabilitation and Reconditioning 2

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN656
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業)※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学者対象 人数制限 180 名		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、部位別の代表的な機能障害・不全をもたらす症状を想定し、状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニングプログラムを計画できるようになることをねらいとする。

The aim of this subject is to enable students to envisage the symptoms that lead to typical dysfunctions and deficiencies in different parts of the body and to plan an athletic rehabilitation and reconditioning programme according to the condition.

授業の内容 / Course Contents

アスレチックリハビリテーション・リコンディショニングの施行にあたって不可欠な「競技種目特性」について学ぶ。各スポーツ競技においては、競技に特異的な動作やルールなどがあり、それらの特性に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング指導を理解し、有効な指導ができるようにする。

This course focuses on learning the "sport-specific characteristics" essential for implementing athletic rehabilitation and reconditioning. Each sport has unique movements and rules, and students will develop an understanding of athletic rehabilitation and reconditioning tailored to these characteristics, enabling them to provide effective guidance.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: スポーツ外傷・障害などにみられる機能的問題への評価と対応
- 【2】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・コンディショニング(頭頸部)
- 【3】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング(胸部)
- 【4】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング(腰部)
- 【5】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング(肩部)
- 【6】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング(肘部)
- 【7】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング(手関節・手)
- 【8】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング(骨盤帯・股関節)
- 【9】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング(大腿部)
- 【10】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング(膝関節)
- 【11】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング(下腿部)
- 【12】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング(足関節・足部)
- 【13】: 部位ごとの状態に応じたアスレチックリハビリテーション・リコンディショニング(パラスポーツのプレーヤーへの対

応)

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内テスト(複数回):60% 授業参加度:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第4巻 リコンディショニング』 日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)資格取得に必須の科目である。

JSPO-AT に求められる高度な知識と技術の習得を目指す強い意志を持って履修すること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用するため、必要な機器を持参すること

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 180 名

救急処置

First-aid Treatment

後関 慎司(GOSEKI SHINJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN658
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第5回・第10回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023年度以降入学者対象 人数制限 180名		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、JSPO-AT の役割における「救急対応」の位置づけを理解したうえで、医療資格保持者に引き継ぐための現場で出来る最高レベルの救急対応ができる実践的な知識を習得することをねらいとする。合わせて、スポーツ活動現場における救急対応の特性と意義を理解することをねらいとする。

This course aims to provide students with an understanding of the role of "emergency response" within the JSPO-AT role, and to equip them with practical knowledge to provide the highest level of emergency response possible in the field, which they can then pass on to medical qualification holders. In addition, it aims to provide students with an understanding of the characteristics and significance of emergency response in sporting activities.

授業の内容 / Course Contents

救急処置の重要性や実施者の心得について学び、救急処置の基本的な留意点について理解する。また緊急の事故が発生した際の対応方法を学ぶことによって、適切な救急処置の手順を理解し、緊急性を判断するための的確な傷害評価の方法を身につけることを目的とする。救急処置の意義と目的を理解し、適切な救急処置の手順や基本的な留意点について理解できるようになるとともに、それ以上に大切だと考える「命の尊さ」を本授業を通じて理解を深めることを目標とする。スポーツ活動中の「選手生命」を守るだけでなく、「生命」そのものを守る意識を習得する。

Students will learn about the importance of first aid and the mindset of those who administer it, and will understand the basic points to keep in mind when administering first aid. In addition, by learning how to respond when an emergency accident occurs, students will understand the appropriate procedures for first aid and acquire accurate injury assessment methods to determine the urgency of the situation. Students will understand the significance and purpose of first aid, and will be able to understand the appropriate procedures and basic points to keep in mind. Furthermore, the goal of this class is to deepen students' understanding of the "preciousness of life," which we believe is even more important. Students will acquire the awareness to protect not only the "career of the athlete" during sports activities, but also "life" itself.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: スポーツ現場における救急対応とアスレティックトレーナーの役割
- [2]: 救急対応の考え方
- [3]: スポーツ活動現場における救急体制構築の留意点と計画 1

- 【4】: スポーツ活動現場における救急体制構築の留意点と計画 2
- 【5】: 内科的疾患に対する救急対応(心停止)
- 【6】: 内科的疾患に対する救急対応(心停止)
- 【7】: 内科的疾患に対する救急対応(熱中症)
- 【8】: 内科的疾患に対する救急対応(熱中症)
- 【9】: 内科的疾患に対する救急対応(その他)
- 【10】: 各競技における救急体制の実際 1
- 【11】: 各競技における救急体制の実際 2
- 【12】: 各競技における救急体制の実際 3
- 【13】: 各競技における救急体制の実際 4
- 【14】: 各競技における救急体制の実際 5

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加と取り組み:60% 授業中の課題:20% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト第5巻 救急対応 日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 救急蘇生法の指針 2020 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 2020

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 180名

ストレングスコンディショニング論(応用)

Strength and Conditioning Theory (Applied)

竹上 綾香 (TAKEGAMI AYAKA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN660
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、スポーツ現場における「安全・健康管理、スポーツ外傷・障害予防」の目的や意義、JSPO-AT として果たすべき役割を理解した上で、スポーツ外傷・障害の予防の概念や発生要因、具体的な予防プログラムについて理解することをねらいとする。

The aim of this course is to understand the purpose and significance of "safety and health management, and prevention of sports injuries" in the field of sports, as well as the role that JSPO-AT should play, and to understand the concept of prevention of sports injuries, the causes of their occurrence, and specific prevention programs.

授業の内容 / Course Contents

スポーツの基本となる心身に対するストレングス・コンディショニングに関して、様々なトレーニングやアプローチに対する心身の適応及び、その機序を学習する。対象や目的に応じた適切なプログラムを作成するための基礎理論や各種スポーツにおける競技特性、現場への実践のための段階的プログラミングとスポーツ動作の見方についても学習する。

This course will study the mechanisms of mental and physical adaptation to various training and approaches in terms of strength and conditioning for the mind and body, which is the basis of sports. It will also study the basic theory for creating appropriate programs for subjects and purposes, the competitive characteristics of various sports, and step-by-step programming and how to view sports movements for practical application.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: スポーツ外傷・障害予防の考え方
- 【2】: スポーツ外傷・障害の疫学調査
- 【3】: スポーツ外傷・障害の発症要因
- 【4】: スポーツ外傷・障害予防プログラムの立案と介入
- 【5】: 外傷・障害予防プログラムの実際①
- 【6】: 外傷・障害予防プログラムの実際②
- 【7】: 外傷・障害予防プログラムの実際③
- 【8】: 予防・再発予防としての動作の見方(走動作)
- 【9】: 予防・再発予防としての動作の見方(跳動作)
- 【10】: 予防・再発予防としての動作の見方(方向転換動作)
- 【11】: 予防・再発予防としての動作の見方(投球動作)
- 【12】: 予防・再発予防としての動作の見方(打撃動作)

【13】: 予防・再発予防としての動作の見方(泳動作・滑走動作)

【14】: 予防・再発予防としての動作の見方(あたり動作)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

基本的に毎回の授業で実技を行うため、動きやすい服装、シューズ、飲み物を準備すること。

また、体調を万全にして授業に臨むこと。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 授業内テスト(複数回):30% グループ発表:30%

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防

日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

グループ発表を主として授業が展開していくため、授業時間外でのグループ内での積極的なコミュニケーションが求められる。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

スポーツ医学(内科)

Sports Medicine (Internal Medicine)

土肥 美智子(DOHI MICHIKO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN662
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第8回・9回授業)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3300
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、スポーツ活動中に発症しうる内科疾患、更には重篤な疾患に関する基礎知識について理解する。また、これらの疾患からのスポーツへの復帰プロセスで留意すべき点を理解し、関連医療職とのコミュニケーションを円滑にすすめるための知識と態度の習得をねらいとする。

In this course, students will understand the basic knowledge of medical diseases and serious diseases that may occur during sports activities. The course also aims to provide students with the knowledge and attitude necessary to understand the points to keep in mind during the process of returning to sports after such illnesses, and to facilitate communication with related medical professionals.

授業の内容 / Course Contents

スポーツ中に選手が命を失うことは、絶対に起こしてはならない。しかし、これはゼロに近づけることはできるが、ゼロにはならない事柄である。そのため、スポーツに関連するすべての人が、スポーツ医学(内科)を学び、不幸な事故を予防するための知識を学ぶ必要がある。心疾患による突然死、熱中症、アナフィラキシーショックなどは、死につながる重篤な疾患であり、理解することは重要である。また、スポーツを行う上で、女性アスリートの問題、スポーツ貧血、アンチ・ドーピングなど、安心してスポーツを行う上で必要な知識を学ぶ。

The loss of life by an athlete during sports should never happen. However, this is a matter that can be brought close to zero, but not to zero. Therefore, everyone involved in sports needs to learn sports medicine (internal medicine) and learn to prevent unfortunate accidents. Sudden cardiac death, heat stroke, and anaphylactic shock are serious illnesses that can lead to death, and it is important to understand them. In addition, students should learn about the problems of female athletes, sports anemia, anti-doping, and other issues necessary for safe sports activities.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入 スポーツにおける疾病とは
- 【2】: スポーツに関連する代表的な循環器疾患 1
- 【3】: スポーツに関連する代表的な循環器疾患 2
- 【4】: スポーツに関連する代表的な呼吸器疾患 1
- 【5】: スポーツに関連する代表的な呼吸器疾患 2
- 【6】: スポーツに関連する代表的な代謝性疾患 1
- 【7】: スポーツに関連する代表的な代謝性疾患 2
- 【8】: スポーツに関連する代表的な血液疾患
- 【9】: スポーツ現場で起こりうる留意すべき重篤な疾病 1
- 【10】: スポーツ現場で起こりうる留意すべき重篤な疾病 2
- 【11】: スポーツ現場で起こりうる留意すべき重篤な疾病 3

【12】: スポーツ現場で起こりうる眼科、耳鼻科、歯科、皮膚科領域の代表的な疾病

【13】: 対象別によるスポーツ実施の医学的留意事項

【14】: 対象別によるスポーツ実施の医学的留意事項

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進捗状況に応じて、適宜指示をします。

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合

テキスト / Textbooks

アスレティックトレーナー専門科目テキスト(2022年カリキュラム対応)

第3巻 コンディショニング、第5巻 救急対応

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

運動障害と運動負荷試験

Exercise Disorders and Exercise Stress Testing

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN664
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	板書、スライド(パワーポイント等)の使用、個人発表、グループ発表、実技・実習・実験、学内の教室外施設の利用がある。積極的に発言・発表を求める授業である。 ※ 体育館での実習あり。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3310
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

現在、高齢者が循環器疾患や呼吸器疾患に罹患した場合に、メディカルチェックとして運動負荷試験が行われることがある。その運動負荷試験についての知識および思考方法を習得する。また、スポーツの現場で起こりうる事故対応としての救急蘇生法や外科的処置について習得する。

Currently, if an elderly person suffers from cardiovascular or respiratory disease, an exercise stress test may be performed as a medical check. Acquire knowledge and the ability to think critically about exercise tests. In addition, learn emergency resuscitation and surgical procedures for responding to accidents that may arise at sports venues.

授業の内容 / Course Contents

本授業は健康運動指導士の資格科目であり、資格習得に必要な知識を得るのに必要な専門的な知識を得るためのものである。そのため授業外で行うべき課題が各自に課され、専門的な知識を習得する意欲が必要となる。また、実技においては、救急処置の手技を十分に習得することを確認するための実技試験を課す。本授業を受講することにより、基本的な心電図、運動負荷試験の理解とともに、1次救命処置(BLS)が1人で行えるように学習する。

<本内容は AT 資格に関連した内容ではない。>

This class is about qualifying as a Health Fitness Programmer. It will help students acquire the specialist knowledge required to gain the necessary qualifications. For this reason, the course involves assignments that need to be done outside of class. Therefore this class is suited to students who are keen to acquire specialist knowledge. In addition, for practical skills, students take a practical examination to test their knowledge of first aid treatment. This class aims to help students understand basic electrocardiogram and exercise stress tests and be able to carry out basic life support treatment (BLS) on their own.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:外科的損傷(頭部、頸部、上肢、体幹)
- 【2】:外科的損傷(腰部、下肢)
- 【3】:外科的応急処置(1)
- 【4】:外科的応急処置(2) <実習>
- 【5】:内科的障害と予防(1)

- 【6】: 内科的障害と予防(2)
- 【7】: 健診結果・安静時心電図の読み方(1)
- 【8】: 健診結果・安静時心電図の読み方(2)
- 【9】: 救急蘇生法(1)
- 【10】: 救急蘇生法(2) <実習>
- 【11】: 運動負荷試験の実際
- 【12】: 運動負荷試験実習(1)トレッドミル編 <実習>
- 【13】: 運動負荷試験実習(2)自転車エルゴメータ編 <実習>
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

原則として、毎授業中に、一人ずつの課題発表を行う可能性が高い。参加型の授業であり、常に発言を求められる授業である。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習および復習に関して、授業中に課題を出すので、指定したオンライン授業支援システムへ提出すること。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

Students will be given preparation and review during each lecture. They should submit the assignment with the Canvas LMS. Each lesson will take approximately two hours to prepare and review.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎授業の最初に行う授業内テストにより評価する:70% 授業内最終テスト:30%

全授業の1/3以上の授業内テスト・小レポートの提出がなく授業評価が行われない場合にはD評価となる可能性が高い。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

健康運動指導士の資格科目であり、資格試験に準じた専門性の高い授業内容となる。

アスレティック・トレーナー(AT)資格関連科目の内容と一部重複する可能性があるが、

<本内容はAT資格に関連した内容とは異なるので注意が必要である。>

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他 / Others

健康運動指導士受験資格のための科目であり、アスレティックトレーナー資格のための科目ではない。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

人数制限 30名

スポーツ教材論

Theory of Sports Education Materials

スポーツの指導のあり方を変えよう!

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN666
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第5回・第10回授業を予定)。 ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

「教材」とは、学習の内容を習得するために使う素材、材料のことを指している。「学習材」と言い換えることもできる。スポーツの学習とその指導を考えた場合、当該のスポーツ(種目)の本質を学ぶために使われる素材、あるいは材料のこととなる。具体的には、本質を押さえた上での、優しく工夫された運動やゲームのことでもある。スポーツの指導におけるこのような「教材」の果たす役割について理解するとともに、適切な「教材」を作成したり場合にに応じて利用し、苦手な生徒にも楽しい学習が指導できる力を身につける。

The term “materials” refers to the materials or materials used to master the content of a study. It can also be translated as “learning materials. When considering sports learning and its instruction, it refers to the materials or materials used to learn the essence of the sport (discipline) in question. Specifically, it also refers to gently devised exercises and games that are based on the essence of the sport. This course will help students understand the role of such “teaching materials” in the teaching of sports, as well as acquire the ability to create and use appropriate “teaching materials” as needed, and to teach enjoyable learning even to students who are not good at sports.

授業の内容 / Course Contents

「教材」と運動の本質について、「運動の特性」という概念から、その考え方を学ぶ。その上で、それぞれの種目の「運動の特性」に基づいた「教材」の種類を実体験を含めて知るとともに、目的に応じて活用する仕方を学ぶ。

The students will learn the concept of “materials” and the essence of exercise from the concept of “characteristics of exercise. Then, learn the types of “materials” based on the “characteristics of exercise” of each discipline, including actual experience, and learn how to utilize them according to the purpose.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:「教材」とは何か -「目的」「内容」「方法」「評価」との関係-
- 【2】:「運動の特性」という概念について -スポーツの本質的価値の観点から-
- 【3】:ワークショップ① -「運動の特性」を体験してみよう-
- 【4】:個人的運動の教材について① -陸上運動-
- 【5】:個人的運動の教材について② -器械運動-
- 【6】:個人的運動の教材について③ -水泳-
- 【7】:集団的運動の教材について① -バレーボール-

- 【8】: 集団的運動の教材について② -サッカー、ハンドボール-
- 【9】: 集団的運動の教材について③ -バスケットボール-
- 【10】: 集団的運動の教材について④ -ソフトボール-
- 【11】: ダンス、表現運動の教材について
- 【12】: 理論のための教材について
- 【13】: ワークショップ② -スポーツの教材を開発してみよう-
- 【14】: まとめと評価

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

web サイトを利用して資料を収集し関連する内容を適時発表する。そのための準備を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ワークショップ①のレポート:30% ワークショップ②のレポート:30% 毎時のリアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

講義の初回時に指示する

参考文献 / Readings

講義の初回時に指示する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

学校運動部指導論

Theory of School Athletic Club Guidance
部活動の地域以降をどう考えればよいのか?

松田 恵示 (MATSUDA KEIJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN668
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第5回・第10回授業を予定)。 ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象		

授業の目標 / Course Objectives

現在、中学校・高校の部活動を、学校主体の教育活動から地域主体の教育活動へと移行、あるいは展開する取り組みが進められている。部活動のあり方は、学齢期の子どもたちとスポーツの関係において大きな影響を及ぼす問題である。部活動の歴史や教育制度としての特徴、課題と可能性、子どもたちの成長と部活動の関係、社会変化とスポーツ活動の変化、教員の働き方改革など、部活動をめぐる問題を広い視野で捉える知識を身につけるとともに、子どもたちの成長との関係で、今後のより良い部活動のあり方を考えたり新しい仕組みを作ることのできる力を育む。

Currently, efforts are underway to shift or develop junior high and high school club activities from school-based to community-based educational activities. The nature of club activities is an issue that has a very significant impact on the relationship between school-aged children and sports. The students will acquire knowledge of the history of club activities, the characteristics of club activities as an educational system, the relationship between children's growth and club activities, changes in society and sports activities, reforms in teachers' work styles, and other issues related to club activities from a broad perspective. At the same time, we will nurture the ability to think about how club activities can be better in the future and to create new systems in relation to the growth of children.

授業の内容 / Course Contents

部活動の問題は、スポーツと体育、教員とスポーツ指導者、苦手な人と得意な人、チャンピオン志向とリクリエーション志向、スポーツクラブと部、経済的格差、自発性と強制性など、広い視野から考えることが求められる。一方で、具体的な指導の仕方、技術指導、マネジメント、人間関係など実践的な知識や遂行力も必要となる。アクティブラーニングを基本としつつ、生きて働く知識を身につけることをねらいとしたい。

The issue of club activities must be considered from a broad perspective, including sports and physical education, teachers and sports leaders, those who are not good at it and those who are, champion-oriented and recreation-oriented, sports clubs and clubs, economic disparities, spontaneity and compulsion, and so on. On the other hand, practical knowledge and execution skills are also required, such as specific teaching methods, technical instruction, management, and human relations. The aim of the program is to acquire the knowledge to live and work while basing it on active learning.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 部活動をめぐる今日の問題

- 【2】: 地域移行・展開は如何にして可能か - 実践事例の検討から-
- 【3】: それぞれのステークホルダーから見た部活動
- 【4】: 学齢期のスポーツの楽しみ方
- 【5】: ラーニング・コネクションとラーニング・エクスチェンジ
- 【6】: 先端技術とスポーツの技術指導
- 【7】: 制度としての部活動の歴史
- 【8】: 社会的・経済的格差と部活動
- 【9】: スポーツの楽しみ方の多様化と拡大化
- 【10】: チーム学校と地域学校協働本部
- 【11】: 現場と対話してみよう①
- 【12】: 現場と対話してみよう②
- 【13】: ワークショップ -30年後の部活動の姿は?-
- 【14】: まとめと評価

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義の内容に応じて実践事例を web サイトで調べまとめること

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:30% ワークショップ時のレポート:30% 毎回のリアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

初回講義時に指示する

参考文献 / Readings

初回講義時に指示する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

部活動に関して関心を高めておくこと

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツ人類学

Sports Anthropology

エスニック・スポーツを学ぶ・考える

Learning and thinking about ethnic sports

朴 周鳳(PARK JOOBONG)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN670
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第5回・第9回・第12回授業)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3000
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

この科目では、今日世界各地で行われる諸エスニック・スポーツについて、伝統・宗教・風習・創造・伝播などの様々な文化の側面から考察を行うことで、近代的スポーツとは異なるエスニック・スポーツの本来の意義を把握し、「スポーツ人類学」の学問的体系を学習することを目標とする。

The goal of this course is to examine the ethnic sports played around the world today from various cultural aspects such as tradition, religion, customs, creation, and spread, in order to grasp the true significance of ethnic sports that differ from modern sports, and to learn the academic system of "sports anthropology."

授業の内容 / Course Contents

スポーツ人類学は、エスニック・スポーツを研究対象として、それをあらゆる文化的側面から考察・研究する学問である。統一されたルールのもとで行われる近代的スポーツとは違い、エスニック・スポーツは様々な民族や社会、文化、宗教などとする土着文化の中で形成されてきたものとして、より人間の生活と根深いものである。その種類も競争的競技のみならず、遊びや祭り、舞踊などの非競争的なものもある。

本科目では様々なエスニック・スポーツを事例として、人間が築き上げたスポーツ文化を明らかにする。基本座学であるが、映像資料も用いて理解を高める。

Sports anthropology is an academic field that examines and studies ethnic sports from all cultural aspects. Unlike modern sports that are played with uniform rules, ethnic sports have been formed within the unique cultures of various ethnic groups, societies, cultures, religions, etc., and are therefore deeply rooted in human life. In addition to competitive sports, there are also non-competitive sports such as games, festivals, and dances.

This course uses various ethnic sports as examples to clarify the sports culture that humanity has built. The course is mainly conducted in the classroom, but video materials will also be used to deepen understanding.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンスーエスニック・スポーツとの出会い

: エスニック・スポーツの実態を把握し、スポーツ人類学に対する理解を深める

: 理論

Guidance: Encountering ethnic sports

: Understanding the reality of ethnic sports and deepening understanding of sports anthropology

【2】: スポーツ人類学の概念と歴史の変遷

: スポーツ人類学の研究分野と研究動向について把握し、学問としての意義を考える

:理論

The concept and historical evolution of sport anthropology

: Understanding the research fields and trends of sport anthropology and considering its significance as an academic field

【3】: エスニック・スポーツのフィールドワークの方法論

: エスニック・スポーツを調べる実際の研究手法について学ぶ

:理論

Fieldwork methodology for ethnic sports

: Learn about actual research methods for investigating ethnic sports

【4】: 遊戯と人間の有機的関係

: 人間の本性である遊びの中に見られる、その本質と関係性について考える

:理論

The organic relationship between play and humans

: Thinking about the essence and relationships seen in play, which is an innate part of human nature

【5】: エスニック・スポーツと土着精霊(映像資料活用)

: 先住民の社会で行われているエスニック・スポーツと、それに関わる信仰的要素について考える

Ethnic sports and indigenous spirituality (using video materials)

: Thinking about the ethnic sports played in indigenous societies and the religious elements that accompany them

【6】: エスニック・スポーツの政治的活用

: 中国の少数民族運動大会に見られる、少数民族と政府の関係、そして少数民族の文化が政府の企みとして中国の伝統文化に展開する過程について考える

:理論

Political Use of Ethnic Sports

: Considering the relationship between ethnic minorities and the government as seen in China's ethnic minority sports competitions, and the process by which ethnic minority culture is deployed in traditional Chinese culture as a government plot

【7】: 創られた伝統—日本武道の創造

: 日本の伝統文化である武道が、社会的状況によって新たに創造されていく過程について検証する

:理論

Invention of Tradition: The Invention of Japanese Martial Arts

: Examining the process by which martial arts, a traditional Japanese culture, is newly created in response to social conditions

【8】: 格闘スポーツの社会的変容—タイのムエタイ

: タイの国民的スポーツであるムエタイの現在を把握し、その変容過程について考える

:理論

Social transformation of combat sports – Muay Thai in Thailand

: Understanding the current state of Muay Thai, Thailand's national sport, and considering its transformation process

【9】: 球技のエスニシティ(映像資料活用)

: イタリアのカルチョ・ストリーコを対象に、エスニック・スポーツの集団的アイデンティティの形成について考える

:理論

Ethnicity in ball games (using video materials)

: Considering the formation of collective identity in ethnic sports, focusing on Italian Calcio Storico

【10】: 人間と動物の関係—アニマル・スポーツ

: 人間と動物の関係に見られる遊戯的要素と動物を用いたスポーツの諸問題について考える

:理論

Relationships between humans and animals – Animal sports

: Playful elements in the relationship between humans and animals and issues surrounding sports using animals

【11】: 儀礼的行為としてのエスニック・スポーツ

: 古くから儀礼的な行為の中で行われていたスポーツは、神と人間を繋げるツールになっていたことからエスニック・スポーツの社会的機能について考える

:理論

Ethnic sports as ritual acts

: Sports, which have long been performed as part of ritual activities, have become a tool to connect gods and humans, and this leads us to consider the social function of ethnic sports.

【12】: エスニック・スポーツとアイデンティティ—WEIO(映像資料活用)

: 今日におけるエスニック・スポーツの意義と展開の様子について考える

Ethnic Sports and Identity WEIO (using video materials)

: Thinking about the significance and development of ethnic sports today

【13】: 植民地期アジアのスポーツ文化

: 支配と被支配という国家間の力の関係で、スポーツが如何に役割を果たしたかについて考える

: 理論

Sports culture in colonial Asia

: considering how sports played a role in the power relations between nations, the rulers and the ruled

【14】: 日本の天皇家の存続とスポーツ役割

: 日本の天皇家がその存続のため、近代的文化要素であるスポーツを取り入れる過程を意義について考える

: 理論

The survival of the Japanese Imperial Family and the role of sports

: Considering the significance of the process by which the Japanese Imperial Family adopted sports, a modern cultural element, in order to survive

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指定の参考書を読み、不明な語句や疑問点について調べておく(各回約2時間程度)

授業後には、授業で配した授業資料を参照し、不明なところをまとめておく(各回約2時間程度)

Please read the assigned textbook in advance and research any terms or points of concern to you (approximately 2 hours per class).

After class, please refer to the handouts distributed in class and summarize any points you do not understand (approximately 2 hours per class).

成績評価方法・基準 / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% レポート課題:30%

授業回数の3分の1以上欠席したものは、定期試験の受講資格なし。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

『よくわかるスポーツ人類学』 寒川恒夫編 ミネルヴァ書房 2017 9784623080151

『教養としてのスポーツ人類学』 寒川恒夫編 大修館書店 2004 4469265527

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本授業の履修にあたっては、まず社会を多角的に見る目を必要とする。社会を構成する諸要素が互いに有機的に関連していることが理解できると授業内容が理解しやすくなる。

In order to take this course, you will first need to be able to see society from multiple angles. If you understand that the various elements that make up society are organically related to each other, you will find it easier to understand the content of the course.

その他 / Others

授業生の皆さん。エスニック・スポーツは、人間社会を構成する根本的な文化要素の一つです。楽しく学びましょう。

Dear students, Ethnic sports are one of the fundamental cultural elements that make up human society. Let's have fun learning about them.

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

スポーツ工学演習

Sports Engineering Seminar

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN672
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツに関わる身体動作、ボールの運動、用具の変形などを、工学的手法を用いて計測・分析するための知識と技術を習得する。

The aim of this subject is to acquire the knowledge and skills to measure and analyze body motion, ball movement, and equipment deformation involved in sports using engineering methods.

授業の内容 / Course Contents

スポーツに関わる身体動作、ボールの運動、用具の変形などについて、ハイスピードカメラを用いた撮影やモーションキャプチャシステムを用いた計測を行う。

Excel およびプログラミングによる分析に加え、有限要素解析によるコンピュータシミュレーションも経験する。

必要に応じて、計測手法や分析手法の理論に関する講義を行う。

Sports-related body motion, ball movement, and equipment deformation will be measured using high-speed camera and motion capture system.

In addition to analysis using Excel and programming, students will also gain experience in computer simulations using finite element analysis.

Lectures on the theory of measurement and analysis methods will be given as needed.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: スポーツ工学演習について
- 【2】: シューズ接地局面の計測
- 【3】: シューズ接地局面の分析(地面反力、圧力中心、シューズ変形)
- 【4】: シューズ接地局面の分析(地面反力、圧力中心、シューズ変形)
- 【5】: ボール運動の計測
- 【6】: ボール運動の分析(ボール中心位置、ボール速度、ボール回転数)
- 【7】: ボール運動の分析(ボール中心位置、ボール速度、ボール回転数)
- 【8】: ボールインパクトの計測
- 【9】: ボールインパクトの分析(ボール変形量、衝撃力)
- 【10】: ボールインパクトの分析(ボール変形量、衝撃力)
- 【11】: コンピュータシミュレーション(有限要素解析)のための計測
- 【12】: コンピュータシミュレーション(有限要素解析)を用いた分析
- 【13】: コンピュータシミュレーション(有限要素解析)を用いた分析
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時または Canvas LMS 上にて行う。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時に課すレポート(複数を合算):40% 出席および授業への参加態度:60%

テキスト / Textbooks

特定の教科書は使用しない。必要に応じて授業時に資料を配付する。

参考文献 / Readings**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

「バイオメカニクス」「動作分析法演習」の単位を修得済みであることが望ましい。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

人数制限 30名

スポーツ哲学

Sports Philosophy
体育・スポーツ哲学

阿部 悟郎 (ABE GORO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN674
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3100
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

体育・スポーツの本質に関する学問的認識の形成

The construction of the academic cognition on the essence of physical education and sport for the profession of physical education and sport, through the intellectual struggle with the question on the essence of physical education and sport

授業の内容 / Course Contents

本講義は、体育哲学・スポーツ哲学をベースに、体育・スポーツの本質やありかたについて、体系的に講義を行います。ここでは、なんとなく知っているはずの体育やスポーツを改めて掘り下げて、その本質等について考えてみましょう。実は、この一見、迂遠な道を通してのみ、まさに体育・スポーツの専門家としての認識が育まれていくこととなります。まずは、体育・スポーツの本質について、深く考えてみましょう。

What is physical education, and what is sport? Both of them are so difficult questions and are always in the academic discussion. Then, these are important questions for each student in the major of academic study of physical education and sport in this college. To begin with, physical education is the historical construction that was created by humankind since Greek era. And Sport is also the cultural construction that was developed from playing in the process of humankind history. So,

both of them should be always inquired for the desirable being in the actual world. Why don't you think about the essence of physical education and sport?

授業計画 / Course Schedule

【1】:1. 授業内容:講義「スポーツ哲学」の輪郭と受講学生との合意形成

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の序章を通読し、その概要を理解すること。専門用語も出現します。それらの一つ一つを丁寧に調べることで、講義の理解が飛躍的に向上します。

4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、その主題について習得した知識を用いて考えてください。

【2】:1. 授業内容:体育への問い

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第1章を通読し、その概要を理解すること。

4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、「体育への問い」の重要性と意義について習得した知識を用いて考えてください。

【3】:1. 授業内容:体育とは何か:前提としての歴史認識

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第2章を通読し、その概要を理解すること。
4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、歴史的視野からみた体育のありようについて習得した知識を用いて考えてください。

【4】:1. 授業内容:体育とは何か:体育の名辞と概念

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第3章を通読し、その概要を理解すること。
4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、体育の概念構成からみた体育の可能性について習得した知識を用いて考えてください。

【5】:1. 授業内容:体育と体育教師:体育教師の負の遺産とそこからの脱却

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第4章を通読し、その概要を理解すること。
4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、体育教師の負の遺産からの脱却の道について習得した知識を用いて考えてください。

【6】:1. 授業内容:専門職としての体育教師

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第5章を通読し、その概要を理解すること。
4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、専門職という観点からみた体育教師のありかたについて習得した知識を用いて考えてください。

【7】:1. 授業内容:体育教師の学問的基盤

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第6章を通読し、その概要を理解すること。
4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、体育教師の学問的基盤の重要性と意義について習得した知識を用いて考えてください。

【8】:1. 授業内容:体育教師の哲学的基盤:体育の原理

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第7章を通読し、その概要を理解すること。
4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、体育教師の哲学的基盤の重要性と意義について習得した知識を用いて考えてください。

【9】:1. 授業内容:体育の対象としての人間:体育学的人間理解

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第8章を通読し、その概要を理解すること。
4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、体育学的人間理解の重要性と意義について習得した知識を用いて考えてください。

【10】:1. 授業内容:体育教材の源泉としての身体運動文化:スポーツとその文化運動

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第15章を通読し、その概要を理解すること。
4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、現代社会におけるスポーツの文化的価値と体育教材としての可能性と意義について習得した知識を用いて考えてください。

【11】:1. 授業内容:体育の目的論

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第14章を通読し、その概要を理解すること。
4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、体育の目的論の全体像と個別理論の意義について習得した知識を用いて考えてください。

【12】:1. 授業内容:体育の存在意義

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第15章を通読し、その概要を理解すること。
4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、体育の存在意義について習得した知識を用いて考えてください。

【13】:1. 授業内容:体育と人文主義

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):事前に指定教科書の第16章を通読し、その概要を理解すること。
4. 授業外学修(復習):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、体育についての人文主義的視野の重要性と意義について習得した知識を用いて考えてください。

【14】:1. 授業内容:講義のまとめとテスト

2. 授業形態:対面

3. 授業外学修(予習):これまでの授業内容を振り返り、その概要を理解すること。

4. 授業外学修(復習):講義のまとめ(テストを含む)終了後には、改めて講義「体育哲学」の全体像を概観したうえで、「体育とは何か」という問いについて習得した知識を用いて考えてください。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習(各回約2時間):事前に指定教科書の当該章を通読し、その概要を理解すること。

復習(各回約2時間):講義終了後には、講義内容を整理したうえで、講義のテーマについて習得した知識を用いて考えてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% テスト:40% レポート:20% 授業協力(教科書音読):30% 出席および授業参加度(発言等):10%

テキスト / Textbooks

阿部悟郎 『体育哲学』 不昧堂出版 2018 9784829305126

参考文献 / Readings

体育哲学専門領域 『体育の哲学』 不昧堂出版 2024 9784829305188

佐藤臣彦 『身体教育を哲学する』 北樹出版 1996 4893843117

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

記載なし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

記載なし。

その他 / Others

受講には指定教科書の持参が条件となります。確実に準備してください。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

スポーツデータ解析演習

Sports Data Analysis Seminar
スポーツデータサイエンス、データ分析

小林 哲郎 (KOBAYASHI TETSUO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN676
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3020
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

近年、スポーツや健康分野において多様で詳細なデータが収集可能なテクノロジーが発展し、大量のデータが取得できる世の中になった。そのため、スポーツパフォーマンスやウエルネスの向上を目指したデータ分析のニーズが高まっている。

本講義では、スポーツウエルネス分野におけるデータの解析手法について学び、複数の演習課題を通じてその解析を実施することで、実践的なデータ解析手法の習得を目指す。

In recent years, advancements in technology have enabled the collection of diverse and detailed data in the fields of sport and wellness, creating an environment where vast amounts of data are readily available. Consequently, the demand for data analysis aimed at improving sports performance and wellness has been growing. This course focuses on analytical methods for data in the sport and wellness domain. Through multiple lab exercises, participants will conduct data analyses and aim to acquire hands-on skills in applying these analytical techniques effectively.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、様々なスポーツウエルネス関連のデータをベースに、その解析手法の理論を学ぶ。同時に、プログラミング言語やデータ可視化ツールを利用したデータ解析を実践的に学ぶ。また、データを加工する技術の基本についても学び、その加工技術の実践も行う。

This course covers the theoretical foundations of analytical methods based on various sport and wellness-related data. Simultaneously, participants will gain practical experience in data analysis using a programming language and a data visualization tool. Additionally, the course includes learning the fundamentals of data preprocessing techniques and applying these techniques in practice.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: データの特徴を掴む(1)
- [3]: データの特徴を掴む(2)
- [4]: データの特徴を掴む(3)
- [5]: 複数のグループを比較する(1)
- [6]: 複数のグループを比較する(2)
- [7]: 複数のグループを比較する(3)
- [8]: データの前処理(1)
- [9]: データの前処理(2)
- [10]: 要因を特定する(1)

【11】:要因を特定する(2)

【12】:要因を特定する(3)

【13】:最終課題プレゼンテーション(1)

【14】:最終課題プレゼンテーション(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(ハワホ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習課題:40% レポート:20% 授業内プレゼンテーション:40%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本講義はデータサイエンス概論(IN280)の内容を理解していることを前提としますので、データサイエンスやデータ分析の基礎知識を有している前提で講義を展開します。

また、本講義では基本的な PC でのファイル操作(ファイルのコピーやペースト、ファイルの圧縮や解凍など)や基本的な Google Drive の操作方法(Google Drive 上のフォルダ・ファイル操作、ファイルのコピー・共有など)、Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint)の操作方法是習得していることを前提とします。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題提出には PC での作業が必須となります。個人の PC を持参することを強く推奨します。あるいはメディアセンターより PC を借りるようにしてください。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

人数制限 30 名

スポーツビジネスコミュニケーション演習

Sports Business Communication Seminar

スポーツビジネスパーソンとともにコミュニケーションを実践する (Practice communication with sports business person)

中村 聡宏 (NAKAMURA AKIHIRO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN678
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

スポーツビジネスに関して、「ビジネスを創る側の視点」に立ち、課題を発見し解決へと導くためのアイデア策定およびプレゼンテーションに挑戦する。ビジネスパーソンに求められるより実践的な思考・コミュニケーションスキルを身につける。Students will be challenged to formulate and present ideas for finding and solving problems in the sports business from the “viewpoint of the business creator”. Acquire more practical thinking and communication skills required of business person.

授業の内容 / Course Contents

スポーツビジネスのプロフェッショナルをゲストスピーカーとしてお招きしながら、スポーツビジネスにおけるサービス・商品・取り組みなど新アイデアを創造し提案する。またそうしたプランニング・プレゼンテーションに際して必要な、社会で求められる思考力やコミュニケーション能力などを身につけるための知見を実践的に学ぶ。

While listening to guest speakers who are professionals in the sports business, students will create and propose new ideas for services, products, and initiatives in the sports business. Students will learn practical knowledge to acquire the thinking and communication skills required in society for planning and presentation.

授業計画 / Course Schedule

[1]: 本講を学ぶ意義 —スポーツビジネスと実践的コミュニケーション—

What you should learn through this lecture - Sports Business and Practical Communication -

[2]: スポーツビジネス概論

Introduction to Sports Business

[3]: プロフェッショナルに学ぶ「スポーツビジネスの最前線」(ゲストスピーカー)

Learning from Professionals “The Front Line of Sports Business” (Guest Speaker)

[4]: グループディスカッション①/課題を抽出する

Group Discussion 1/Identifying Issues

[5]: 物事の本質をとらえる —Why から考える目的意識と成果定義—

Understand the nature of things - Objective and Outcome Definition from ‘Why’ -

[6]: ビジネスプランをデザインする

Design a Business Plan

[7]: グループディスカッション②/ブレインストーミング

Group Discussion 2/Brainstorming session

[8]: プロフェッショナルに学ぶ「プレゼンテーションの心得」(ゲストスピーカー)

Learning from Professionals “Presentation Tips” (Guest Speaker)

【9】:グループディスカッション③／プランニング&デザイン

Group Discussion 3/Planning & Design

【10】:ビジネスコミュニケーション戦略

Business Communication Strategy

【11】:グループディスカッション④／議論&資料作成

Group Discussion 4/Discussion & Documentation

【12】:グループディスカッション⑤／プレゼンテーショントレーニング

Group Discussion 5/Presentation Training

【13】:プロフェッショナルに語るプレゼンテーション(ゲストスピーカー)

Presentations that speak to professionals (Guest Speaker)

【14】:総括 ―スポーツビジネスコミュニケーションを考える―

Total Review - Considering Sports Business Communication -

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習や復習等の指示は、履修者に対して都度別途行う。各自が確認して予習・復習等に臨むこと。

また、企業に対する提案作成や発表準備など、授業時間外の個人・グループによるワークが発生することを理解した上で履修すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度・貢献度:25% 授業内に指示した提出物:25% 最終プレゼンテーション(グループ):25% 最終レポート(個人):25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

参加して下さるビジネスパーソンに対する尊重・敬意をもって講義に参加すること。

少人数グループによるプレゼンテーションを実施するため、スポーツと同様に、受講するクラスメイトやチームメイトと力を合わせ、積極的・主体的に行動・発言・挑戦(プレー)し、さまざまな困難にも立ち向かうアグレッシブな姿勢で臨むこと。

なお、春学期開講の「スポーツビジネス論」を受講していることを推奨する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

人数制限 30名

アスレティックリハビリテーション実習2

Athletic Rehabilitation Practicum 2

後関 慎司(GOSEKI SHINJI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN770
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで2回実施する(第5回・第10回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する。
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3320
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の現場実習を円滑に行うための能力を獲得すること
 To acquire the skills to smoothly complete on-site training as a Japan Sport Association certified athletic trainer (JSPO-AT)

授業の内容 / Course Contents

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の現場実習における課題の抽出と対策を行う
 Identifying and addressing issues in the on-site training of Japan Sport Association certified athletic trainers (JSPO-AT)

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:ガイダンス
- 【2】:現場実習における JSPO-AT の活動
- 【3】:現場実習における JSPO-AT によるリスクマネジメント
- 【4】:現場実習における JSPO-AT によるスポーツ外傷・障害・事故の予防
- 【5】:現場実習における JSPO-AT による対象者への予防に関する教育・啓発活動
- 【6】:現場実習における JSPO-AT による対象・目的に応じたコンディショニングの計画
- 【7】:現場実習における JSPO-AT による各種測定と評価指標の活用
- 【8】:現場実習における JSPO-AT によるリコンディショニングエクササイズの実践
- 【9】:現場実習における JSPO-AT による部位ごとの状態に応じたリコンディショニング
- 【10】:現場実習における JSPO-AT によるスポーツ動作の問題に対するリコンディショニング
- 【11】:現場実習における JSPO-AT による緊急対応計画の立案・作成
- 【12】:現場実習における JSPO-AT による救急対応の実践
- 【13】:現場実習における JSPO-AT によるアンチドーピング教育やドーピングコントロール
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定			

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

JSPO-ATに必要な現場実習を授業時間外で実施する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業態度:50% 実技テスト:50%

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト第1～6巻 日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

アスレティックリハビリテーション実習3

Athletic Rehabilitation Practicum 3

竹上 綾香 (TAKEGAMI AYAKA)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN773
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業) ※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3320
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、対象者の機能障害・機能不全の状態を観察するための手法を選択し、その結果に応じたリコンディショニングプログラムを計画できるようになることをねらいとする。また、具体的なスポーツ動作とその動作中に発生する代表的な不良動作を想定し、状態に応じたリコンディショニングプログラムを計画できるようになることをねらいとする。

This course aims to enable students to select methods for observing the subject's functional impairment and dysfunction and to plan a reconditioning program based on the results. It also aims to enable students to imagine specific sports movements and typical malfunctions that occur during those movements and to plan a reconditioning program based on the condition.

授業の内容 / Course Contents

スポーツ現場でアスレティックトレーナーに対して要求されるアスレティックリハビリテーションについて、具体的にプログラムの作成と指導を通して学習する。身体機能の評価プロセスにおける結果から抽出された問題点に対して、どのようなメニューを立案・実践する。

This course will study the athletic rehabilitation required of athletic trainers in the field of sports through the creation and instruction of specific programs. Students will plan and implement menus for problems identified from the results of the physical function evaluation process.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:コンディション不良に関係する各種問題への評価と対応(筋力)
- 【2】:コンディション不良に関係する各種問題への評価と対応(関節可動域・柔軟性)
- 【3】:コンディション不良に関係する各種問題への評価と対応(バランス機能)
- 【4】:コンディション不良に関係する各種問題への評価と対応(全身持久力)
- 【5】:コンディション不良に関係する各種問題への評価と対応(姿勢・アライメント)
- 【6】:コンディション不良に関係する各種問題への評価と対応(体重管理)
- 【7】:コンディション不良に関係する各種問題への評価と対応(スポーツ動作)
- 【8】:スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング(走動作)
- 【9】:スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング(跳動作)
- 【10】:スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング(方向転換)
- 【11】:スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング(投球動作)
- 【12】:スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング(打撃動作)

【13】:スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング(泳動作・滑走動作)

【14】:スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング(あたり動作)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

基本的に毎回の授業で実技を行うため、動きやすい服装、シューズ、飲み物を準備すること。

また、体調を万全にして授業に臨むこと

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:40% 授業内課題(複数回):30% 最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー専門科目テキスト第4巻 リコンディショニング 日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

【要確認】日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。設定された曜日時限での授業以外に、配属された実習場所での現場実習(45時間以上)が必要となる。

実技を学生主体で進める専門性が高い科目であるため、JSPO-ATの資格取得に対して強い意志のある学生が履修すること。

また、アスレティックリハビリテーション実習1,2を履修の上で本科目を履修すること。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

アスレティックリハビリテーション実習4

Athletic Rehabilitation Practicum 4

吉田 成仁 (YOSHIDA NARUTO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN776
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンラインで3回実施する(第3回・第4回・5回授業)※オンライン実施回を変更する場合には、Canvas LMS等で履修者へ正しい日程を通知する
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3320
使用言語	日本語	授業形式	その他
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

アスレティックトレーナーとしての活動をスポーツ現場で総合的に行う実習である。スポーツ現場では、様々な場面に遭遇するが、発生した事象に対して、冷静かつ迅速に行動するために、綿密なトレーナー活動を計画・遂行し、成果を客観的に分析できることが必要である。到達目標は、スポーツ現場での事故発生時の救急処置の対応フローチャートの作成・遂行ができるようになるとともに、アスレティックトレーナーとしての役割(特に、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防、救急対応)を円滑に進められるようになることである。

This course provides practical training for conducting comprehensive activities as an athletic trainer in sports settings. In these environments, trainers may encounter a variety of situations, requiring them to act calmly and promptly in response to incidents. To achieve this, it is essential to meticulously plan and execute training activities and objectively analyze the outcomes. The course objectives include the ability to create and implement an emergency response flowchart for incidents occurring in sports settings, as well as to efficiently fulfill the roles of an athletic trainer, particularly in ensuring safety and health management and preventing, managing, and responding to sports injuries and emergencies.

授業の内容 / Course Contents

アスレティックトレーナーとしての活動をスポーツ現場で総合的に行う実習である。スポーツ現場では、様々な場面に遭遇するが、発生した事象に対して、冷静かつ迅速に行動するために、綿密なトレーナー活動を計画・遂行し、成果を客観的に分析できることが必要である。到達目標は、スポーツ現場での事故発生時の救急処置の対応フローチャートの作成・遂行ができるようになるとともに、アスレティックトレーナーとしての役割(特に、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防、救急対応)を円滑に進められるようになることである。

This course involves practical training to comprehensively carry out the duties of an athletic trainer in sports settings. In such environments, trainers encounter various situations and must act calmly and swiftly in response to incidents. To achieve this, it is essential to meticulously plan and execute trainer activities and objectively analyze the results. The goals of this course are to enable students to create and implement an emergency response flowchart for accidents in sports settings and to effectively fulfill their roles as athletic trainers, particularly in ensuring safety and health management, preventing sports injuries and disorders, and providing emergency care.

授業計画 / Course Schedule

【1】:安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の概念

- 【2】: スポーツ現場におけるスポーツ外傷・障害・事故・疾病の実態
- 【3】: 各種要因が安全・健康管理に及ぼす影響
- 【4】: 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における JSPO-AT の役割
- 【5】: スポーツ外傷・障害に対する予防的手段(装具・防具)
- 【6】: スポーツ外傷・障害に対する予防的手段(ストレッチング)
- 【7】: スポーツ外傷・障害に対する予防的手段(テーピング)
- 【8】: 再発予防を踏まえたスポーツ活動復帰への考え方
- 【9】: フィジカルデータの理解と活用のための基礎知識
- 【10】: 内科的メディカルチェックデータの理解と活用
- 【11】: 整形外科的メディカルチェックの理解と活用(頭部・体幹)
- 【12】: 整形外科的メディカルチェックの理解と活用(上肢・下肢)
- 【13】: 身体的特徴・身体機能に関するデータの活用
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。詳細は授業内で説明する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内テスト(複数回):60% 授業参加度:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

日本スポーツ協会『アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』日本スポーツ協会 2022

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)資格取得に必須の科目である

【要確認】日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)の資格取得に必須の科目である。

設定された曜日時限での授業以外に、配属された実習場所での現場実習(45時間以上)が必要となる。

実技を学生主体で進める専門性が高い科目であるため、JSPO-AT の資格取得に対して強い意志のある学生が履修すること。また、アスレティックリハビリテーション実習 1,2 を履修の上で本科目を履修すること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用するため、必要な機器を持参すること

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

Quantitative Research Methods in Sport and Exercise

Quantitative Research Methods in Sport and Exercise

川端 雅人(KAWABATA MASATO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN800
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	The lesson in Week 12 would be conducted online. The details of the lesson will be informed via Canvas LMS.
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2001
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students should be able to achieve the followings in the context of quantitative research:

1. Systematically review and analyze research literature,
2. Identify limitations of previous research,
3. Formulate a scientific research problem and testable hypothesis,
4. Identify different types of research tools available for investigating a clearly defined problem,
5. Apply basic statistical techniques in a scientific investigation,
6. Write a research proposal, and
7. Understand ethics in experimental and survey research.

授業の内容 / Course Contents

How can you know your opinions or ideas are correct or effective? It is important for students in higher education to know scientific methods to examine your hypotheses empirically. This course is designed to provide students with a foundation to understand quantitative research designs and measurement strategies, and their applications in the context of sport and exercise. Specifically, the course develops student's understandings of: the nature of the deductive research process, the use of scientific literature, the definition and evaluation of a research problem, hypothesis formation, scientific investigation and methods, and writing a research proposal.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction to research in sport and exercise
- 【2】: Developing research questions and reviewing the literature
- 【3】: Formulating research methods
- 【4】: Ethical issues in research and scholarship
- 【5】: Measuring research variables; Surveys and descriptive research methods
- 【6】: Presentation on the topic, hypothesis, and significance of your study
- 【7】: Statistical concepts; Statistical issues in research planning and evaluation
- 【8】: Relationships among variables; Differences among groups
- 【9】: Experimental and quasi-experimental research
- 【10】: Data collection and analysis (1)
- 【11】: Data collection and analysis (2)
- 【12】: Interpretation on the results

【13】:Discussion of the results

【14】:Presentation on the research findings

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read recommended materials before attending lessons and work on assignments specified in the course.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Test (individual):20% Project report (individual):40% Group presentation:30% Positive learning contribution:10%

テキスト / Textbooks

Jones, I. Research methods for sports studies (4th ed.) Routledge 2022

Thomas, J., Nelson, J., & Silverman, S. (Eds.) Research methods in physical activity (8th ed.). Human Kinetics 2022

*Other recommended books are introduced in the course.

参考文献 / Readings

Recommended reading materials are introduced in the course.

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Basic)

Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Basic)

Promote Wellness Resources

マックグラス(MCGRATH KELLY F.)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN802
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face (all classes face-to-face)
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2411
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

Upon completion of the course students should be able to; 1) utilize note-taking and summarization skills of scanning / skimming to identify keypoints from a variety of wellness resources, 2) mindmap the key elements making up the multiple dimensions of the wellness model, 3) understand the importance of self directed lifestyle changes for the promotion wellness and associated health benefits, and 4) utilize various forms of multi-media communication for the promotion of wellness in others.

授業の内容 / Course Contents

Through weekly readings of primary and secondary publications students will develop an understanding of the elements making up the dimensions of the wellness model. In addition, students will discuss the reading contents and develop practical ways to promote personal and community wellness through changes in lifestyle habits.

授業計画 / Course Schedule

[1]: Review scope and sequence of course.

Introduce the strategies of skimming / scanning for article summary by identifying, resource, key vocabulary, summary notes and guiding questions

[2]: Mindmap wellness contents and assess understanding of vocabulary for physical wellness. Discuss reading contents and create multi-media strategies for promoting well-being.

[3]: Vocabulary Quiz #1 (Physical Wellness)

Complete reading and discussion of key elements making up the physical wellness dimension. Submit reading summary for the physical wellness using skimming strategy.

[4]: Mindmap contents and assess understanding of sports vocabulary.

[5]: Complete reading and discussion of key elements making up sports. Submit reading summary for sports using a scanning strategy.

[6]: Vocabulary Quiz #2 (Sports)

Mindmap wellness contents and assess understanding of vocabulary for mental wellness.

[7]: Complete reading and discussion of key elements making up the mental wellness dimension. Submit reading summary for mental wellness using skimming and scanning strategies.

[8]: Vocabulary Quiz #3 (Mental Wellness)

Mindmap wellness contents and assess understanding of vocabulary for social wellness.

[9]: Complete reading and discussion of key elements making up the social wellness dimension. Submit reading summary

for social wellness using paraphrasing strategies.

【10】:Vocabulary Quiz #4 (Social Wellness)

Mindmap wellness contents and assess understanding of vocabulary for methods of fitness training.

【11】:Complete reading and discussion of key elements making up sports training. Submit reading summary for fitness training using paraphrasing strategies.

【12】:Vocabulary Quiz #5 (Sports Training)

Mindmap contents and assess understanding of environmental wellness. Complete environmental survey.

【13】:Summarize and submit results on your personal environmental footprint.

Review content for Final Test

【14】:Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students will require 1-2 study hours per week outside of class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reading Summaries and Presentations:40% Quizzes:30% 最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Links to the readings and handouts will be provided in class.

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 30 名

English Communication in Sport 1

English Communication in Sport 1
Effective Sports Communication

マックグラス(MCGRATH KELLY F.)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN804
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2411
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 30 名 同一内容 3 時限開講(1 時限のみ履修可)		

授業の目標 / Course Objectives

Upon completion of the course students will be able to;

- 1) share personal interests, experiences in sport and information on favourite athletes and sports teams,
- 2) communicate and provide instruction on a variety of exercises and sport skills used in environments such as recreational fitness facilities and organized sport, and
- 3) communicate verbally and in written form on the results of a variety of sporting events.

授業の内容 / Course Contents

Students will be introduced to a range of vocabulary and tools used in communicating personal interests, and for the coverage and promotion of a variety of topics in sport and wellness.

The communication skills developed in this class will support instruction in a variety of settings including; fitness and rehabilitation facilities, sports clubs, and physical education classes.

授業計画 / Course Schedule

【1】: Introduce scope and sequence for the course. Begin personal profile for self introduction.

【2】: Introduce vocabulary for describing FITT training guidelines and physical activity, including H.I.I.T. (circuit training)

Self Introduction (Hello N.A.M.E.)

【3】: Vocabulary Quiz #1

Review FITT training guidelines, starting positions and listening to instructions for physical activity. (circuit training)

【4】: The Sports Trainer (1)

Introduction of vocabulary used by instructors in the fields of personal training, recreation facilities, and coaching. Body parts and muscle names. (circuit training program)

【5】: Vocabulary Quiz #2

The Sports Trainer (2)

Review body parts and movements targeting different muscle groups in a circuit training program

【6】: The Sports Trainer (3)

Group presentation of circuit training program with each student presenting a set of 6-step instructs for a stretch or strength exercise.

【7】: Vocabulary Quiz #3

The Sports Fan (1)

Model communication for sharing personal interests and background in sport and wellness. (Interview)

【8】:The Sports Fan (2)

Model communication (sports card) for describing favourite athlete and sports team.

Introduce classmates' favourite athlete

【9】:Vocabulary Quiz #4

The Sports Fan (3)

Model communication (sports card) for describing favourite athlete and sports team.

【10】:The Sports Writer (1) Model journalistic writing styles for describing sports and game results.

Listen to sport results and record information.

【11】:Vocabulary Quiz #5

The Sports Writer (2)

Write a sport summary from a box score.

Listen to a sport broadcast and record information.

【12】:The Sports Writer (3)

Record information from dictation of sports article presentation to introduce game result from a box score.

【13】:Review content for test and complete student presentations.

【14】:Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students will require 1-2 study hours per week outside of class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Homeworks sheets:30% Presentations:20% Vocabulary Quizzes:20% 最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 30名/同一内容 3時限開講(1時限のみ履修可)

Introduction to Sport and Wellness Overseas

Introduction to Sport and Wellness Overseas
Build your Wellness

マックグラス(MCGRATH KELLY F.)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN806
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2401
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

Upon completion of the course students should have a global understanding of what makes people HAPPIER!!! They should be able to; 1) describe and instruct mindful practices from a variety of cultures that benefit physical, social and mental well-being, 2) understand the views and perceptions of sport and wellness in various cultures, and 3) incorporate lifestyle changes through sport and wellness programs that enhance physical, social and mental well-being.

授業の内容 / Course Contents

Through a survey of sport culture and wellness models students will develop an understanding of the lifestyle habits promoting greater happiness and well-being. Develop an understanding of the wellness economy profiled in various regions of the globe. Learn and apply the practice of mindful habits from a variety of cultures to achieve greater happiness and resilience in ongoing life change.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Review scope and sequence of course. Introduce wellness resources and mind-map a personal wellness model.
 - [2]: From reading, identify key elements comprising the Physical wellness dimension.
 - [3]: From reading, identify key elements comprising the Social / Spiritual wellness dimensions.
 - [4]: From reading, identify key elements comprising the Emotional / Intellectual wellness dimensions.
- Vocabulary Quiz 1
- [5]: Survey the sport and wellness culture in Asia / Africa (1).
 - [6]: Survey the sport and wellness culture in Asia / Africa (2).
 - [7]: Vocabulary Quiz 2
- Review class content and introduce guidelines for report, which follows APA formatting.
- [8]: Survey the sport and wellness culture in Europe / Middle East (1).
 - [9]: Survey the sport and wellness culture in Europe / Middle East (2).
 - [10]: Peer edit report and finalize draft.
 - [11]: Survey the sport and wellness culture in North and South America (1). Vocabulary Quiz 3
 - [12]: Survey the sport and wellness culture in North and South America (2).
 - [13]: Review class content and guidelines for final edit of report.
 - [14]: Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students will require 1.5-2.5 study hours per week outside of class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Vocabulary Quizzes & Homework Sheets:40% Group Leadership and Discussion:20% 最
 終レポート割合::15%最終テスト割合::25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Resources for readings will be provided in class.

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

International Society and Sport

International Society and Sport

Understanding sport from global, cultural, and social perspectives.

未定(MI TEI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN808
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Live online class with two-way communication.
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN2401
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

This course is conducted in accordance with the Sport affects society and is affected by society. In other words, the functions of sport in society change as society changes. Under this, we need to understand what and how social factors affect sports and vice versa. In this course, you will learn those factors by analysing and discussing the current topics in sports in different countries. You will also learn by undertaking group research and oral presentations in English.

In this course, you will develop knowledge and an understanding of sport from global, cultural, and social perspectives.

You will also build skills to analyse and discuss social factors influencing sport and sport affecting societies in English.

授業の内容 / Course Contents

このコースは双方向のライブストリーム講義シリーズです。毎週、スポーツ社会学と関連論文に関する講義とグループディスカッションで構成されます。このコースで学ぶスキルや知識の多くは順番に積み重ねて取得できるため、毎週受講することをお勧めします。それが不可能な場合は、事前に講師に連絡して、欠席した部分を補うための適切なサポートを必ず受けてください。コース構成は社会情勢や学生の英語力に応じて柔軟に変更します。

This course is a two-way live-stream lecture series. Each week consists of a lecture and group discussion on sports sociology and the relevant articles. Many of the skills and knowledge you will learn in this course are obtained sequentially, and it is advisable that you attend every week. If this is not possible, contact your lecturer in advance to ensure proper help to catch up on what you may have missed. Course structure would be flexibly modified based on the social circumstances and student English skills.

授業計画 / Course Schedule

【1】:1) Introduction to the course, 2) Sport and you, 3) English skills

【2】:1) Sport in young children, 2) Sport in students/young adults, 3) English skills, 4) In-class proficiency test 1

【3】:1) Amateur sport, 2) Professional sport, 3) English skills

【4】:1) Sport and gender, 2) English skills, 3) In-class proficiency test 2

【5】:1) Sport and social classification, 2) English skills

【6】:1) Sport and politics, 2) English skills, 3) In-class proficiency test 3

【7】:1) Sport and culture, 2) English skills

【8】:1) Sport and society, 2) English skills, 3) In-class proficiency test 4

【9】:1) Sport and economics, 2) English skills

【10】:1) Sport and ethics, 2) English skills, 3) In-class proficiency test 5

【11】:1) Sport and environment, 2) English skills

【12】: 1) Olympics and World Cups, 2) English skills, 3) In-class proficiency test 6

【13】: 1) Group or Individual oral presentation

【14】: 1) Group or Individual oral presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Zoom

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

It is advisable that you attend every online session. If this is not possible, please contact your lecturer in advance. Students are also required to read a designated article in English beforehand for each week.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Fortnightly in-class proficiency tests (6 times):70% Group or Individual oral presentation:30%

Assessment details are provided on the course plan that will be delivered to you closer to the date of Week 1.

テキスト / Textbooks

No textbooks required

参考文献 / Readings

Horne, J Understanding sport: a socio-cultural analysis (2nd ed.) Routledge 2012 9780415591416

Reading information is provided on the course plan that will be delivered to you closer to the date of Week 1.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Appropriate internet/study environment for an online class

その他 / Others

★注意★

現在、掲載されているものは2024年度の情報です。担当者が決定次第、シラバスが変更となる可能性があります。

The lecturer will designate a short article for your preparatory reading each week. It will be a website, electronic article, or chapter/section extracted from the existing publications.

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

Motivational Psychology in Sports and Exercise

Motivational Psychology in Sports and Exercise

川端 雅人(KAWABATA MASATO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN812
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	The lesson in Week 12 would be conducted online. The details of the lesson will be informed via Canvas LMS.
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3001
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students should be able to:

- 1) Understand major aspects of contemporary motivation theories,
- 2) Explain the relationships among the key constructs of the motivational theories,
- 3) Propose intervention strategies to motivate others in sport and exercise settings, and
- 4) Evaluate the effectiveness of the proposed intervention strategies.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to provide students with key concepts of motivation strategies in sport and exercise settings. Students will be introduced to major contemporary human motivation theories.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Course Administration and Introduction
- 【2】:Contemporary theories of motivation
- 【3】:Achievement goal theory (1)
- 【4】:Achievement goal theory (2)
- 【5】:Self-determination theory (1)
- 【6】:Self-determination theory (2)
- 【7】:Goal setting to enhance motivation in sport
- 【8】:Self-determination theory and exercise motivation
- 【9】:Self-efficacy and motivation in physical activity
- 【10】:Interventions for physical activity and sedentary behavior
- 【11】:Written test in class
- 【12】:Revision; Group work
- 【13】:Group work
- 【14】:Group presentation on the project

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read recommended materials before attending lessons and work on assignments specified in the course.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Written test:30% Group project:30% Individual assignment:30% Positive learning contribution:10%

テキスト / Textbooks

Roberts, G. C., & Treasure, D. C. Advances in motivation in sport and exercise (3rd ed.) Human Kinetics 2012

Weinberg, R. S., & Gould, D. Foundations of sport and exercise psychology (7th ed.) Human Kinetics 2019

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Advanced)

Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Advanced)

Research findings in Sport and Wellness

マックグラス(MCGRATH KELLY F.)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN814
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3411
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

Upon completion of the course, students should be able apply a wide range of reading skills to condense content from a basic scientific articles into a short summary. This should include the main details of the study, methodology and conclusions. Through a variety of reading, students should build their background knowledge within the field of sport and wellness, thereby developing their ability to critique the content articles.

授業の内容 / Course Contents

Through weekly readings of students will continue to build upon the skills develop in Reading and Comprehension in Sport and Wellness – 1. This class will start with a review of the reading skills scanning, skimming and paraphrasing article content. In this advanced class students will under take more technically written articles and apply the skills of compare & contrast, finding main ideas, inserting background information to expand on facts & details, and distinguish between fact and opinion.

授業計画 / Course Schedule

[1]: Review scope and sequence of course.

Review the strategies of skimming / scanning / paraphrasing article content.

[2]: Submit reading summary for sport & wellness using skimming / scanning / paraphrasing strategies.

[3]: Survey a variety literary sources to practice distinguish between fact and opinion. Vocabulary Quiz #1

[4]: Submit a reading summary for a sport & wellness topic by distinguish between fact and opinion.

[5]: Survey a variety a review articles to practice compare and contrast.

[6]: Vocabulary Quiz #2

Submit a reading summary for a sport & wellness topic using compare and contrast.

[7]: Survey a variety a articles to practice drawing conclusions from the content

[8]: Submit a reading summary for a sport & wellness topic by drawing conclusions from the content

[9]: Vocabulary Quiz #3

Provide a variety of examples to expand content using background knowledge.

[10]: Submit a reading summary for a sport & wellness topic by expanding content using background knowledge.

[11]: Survey a variety a articles to practice providing a summary of the main ideas.

[12]: Submit a reading summary for a sport & wellness topic providing a summary of main ideas.

[13]: Review content for Final Test

[14]: Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students will require 1-2 study hours per week outside of class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reading Summaries and Presentations:40% Vocabulary & Comprehension Quizzes:30%

最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Links to the readings and handouts will be provided in class.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Students should have completed Reading and Comprehension in Sport and Wellness – Basic and have achieved a grade "B" or higher in the class.

Alternatively, students need a documented English proficiency of greater than 5.5 IELTS or an equivalent.

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 30 名

English Communication in Sport 2

English Communication in Sport 2
 Share the Joy of Sport

マックグラス(MCGRATH KELLY F.)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN816
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3411
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学対象 人数制限 30 名		

授業の目標 / Course Objectives

Upon completion of the course students should have the ability to communicate sports content utilizing the 3 component model, 1) personal instruction to individuals, groups, or teams, 2) mediate communication through social media, and 3) promotions through marketing, public relations and research. In doing so, students will be create and share English content related to the university sport teams and activities of the College of Sport and Wellness on social media and/or in a bimonthly blog.

授業の内容 / Course Contents

Build upon the content and skills introduced in English Communication in Sport 1. Students should be comfortable sharing information about themselves, favourite athletes and teams, provide instructions on health exercises, and communicate outcomes of sporting events using a box score. Expanding on these skills students will generate and publish content in one of four categories, athlete profiles, team profiles, competition results and wellness promotion in a Sport & Wellness blog and/or newsletter.

授業計画 / Course Schedule

[1]: Introduce scope and sequence of course. Introduce topics and assign content for a student/group generated blog / newsletter for the College of Sport & Wellness. Assign reporters and content for Blog #1. Introduce guidelines for giving an interview.

[2]: Review guidelines for writing a sports article from a box score.
Peer edit of blog #1 articles

[3]: Generate ideas to expand delivery of sports content.
Publish Blog #1
Student reporters finalize content for Blog #2.

[4]: Peer edit of blog articles #2
Vocabulary Quiz #1
Identify the values guiding reporting in sports.

[5]: Publish Blog #2
Student reporters finalize content for Blog #3.
Identify the ethics guiding reporting in sports.

[6]: Peer edit of blog articles #3
Review anatomy and giving instructions on various exercises, including name, purpose and sequenced steps.

【7】:Publish Blog #3

Student reporters finalize content for Blog #4

Identify strategies to generate content in sports reporting.

【8】:Introduce guidelines for class report which follows APA formatting

Peer edit of blog articles #4

Vocabulary Quiz #2

【9】:Publish Blog #4

Student reporters finalize content for Blog #5

Present instructions on various exercises to class.

【10】:Peer edit of blog articles #5

Reflect on the effectiveness of various strategies for communicating sports contents

Vocabulary Quiz #5

【11】:Publish Blog #5

Identify useful metrics for evaluating the distribution of content.

Assign student reporters and content for Blog #6

Present instructions on various exercises to class.

【12】:Peer edit of blog articles #6

Present metrics on distribution of content from social media.

Vocabulary Quiz #3

【13】:Publish Blog #6

Final test review.

【14】:Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students will require on average, 1.5-2.5 hours per week of out-of-class study time.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Vocabulary Quizzes & Homework Sheets:30% Newsletter Contribution:40% 最終テスト
割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Resources for readings will be provided in class.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Students should have completed English Communication in Sport 1 and have achieved a grade "B" or higher in the class.

Alternatively, students need a documented English proficiency of greater than 5.5 IELTS or an equivalent.

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象/人数制限 30名

English for Future Careers in Sport and Wellness

English for Future Careers in Sport and Wellness
 Character Strengths for Career Success

マックグラス(MCGRATH KELLY F.)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN818
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3411
使用言語	英語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	抽選登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象 人数制限 20 名		

授業の目標 / Course Objectives

Students will develop a variety of skills and resources for gathering information on careers related to the field of Sport & Wellness. In addition, students will utilize multimedia resources to build company profiles that match their career path. This will provide students with a foundation and understanding of the skills needed for success in their future career. This content can then be shared in social media such as a biweekly blog/newsletter to educate classmates.

授業の内容 / Course Contents

Through a survey of job opportunities for future graduates from the College of Sport and Wellness, students will identify the skills needed for future career success. In addition to developing English communication skills through discussions and presentations, students will build on the Character Strengths key to being successful in a global job market. Learn and apply the practice of mindful habits from a variety of cultures to achieve greater happiness and resilience to life change. Through these skills students can build a network of communication within the College of Sport and Wellness and beyond.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Review scope and sequence of course. Survey key career sectors for the current Sport and Wellness students. Introduce the concept of character Strengths(CS).
- 【2】:Review guidelines for writing news articles.
Students critique current work experience and identify their IKIGAI. Create Master List of career skills.
Peer edit of blog #1 articles
- 【3】:Vocabulary Quiz #1
Critique and discuss reading on CS, academic versus profession. Publish Blog #1
Assign student reporters and content for Blog #2.
- 【4】:Peer edit of blog articles #2
In class presentation (resume), “job interview”
- 【5】:Publish Blog #2
Assign student reporters and content for Blog #3.
Create a career a plan (ikigai), list 5 key CS for your career and 3 activities for each in order to build future success.
- 【6】:Peer edit of blog articles #3
Vocabulary Quiz #2
Critique and discuss reading on Emotional Intelligence.
- 【7】:Publish Blog #3

Assign student reporters and content for Blog #4

Introduce rubric and demonstration of presentation skills.

【8】:In class presentation of “career plan” (ikigai).

Peer edit blog articles #4.

【9】:Publish Blog #4

Vocabulary Quiz #3

Assign student reporters and content for Blog #5

Finalize career plan and start business research

【10】:Peer edit of blog articles #5

Critique reading – the source of career success and resilience. Vocabulary Quiz #5

【11】:Publish Blog #5

In class presentation (business/career profile)Assign student reporters and content for Blog #6

Students submit report draft.

【12】:Peer edit of blog articles #6

In class presentation (business/career profile)

【13】:Publish Blog #6

Review content for test.

【14】:Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students will require on average, 1.5-2.5 hours per week of out-of-class study time.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Vocabulary Quizzes & Homework Sheets:30% Presentations & Newsletter Contribution:40%

最終テスト割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Resources for readings will be provided in class.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Students should have completed English Communication in Sport 1 and have achieved a grade “B” or higher in the class.

Alternatively, students need a documented English proficiency of greater than 5.5 IELTS or an equivalent.

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象/人数制限 20 名

Contemporary Issues in Global Sports

Contemporary Issues in Global Sports
 Facts and Fallacies in Global Sport

マックグラス(MCGRATH KELLY F.)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN820
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3401
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

Upon completion of the course students will have developed a local and global understanding of current issues in sport. Students will utilize research skills and survey classmates both in and out of class to build an understanding of emerging issues within youth, amateur, and professional sport. This content will be shared in group discussion, and the analyzed data presented in oral and written form.

授業の内容 / Course Contents

Students will survey a variety of literary resources to develop an understanding of current issues in the global sports culture. This research will target issues at three levels including youth, amateur and professional sport. In addition to a survey of the literature, students will administer questionnaires to build an understanding of current contemporary issues facing the student athlete.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Review scope and sequence of course.
Survey student members for current issues in Sport.
- 【2】:Survey and discuss issues in youth sport (1)
- 【3】:Vocabulary Quiz #1
Survey and discuss issues in youth sport. (2)
Assign group members to administer questionnaire to students.
- 【4】:Survey and discuss issues in youth sport. (3)
- 【5】:Survey and discuss issues in amateur sport. (1)
- 【6】:Vocabulary Quiz #2
Introduce guidelines for report on contemporary issues in global sport including APA formatting.
- 【7】:Survey and discuss issues in amateur sport. (2)
Assign group members to administer questionnaire to students.
- 【8】:Survey and discuss issues in amateur sport. (3)
- 【9】:Survey and discuss issues in professional sport. (1)
- 【10】:Vocabulary Quiz #3
Survey and discuss issues in professional sport. (2)
Assign group members to administer questionnaire to students.
- 【11】:Survey and discuss issues in professional sport. (3)
- 【12】:Group presentation on survey results. (1)
- 【13】:Review content for test.

Group presentation on survey results. (2)

【14】: Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students will require 1.5-2.5 study hours per week outside of class.

This will include the delivery of a survey to students in the College of Sport & Wellness.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Vocabulary Quizzes & Homework Sheets:30% Class Discussion & Presentations:30%

最

終レポート割合::15%最終テスト割合::25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

Psychology of Well-Functioning and Performance

Psychology of Well-Functioning and Performance

川端 雅人(KAWABATA MASATO)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN822
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	The lesson in Week 13 would be conducted online. The details of the lesson will be informed via Canvas LMS.
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3001
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students should be able to:

- 1) Understand biopsychosocial models in applied sport and performance psychology,
- 2) Understand the key constructs and their relationship for performance enhancement,
- 3) Apply theoretical knowledge to improve their own functioning and performance,
- 4) Propose intervention strategies to assist other's functioning and performance, and
- 5) Evaluate the effectiveness of the proposed intervention strategies.

授業の内容 / Course Contents

How can you function and perform well across lifespan? It is significant for everybody to know how to function optimally to produce good performance and high well-being. This course is designed to provide students with fundamental knowledge and skills to promote optimal functioning and performance from a biopsychosocial perspective. The focus of this course is on theory, research and practices in sport and performance psychology. Students will be introduced to psychological theories and approaches that could be used to enhance well-functioning, performance, and personal growth across lifespan (from children to older adults) through sport and exercise participation. The course consists of lectures, tutorial, and practical sessions. After learning the fundamental knowledge of biopsychosocial models and skills, students will be required to apply them through practical individual and group tasks in this course.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Course administration and introduction
- [2]: Understanding functional and dysfunctional human performance
- [3]: Arousal, stress, anxiety, and enjoyment
- [4]: Stress and recovery
- [5]: Challenge vs. threat as approach vs. avoidance
- [6]: The biopsychosocial model of challenge and threat (1)
- [7]: The biopsychosocial model of challenge and threat (2)
- [8]: The mindfulness-acceptance-commitment approach (1)
- [9]: The mindfulness-acceptance-commitment approach (2)
- [10]: The mindfulness-acceptance-commitment approach (3)
- [11]: Written test in class
- [12]: Revision; Group work

【13】:Group work

【14】:Group presentation on the project

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read recommended materials before attending lessons and work on assignments specified in the course.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Written test:30% Group project:30% Individual assignment:30% Positive learning contribution:10%

テキスト / Textbooks

Elliot, A. J. Handbook of approach and avoidance motivation Psychology Press 2008

Gardner, F. L., & Moore, Z. E. The psychology of enhancing human performance: The Mindfulness-Acceptance-Commitment (MAC) approach Springer

Weinberg, R. S., & Gould, D. Foundations of sport and exercise psychology (8th ed.) Human Kinetics

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Good level of English abilities to read textbooks and research papers efficiently.

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

専門演習1

Seminar 1

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN851
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

少人数で高度な専門的知識の取得をめざし、担当教員の指導のもとで、自主的に学習課題を設定し、フィールドワーク、文献資料の精読等によって研究計画の作成を行いその内容を発表および議論できることを目標とする。

The aim of the course is for students to acquire advanced expertise through working in small groups under the guidance of an instructor, setting topics and themes independently for themselves, conducting fieldwork, creating a research plan based on thorough reading of related literature and materials, and then presenting and discussing the results.

授業の内容 / Course Contents

「専門演習」は、専攻領域を持つ教員の知見と経験に富む指導のもと、問題意識を共有する学友と共に集中的に探究する時と場である。各自の自発性を重んじるために、選択科目となる。

健康運動領域に関わる分野では、豊かなスポーツマインドと福祉マインドを有し、運動・スポーツを通してウエルネスを向上させるための健康と運動に関する科学的知見と力能を磨く。スポーツパフォーマンス領域の分野では、人間の適応可能性を高め、高度なスポーツ文化の創造に寄与するためのスポーツ科学に関する科学的知見と力能を磨く。また、スポーツ文化に関わる分野では、スポーツ文化の創造とスポーツ科学の進化について、さらにはスポーツを通じた福祉社会の実現に寄与するための知見と能力を磨く。

なお、プログラム内容については、前年度配布のガイダンス資料に掲載してあるが、例えば国際情勢などにより変更されることがあるので注意されたい。

Advanced Research Seminar provides an opportunity to share and discuss topics in-depth with fellow students, under the guidance of qualified teachers with extensive knowledge and experience. This is an elective course because of its emphasis on spontaneity and self-motivation.

In the field of health exercise, students improve their scientific knowledge and ability and develop an extensive knowledge of sports and welfare, as these relate to health and exercise, in order to improve wellness through sport and exercise. In the field of sports performance, students improve their scientific knowledge and ability of sports science to help enhance human adaptability and contribute to the creation of an advanced sports culture. In addition, in the field of sports culture, students improve their knowledge and ability to contribute to the creation of a sports culture and the evolution of sports science as well as the development of a welfare society through sports.

The contents of the course are published in last year's course guidance material. Please note that parts of the course may change in response to international events.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス・研究計画作成
- [2]: 各ゼミ専門領域の研究手法の理解1
- [3]: 各ゼミ専門領域の研究手法の理解2
- [4]: 各ゼミ専門領域の研究手法の理解3

- 【5】:各ゼミ専門領域の研究手法の理解4
- 【6】:研究テーマの検討
- 【7】:論文検索および先行研究調査1
- 【8】:論文検索および先行研究調査2
- 【9】:論文検索および先行研究調査3
- 【10】:論文検索および先行研究調査4
- 【11】:研究テーマの発表および議論1
- 【12】:研究テーマの発表および議論2
- 【13】:予備調査・実験計画1
- 【14】:予備調査・実験計画2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

全てのプログラムとも、春学期授業開始第一週は、履修登録状況画面に示す教室にクラスごとに集合する。毎週、その都度、準備課題を提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度および普段の取り組みの姿勢:70% 最終レポート割合::30%

すべてのプログラムは、期末最終レポートの提出を単位取得の要件とする。

テキスト / Textbooks

各プログラムで必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

各プログラムで必要に応じて指示する。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

専門演習1

Seminar 1

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN852
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

少人数で高度な専門的知識の取得をめざし、担当教員の指導のもとで、自主的に学習課題を設定し、フィールドワーク、文献資料の精読等によって研究計画の作成を行いその内容を発表および議論できることを目標とする。

The aim of the course is for students to acquire advanced expertise through working in small groups under the guidance of an instructor, setting topics and themes independently for themselves, conducting fieldwork, creating a research plan based on thorough reading of related literature and materials, and then presenting and discussing the results.

授業の内容 / Course Contents

「専門演習」は、専攻領域を持つ教員の知見と経験に富む指導のもと、問題意識を共有する学友と共に集中的に探究する時と場である。各自の自発性を重んじるために、選択科目となる。

健康運動領域に関わる分野では、豊かなスポーツマインドと福祉マインドを有し、運動・スポーツを通してウエルネスを向上させるための健康と運動に関する科学的知見と力能を磨く。スポーツパフォーマンス領域の分野では、人間の適応可能性を高め、高度なスポーツ文化の創造に寄与するためのスポーツ科学に関する科学的知見と力能を磨く。また、スポーツ文化に関わる分野では、スポーツ文化の創造とスポーツ科学の進化について、さらにはスポーツを通じた福祉社会の実現に寄与するための知見と能力を磨く。

なお、プログラム内容については、前年度配布のガイダンス資料に掲載してあるが、例えば国際情勢などにより変更されることがあるので注意されたい。

Advanced Research Seminar provides an opportunity to share and discuss topics in-depth with fellow students, under the guidance of qualified teachers with extensive knowledge and experience. This is an elective course because of its emphasis on spontaneity and self-motivation.

In the field of health exercise, students improve their scientific knowledge and ability and develop an extensive knowledge of sports and welfare, as these relate to health and exercise, in order to improve wellness through sport and exercise. In the field of sports performance, students improve their scientific knowledge and ability of sports science to help enhance human adaptability and contribute to the creation of an advanced sports culture. In addition, in the field of sports culture, students improve their knowledge and ability to contribute to the creation of a sports culture and the evolution of sports science as well as the development of a welfare society through sports.

The contents of the course are published in last year's course guidance material. Please note that parts of the course may change in response to international events.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス・研究計画作成
- 【2】: 各ゼミ専門領域の研究手法の理解1
- 【3】: 各ゼミ専門領域の研究手法の理解2
- 【4】: 各ゼミ専門領域の研究手法の理解3

- 【5】:各ゼミ専門領域の研究手法の理解4
- 【6】:研究テーマの検討
- 【7】:論文検索および先行研究調査1
- 【8】:論文検索および先行研究調査2
- 【9】:論文検索および先行研究調査3
- 【10】:論文検索および先行研究調査4
- 【11】:研究テーマの発表および議論1
- 【12】:研究テーマの発表および議論2
- 【13】:予備調査・実験計画1
- 【14】:予備調査・実験計画2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

全てのプログラムとも、春学期授業開始第一週は、履修登録状況画面に示す教室にクラスごとに集合する。毎週、その都度、準備課題を提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度および普段の取り組みの姿勢:70% 最終レポート割合::30%

すべてのプログラムは、期末最終レポートの提出を単位取得の要件とする。

テキスト / Textbooks

各プログラムで必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

各プログラムで必要に応じて指示する。

注意事項(検索結果画面)

2023 年度以降入学者対象

専門演習2

Seminar 2

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN881
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

少人数で高度な専門的知識の取得をめざし、担当教員の指導のもと「専門演習1」で作成した研究計画に沿って、自主的に学習課題を設定し、フィールドワーク、文献資料の精読、実験等によって研究活動を行いその成果を発表および議論できることを目標とする。

The aim of the course is for students to acquire advanced expertise, through working in small groups under the guidance of an instructor, setting topics and themes independently for themselves following the research plan created in Advanced Research Seminar 1, conducting fieldwork, reading related literature and materials thoroughly, and then presenting and discussing the results.

授業の内容 / Course Contents

「専門演習」は、専攻領域を持つ教員の知見と経験に富む指導のもと、問題意識を共有する学友と共に集中的に探究する時と場である。各自の自発性を重んじるために、選択科目となる。

健康運動領域に関わる分野では、豊かなスポーツマインドと福祉マインドを有し、運動・スポーツを通してウエルネスを向上させるための健康と運動に関する科学的知見と力能を磨く。スポーツパフォーマンス領域の分野では、人間の適応可能性を高め、高度なスポーツ文化の創造に寄与するためのスポーツ科学に関する科学的知見と力能を磨く。また、スポーツ文化に関わる分野では、スポーツ文化の創造とスポーツ科学の進化について、さらにはスポーツを通じた福祉社会の実現に寄与するための知見と能力を磨く。

なお、プログラム内容については、前年度配布のガイダンス資料に掲載してあるが、例えば国際情勢などにより変更されることがあるので注意されたい。

Advanced Research Seminar provides an opportunity to share and discuss topics in-depth with fellow students, under the guidance of qualified teachers with extensive knowledge and experience. This is an elective course because of its emphasis on spontaneity and self-motivation.

In the field of health exercise, students improve their scientific knowledge and ability and develop an extensive knowledge of sports and welfare, as these relate to health and exercise, in order to improve wellness through sport and exercise. In the field of sports performance, students improve their scientific knowledge and ability of sports science to help enhance human adaptability and contribute to the creation of an advanced sports culture. In addition, in the field of sports culture, students improve their knowledge and ability to contribute to the creation of a sports culture and the evolution of sports science as well as the development of a welfare society through sports.

The contents of the course are published in last year's course guidance material. Please note that parts of the course may change in response to international events.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 予備調査・実験計画発表および議論1
- 【2】: 予備調査・実験計画発表および議論2

- 【3】: 予備調査・実験1
- 【4】: 予備調査・実験2
- 【5】: 予備調査・実験結果発表および議論1
- 【6】: 予備調査・実験結果発表および議論2
- 【7】: 本調査・実験計画発表および議論1
- 【8】: 本調査・実験計画発表および議論2
- 【9】: 本調査・実験1
- 【10】: 本調査・実験2
- 【11】: 本調査・実験3
- 【12】: 本調査・実験4
- 【13】: 本調査・実験結果発表および議論1
- 【14】: 本調査・実験結果発表および議論2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

全てのプログラムとも、秋学期授業開始第一週は、履修登録状況画面に示す教室にクラスごとに集合する。毎週、その都度、準備課題を提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度および普段の取り組みの姿勢:70%

最終レポート割合::30%

すべてのプログラムは、期末最終レポートの提出を単位取得の要件とする。

テキスト / Textbooks

各プログラムで必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

各プログラムで必要に応じて指示する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象

専門演習2

Seminar 2

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

科目設置学部	スポーツウエルネス学部		
開講年度	2025	科目コード等	IN882
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	新座	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	SWN3010
使用言語	日本語	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	○(履修中止可/ Eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	2023 年度以降入学者対象		

授業の目標 / Course Objectives

少人数で高度な専門的知識の取得をめざし、担当教員の指導のもと「専門演習1」で作成した研究計画に沿って、自主的に学習課題を設定し、フィールドワーク、文献資料の精読、実験等によって研究活動を行いその成果を発表および議論できることを目標とする。

The aim of the course is for students to acquire advanced expertise, through working in small groups under the guidance of an instructor, setting topics and themes independently for themselves following the research plan created in Advanced Research Seminar 1, conducting fieldwork, reading related literature and materials thoroughly, and then presenting and discussing the results.

授業の内容 / Course Contents

「専門演習」は、専攻領域を持つ教員の知見と経験に富む指導のもと、問題意識を共有する学友と共に集中的に探究する時と場である。各自の自発性を重んじるために、選択科目となる。

健康運動領域に関わる分野では、豊かなスポーツマインドと福祉マインドを有し、運動・スポーツを通してウエルネスを向上させるための健康と運動に関する科学的知見と力能を磨く。スポーツパフォーマンス領域の分野では、人間の適応可能性を高め、高度なスポーツ文化の創造に寄与するためのスポーツ科学に関する科学的知見と力能を磨く。また、スポーツ文化に関わる分野では、スポーツ文化の創造とスポーツ科学の進化について、さらにはスポーツを通じた福祉社会の実現に寄与するための知見と能力を磨く。

なお、プログラム内容については、前年度配布のガイダンス資料に掲載してあるが、例えば国際情勢などにより変更されることがあるので注意されたい。

Advanced Research Seminar provides an opportunity to share and discuss topics in-depth with fellow students, under the guidance of qualified teachers with extensive knowledge and experience. This is an elective course because of its emphasis on spontaneity and self-motivation.

In the field of health exercise, students improve their scientific knowledge and ability and develop an extensive knowledge of sports and welfare, as these relate to health and exercise, in order to improve wellness through sport and exercise. In the field of sports performance, students improve their scientific knowledge and ability of sports science to help enhance human adaptability and contribute to the creation of an advanced sports culture. In addition, in the field of sports culture, students improve their knowledge and ability to contribute to the creation of a sports culture and the evolution of sports science as well as the development of a welfare society through sports.

The contents of the course are published in last year's course guidance material. Please note that parts of the course may change in response to international events.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 予備調査・実験計画発表および議論1

【2】: 予備調査・実験計画発表および議論2

- 【3】: 予備調査・実験1
- 【4】: 予備調査・実験2
- 【5】: 予備調査・実験結果発表および議論1
- 【6】: 予備調査・実験結果発表および議論2
- 【7】: 本調査・実験計画発表および議論1
- 【8】: 本調査・実験計画発表および議論2
- 【9】: 本調査・実験1
- 【10】: 本調査・実験2
- 【11】: 本調査・実験3
- 【12】: 本調査・実験4
- 【13】: 本調査・実験結果発表および議論1
- 【14】: 本調査・実験結果発表および議論2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

全てのプログラムとも、秋学期授業開始第一週は、履修登録状況画面に示す教室にクラスごとに集合する。毎週、その都度、準備課題を提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度および普段の取り組みの姿勢:70%

最終レポート割合::30%

すべてのプログラムは、期末最終レポートの提出を単位取得の要件とする。

テキスト / Textbooks

各プログラムで必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

各プログラムで必要に応じて指示する。

注意事項(検索結果画面)

2023年度以降入学者対象